

Ⅲ 検出された遺構と遺物

積地には小区画水田跡が展開する。

F P 下水田跡は極小区画水田跡が知られる。本遺跡でも、I-2区やⅢ-2区で軸長1m前後の特徴ある水田跡が検出されている。しかしながら、本項で述べる水田跡は縦長長方形を呈しており、いわば「短冊状水田跡」の形状に近い。唯一区画規模が把握し得たNoⅢ002は16.0×5.5mという大規模な区画であり、極小区画水田跡の定型的な区画単位とは大きな差がある。

6区画の棚田状水田跡を東西に画す大畦が検出された。最大長幅210cm、高さ38cmを測る大規模なもので、南北の走向を示し黒色粘質土とF A塊状土で構成されていた。また、縦畦は大畦と平行に、南北の走向で下位段の水田区画を画していた。この縦畦と大畦に直交する位置で、横畦が設けられていた。また、NoⅢ002等の東は斜面を開削した段差が連続しており、さらに段差上には盛り土状となった土塊群が東側から南側へ連続して検出された。この段差と土塊群も水田区画を構成する要素として位置付け

ておきたい。

区画された水田面は、平坦であった。耕起中を示唆する土塊も無く、全体に丸みを帯び、水口も丁寧な整形がなされ、特に南西隅には水路状の水口が設けられた様相から、代掻き後の水田と判断した。また、NoⅢ002区画南東隅には人足跡が看取され、水田面が安定した状態を示していた。これはF P 降下直前に水田面が足跡を印せる程、平坦で軟質であったことが理解できよう。

さて、I-2区に再度視点を転じると、I-2区では大畦を境に耕起中水田跡と代掻き後水田跡が検出され、当時の水田耕作工程の差が大畦を介して認められた。このような水田耕作工程差は北牧大境遺跡でも見ることができおり、大畦は当時の農作業工程を分ける分割線であることが理解された。しかしながら、本項のⅢ-1区棚田状水田跡の大畦を挟む様相は、東西とも代掻き後の水田区画であり、作業工程差を示すものではない。既に大畦を挟む両者とも代掻きが完了しており、田植え直前の様相が把



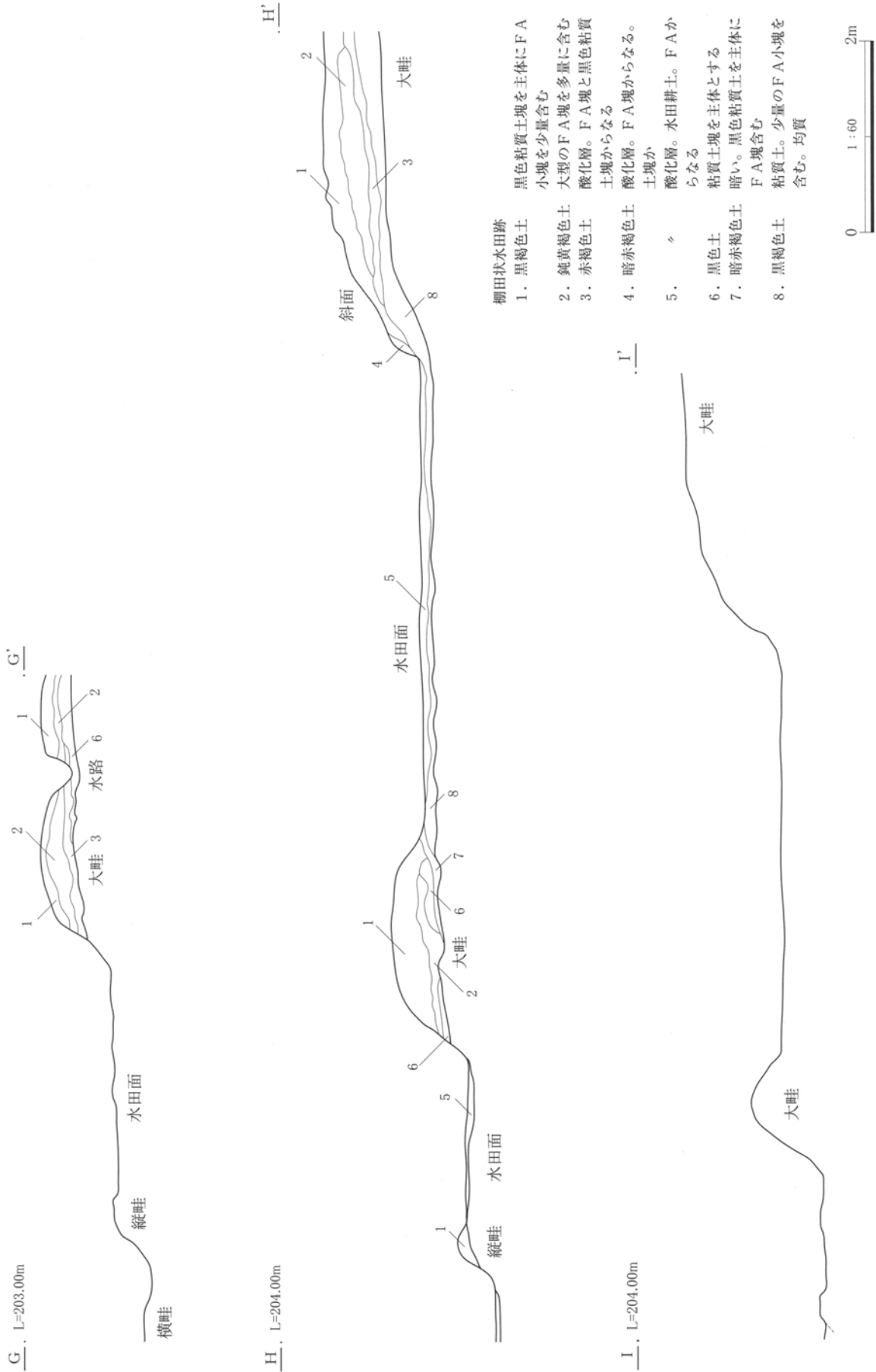
F P 下棚田状水田跡

大畦を跨ぎ水路状の水口が下位水田面に注ぐ様相



174図 Ⅲ-1区FP下棚田状水田跡

III 検出された遺構と遺物



- 棚田状水田跡
- 1. 黒褐色土 黒色粘質土塊を主体にF A小塊を少量含む
 - 2. 純黄褐色土 大型のF A塊を多量に含む
 - 3. 赤褐色土 酸化層。F A塊と黒色粘質土塊からなる
 - 4. 暗赤褐色土 酸化層。F A塊からなる。土塊か
 - 5. 暗赤褐色土 酸化層。水田耕土。F Aからなる
 - 6. 黒色土 粘質土塊を主体とする
 - 7. 暗赤褐色土 暗い。黒色粘質土を主体にF A塊含む
 - 8. 黒褐色土 粘質土。少量のF A小塊を含む。均質

175図 III-1区F P下棚田状水田跡断面図

握し得たと考えた。

さて、本水田跡調査においても、FA上面の耕作痕調査を行った。無論斜面を切り拓いた水田面にはFAは遺存しておらず、水田跡周辺におけるFA上面の調査となった。その結果、水田跡南側の土塊による高まりの下層より、南に接する短サク状畝跡の延長とも言うべき、サク状遺構の延長が検出された。このことは、畝耕作から水田耕作への変化と捉えられ、FA降下後の土地利用変遷に大きな画期を見いだすことができよう。すなわちFA降下後に、畝耕作と水田耕作が併存していた状況から、徐々にではあるが、水田耕作へ変容する当地の農業形態の推移が窺い知れるのである。FAを耕土とする場合、下位層の黒色土を基盤層としても畝作物は生育が思わしくなく、土壌の栄養価よりも「水と日光」による栄養価に比重を置く水田耕作へ移行していったのではないかと筆者の思惑でしかなく、実証性に乏しいが、Ⅲ-1区台地～斜面部の畝面積縮小傾向や本水田跡斜面開拓状況、それに伴う畝放棄現象を見るに、水田耕作依存型への社会変化を想定し、水田耕地拡大現象に焦点をあて、当地のFP下面生産跡を捉え返すべきではないかと考える。少なくとも編者は、当地におけるFP降下直前まで、水田耕作面積の拡大化を図った古墳時代農民の直向きな計画性を中郷恵久保遺跡のⅢ-1区水田跡に見ることができた。

ここで再度水田形状に注目してみよう。この水田跡に継続する西側沖積地には極小区画水田跡が確認されている。対する斜面際の水田区画が短冊状・不整縦長長方形を呈する例は、今後の地域水田跡研究に大きな課題を提供することだろう。前述したように、斜面を掘削してまで、畝を破壊してまで、水田耕地を拡大するのである。斜面という地形による制約として、極小区画ではなく短冊状区画が選択されたのか、今後の研究と類例の蓄積を待たねばならないが、本遺跡の極小区画水田と棚田状水田例は、当時の水田景観を復元するに余りある資料と自負している。



FP下棚田状水田跡 全景（北より）

不整長方形の水田区画は該期水田形状としては、例が少ない。写真奥に放棄された短サク状畝跡を見る。



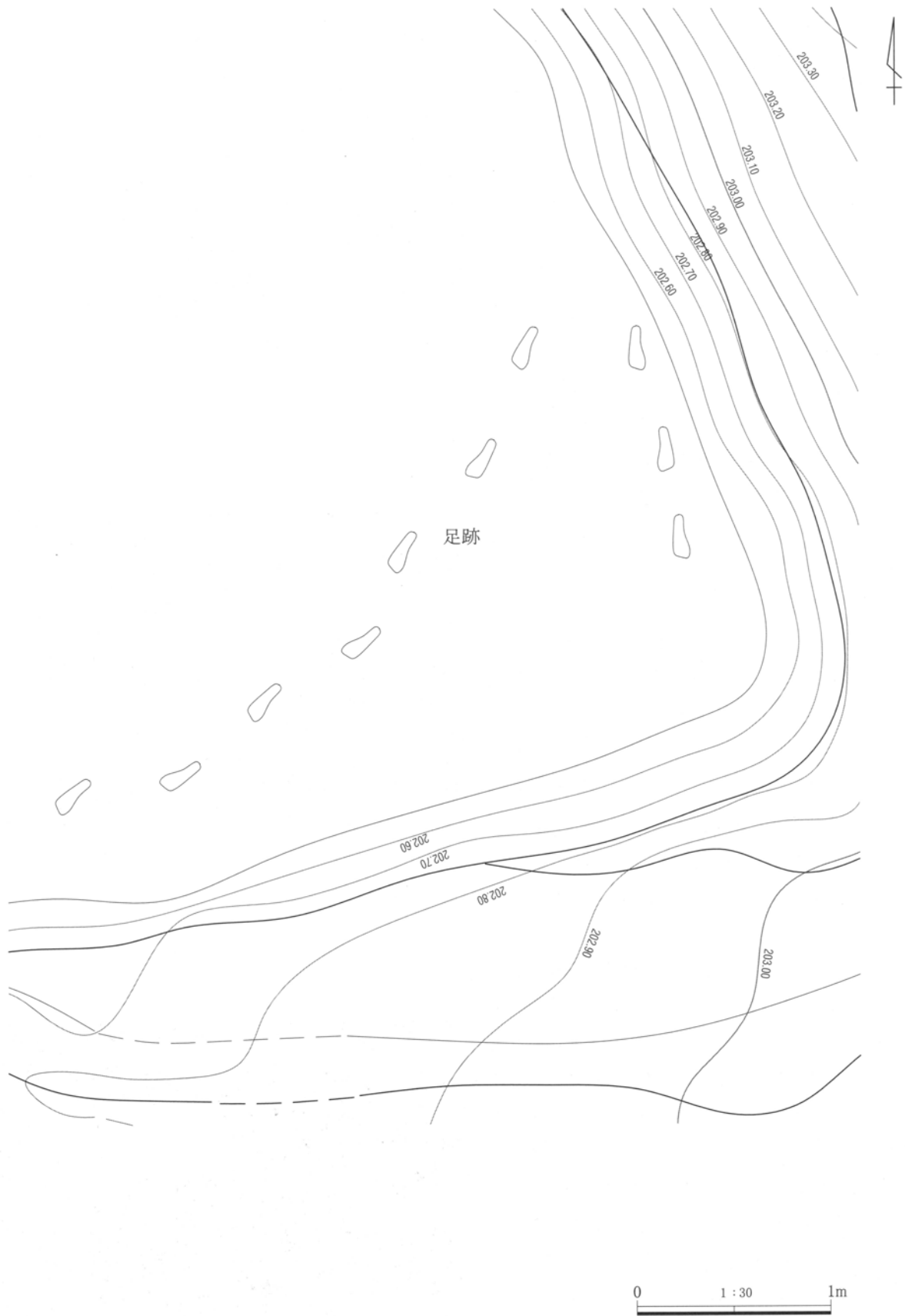
FP下棚田状水田跡 水田面の様相

大畦より派生する横畦と水口が看取される。水田面も平坦であり、代掻き後の様相と把握できよう。



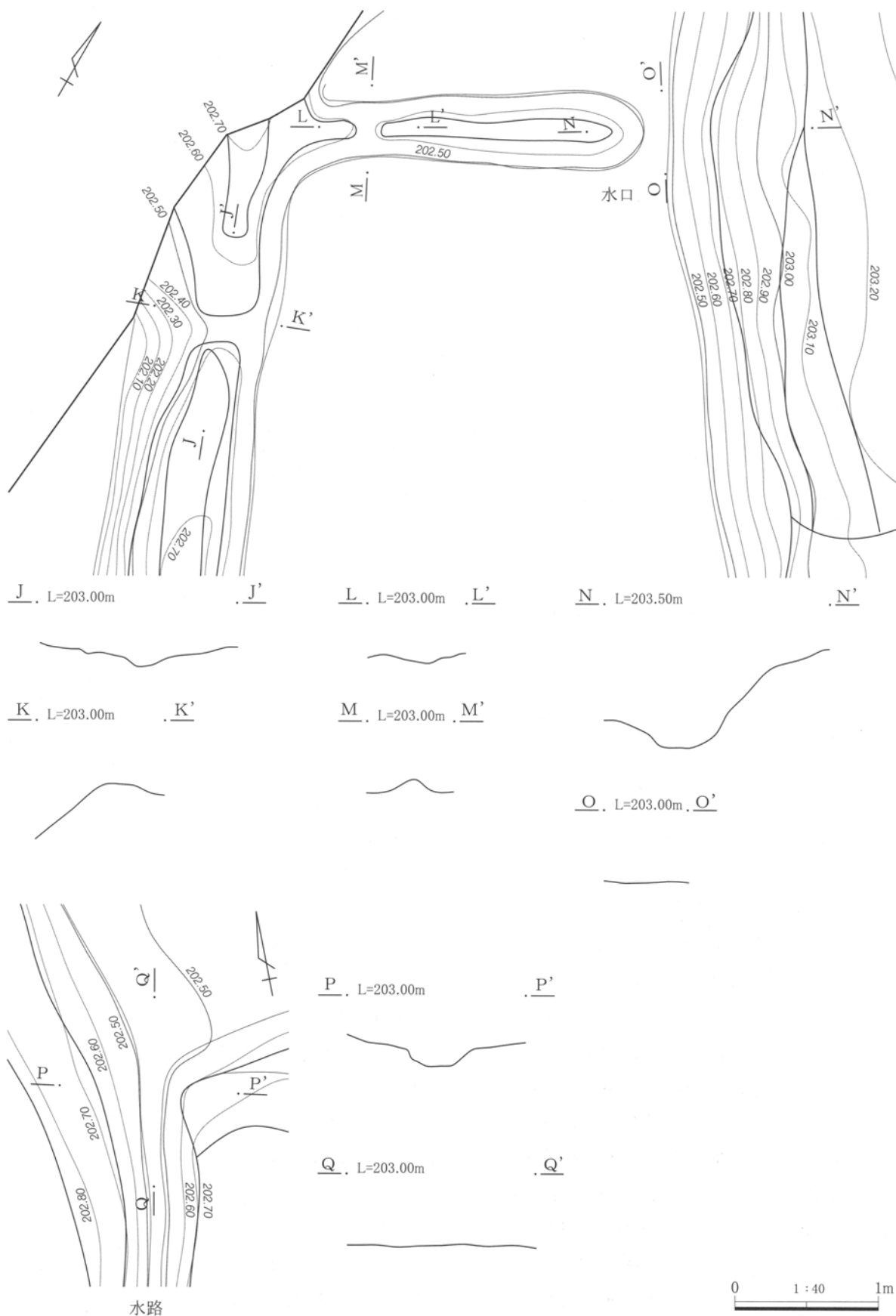
FP下棚田状水田跡作業風景

Ⅲ 検出された遺構と遺物



176図 Ⅲ-1区F P下棚田状水田跡足跡

5. Hr-FP下で検出された遺構



177図 III-1区FP下棚田状水田跡水路・水口

Ⅲ 検出された遺構と遺物



178図 Ⅲ-2区F P下極小区画水田跡

Ⅲ-2区の調査 (図版28)

平成12年度、Ⅲ-1区低地部分の調査に継続して行われ、棚田状水田跡検出後のため、Ⅲ-2区では水田跡の調査が予想されていた。

鯉沢川左岸沖積地にあたる。調査前はほぼ平坦地であり、東側に迫る台地斜面と鯉沢川に挟まれたやや狭小な範囲が調査対象となった。

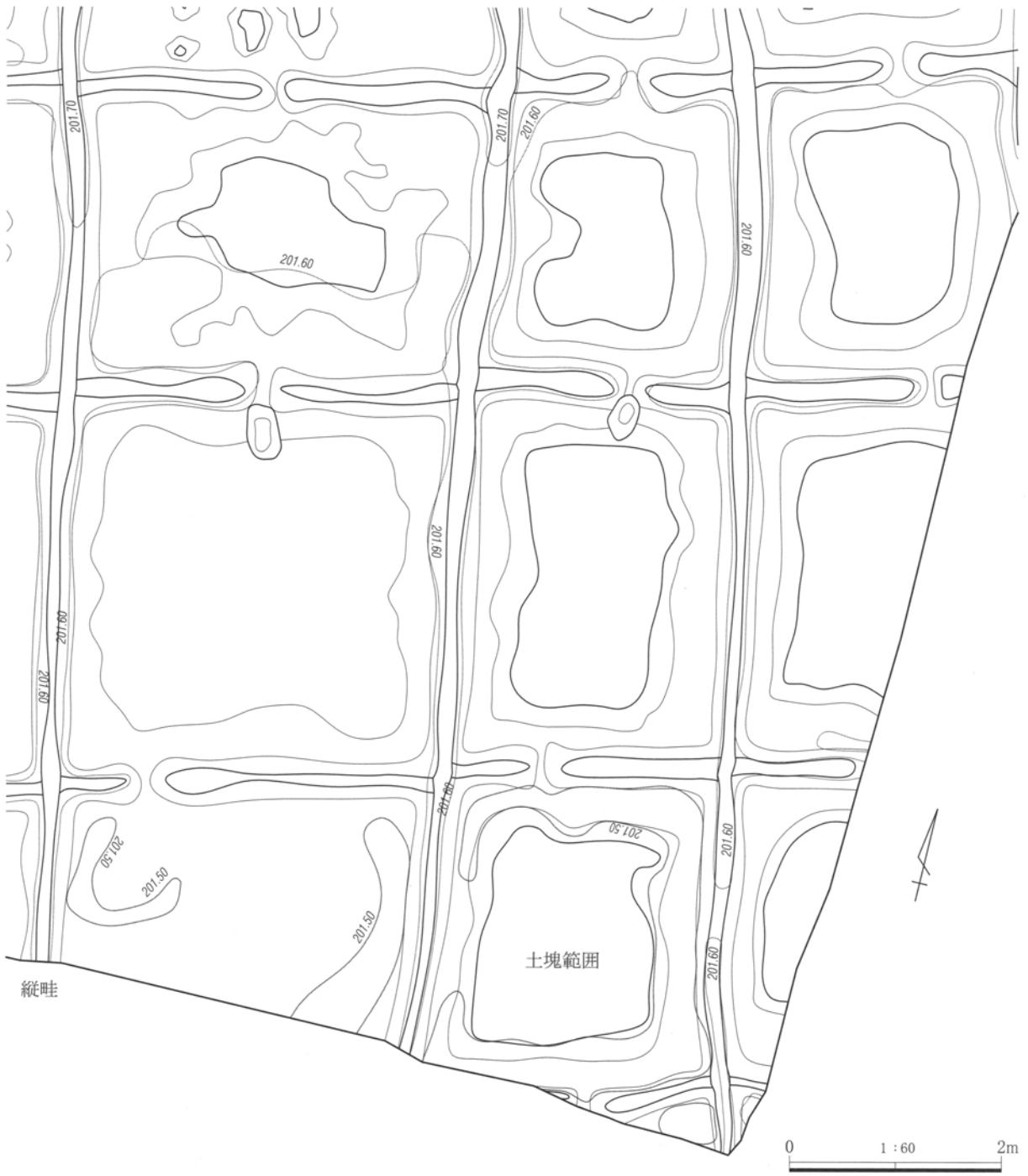
尚、2章でも述べたが、このⅢ-2区ではF P下面調査時に、産廃が充積する調査区法面一部からの湧水が著しく、そのため産廃の一部が崩れだし、法面崩壊が予想されたため、法面角度を緩やかにし、調査区周りに排水溝を設定する安全対策をとった。そのため、調査面積は著しく狭くなり、全容把握には至っていない。残念な調査成果だが、当時、この処置が調査継続のための精一杯の対策である。

(極小区画水田跡) Ⅲ-2区F P下面の調査では、極小区画水田跡が検出された。42区画を確認したが、

区画の全容が把握できたのは20数区画で、また湧水のため、水田面の様相など詳細は把握できなかった。さらに西側は鯉沢川の氾濫による、氾濫坑が連続しており、水田面の各所を破壊していた。故に遺存度は、例えばⅠ-2区で検出された極小区画水田跡に比して、不良と言わざるを得ない。

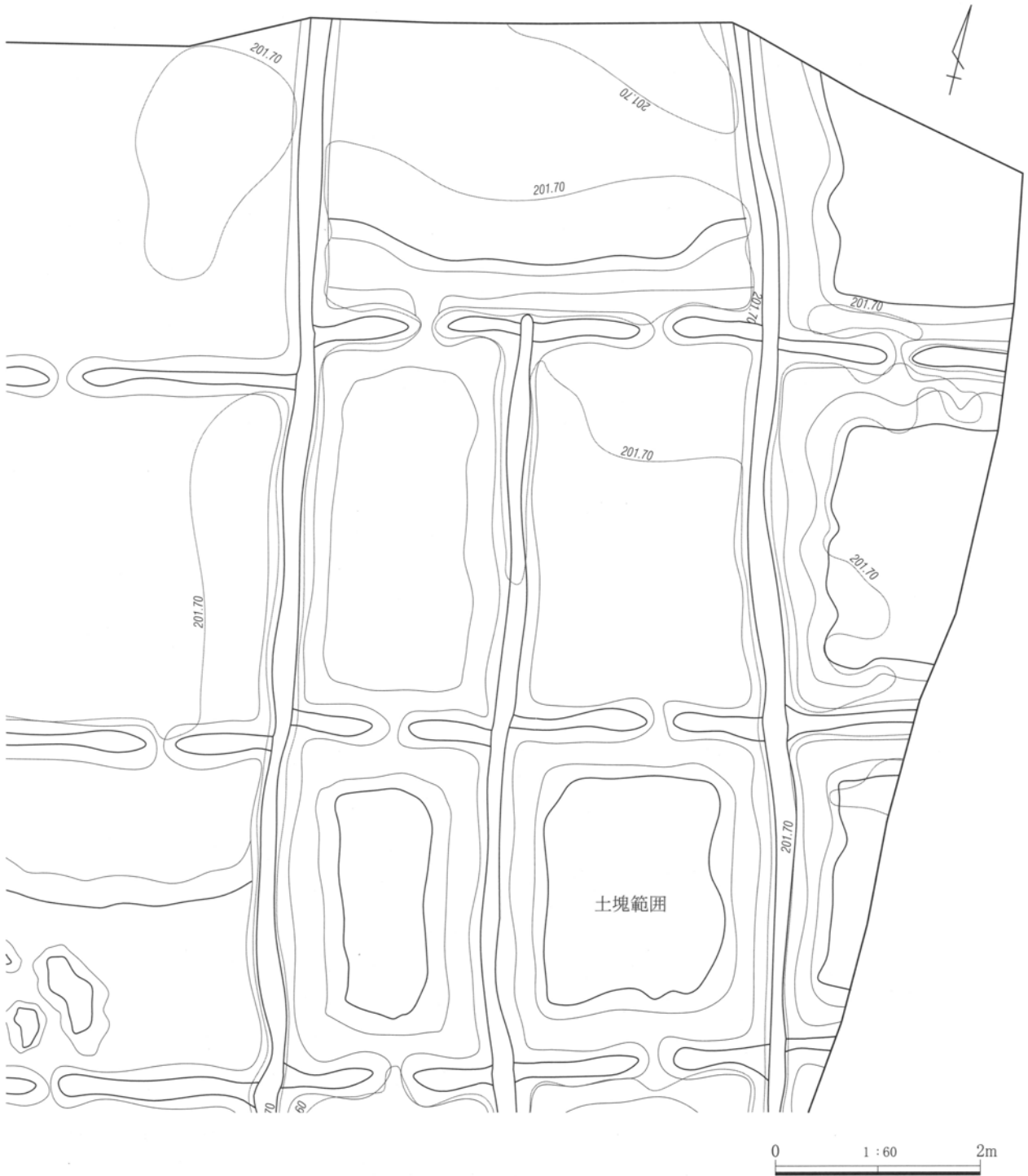
本区で検出した極小区画水田跡の規模は、軸長3~4mの例が多く、Ⅰ-2区で見た区画より若干大型である。縦畦軸をやや北西に傾けた整然とした方形を基調とする。

大畦は、調査区西端で僅かではあるが確認された。ほぼ縦畦と平行する走向を見せ、幅約80cm、高さ20cm程の規模を測る。本遺跡Ⅰ-2区や北牧大境遺跡例にあるような、大畦による水田耕作工程差分割は観察されなかったが、大畦の西は現鯉沢川が迫り、あるいは大型水路や旧鯉沢川が存在した可能性がある。大畦内は黒色土とF Aの塊状土で構成されてい



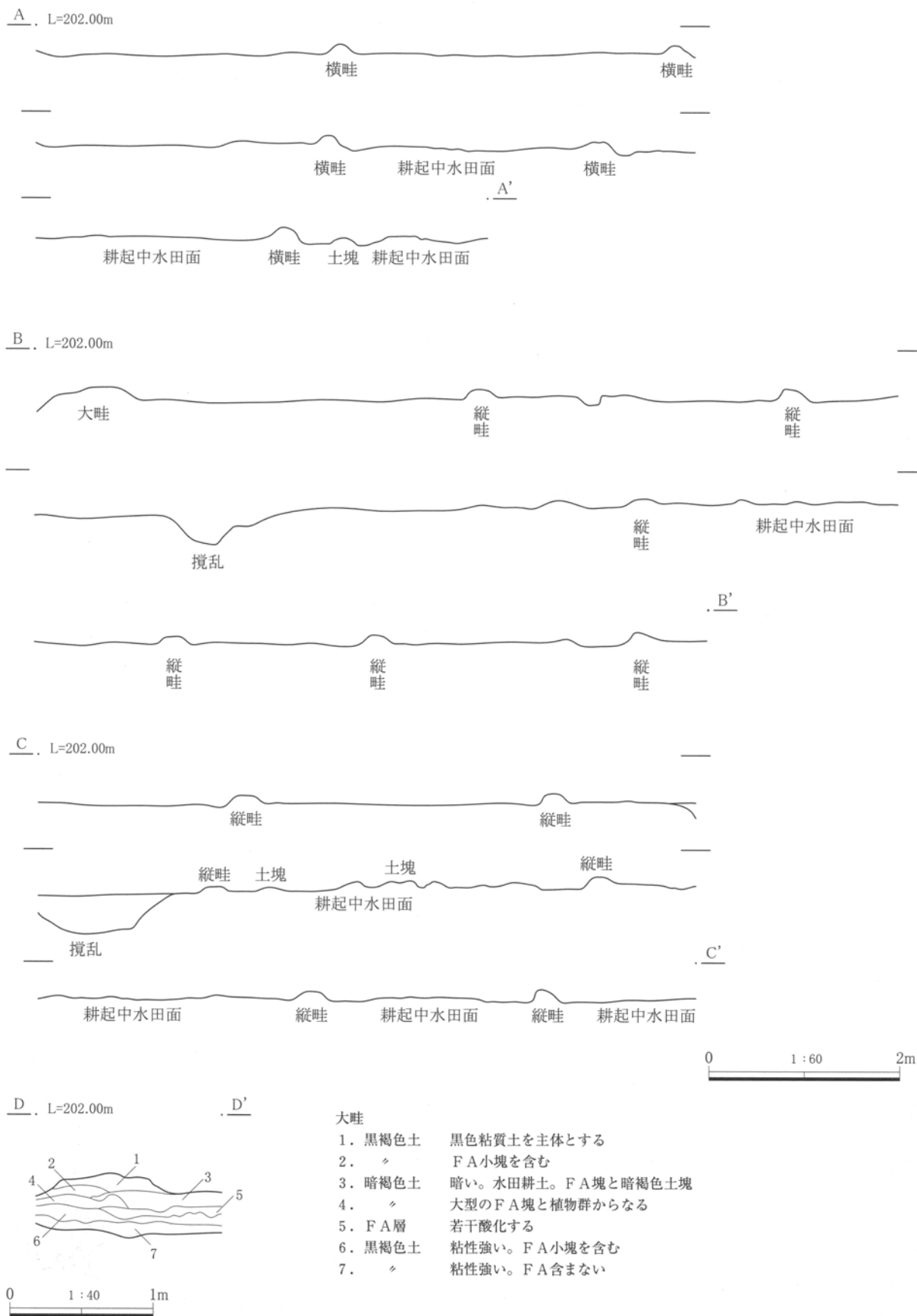
179図 Ⅲ-2区FP下極小区画水田跡(1)

Ⅲ 検出された遺構と遺物



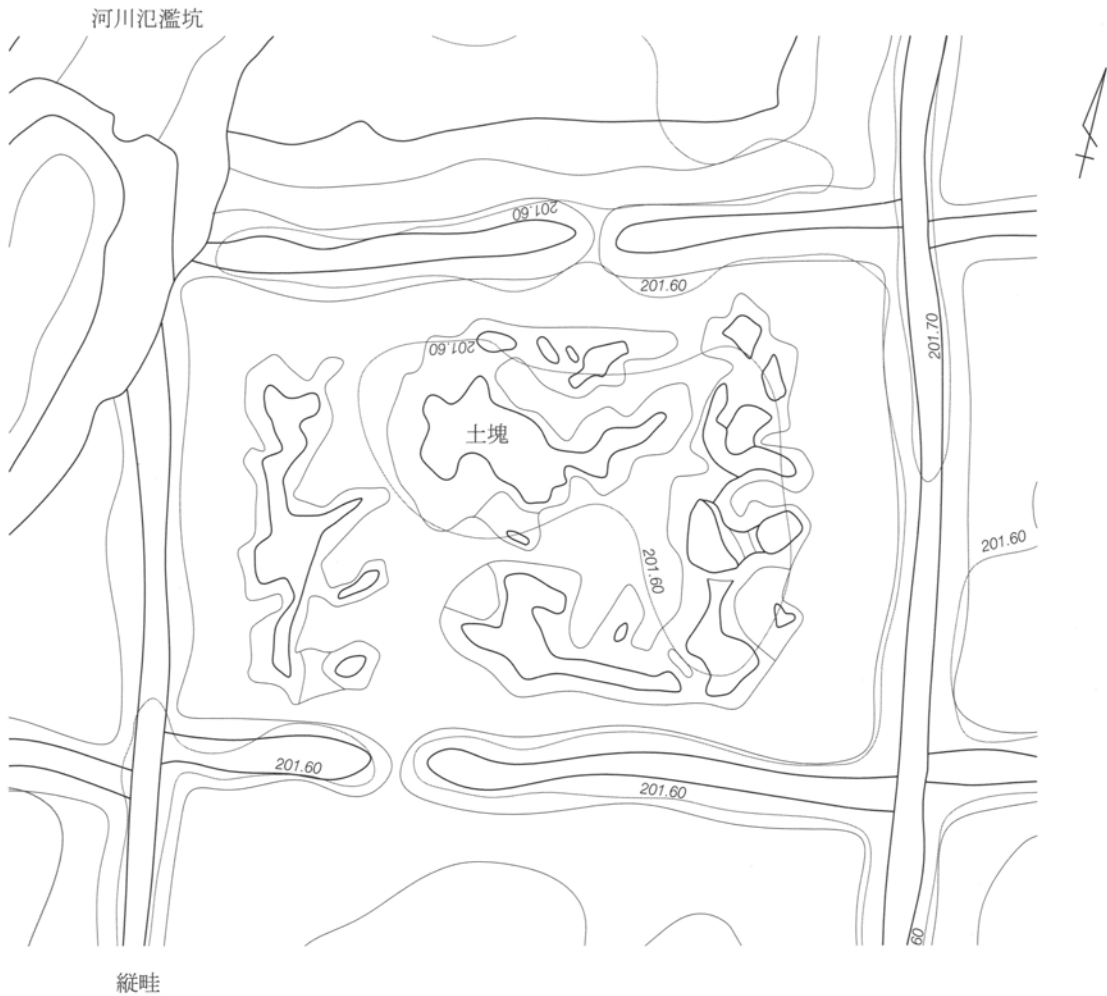
180図 Ⅲ-2区FP下極小区画水田跡(2)

5. Hr-FP下で検出された遺構



181図 Ⅲ-2区FP下極小区画水田跡断面図

Ⅲ 検出された遺構と遺物



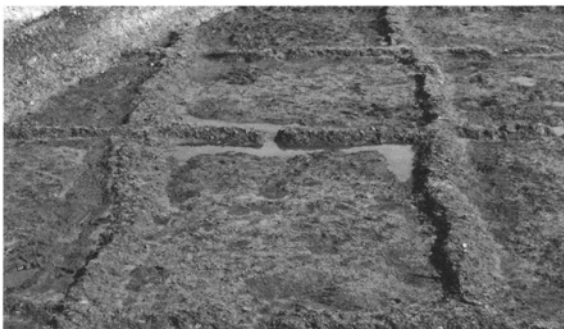
182図 Ⅲ-2区FP下極小区画水田跡土塊詳細図



たが、中位にヨシ・アシ類の植物遺体が折り重なるように検出された。あるいは補強材として充填された可能性があるが、調査範囲に限りがあり、詳細は不確定である。

水田面の様相は、いわゆる耕起中水田跡が確認された。水田区画中央に土塊が集中し、畦下端が広く凹む様相で、Ⅰ-2区大畦東で見た耕起中水田跡と

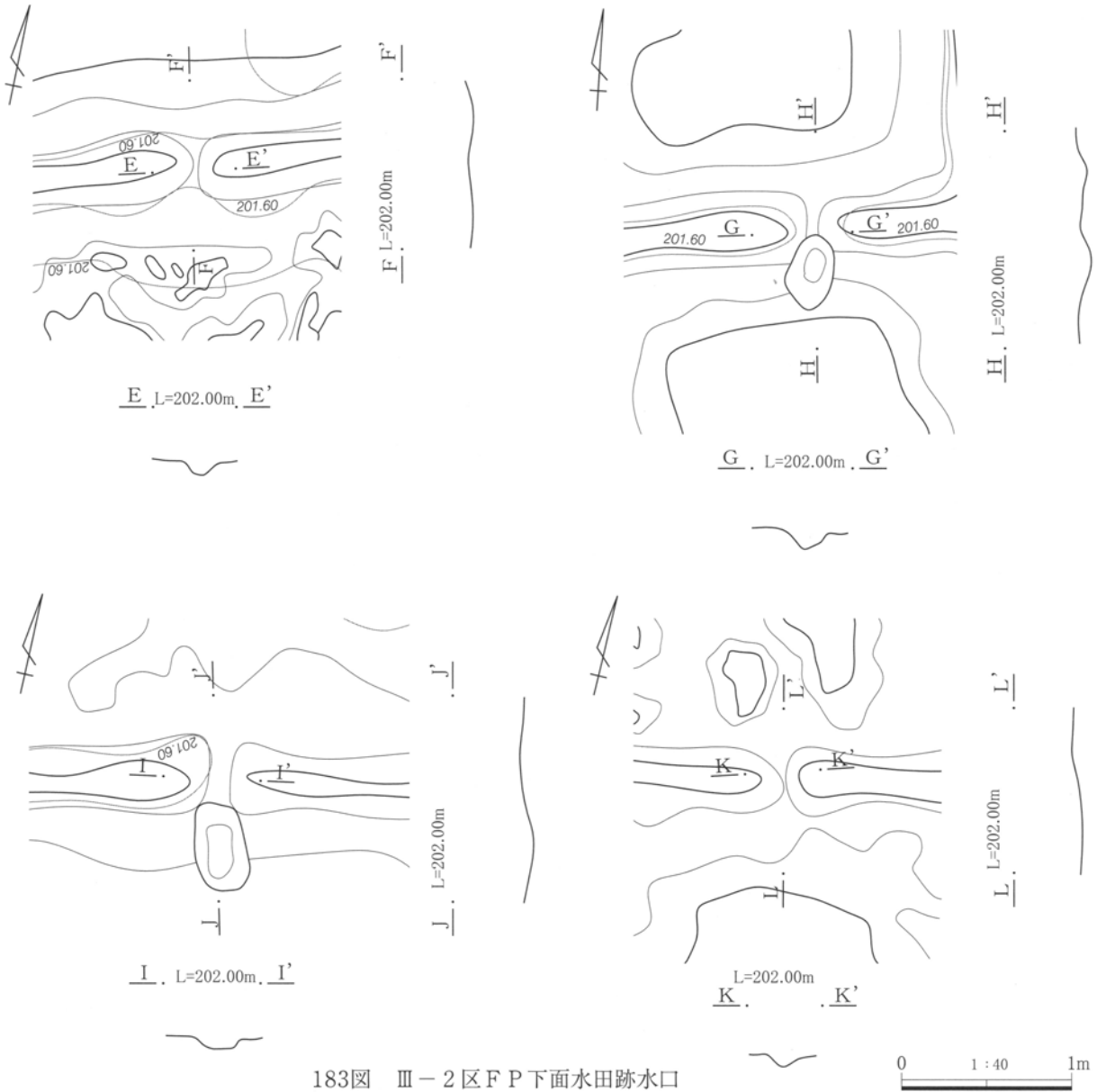
同様であった。この耕起中水田区画は調査区東側の各区画に顕著で、西側に至ると不鮮明な様相を示していた。これは、遺存度による差であり、水田耕作工程の差ではない。注意したい。東側の区画を観察すると、土塊はⅠ-2区例や北牧大境例と比較すると若干緩やかな印象を得る。土塊集中範囲の上端を図示し得た区画は、Ⅲ007~009・013~017・019~



Ⅲ-2区 FP下極小区画水田跡



Ⅲ-2区 FP下極小区画水田跡作業風景



183図 III-2区FP下面水田跡水口

022・026・027・032・033で、他は弱い高まりのため下端範囲のみの平面図表現となった。このような、土塊の高まりが弱い現象は、既に代掻き作業に着手した段階が想定され、東接するⅢ-1区棚田状水田跡が代掻き後の様相であったことから、連続性が窺えよう。

水口は、横畦が確認できる区画全てに確認できた。比較的丁寧に設けられており、耕起中水田区画といえども、水を掛け流す最中の状態かもしれない。

土塊・水口の様相から、Ⅲ-2区極小区画水田跡は、耕起中水田であり、あるいは代掻き時の水を掛

け流す最中と捉えることも可能である。Ⅲ-1区棚田状水田跡との連続性からも畦塗りが終了し、田面を整える作業へと移行する工程が窺えよう。

次に、Ⅲ-1区棚田状水田跡との形状差も注意をしなければならない。斜面際の棚田状水田跡が短冊状を呈していたのに対し、沖積地に至ると極小区画となる。地形上の制約と水利上の利便性からの形状差と想定し得るが、棚田上水田跡の最下段の標高地と極小区画水田跡の東側がほぼ同数値のことから、調査が及ばなかった現道下で、短冊状区画から極小区画への変換線があるものと想起できる。

Ⅲ 検出された遺構と遺物

6. Hr-FP上で検出された遺構と遺物

中郷恵久保遺跡におけるHr-FP上の遺構・遺物は極めて稀少である。周辺遺跡を概観しても、東接する吹屋中原遺跡においては、中世～現代の土坑群や溝が検出されたのみで、FP上に見る古代集落跡等は、確認されていない。その他の周辺遺跡では例えば中組遺跡、白井遺跡群や北牧大境遺跡等で古代集落が調査されているが、他の地域に較べて、分布密度は希薄で、大型の集落を形成していないようだ。おそらく、当地域では、古代集落は点在する様相で、台地毎の大型集落は営まないのではないかと。要因としては、一帯に降下したFPが水田土壌には向かず、水田等の生産域が限られ、台地-低地という集落-生産跡の関係をとらず、他の生業-例えば製鉄関連や牧等に生産活動を依存していたのではないだろうか。そのため、他地域の古代集落立地傾向とは一致せず、地点的な散在した集落景観が予想されるのである。

FP上に関わる畠・水田遺構の抽出は、当地域では畠状遺構に限られる。ただし基盤層であるFPそのものに植物栽培に必要な栄養分が蓄積される例は無く、現代でも土地改良等土壌改良を経て畠作と水田耕作が営まれる、FP降下地域である。畠作物にしても、土中栄養分をさほど必要とせず、水はけの良好な地を好むコンニャク栽培が、当地域の地場産業であり、水田地帯に至っては、沼地に等しい低地を盛り土し、平坦地形を保つ土地改良の末、水田耕作を営む実態である。この端緒な例が本遺跡のⅢ-2区であり、さらに吹屋三角遺跡が含まれる鯉沢川右岸の沖積地帯である。当地域は、沖積地帯でありながら、FPが覆うという水田耕作には不向きな地域であり、この地域を水田耕作に適する土地に改良するため、昭和中期～後期かけて、大規模な土地改良が行われている。その際、軽石であるFPは耕地に不向きであるため、大幅に除去され、他の用土に変換されている。つまり、吹屋三角遺跡がある鯉沢川右岸と本遺跡Ⅲ-2区周辺に関しては、FP上の

遺構は完全に開削されているとあって過言ではない。本遺跡の他の調査区に関しても、度重なる軽石採取と用土変換によって、大きくFP上位～中位が掘削された例は各所に見受けられた。

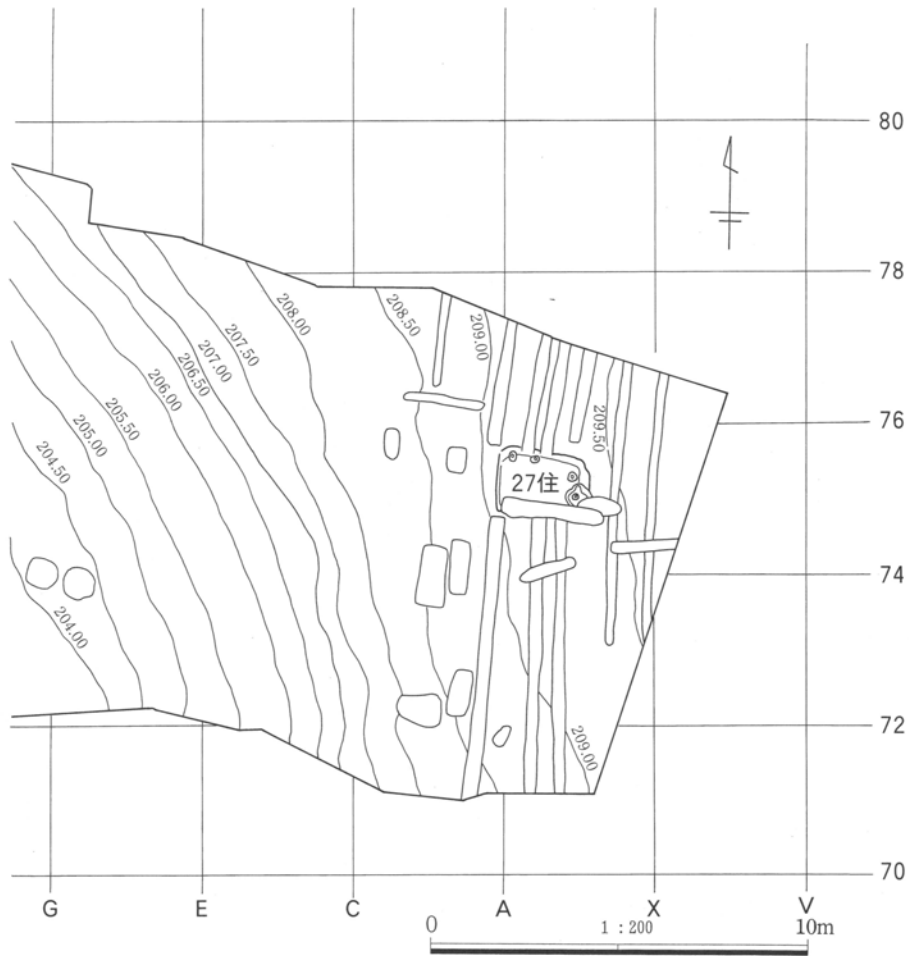
故に、中郷恵久保遺跡周辺のFP上の遺構・遺物に関しては、掘削深度の浅い遺構は、削平された危険性は十二分にある。FP-軽石も軽量ブロックとしての資源であり、コンニャクと同時に当地域の重要な産業である。軽石を売買して用地の構造を改良する例は、当地では通常の姿なのである。

本遺跡では、FP上の遺構は常に表土を掘削した際に確認を果たしながら調査を進めた。その結果、Ⅰ区では土坑2基、Ⅱ区では現代の土坑数基、Ⅲ区では古代住居跡1軒を確認するに至った。現代の土坑はⅠ区・Ⅲ区でも検出されたが、Ⅱ区と同様に報告書掲載は控えた。さらに時期不詳の長方形土坑数基と井戸跡がⅢ区で検出されたが、これも現代遺構の可能性が高く、割愛した

Ⅲ区で検出した住居跡も27号住居跡1軒のみで、集落としての広がりは見られなかった。ただし、地形上は良好な立地であるため、あるいは北や南に同時期の住居跡が点在する可能性は高い。

27号住居跡（図版29）Ⅲ-1区東側で調査された。住居跡はほぼ平坦面で検出されたが、住居西端からは傾斜が始まる傾斜変換点での占地といえよう。平面形の確認はFP上面で行ったが、周辺に同時期の住居跡はなく単独占地の住居跡である。現代の土坑・溝が重複し、かなり破壊されていた。特に南壁は長方形土坑が重なり、竈南側も土坑によって切られ、詳細の把握は果たし得なかった。また、住居跡西壁も傾斜のため流失しており、北西隅の形状を参考に平面形を復元した。

平面形は主軸を東北東に向ける縦長の長方形を呈す。規模は4.8×約3.6m程で中規模の住居であろう。深さは比較的良好で約70cmを測る。壁の立ち上がりも北壁に限るが、やや開き気味にしっかりと掘り込みを見せた。



184図 III区 FP上27号住配置図

床面はFP中層で止まり、東側に緩やかな傾斜を見せた。全面に貼床がなされ、鈍褐色土と赤褐色土が充てられていたが、軟質で顕著な硬化面は見られなかった。

竈は東壁中央やや南側に設けられる。南側を攪乱され、全容は把握できないが、煙道を東壁外に僅かに突出させ、燃烧部は特に凹ませず。床面と同一レベルに焚き口部を設ける。使用面として焼土・灰の散布が見られず、床下構築時の平面図化となったが、底面中央に径30cm程の小ピットを確認した。支脚坑であろうか。

貯蔵穴は竈北側の小ピットを充てたい。径約40cm

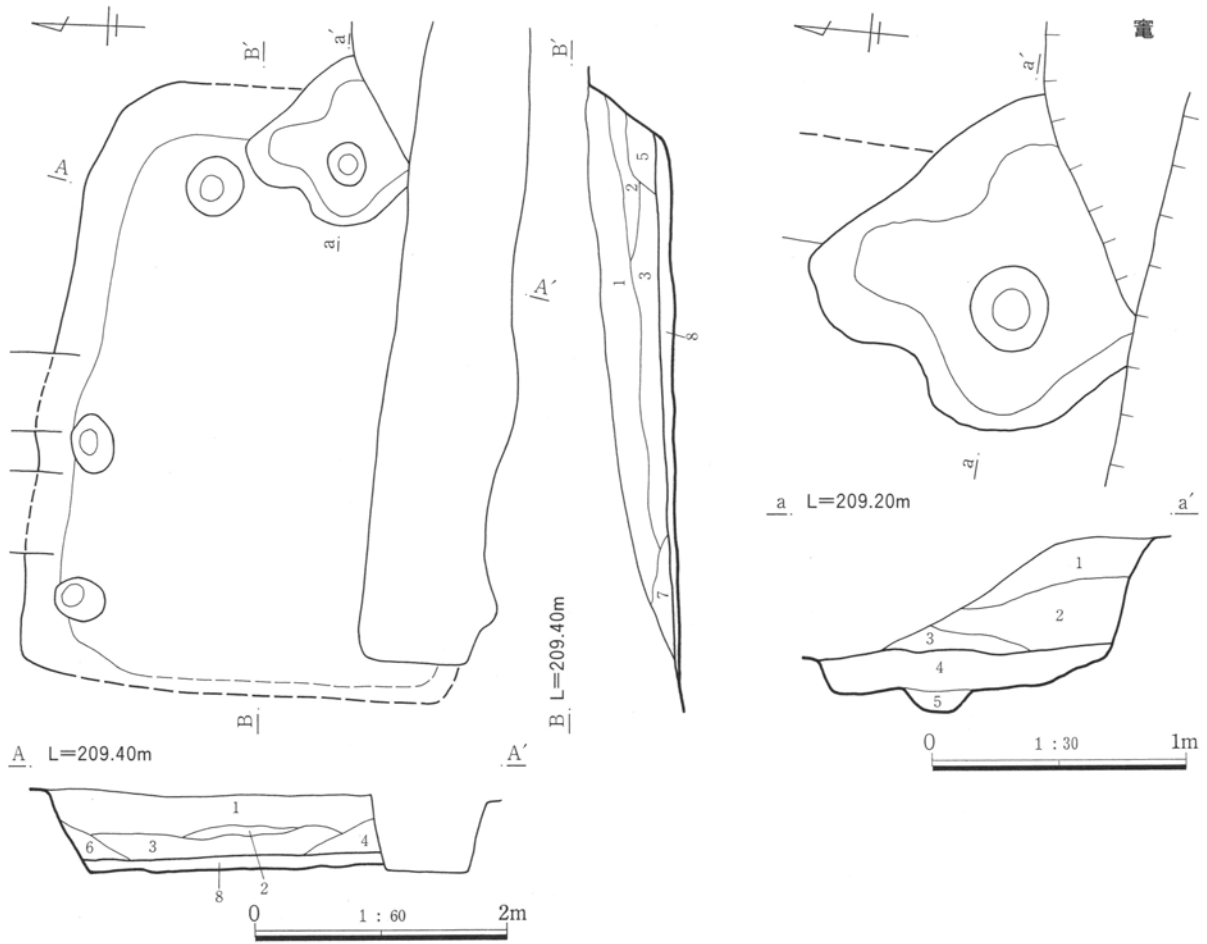
で深さ20cm程の小規模な例であるが、配置から推定した。あるいは東南隅に妥当性を持たせるべきかもしれない。

柱穴は北壁際で西側の配置される2基の小ピットを充てる。壁周溝や間仕切り溝は無かった。床下遺構も特筆する例は無い。

遺物は、土師器小破片と須恵器坏小破片が少量出土した。いずれも埋土中からの散漫な出土で、土器類では1の「コ」字口縁甕破片を図示し得たのみである。また、竈埋土と住居跡周辺から出土した羽口片(2)が接合している。3の鉄鏃は埋土出土である。

Ⅲ 検出された遺構と遺物

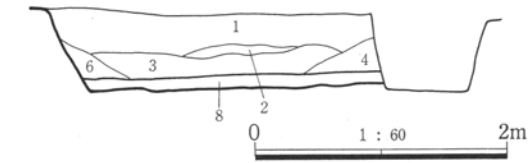
Ⅲ区住居跡



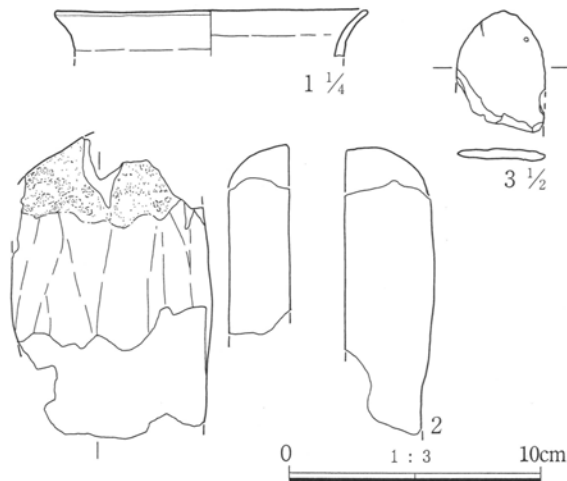
A L=209.40m

B L=209.40m

a L=209.20m



0 1:30 1m



27号住

- 1. 黒褐色土 大型のFPを多量に含む。しまり弱い
- 2. 暗褐色土 少量のFP・黒色土塊を含む
- 3. 褐色土 FP・暗褐色土塊を多く含む
- 4. 黒褐色土 小型のFPを少量含む
- 5. 暗褐色土 小型のFPを多く含む。しまり強い
- 6. ♪ 明るい。小型のFPを少量含む
- 7. ♪ FP・褐色土塊を少量含む
- 8. 鈍褐色土 褐色土塊を主体とした貼床土。軟質

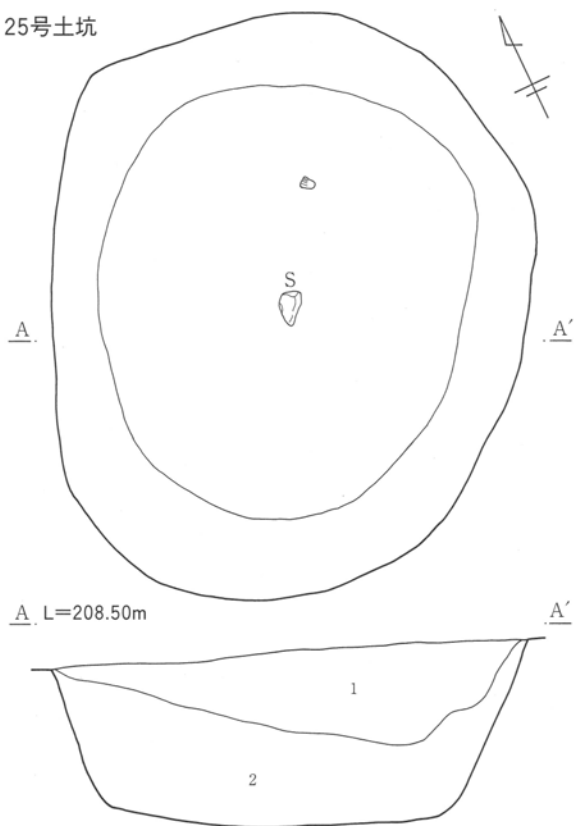
竈

- 1. 黒褐色土 FP・少量の焼土塊を含む
- 2. ♪ 明るい。FP・焼土粒を多く含む
- 3. 暗褐色土 焼土粒・炭化物を少量含む
- 4. 褐色土 暗褐色土塊・FPを主体とする
- 5. 暗褐色土 軟質。褐色土粒を少量含む

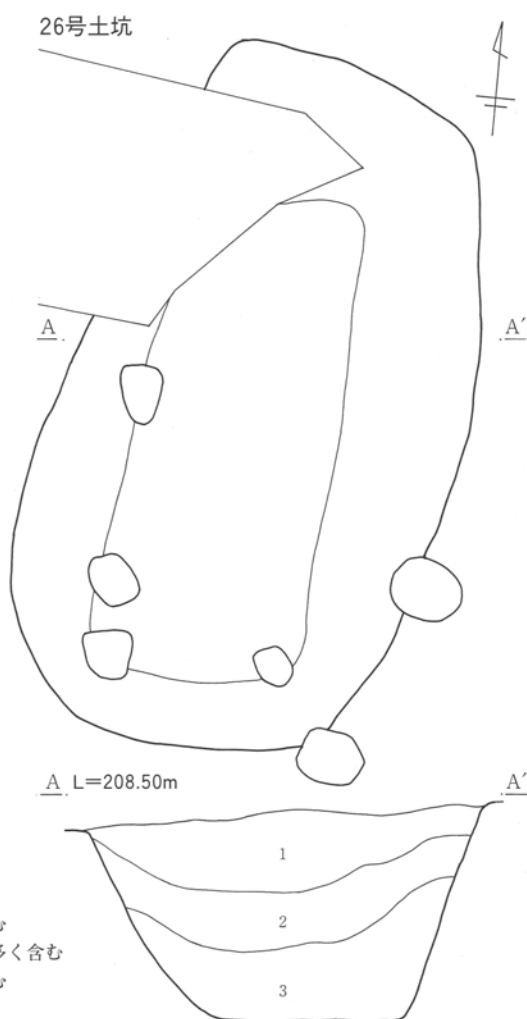
185図 Ⅲ区 FP上27号住床面・竈・出土遺物

I区土坑

25号土坑



26号土坑



I区25号土坑

- 1. 褐色土 大型のFPを多量に含む
- 2. 〃 軟質。FPを少量含む

I区26号土坑

- 1. 黒褐色土 FPを多く含む
- 2. 〃 軟質。FPを多く含む
- 3. 暗褐色土 FPを少量含む

186図 I区 25号土坑・26号土坑

0 1:40 1m

(土坑) I-1区で検出された2基の土坑を報告する。前述の通り、他のII区・III区で得た長方形土坑等は近・現代溝を切る重複関係やガラス瓶が出土する状態のため、調査も掘削のみあるいは平面図のみの記録化となった。I-1区で得た25号・26号土坑も、重複関係はなく、時期不詳のため報告するが、出土遺物はなく、埋土の状態も、古代遺構の土層特徴ではなく、近世～近代の特徴を有す。

25号土坑：I-1区中央やや西よりで検出された。当初は井戸状遺構と捉えたが、FA下黒色土で坑底面を見た。湧水点が高く井戸としての機能を有していたかもしれない。記録は安全上、FP下面で取った。径3.2×2.5m程不整形円形を呈し、深さ約1mを

測る。FP上からでは2.5m以上を測る、井戸状遺構に相応しい深さではある。

26号土坑：調査区北東部の北壁際で検出した。現代の構造物基礎に北西隅を壊される。約3.8×2.2m、深さ1.1mのしっかりとした不整形長方形の平面形を呈す。周辺には現代の小ピットが群在し、本土坑にも幾つかが重複する。出土遺物もなく、詳細な時期は不明だが、土層の特徴からは近代以前に比定されよう。

7. 遺構計測表及び遺物観察表

2表 住居跡計測表

住居跡名 位置	平面形	規模 (cm) 縦軸×短軸×高さ	住居方位	炉位置	主な施設	主な遺物	重複遺構
1号住居跡 HS-74・75、HT-74・75	大型方形	574×-×66	N0°E	—	柱穴・貯蔵穴 壁周溝・2段床面	埴・器台・甕・台付き 甕・管玉等	10住 焼失住居
2号住居跡 HQ-74・75、HR-74・75	大型方形	520×-×22	N87°E	—	柱穴	高坏・甕等	建て替えか
3号住居跡 HK-72、HL-72・73	小型隅丸方 形	310×238×13	N12°W	東寄り	四本柱穴・壁周溝 床下土坑	小型甕片・台付き甕片	
4号住居跡 HG-70、HH-70	不整長方形	362×314×16	N0°	北寄り	柱穴・貯蔵穴 壁周溝	鉢・甕・器台・甕等	
5号住居跡 HM-73・74、HL-73・74	小型長方形	323×246×5	N83°W	北西寄り	柱穴	甕・台付き甕片	
6号住居跡 HG-71・72、HH-71・72	隅丸長方形	426×343×21	N87°W	北寄り	柱穴・床下土坑	ミニチュア土器・坏・ 甕等	焼失住居
7号住居跡 HE-70、HF-70・71	縦長長方形	421×376×17	N80°W	北西隅寄 り	柱穴・貯蔵穴	埴・台付き甕片	
8号住居跡 HI-72・73、HJ-72・73	縦長長方形	355×288×9	N20°W	北寄り	柱穴?	坏・器台片	26住
9号住居跡 HR-74・75、HS-74・75	縦長長方形	459×367×22	N30°W	中央	貯蔵穴・床下土坑	甕片等	1住周堤帯 下
10号住居跡 HS-74・75、HT-74・75	方形?	-×-×14	N88°W	—	柱穴?	坏片・甕片	1住
11号住居跡 HT-73、HU-73	方形?	-×-×17	N52°W	—	柱穴・床下土坑?	高坏片・甕片	
12号住居跡 HL-73、HM-73・74	方形?	-×-×17	N78°E	—	—	—	
13号住居跡	欠番				—	—	
14号住居跡 HL-70・71	小型方形	257×232×15	N10°E	南寄り	柱穴・貯蔵穴 床下土坑	磨石類	3号掘立
15号住居跡 HP-73、HQ-73	隅丸方形	429×383×35	N78°E	北寄り	柱穴・貯蔵穴・壁 周溝・間仕切り溝	坏・器台・鉢・埴・高 坏・甕	焼失住居
16号住居跡 HQ-72・73、HR-73	小型正方形	233×228×10	N10°W	—	柱穴? 床下土坑?	—	
17号住居跡 HN-74、HO-74	方形?	-×-×13	N53°W	—	—	—	18住
18号住居跡 HO-73・74、HP-73・74	大型隅丸方 形	442×439×41	N0°	北東寄り	四本柱穴・壁周溝 貯蔵穴 床下土坑	高坏・台付き甕・磨石 類等	17・19住 焼失住居
19号住居跡 HO-73、HP-73	不整長方形	447×328×19	N60°E	—	—	埴・甕片等	18住
20号住居跡 HH-69・70、HI-69・70	隅丸方形?	331×-×48	N6°W	—	柱穴・貯蔵穴? 壁周溝・床下土坑	埴・器台・高坏・甕・ 台付き甕・磨石類等	焼失住居
21号住居跡 HR~T-72・73	大型方形	748×-×56	N84°E	北寄り	柱穴・壁周溝 入り口施設 床下土坑	高坏・小型甕・台付き 甕・磨石類等	1住周堤帯 下
22号住居跡 HN-71	方形?		N84°W	—	—	高坏・鉢・台付き甕・ 磨石等	2号掘立
23号住居跡 HD~F-71・72	隅丸方形	513×422×72	N70°E	北東寄り	四本柱穴・貯蔵穴 壁周溝 間仕切り溝	埴・坏・高坏・甕・台 付き甕・磨石類等	
24号住居跡 HG-72・73、HH-72・73	不整長方形	498×333×20	N0°	東寄り	柱穴・貯蔵穴 床下土坑	器台・甕片等	
25号住居跡 HK-73・74、HL-73・74	大型隅丸方 形?	-×-×67	N77°W	—	柱穴・2段床面 床下土坑	埴・器台・甕・台付き 甕・鉄鎌	
26号住居跡 HI-72・73、HJ-72・73	不整長方形	394×252×14	N64°E	—	柱穴・貯蔵穴 柱穴?	—	8住
28号住居跡 HW-74・75、HX-74・75	不整方形	380×395×6	N5°W	—	柱穴・貯蔵穴?	甕片	32住

7. 遺構計測表及び遺物観察表

住居跡名 位置	平面形	規模 (cm) 縦軸×短軸×深さ	住居方位	炉位置	主な施設	主な遺物	重複遺構
29号住居跡 IA-77、IB-77	不整形	- × - × 28	N45° W	-	柱穴?	小型甕片・台付き甕片 ・甕	
30号住居跡 HX-76	小型長方形	240 × - × 5	N50° E	-	柱穴・貯蔵穴?	-	
31号住居跡 IB-76・77、IC-76	長方形	468 × 343 × 33	N74° W	北壁際	柱穴・貯蔵穴・間仕 切り溝・2段床面	鉢・高坏・甕・台付き 甕・勾玉模造品	
32号住居跡 HW-75・76、HX-75・76	小型正方形	348 × 360 × 60	N80° E	-	柱穴・貯蔵穴?	片口・埴・台付き甕・ 砥石	
33号住居跡 HX-73・74	長方形?	480 × - × 6	N4° W	西寄り	柱穴・床下土坑?	-	34住
34号住居跡 HX-73・74	長方形?	432 × - × 26	N4° W	-	柱穴・床下土坑?	-	33住
掘立柱建物跡							
1号掘立柱建物 HM-72、HN-72	正方形 1 × 1 間	233 × 228	N86° E	-	-	-	
2号掘立柱建物 HN-71・72	長方形? 1 × 2 間?	- × 263	N8° E	-	-	-	
3号掘立柱建物 HK-71・72、HL-71・72	正方形 1 × 2 間	292 × 283	N90° E	-	-	-	14住
4号掘立柱建物 HA-69・70	長方形 1 × 2 間	363 × 298	N4° E	-	-	-	
F P上(平安時代住居跡)							
27号住居跡 HY-74・75	不整形長方形	480 × - × 68	N80° W	竈東壁	柱穴?	コ字甕片・羽口・鉄鎌	

3表 水田計測表

Ⅲ区 F A 下水田跡

番号	縦軸(m)	横軸(m)	面積(m ²)	備考
Ⅲ A 001	-	-	-	
Ⅲ A 002	-	4.02	-	
Ⅲ A 003	-	2.48	-	
Ⅲ A 004	-	3.78	-	
Ⅲ A 005	-	-	-	
Ⅲ A 006	6.31	6.20	37.69	不整形
Ⅲ A 007	6.92	4.56	30.08	不整形
Ⅲ A 008	6.54	-	-	
Ⅲ A 009	-	6.48	-	不整形
Ⅲ A 010	-	5.02	-	不整形
Ⅲ A 011	-	-	-	代掻き後
Ⅲ A 012	-	-	-	縦長長方形

Ⅲ区 F P 下水田跡

Ⅲ P 001	-	2.46	-	代掻き後
Ⅲ P 002	15.98	5.56	66.20	代掻き後
Ⅲ P 003	-	1.46	-	代掻き後
Ⅲ P 004	-	3.12	-	代掻き後
Ⅲ P 005	-	-	-	耕起中
Ⅲ P 006	-	-	-	耕起中
Ⅲ P 007	-	-	-	耕起中
Ⅲ P 008	3.24	-	-	耕起中
Ⅲ P 009	-	-	-	耕起中
Ⅲ P 010	-	3.98	-	耕起中
Ⅲ P 011	-	-	-	耕起中
Ⅲ P 012	3.46	2.08	7.18	耕起中
Ⅲ P 013	2.90	2.46	7.04	耕起中
Ⅲ P 014	2.80	2.60	5.92	耕起中
Ⅲ P 015	3.20	-	-	耕起中
Ⅲ P 016	2.62	-	-	耕起中
Ⅲ P 017	-	-	-	耕起中
Ⅲ P 018	3.56	1.70	6.27	耕起中
Ⅲ P 019	2.78	1.88	5.31	耕起中

Ⅲ区 F P 下水田跡

番号	縦軸(m)	横軸(m)	面積(m ²)	備考
Ⅲ P 020	2.58	2.10	5.12	耕起中
Ⅲ P 021	3.08	2.26	7.31	耕起中
Ⅲ P 022	2.82	2.36	6.84	耕起中
Ⅲ P 023	-	-	-	
Ⅲ P 024	-	3.74	-	耕起中?
Ⅲ P 025	3.68	3.26	11.72	耕起中?
Ⅲ P 026	3.58	3.00	10.75	耕起中
Ⅲ P 027	3.54	2.64	8.67	耕起中
Ⅲ P 028	3.40	3.26	11.37	耕起中
Ⅲ P 029	3.20	-	-	耕起中
Ⅲ P 030	-	4.05	-	耕起中
Ⅲ P 031	3.86	3.50	13.50	耕起中
Ⅲ P 032	4.00	3.00	11.80	耕起中
Ⅲ P 033	3.86	2.62	9.12	耕起中
Ⅲ P 034	3.53	3.28	12.75	耕起中
Ⅲ P 035	-	3.64	-	耕起中
Ⅲ P 036	-	-	-	
Ⅲ P 037	3.40	3.08	〈10.20〉	耕起中?
Ⅲ P 038	3.24	3.00	9.47	耕起中?
Ⅲ P 039	3.00	2.30	〈6.89〉	耕起中?
Ⅲ P 040	3.58	3.04	11.16	耕起中?
Ⅲ P 041	-	-	-	
Ⅲ P 042	-	2.70	-	耕起中?
Ⅲ P 043	2.92	2.90	8.45	耕起中?
Ⅲ P 044	2.92	2.26	6.34	耕起中?
Ⅲ P 045	-	-	-	
Ⅲ P 046	-	-	-	耕起中?
Ⅲ P 047	3.64	3.36	〈12.11〉	耕起中?
Ⅲ P 048	-	-	-	耕起中?

I区 F P 下水田跡

I P 001	-	1.94	-	代掻き後
I P 002	4.46	1.86	6.97	代掻き後

Ⅲ 検出された遺構と遺物

番号	縦軸(m)	横軸(m)	面積(m ²)	備考
I P 003	1.34	1.24	1.61	代掻き後
I P 004	1.74	1.10	1.70	代掻き後
I P 005	-	2.50	-	代掻き後
I P 006	3.96	1.86	6.42	代掻き後
I P 007	1.34	1.28	1.57	代掻き後
I P 008	1.62	1.10	1.73	代掻き後
I P 009	2.16	1.99	3.71	代掻き後
I P 010	1.80	1.52	2.48	代掻き後
I P 011	-	1.38	-	代掻き後
I P 012	-	2.00	-	代掻き後
I P 013	3.72	2.00	(7.31)	代掻き後
I P 014	1.90	1.52	(2.78)	代掻き後
I P 015	1.74	1.66	2.72	代掻き後
I P 016	3.70	1.56	5.41	代掻き後
I P 017	-	1.40	-	代掻き後
I P 018	-	1.94	-	代掻き後
I P 019	3.54	1.94	6.61	代掻き後
I P 020	3.50	2.14	(6.62)	代掻き後
I P 021	3.54	2.44	(7.94)	代掻き後
I P 022	-	-	-	代掻き後
I P 023	-	2.40	-	代掻き後
I P 024	3.54	2.42	8.32	代掻き後
I P 025	3.60	2.28	7.58	代掻き後
I P 026	3.52	1.85	6.00	代掻き後
I P 027	1.66	1.60	(2.67)	代掻き後
I P 028	-	-	-	代掻き後
I P 029	-	1.44	-	代掻き後
I P 030	3.58	1.48	5.16	代掻き後
I P 031	3.40	1.52	4.93	代掻き後
I P 032	3.50	1.63	5.16	代掻き後
I P 033	-	1.28	-	代掻き後
I P 034	-	1.76	-	代掻き後
I P 035	3.54	1.78	5.82	代掻き後
I P 036	3.50	1.72	5.60	代掻き後
I P 037	3.30	1.56	4.56	代掻き後
I P 038	-	1.52	-	代掻き後
I P 039	-	1.64	-	代掻き後
I P 040	3.54	1.96	6.54	代掻き後
I P 041	3.64	2.17	7.30	代掻き後
I P 042	2.93	2.36	6.56	代掻き後
I P 043	3.52	2.30	7.62	代掻き後
I P 044	-	-	-	代掻き後
I P 045	-	1.54	-	耕起中
I P 046	2.20	1.60	3.42	耕起中
I P 047	2.42	1.78	4.19	耕起中
I P 048	2.62	1.90	4.62	耕起中
I P 049	1.98	1.76	3.44	耕起中

番号	縦軸(m)	横軸(m)	面積(m ²)	備考
I P 050	2.06	1.94	3.81	耕起中
I P 051	-	1.90	-	耕起中
I P 052	-	1.40	-	耕起中
I P 053	1.98	1.36	2.49	耕起中
I P 054	2.42	1.26	3.08	耕起中
I P 055	2.78	1.42	3.78	耕起中
I P 056	1.80	1.35	2.24	耕起中
I P 057	1.95	1.47	2.63	耕起中
I P 058	2.26	1.28	(2.62)	耕起中
I P 059	-	1.30	-	耕起中
I P 060	2.10	1.40	2.84	耕起中
I P 061	2.84	1.36	3.83	耕起中
I P 062	1.78	1.44	2.49	耕起中
I P 063	1.88	1.46	2.76	耕起中
I P 064	2.04	1.48	2.92	耕起中
I P 065	-	-	-	耕起中
I P 066	-	1.32	-	耕起中
I P 067	2.08	1.32	2.57	耕起中
I P 068	2.66	1.34	3.45	耕起中
I P 069	1.94	1.32	2.49	耕起中
I P 070	2.00	1.40	(2.75)	耕起中
I P 071	-	-	-	耕起中
I P 072	-	1.44	-	耕起中
I P 073	2.16	1.30	3.00	耕起中
I P 074	2.62	1.48	3.58	耕起中
I P 075	1.94	1.52	2.80	耕起中
I P 076	-	-	-	耕起中
I P 077	-	1.54	-	耕起中
I P 078	2.20	1.74	3.68	耕起中
I P 079	2.60	1.70	4.24	耕起中
I P 080	2.94	1.56	2.99	耕起中
I P 081	-	-	-	耕起中
I P 082	-	1.54	-	耕起中
I P 083	2.08	1.48	2.97	耕起中
I P 084	2.74	1.40	3.74	耕起中
I P 085	2.10	1.54	2.92	耕起中
I P 086	-	1.52	-	耕起中
I P 087	-	-	-	耕起中
I P 088	2.34	1.36	(2.99)	耕起中
I P 089	2.70	1.42	3.80	耕起中
I P 090	1.98	1.52	2.94	耕起中
I P 091	-	1.62	-	耕起中
I P 092	-	-	-	耕起中
I P 093	1.84	1.10	(2.14)	耕起中
I P 094	-	1.20	-	耕起中
I P 095	-	-	-	耕起中

4表 縄文時代遺物計測表

I区

図番号 器種	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	文様の特徴等	備考 時期等
10図1 深鉢 図版30	口縁部破片 I区FW65	①細砂粒 雲母 ②良好 ③鈍い褐色 ④	平縁。口縁部下に細隆線を巡らす。以下は縄文施文部と無文部の交互懸垂文構成か。縄文はRL横位充填施文。口縁部内面には強い横削り調整	中期末～後期初頭
10図2 深鉢 図版30	体部破片 I区FW65	①細砂粒 雲母・石英 ②良好 ③鈍い褐色 ④	垂下細隆線で画された磨消部と縄文施文部の交互懸垂文構成。縄文はRL横位・斜位充填施文。内面撫で調整。1と同一個体	中期末～後期初頭
10図3 深鉢 図版30	口縁部破片 I区FX65	①粗砂粒 雲母・黒色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④黒斑有り	平縁。1と同一個体か。口縁部下の1条の横位隆線より垂下する隆線で画された磨消部と縄文施文部の交互懸垂構成。縄文はRL横位充填施文。内面削り後撫で	中期末～後期初頭
10図4 深鉢 図版30	体部破片 I区FW65	①細砂粒 石英 ②良好③鈍い橙色 ④	垂下細隆線で画された磨消部と縄文施文部の交互懸垂文構成。縄文はRL縦位充填施文。磨消部は平滑な撫で・研磨が加わる	中期末～後期初頭
10図5 深鉢 図版30	体部破片 I区FW65	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③灰褐色 ④	体部全面を縄文が覆う。LR縦位・斜位施文。内面は平滑な撫で・研磨を施す	後期前葉か
10図6 深鉢 図版30	体部破片 I区試掘坑	①粗砂粒 褐色粒・石英 ②良好 ③灰褐色 ④	垂下細隆線で画された磨消部と縄文施文部の交互懸垂文構成。縄文はRL横位充填施文。磨消部は平滑な撫でを加える。内面は撫で調整	中期末～後期初頭
10図7 深鉢 図版30	体部破片 I区FW65	①粗砂粒 褐色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	垂下細隆線で画された磨消部と縄文施文部の交互懸垂文構成。縄文はRL横位・斜位充填施文。磨消部は平滑な縦位撫で・研磨を加える。内面は撫で調整	中期末～後期初頭
10図8 深鉢 図版30	口縁部破片 I区FW65	①細砂粒 白色粒 ②良好③灰褐色 ④	波状口縁。細隆線を口縁部下に設け。体部に沈線による分岐懸垂文を配す。分岐間は磨消部で縄文施文部と交互懸垂文構成。縄文はLR縦位充填施文。内面は横撫で	中期末～後期初頭
10図9 深鉢 図版30	頸部破片 I区FX65	①粗砂粒 繊維・白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	緩やかに括れる頸部に平行沈線が横位に施され、以下0段多条の横位LRが施される。内面平滑	前期中葉
10図10 深鉢 図版30	底部破片 I区FW65	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	緩やかに開く底部。体部器厚は比較的薄手。底面は僅かに上げ底を呈す。体部下半に沈線懸垂文の交差端部が看取される	後期初頭か
10図11 深鉢 図版30	頸部破片 I区FW64	①粗砂粒 繊維・石英 ②良好 ③鈍い褐色 ④	頸部に横位・斜位平行沈線が多段に施される。あるいは菱形構成か脚部及び腰部下端が中空状となる土偶。外面全面に丁寧	前期中葉

II区

11図1 土偶 図版30	脚部破片 II区HB70	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色 ④	脚部及び腰部下端が中空状となる土偶。外面全面に丁寧な研磨が施され、腰部側面に沈線による渦巻き状の意匠文を配す	後期前葉か
11図2 深鉢 図版30	口縁部破片 II区HA70	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	波状口縁波頂部。円形刺突文が口唇部に沿い。以下凹線による大柄の渦巻文が配されるか。縄文はRL縦位充填施文。波頂部内面にも円形刺突が施される	中期後葉
11図3 深鉢 図版30	口縁部破片 II区HJ71	①細砂粒 雲母・白色粒 ②良好 ③暗褐色 ④	平縁。幅広の口縁部無文部以下に横位隆帯を巡らす。隆帯上に斜位・縦位施文のRL縄文を施す。内面及び口縁部外面に研磨を施す	中期末葉
11図4 深鉢 図版30	口縁部1/4残存 II区HJ73	①粗砂粒 石英 ②良好 ③橙色 ④	平縁。内彎する口縁部形態から瓢形の可能性もある。口縁部下に隆線を巡らし以下隆線による渦巻状意匠を配す横位隆線には小孔が穿たれる	中期後葉
11図5 深鉢 図版30	口縁部破片 II区HH71・72	①粗砂粒 褐色粒・石英 ②やや軟質 ③褐灰色 ④	平縁。内彎気味の口縁部形態。口縁部下に無文部を設け細隆線を巡らす。以下LR細縄文を横位・斜位に施す。内面は平滑な撫でを施す	中期末葉
11図6 深鉢 図版30	口縁部破片 II区HP73	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③橙色 ④	平縁。直立気味の口縁部形態。口縁部下に無文部を設け以下横位隆線で画す。体部文様は2条の隆線による意匠と思われる、RL縦位充填縄文も施される	中期後葉
11図7 深鉢 図版30	口縁部破片 II区HH71	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③灰褐色 ④	強く内彎する口縁部。無文部下に細沈線を施し、2条の沈線による渦巻き状意匠を配する。沈線間を磨消部とし交互配列構成とする。縄文はLR縦位・斜位充填施文	中期末葉
11図8 深鉢 図版30	口縁部破片 II区HJ73	①粗砂粒 石英・白色粒 ②やや軟質 ③鈍い橙色 ④	平縁。やや内傾気味の口縁部形態。口縁部無紋部下に隆帯を巡らし、弧状隆線を垂下派生する。隆帯上に横位RL縄文、以下は縦位斜位RL縄文を施す	中期後葉

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	文様の特徴等	備考 時期等
11図9 深鉢 図版30	口縁部破片 Ⅱ区HH70	①粗砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	平縁。無文の口縁部。以下に横位隆線が看取できる	中期後葉
11図10 深鉢 図版30	口縁部破片 Ⅱ区HY71	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③明褐色 ④	平縁。無文口縁部下に細隆線を巡らし、以下沈線による分岐状懸垂文を配す。分岐間はL R縦位充填施文。磨消部は撫で・弱い研磨。内面器壁剥落	中期末葉
11図11 深鉢 図版30	口縁部破片 Ⅱ区HH71	①細砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	緩やかな波状小突起を付す。突起下に1本描きの沈線による円形区画意匠が配される。区画内はL R縦位充填縄文内面撫で調整を施す	中期末葉
11図12 深鉢 図版30	口縁部破片 Ⅱ区HQ74	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	やや直立気味の無文口縁部。外面は丁寧な横方向の撫でを施す。内面器壁剥落	中期後葉
11図13 深鉢 図版30	口縁部破片 Ⅱ区HP73	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	平縁。無文口縁部下に隆線を巡らし、体部は2条の弧状隆線による渦巻き状意匠が配される。無文部と施文部の交互配列か。R L横位充填施文。隆線脇は凹線状撫で	中期後葉
11図14 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区HG71	①粗砂粒 白色粒 ②良好 ③灰褐色 ④	平縁。僅かに内彎する形態。口縁部に幅狭の無文部を設けるが劃線を付さない。無文部以下は縦位R L縄文が器面を覆う。内面撫で調整	中期後葉
11図15 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区HK71	①細砂粒 白色粒 ②やや軟質 ③鈍い橙色 ④	平縁で厚手の口唇部。口縁部無文部下に横位隆線と弧状隆線を設ける。体部渦巻き状意匠か。内面器壁剥落	中期後葉
12図16 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区北試掘坑	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③褐灰色 ④	緩やかな波状口縁。波頂部より弧状隆帯が派生し円形・渦巻き状の意匠を配す。区画内の縄文はR L横位充填施文。隆帯脇は凹線状の撫で。内面は撫で調整	中期後葉
12図17 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区9住埋土	①細砂粒 雲母・白色粒 ②良好 ③橙色 ④	平縁。無文口縁部下に1条の細隆線を巡らし垂下隆線を加える。城門はR L横位充填施文。隆線脇には撫でを加える。内面は平滑な撫で調整	中期後葉
12図18 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区GX69	①細砂粒 白色粒 ②堅緻 ③暗褐色 ④黒斑あり	内彎する口縁部。あるいは波状口縁か。口縁部に幅狭の無文部を設け、撫でにより稜線を描出する。以下L R縄文を乱雑に施文し器面を覆う。内面平滑な撫で調整	中期後葉～末葉
12図19 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区HH72	①細砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③暗褐色 ④	波状突起波頂部。先端部欠損。内彎する口縁部。口縁部無文部下に横位沈線を施し以下弧状垂下する分岐状懸垂文が沈線で画される。L R縦位・斜位施文。内面撫で	中期後葉～末葉
12図20 深鉢 図版31	口縁部～体部破片 Ⅱ区GX68	①緻密 細砂粒 ②堅緻 ③鈍い橙色 ④	平縁。器厚薄手で直線的な体部形態。バケツ状の器形か内外面とも無文。内面は平滑な撫で調整	後期前葉か
12図21 深鉢 図版31	頸部破片 Ⅱ区HP74	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③褐灰色 ④	頸部無文。体部上端に横位隆線を付し以下横位R L縄文を施す。隆線脇は丁寧な撫で、内面も撫で・研磨を施す	中期後葉
12図22 深鉢 図版31	頸部破片 Ⅱ区HI71	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	両耳壺把手部分。橋状把手。把手中位が凹む。周縁は丁寧な撫でを加える	中期後葉
12図23 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区HK70	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③暗褐色 ④	口唇部欠損。口縁部下に横位隆線を貼付し、隆線による渦巻文を配す。横位隆線以下は縦位・斜位L R縄文が施される	中期後葉
12図24 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ 1住埋土	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③褐色 ④	波状口縁。2列の刺突文が口縁部に沿う。以下に隆線が付され。体部は弧状沈線による意匠文が配される。縄文は縦位・斜位L R。内面器壁剥落	後期初頭
12図25 深鉢 図版31	体部上位破片 Ⅱ区HI71	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③褐色 ④	内彎する体部形態。細沈線による施文部と磨消部の交互配列。おそらく渦巻き状意匠か。縄文は縦位L R充填施文。内面は弱い撫で調整	中期末～後期初頭
12図26 深鉢 図版31	体部中位破片 Ⅱ区HI70	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	隆線による不整形区画文構成。区画内縄文は縦位R L充填施文。隆線脇は撫でを加える。内面は丁寧な縦位研磨を施す	中期後葉
12図27 深鉢 図版31	体部中位破片 Ⅱ区HI71	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	垂下隆線による懸垂文構成。縄文は前々段半撚L R縦位充填施文。隆線脇は撫で。内面は平滑な撫で	中期後葉
図28 深鉢 図版31	体部中位破片 Ⅱ区J1号土坑	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	垂下隆線による懸垂文構成。縄文は0段多条L Rの縦位・斜位充填施文。隆線脇は撫で。内面は撫で調整	中期後葉

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	文様の特徴等	備考 時期等
12図29 深鉢 図版31	体部中位破片 Ⅱ区24住埋土	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	垂下沈線による施文部と磨消部の交互懸垂文構成。縄文はR L縦位充填施文。磨消部には平滑な撫でが加わる。内面撫で・研磨	中期後葉
12図30 深鉢 図版31	体部破片 Ⅱ区GX69	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③明褐色 ④	隆線・隆帯による渦巻き状意匠と円形区画文。区画内、空白部にはL R縄文が縦位充填される。内面撫で調整	中期後葉
12図31 深鉢 図版31	体部破片 Ⅱ区HH79	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	沈線による施文部と磨消部の交互配列。「J」字状あるいは「S」字状の意匠化。縄文は縦位L R充填施文。内面弱い撫で	中期末～後期初頭
13図32 深鉢 図版31	体部破片 Ⅱ区HB64	①細砂粒 石英・雲母 ②良好 ③鈍い橙色 ④	内彎する体部上半か。櫛歯状工具による、縦位波状文が密接に施される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
13図33 深鉢 図版31	体部破片 Ⅱ区HK71	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	緩やかな彎曲の体部形態。沈線による磨消部と施文部の交互配列。施文部縄文はR L縦位充填施文。磨消部も縦位撫でを加える。内面は弱い撫で	中期後葉
13図34 深鉢 図版31	体部下半破片 Ⅱ区24住埋土	①粗砂粒 褐色・白色粒 ②良好 ③橙色 ④	沈線による懸垂文構成か。無文部は丁寧な撫で後研磨が加わる。内面弱い撫で、煤附着	後期初頭
13図35 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区	①細砂粒 石英・黒色粒 ②良好 ③褐色 ④	平縁。C字状爪形文、円形刺突文。刻みを付す横位隆線による横位多段構成。体部も同様な構成か。内面は平滑な撫で調整	前期後葉
13図36 深鉢 図版31	体部破片 Ⅱ区HH71	①粗砂粒 石英・黒色粒 ②良好 ③褐色 ④	横位浮線文。浮線には刻み、浮線間には刺突文が沿う地文縄文は横位R L。浮線は異種粘土を使用	前期後葉
13図37 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区GV69	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③灰黄褐色 ④	口縁部肥厚部分に半載竹管による強い刺突文が施される肥厚部下は斜位平行沈線が充填される	前期後葉 東関東系
13図38 深鉢 図版31	体部破片 Ⅱ区GW69	①粗砂粒 雲母・石英 ②良好 ③鈍い褐色 ④	器厚薄手で直立気味の体部形態。器面をヒダ状圧痕が覆う	中期初頭～前葉
13図39 深鉢 図版31	体部破片 Ⅱ区GW69	①粗砂粒 雲母・石英 ②良好 ③鈍い褐色 ④	38と同一個体か。器面のヒダ状圧痕が細かい。内面煤附着	中期初頭～前葉
13図40 深鉢 図版31	口縁部破片 Ⅱ区HI72	①緻密 細砂粒 ②良好 ③灰黄色 ④	口唇部内屈。沈線を劃線とした幾何学文様。L R細縄文の横位・斜位充填施文	後期前葉
13図41 浅鉢 図版31	底部1/2残存 Ⅱ区HM71	①細砂粒 雲母・石英 ②良好 ③鈍い褐色 ④	薄手で強く開く立ち上がり。外面及び底面は削り調整。内面は平滑な撫で	後期前葉
13図42 深鉢 図版31	底部2/3残存 Ⅱ区HH70	①粗砂粒 白色粒 ②やや軟質 ③鈍い褐色 ④	僅かに外反する立ち上がり。体部下半器厚やや薄手。内外面とも撫で調整	中期後葉か
13図43 深鉢 図版31	底部破片 Ⅱ区HH70	①粗砂粒 石英 ②良好 ③明褐色 ④	僅かに外反する立ち上がり。外面は縦位の丁寧な撫で調整。内面は器壁剥落	中期後葉
13図44 深鉢 図版31	底部破片 Ⅱ区HL73	①粗砂粒 白色粒 ②良好 ③褐色 ④	強く開く体部形態。隆線による懸垂文が達し、磨消部と施文部の交互構成。縄文は無節rの縦位施文。あるいは小型器種か	中期後葉
Ⅲ区				
14図1 深鉢 図版32	ほぼ完形 Ⅲ区IE75 斜面包含層	①細砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④黒斑有り	4単位波状口縁。体部文様帯は2帯に分かれ、上位は沈線による円形区画とU字状意匠、下位は分岐懸垂文。施文部はL R縦位充填施文だが、波頂部下は磨消部との交互配列を崩す。内面は丁寧な撫で。外面口縁部に煤附着	中期後葉
14図2 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区IF77 斜面包含層	①粗砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色 ④	平縁。波状突起を付す。口縁部下に横位凹線を巡らし、体部上半は2条の凹線による波状文が配される。縄文は上位が横位R L、下位が縦位R L充填施文。内面撫で	中期後葉
15図3 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区IE75 斜面包含層	①粗砂粒 白色粒 ②良好 ③褐色 ④	平縁。幅広の凹線に画された口縁部文様帯。隆帯による半楕円状区画文。渦巻き状意匠を端部とする。縄文は横位・斜位R Lを充填する。内面横位撫で・研磨を加える	中期後葉

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	文様の特徴等	備考 時期等
15図4 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区IE73 斜面包含層	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	平縁。口縁部下に横位細隆線を巡らす。以下横位RL縄文が体部を覆う。横位隆線脇は撫でを加える。内面は強い横位削り調整	中期後葉～末葉
15図5 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区IE73 斜面包含層	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③暗褐色 ④	口縁部下に横位隆線が巡り、2条の垂下隆線による懸垂文構成か。無節Rの横位施文が施される。隆線脇は撫で内面は削り調整後丁寧な撫で	中期後葉～末葉
15図6 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区 斜面包含層	①細砂粒 白色粒 ②やや軟質 ③鈍い橙色 ④	口唇部内面欠損。口縁部隆帯で肥厚する。頸部隆線で画された口縁部文様帯。口唇部より懸架した隆線渦巻文を配す。器面磨滅。縄文は縦位RLか。内面研磨	中期後葉
15図7 深鉢 図版32	体部破片 Ⅲ区ID76 斜面包含層	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③褐灰色 ④	細隆線と凹線による、垂下懸垂文と逆U字状意匠文。縄文は縦位RL充填施文。内面は横位削り調整後縦位研磨を加える	中期後葉
15図8 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区IJ76 低地部	①粗砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	口唇部肥厚。無文部下に横位隆線を付し、2条の弧状隆線が派生する。おそらく大柄の渦巻き状意匠か。隆線脇は弱い撫で。内面は丁寧な撫で調整後研磨を加える	中期後葉
15図9 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区IE76 斜面包含層	①粗砂粒 白色粒・小礫 ②良好 ③鈍い橙色 ④	口唇部肥厚。無文部下に横位隆線を付し、以下に2条弧状隆線を垂下する。大柄の渦巻文か。縄文は縦位LR充填施文。内面撫で調整後研磨を加える	中期後葉
15図10 a・b 深鉢 図版32	体部破片 Ⅲ区IQ76 低地部	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③明褐灰色 ④	体部下に内湾部を設ける。1本描きの沈線によるJ字状意匠文とH字状意匠文。下端を開放する。列点状刺突文を意匠内に充填する。内面丁寧な撫で調整	後期初頭
15図11 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区HX75 台地部	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③灰褐色 ④	緩やかな波状口縁か。口縁部無文部下に鋭い横位細隆線を巡らす。体部は縦位LRが覆う	中期末～後期初頭
16図12 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区 斜面包含層	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色 ④	緩やかな波状口縁か。口唇部下より4～5条単位の櫛歯状工具による縦位条線が施される。内面平滑な撫で調整	中期後葉
16図13 深鉢 図版32	体部破片 Ⅲ区IA・C 74・75	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	6～8条単位の櫛歯状工具による縦位条線が器面を覆う条線はやや細くやや浅い施文。内面平滑な撫で調整	中期後葉
16図14 深鉢 図版32	体部破片 Ⅲ区IH76 低地部	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	4～5条単位の櫛歯状工具による縦位条線。施文は深い内面は丁寧な撫で調整	中期後葉
16図15 深鉢 図版32	体部破片 Ⅲ区IJ74 低地部	①粗砂粒 白色粒 ②良好 ③灰褐色 ④	4～5条単位の櫛歯状工具による縦位条線。施文は深く重複施文著しい。内面は丁寧な撫で調整。14と同一個体か	中期後葉
16図16 深鉢 図版32	頸部破片 Ⅲ区 斜面包含層	①粗砂粒 白色粒・雲母 ②良好 ③浅黄橙色 ④	内湾する頸部に横位隆帯を付し、波状突起を波頂部とした円形区画文を体部に配す。内面撫で調整。突起剥落部に整形時の撫で調整痕が看取される	中期後葉
16図17 深鉢 図版32	口縁部破片 Ⅲ区IF77 斜面包含層	①細砂粒 石英・白色粒 ②やや軟質 ③鈍い橙色 ④	内湾する口縁部。口縁部下に1条の横位沈線を巡らし、以下垂下沈線で画された懸垂文構成。施文部と磨消部の交互配列か。縦位LR充填施文。磨消部には研磨を施す	中期後葉
16図18 深鉢 図版32	体部破片 Ⅲ区 斜面包含層	①粗砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	1本描きの沈線による円形あるいはU字状区画か。縄文はRL縦位充填施文	中期後葉
16図19 深鉢 図版32	体部破片 Ⅲ区IF77 斜面包含層	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③暗褐色 ④	やや薄手の器厚。2条隆線による大柄の渦巻文。縄文はRLを充填施文する。隆線脇は撫で。内面は平滑な撫で調整と研磨を加える	中期後葉
16図20 浅鉢 図版33	底部破片 Ⅲ区 斜面包含層	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③明褐色 ④	内面器壁著しく剥落。強く外反気味に開く立ち上がり。外面は丁寧な撫で調整を施す	中期中葉?
16図21 深鉢 図版33	底部破片 Ⅲ区IA73 台地部	①粗砂粒 石英 ②良好 ③鈍い褐色 ④	開き気味に立ち上がる。端部はやや突出。内底面は丸底外面は削り・撫で調整。内面は丁寧な撫で	中期後葉～後期初頭
16図22 深鉢 図版33	底部破片 Ⅲ区IJ74 低地部	①粗砂粒 石英・白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	強く開き気味に立ち上がる。体部器厚はやや薄手。内外面とも丁寧な撫で	中期後葉～後期初頭
16図23 深鉢 図版33	底部1/2残存 Ⅲ区IQ77 低地部	①粗砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ③	やや開き気味に立ち上がるバケツ状の器形か。外面縦位削りと撫で調整。内面は撫で調整、底面も平滑な撫で調整	後期初頭～中葉

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	残存率 出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	文様の特徴等	備考 時期等
16図24 深鉢 図版33	底部2/3残存 Ⅲ区IF76 斜面包含層	①粗砂粒石英 ②良好 ③鈍い橙色 ④	僅かに突出気味の底部。立ち上がりは緩やかに開く。内外面弱い撫で調整。底面は平滑な撫で	中期後葉～後期初頭
16図25 深鉢 図版33	底部3/4残存 Ⅲ区IY76 斜面包含層	①粗砂粒白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	やや厚手。端部丸みを帯びる。立ち上がりは僅かに外反する。外面は縦位撫で調整。内面は平滑な撫で	中期後葉～後期初頭
16図26 深鉢 図版33	底部1/3残存 Ⅲ区IQ76 低地部	①細砂粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	強く張り出す底部形態。器厚は全体に薄手。体部下半に僅かに縦位LRが看取されるが判然としない。内外面弱い撫で。底面外縁も撫で	後期前葉～中葉
16図27 深鉢 図版33	体部下半～ 底部残存 Ⅲ区低地部	①粗砂粒白色粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④	2条一組の沈線で画された懸垂文構成。縄文はRL縦位充填施文。磨消部は縦位撫で。内面は削り調整後弱い撫でを加える	中期後葉
17図28 深鉢 図版33	口縁部破片 Ⅲ区低地部	①粗砂粒白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	口唇部僅かに欠損。横位平行沈線が多段に設けられ、帯縄文LRが施されるが判然としない。区切り文等は見られない	後期中葉
17図29 深鉢 図版33	口縁部破片 Ⅲ区 斜面包含層	①粗砂粒白色粒 ②良好 ③鈍い褐色 ④	口縁部欠損。頸部隆線で画された口縁部区画か。隆線には沈線が沿い、縦位LRが充填される	中期後葉初
17図30 深鉢 図版33	体部破片 Ⅲ区 斜面包含層	①粗砂粒片岩粒 ②良好 ③褐色 ④	集合沈線の交互斜位施文による対弧状の意匠か。弧空白部は半肉影手法で印刻する	前期末～中期初頭
17図31 深鉢 図版33	口縁部破片 Ⅲ区 斜面包含層	①粗砂粒石英・雲母 ②良好 ③橙色 ④	口唇部欠損。単列の結節沈線が口縁部区画に沿い、斜位結節沈線が充填される	中期前葉
17図32 深鉢 図版33	口縁部破片 Ⅲ区HY75 台地部	①粗砂粒石英・雲母 ②良好 ③極暗褐色 ④	波状口縁。口唇部に復列単独施文の結節沈線が沿う。口縁部文様帯内は単独施文の結節沈線による斜位・楕円状の意匠が充填される	中期前葉
17図33 深鉢 図版33	口縁部破片 Ⅲ区 斜面包含層	①粗砂粒白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	波状口縁。口唇部に1条の沈線が沿い、2列の刻み目列を重ねる。沈線以下は無節Rを施す	中期後葉
17図34 深鉢 図版33	口縁部破片 Ⅲ区 低地部	①粗砂粒雲母・白色粒 ②良好 ③橙色 ④	口縁部内傾。屈曲部上を無文、以下を横位・縦位RLを施す。内面削り調整後撫でを加える	後期初頭か
17図35 注口土器 図版33	体部破片 Ⅲ区IQ78 低地部	①粗砂粒白色粒 ②良好 ③暗褐色 ④	上位に横位沈線を施し、楕円・円形状意匠で下位と連結する。細縄文縦位LRを施す。磨消部は研磨。内面は削り・撫で調整	後期中葉
17図36 深鉢 図版33	口縁部破片 Ⅲ区IF77 斜面包含層	①粗砂粒白色粒・小礫 ②良好 ③鈍い橙色 ④	あるいは両耳壺か。幅広の口縁無文部以下に隆帯で画された楕円区画が配される。区画内・体部の縄文は縦位・斜位RL。内面平滑な撫で・研磨を施す	中期後葉
17図37 深鉢 図版33	体部破片 Ⅲ区IF77 斜面包含層	①粗砂粒白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	弧状沈線による半楕円状区画と縦位RL縄文。磨消部の縦位研磨が強く沈線と同化する。内面弱い撫で調整	中期後葉
17図38 深鉢 図版33	体部破片 Ⅲ区IF76 斜面包含層	①細砂粒 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色 ④	2条の沈線による逆U字状意匠・波状意匠か。沈線間は磨消部として研磨される。施文部縄文はRL縦位充填施文。内面は横位研磨が顕著	中期後葉
17図39 深鉢 図版33	口縁部～体 部中位残存 30号土坑	①粗砂粒 白色粒・石英 ②良好 ③褐灰色 ④黒斑あり	口縁無文部以下に横位隆線を設け、垂下隆線で懸垂文を構成する。無文部と施文部との交互配列で、施文部はLR縦位充填施文。無文部は研磨を施す。内面は撫で調整	中期後葉～後期初頭

Ⅲ 検出された遺構と遺物

5表 石器計測表

挿図番号 図版番号	出土位置 器種	計測値 (cm) (g)		石材
18図1 図版34	Ⅲ区IA73 石鏃	長:2.1 厚:0.3	幅:1.4 重:0.9	黒曜石
18図2 図版34	1号住周辺 石鏃	長:2.0 厚:0.4	幅:1.5 重:1.0	黒色安山岩
18図3 図版34	Ⅱ区HI71 石斧?	長:(2.1) 厚:0.8	幅:(2.3) 重:3.5	黒色安山岩
18図4 図版34	28号住 石鏃	長:2.0 厚:0.4	幅:1.5 重:0.9	黒色安山岩
18図5 図版34	24号住 石鏃	長:2.1 厚:0.3	幅:2.2 重:1.4	黒色頁岩
18図6 図版34	Ⅲ区ID76 石鏃	長:2.1 厚:0.3	幅:(1.6) 重:0.7	黒曜石
18図7 図版34	Ⅲ区IA74 石鏃	長:2.3 厚:0.3	幅:1.5 重:0.9	黒曜石
18図8 図版34	Ⅲ区IC77 局部磨製石鏃	長:2.8 厚:0.4	幅:1.6 重:1.7	黒曜石
18図9 図版34	Ⅱ区GW68 石鏃	長:(2.7) 厚:0.4	幅:(1.8) 重:1.9	黒色安山岩
18図10 図版34	Ⅲ区HY75 剥片	長:2.6 厚:0.9	幅:2.4 重:4.9	黒曜石
18図11 図版34	Ⅱ区HA-71 石鏃	長:1.8 厚:0.2	幅:1.2 重:0.4	黒曜石
19図12 図版34	Ⅲ区東 石鏃	長:2.6 厚:0.4	幅:1.7 重:1.6	黒色安山岩
19図13 図版34	Ⅲ区IR-77 石鏃	長:(2.6) 厚:0.5	幅:1.5 重:1.7	珪質頁岩
19図14 図版34	Ⅲ区IB-76 石鏃	長:(1.4) 厚:0.4	幅:1.8 重:0.8	黒曜石
19図15 図版34	Ⅲ区IA72 石鏃	長:(1.9) 厚:0.3	幅:(1.1) 重:0.5	黒曜石
19図16 図版34	Ⅲ区IA73 石鏃	長:1.9 厚:0.3	幅:1.7 重:0.9	黒色安山岩
19図17 図版34	23号住 剥片	長:2.2 厚:1.5	幅:1.7 重:5.0	黒曜石
19図18 図版34	Ⅱ区HH72 剥片	長:2.9 厚:0.5	幅:1.9 重:2.6	黒曜石
19図19 図版34	Ⅲ区東 石核	長:2.1 厚:1.5	幅:2.2 重:8.2	黒曜石
20図20 図版34	Ⅱ区 石核	長:2.5 厚:2.4	幅:3.7 重:26.9	黒曜石
19図21 図版34	Ⅱ区HH72 石核	長:2.2 厚:0.9	幅:2.1 重:4.1	黒曜石
20図22 図版34	Ⅱ区 石核	長:2.2 厚:1.9	幅:2.2 重:7.9	黒曜石
20図23 図版34	Ⅱ区HH72 剥片	長:2.8 厚:0.4	幅:1.1 重:1.3	黒曜石
20図24 図版34	Ⅱ区 石核	長:2.1 厚:2.2	幅:2.4 重:10.0	黒曜石
21図25 図版34	Ⅱ区HH72 剥片	長:3.0 厚:1.1	幅:1.7 重:5.0	黒曜石
21図26 図版34	Ⅲ区IF78 石核	長:2.2 厚:2.0	幅:2.2 重:8.8	黒曜石
21図27 図版34	Ⅲ区HA77 剥片	長:4.3 厚:1.3	幅:1.9 重:7.8	黒曜石
21図28 図版34	Ⅲ区IB76 石鏃未製品	長:1.9 厚:0.5	幅:1.6 重:1.5	黒曜石
21図29 図版34	Ⅱ区HH72 剥片	長:(2.5) 厚:0.4	幅:(2.2) 重:2.0	黒曜石
21図30 図版34	Ⅱ区HH72 UF	長:3.6 厚:0.6	幅:1.2 重:1.6	黒曜石

挿図番号 図版番号	出土位置 器種	計測値 (cm) (g)		石材
21図31 図版34	Ⅱ区HP74 石鏃?(or搔器)	長:(2.1) 厚:0.5	幅:(2.1) 重:3.1	黒色安山岩
21図32 図版34	28号住 打製石斧	長:(2.7) 厚:(0.8)	幅:(2.1) 重:5.8	頁岩
22図33 図版35	Ⅱ区GW68 石鏃	長:4.2 厚:1.5	幅:5.0 重:20.0	黒色頁岩
22図34 図版35	Ⅱ区HF70 石鏃	長:3.3 厚:1.4	幅:6.0 重:14.0	黒色頁岩
22図35 図版35	Ⅱ区HL72 擦切砥石	長:3.4 厚:0.6	幅:4.6 重:10.0	頁岩
22図36 図版35	7号住 擦切砥石	長:3.2 厚:1.1	幅:(5.6) 重:19.0	頁岩
22図37 図版35	Ⅲ区北東隅 石核	長:3.7 厚:1.2	幅:1.7 重:8.0	黒色頁岩
22図38 図版35	Ⅲ区HY76 石鏃	長:3.6 厚:0.5	幅:2.6 重:4.5	頁岩
22図39 図版35	19号住 楔形石器	長:3.8 厚:1.0	幅:3.5 重:14.0	黒色安山岩
22図40 図版35	Ⅱ区HJ71 楔形石器	長:3.7 厚:0.5	幅:2.2 重:5.6	黒色安山岩
22図41 図版35	Ⅱ区HJ72 楔形石器	長:2.8 厚:0.8	幅:2.3 重:6.0	黒色安山岩
22図42 図版35	Ⅲ区東 石匙	長:4.4 厚:0.6	幅:2.5 重:6.5	珪質頁岩
22図43 図版35	21号住 削器	長:7.0 厚:1.0	幅:4.0 重:25.9	頁岩
23図44 図版35	8号住 打製石斧	長:(7.9) 厚:1.6	幅:4.6 重:58.0	頁岩
23図45 図版35	Ⅱ区HC68 打製石斧	長:(7.4) 厚:1.4	幅:5.0 重:45.0	頁岩
23図46 図版35	Ⅱ区HL71 打製石斧	長:(9.5) 厚:1.7	幅:4.3 重:68.0	頁岩
23図47 図版35	29号住 打製石斧	長:8.5 厚:1.8	幅:4.9 重:145.8	灰色安山岩
23図48 図版35	Ⅱ区HA71 打製石斧	長:(9.5) 厚:1.9	幅:4.7 重:114.0	砂岩
23図49 図版35	Ⅱ区HB69 打製石斧	長:(10.2) 厚:1.6	幅:5.4 重:110.9	砂岩
23図50 図版35	Ⅱ区GX69 打製石斧	長:10.1 厚:1.8	幅:4.5 重:81.0	頁岩
24図51 図版35	Ⅱ区GY69 打製石斧	長:11.2 厚:1.6	幅:4.6 重:91.5	頁岩
23図52 図版35	Ⅱ区HG72 打製石斧	長:11.5 厚:1.9	幅:3.7 重:71.0	頁岩
24図53 図版35	Ⅱ区HG70 打製石斧	長:(7.2) 厚:1.6	幅:4.2 重:75.0	緑色片岩
24図54 図版35	Ⅲ区東斜面 打製石斧	長:(8.0) 厚:1.5	幅:3.7 重:55.8	頁岩
24図55 図版35	Ⅱ区HB68 打製石斧	長:(6.5) 厚:1.4	幅:4.3 重:46.0	細粒安山岩
24図56 図版35	Ⅱ区HA71 打製石斧	長:(7.4) 厚:1.5	幅:4.7 重:49.8	頁岩?
24図57 図版35	Ⅲ区東斜面 打製石斧	長:(7.0) 厚:1.6	幅:4.3 重:72.0	頁岩
24図58 図版35	Ⅱ区HI78 打製石斧	長:(5.6) 厚:1.6	幅:4.9 重:48.0	珪質頁岩
24図59 図版35	Ⅱ区HA68 打製石斧	長:(3.6) 厚:1.2	幅:5.4 重:19.0	頁岩
24図60 図版35	Ⅱ区HJ72 打製石斧	長:(6.9) 厚:1.5	幅:4.1 重:50.0	頁岩

7. 遺構計測表及び遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土位置 器種	計測値(cm) (g)	石材
24図61 図版35	I区FW63 打製石斧	長:(7.5) 幅:4.1 厚:1.4 重:53.0	頁岩
25図62 図版35	Ⅲ区東斜面 打製石斧	長:(8.0) 幅:6.2 厚:2.0 重:136.0	安山岩
25図63 図版35	Ⅱ区GY70 打製石斧	長:(7.2) 幅:5.8 厚:1.4 重:61.0	珪質頁岩
25図64 図版35	Ⅲ区J-72 打製石斧	長:15.3 幅:8.4 厚:2.9 重:46.0	變質安山岩
25図65 図版35	26号住 打製石斧	長:13.5 幅:6.7 厚:2.6 重:43.0	安山岩
25図66 図版36	Ⅱ区HC70 打製石斧	長:7.0 幅:6.0 厚:1.2 重:46.5	黑色頁岩
25図67 図版36	Ⅱ区HG71 打製石斧	長:9.5 幅:5.3 厚:1.5 重:82.0	黑色頁岩
26図68 図版36	Ⅱ区HC69 打製石斧	長:(9.3) 幅:5.3 厚:1.4 重:76.0	頁岩
26図69 図版36	Ⅲ区IA76 打製石斧	長:9.4 幅:4.5 厚:1.4 重:61.0	黑色頁岩
26図70 図版36	Ⅲ区IG78 打製石斧	長:(7.5) 幅:4.1 厚:1.5 重:50.0	灰色安山岩
26図71 図版36	Ⅱ区GX69 打製石斧	長:10.8 幅:5.6 厚:1.8 重:113.0	變質安山岩
26図72 図版36	I区FW65 打製石斧	長:(12.1) 幅:6.6 厚:1.4 重:146.0	硬質頁岩
26図73 図版36	Ⅱ区西 打製石斧	長:10.8 幅:6.7 厚:1.9 重:121.0	頁岩
26図74 図版36	Ⅱ区HF70 打製石斧	長:(5.6) 幅:4.7 厚:1.5 重:51.0	安山岩
26図75 図版36	Ⅲ区HX75 打製石斧	長:(4.3) 幅:4.7 厚:1.4 重:33.0	頁岩
26図76 図版36	Ⅱ区東試掘坑 打製石斧	長:(6.5) 幅:5.4 厚:1.9 重:52.5	黑色頁岩
27図77 図版36	Ⅲ区IE77 打製石斧	長:(6.9) 幅:7.0 厚:1.8 重:94.0	頁岩
27図78 図版36	Ⅲ区IB75 打製石斧	長:(5.9) 幅:5.5 厚:2.3 重:83.0	黑色頁岩
27図79 図版36	Ⅱ区HA67 打製石斧	長:(5.2) 幅:5.6 厚:2.0 重:56.0	頁岩
27図80 図版36	Ⅱ区GY67 打製石斧	長:11.3 幅:7.1 厚:2.1 重:196.0	砂岩
27図81 図版36	30号土坑 打製石斧	長:10.5 幅:8.4 厚:1.4 重:144.0	頁岩
27図82 図版36	Ⅱ区HJ70 打製石斧	長:11.5 幅:7.8 厚:2.5 重:178.0	頁岩
28図83 図版36	Ⅲ区 打製石斧	長:12.6 幅:8.9 厚:3.7 重:338.0	珪質頁岩
28図84 図版36	Ⅲ区IC77 打製石斧	長:(11.6) 幅:8.1 厚:3.1 重:337.0	珪質頁岩
28図85 図版36	Ⅲ区IC75 打製石斧	長:(9.7) 幅:7.5 厚:3.4 重:306.0	珪質頁岩
29図86 図版36	Ⅲ区IG76 打製石斧	長:(9.0) 幅:6.8 厚:1.8 重:125.0	緑色片岩
29図87 図版36	Ⅱ区HN71 打製石斧	長:(7.1) 幅:7.2 厚:1.8 重:126.0	頁岩
29図88 図版36	Ⅱ区GV68 打製石斧	長:9.4 幅:4.8 厚:1.6 重:64.0	灰色安山岩
29図89 図版36	1号住 打製石斧	長:(5.5) 幅:5.8 厚:1.4 重:107.0	頁岩
29図90 図版36	Ⅱ区HJ70 打製石斧	長:(9.2) 幅:6.6 厚:1.5 重:63.0	頁岩

挿図番号 図版番号	出土位置 器種	計測値(cm) (g)	石材
29図91 図版36	Ⅲ区HA70 打製石斧	長:(9.4) 幅:7.2 厚:2.4 重:130	黑色頁岩
29図92 図版36	Ⅱ区北試掘坑 打製石斧	長:(15.5) 幅:8.4 厚:4.5 重:656.0	黑色頁岩
30図93 図版36	Ⅱ区HH71 打製石斧	長:12.7 幅:8.2 厚:3.5 重:357.0	砂岩
30図94 図版36	Ⅲ区西水田 打製石斧	長:10.7 幅:9.3 厚:3.4 重:271.0	珪質頁岩
30図95 図版36	Ⅱ区HI72 打製石斧	長:(5.9) 幅:8.8 厚:2.9 重:150.5	黑色頁岩
30図96 図版36	Ⅱ区HJ72 打製石斧	長:(4.5) 幅:6.5 厚:1.6 重:56.0	灰色安山岩
30図97 図版36	Ⅱ区HG72 打製石斧	長:(5.3) 幅:3.5 厚:1.6 重:37.0	頁岩
30図98 図版36	30号土坑 打製石斧	長:10.8 幅:4.8 厚:2.9 重:168.0	頁岩
30図99 図版36	Ⅲ区中 打製石斧	長:10.3 幅:4.4 厚:1.3 重:70.5	灰色安山岩
30図100 図版36	23号住 打製石斧?	長:(2.5) 幅:4.3 厚:1.0 重:11.8	頁岩
31図101 図版36	21号住 RF	長:7.8 幅:(5.5) 厚:3.0 重:129.0	黑色頁岩
31図102 図版36	Ⅱ区GW70 打製石斧	長:6.8 幅:4.9 厚:2.7 重:94.0	頁岩
31図103 図版36	Ⅱ区HJ70 打製石斧	長:(4.2) 幅:5.1 厚:1.6 重:31.0	珪質頁岩
31図104 図版36	Ⅱ区HL72 打製石斧	長:(5.6) 幅:6.4 厚:1.9 重:76.0	灰色安山岩
31図105 図版36	Ⅱ区HJ71 打製石斧	長:(6.7) 幅:5.2 厚:2.0 重:72.0	頁岩
31図106 図版37	Ⅱ区HQ74 石核	長:5.0 幅:4.6 厚:2.8 重:88.5	黑色安山岩
31図107 図版37	Ⅲ区IA74 石核	長:6.0 幅:8.4 厚:4.1 重:228.5	黑色安山岩
31図108 図版37	21号住 石核	長:9.5 幅:6.5 厚:4.3 重:231.0	黑色頁岩
32図109 図版37	Ⅱ区HJ74 石核	長:7.9 幅:6.7 厚:3.6 重:198.5	凝灰質頁岩
32図110 図版37	Ⅱ区HP74 石核	長:9.7 幅:4.9 厚:3.6 重:222.0	頁岩
32図111 図版37	Ⅱ区HJ70 石核	長:5.8 幅:8.4 厚:3.8 重:221.5	黑色頁岩
32図112 図版37	Ⅲ区 石核	長:5.4 幅:11.4 厚:3.3 重:191.5	黑色頁岩
33図113 図版37	Ⅱ区HK73 石核	長:7.6 幅:11.3 厚:3.7 重:303.0	珪質頁岩
33図114 図版37	Ⅱ区GY67 石核	長:8.6 幅:9.2 厚:6.0 重:459.0	黑色頁岩
33図115 図版37	Ⅲ区IB73 石核	長:12.7 幅:7.0 厚:5.2 重:465.0	頁岩
32図116 図版37	9号住 搔器	長:13.0 幅:5.2 厚:3.8 重:214.0	黑色頁岩
33図117 図版37	30号住 削器	長:10.1 幅:6.8 厚:2.9 重:202.0	黑色頁岩
32図118 図版37	Ⅱ区HQ74 削器	長:12.0 幅:5.3 厚:1.8 重:147.0	黑色頁岩
33図119 図版37	Ⅲ区GX69 礫器	長:12.7 幅:5.3 厚:4.5 重:283.0	頁岩
34図120 図版37	Ⅲ区東 搔器	長:8.1 幅:10.7 厚:4.2 重:332.0	頁岩

Ⅲ 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	出土位置 器種	計測値 (cm) (g)	石材
34図121 図版37	Ⅱ区北試掘坑 削器	長:15.3 幅:9.8 厚:2.2 重:245.0	黒色頁岩
34図122 図版37	Ⅲ区HX76 UF	長:8.7 幅:4.8 厚:2.7 重:67.0	珪質頁岩
34図123 図版37	Ⅱ区HA69 UF	長:5.6 幅:5.9 厚:2.3 重:52.0	頁岩
34図124 図版37	25号住 RF	長:7.0 幅:6.5 厚:3.1 重:167.0	黒色頁岩
34図125 図版37	Ⅱ区HH71 RF	長:6.1 幅:9.0 厚:2.6 重:127.0	変質安山岩
34図126 図版37	1号住周辺 UF	長:7.6 幅:4.9 厚:2.8 重:70.5	黒色頁岩
35図127 図版37	Ⅱ区HB71 RF	長:6.6 幅:7.4 厚:2.1 重:100.0	珪質頁岩
35図128 図版37	東29号住 搔器	長:(10.3) 幅:3.7 厚:3.4 重:59.0	黒色頁岩
35図129 図版37	Ⅱ区HA68 削器	長:5.5 幅:9.7 厚:2.5 重:82.0	黒色頁岩
35図130 図版37	Ⅱ区HB69 RF	長:8.9 幅:9.0 厚:3.6 重:329.5	頁岩
35図131 図版37	Ⅲ区HY76 削器	長:6.4 幅:6.2 厚:2.7 重:128.5	黒色安山岩
35図132 図版37	Ⅱ区GY68 RF	長:6.6 幅:6.8 厚:3.1 重:122.0	黒色頁岩
35図133 図版37	Ⅲ区表採 削器	長:5.2 幅:5.4 厚:2.5 重:57.0	黒色安山岩
35図134 図版37	24号住 RF	長:13.4 幅:5.8 厚:2.5 重:206.0	ホルンヘルス
36図135 図版37	Ⅱ区HA69 RF	長:9.8 幅:8.3 厚:3.0 重:280.0	頁岩
36図136 図版37	Ⅱ区北試掘坑 RF	長:11.3 幅:7.4 厚:3.0 重:240.0	黒色頁岩
36図137 図版37	Ⅱ区HJ73 UF	長:10.5 幅:5.7 厚:3.6 重:232.0	黒色頁岩
36図138 図版37	Ⅱ区 RF	長:10.5 幅:6.2 厚:2.9 重:228.0	頁岩
36図139 図版37	Ⅱ区GX70 削器	長:13.8 幅:9.9 厚:5.4 重:621.0	珪質頁岩
37図140 図版38	Ⅱ区HC70 円形搔器	長:3.7 幅:2.8 厚:1.0 重:9.5	安山岩
37図141 図版38	Ⅲ区東 削器	長:3.6 幅:2.8 厚:1.0 重:15.0	黒色安山岩
37図142 図版38	Ⅱ区HB68 UF	長:5.3 幅:3.3 厚:0.9 重:16.0	珪質頁岩
37図143 図版38	Ⅱ区HM72 削器	長:(4.5) 幅:2.9 厚:1.1 重:18.0	頁岩
37図144 図版38	Ⅲ区IQ78 削器	長:(4.1) 幅:(4.3) 厚:1.2 重:17.0	頁岩
37図145 図版38	Ⅱ区HI73 削器	長:4.1 幅:(3.9) 厚:1.0 重:24.0	黒色頁岩
37図146 図版38	Ⅱ区GX68 削器	長:5.2 幅:6.3 厚:1.1 重:476.0	頁岩
37図147 図版38	Ⅱ区GX69 削器	長:(6.3) 幅:5.1 厚:1.3 重:44.0	黒色頁岩
37図148 図版38	Ⅲ区HB68 UF	長:6.6 幅:6.3 厚:1.9 重:71.0	珪質頁岩
37図149 図版38	Ⅲ区IF78 削器	長:6.3 幅:3.9 厚:1.5 重:39.0	珪質頁岩
37図150 図版38	Ⅱ区HH72 削器	長:10.3 幅:5.0 厚:1.9 重:101.0	黒色頁岩

挿図番号 図版番号	出土位置 器種	計測値 (cm) (g)	石材
37図151 図版38	I区GA75 削器	長:8.6 幅:6.1 厚:2.0 重:82.0	頁岩
37図152 図版38	Ⅱ区GW69 削器	長:9.3 幅:4.6 厚:1.0 重:47.5	珪質頁岩
38図153 図版38	Ⅱ区HF71 RF	長:9.7 幅:5.5 厚:2.1 重:139.0	黒色頁岩
38図154 図版38	Ⅱ区HN72 削器	長:8.0 幅:6.7 厚:2.3 重:152.0	黒色頁岩
38図155 図版38	Ⅱ区HB69 削器	長:9.3 幅:8.2 厚:2.2 重:145.0	頁岩
38図156 図版38	Ⅱ区HE71 削器	長:7.2 幅:5.8 厚:1.3 重:65.0	珪質頁岩
38図157 図版38	32号住 削器	長:9.9 幅:7.0 厚:2.4 重:204.0	頁岩
38図158 図版38	Ⅲ区IE75 搔器	長:7.7 幅:5.4 厚:2.0 重:96.0	頁岩
38図159 図版38	Ⅱ区HK70 削器	長:(4.1) 幅:6.4 厚:1.7 重:43.0	黒色頁岩
38図160 図版38	Ⅲ区東 削器	長:8.5 幅:4.5 厚:1.5 重:57.0	頁岩
39図161 図版38	Ⅲ区IJ78 削器	長:12.9 幅:10.1 厚:4.2 重:620.0	安山岩
39図162 図版38	Ⅲ区HY72 RF	長:(3.9) 幅:2.8 厚:0.8 重:8.5	黒色安山岩
39図163 図版38	Ⅲ区IA75 RF	長:4.6 幅:4.0 厚:1.6 重:31.0	黒色頁岩
39図164 図版38	Ⅲ区東 RF	長:4.3 幅:3.2 厚:2.1 重:21.5	頁岩
39図165 図版38	Ⅱ区GY70 UF	長:4.4 幅:4.4 厚:1.2 重:15.7	頁岩
39図166 図版38	Ⅲ区IJ72 削器	長:5.2 幅:3.0 厚:0.9 重:13.5	頁岩
39図167 図版38	Ⅲ区IB75 RF	長:4.2 幅:3.8 厚:1.5 重:22.0	頁岩
39図168 図版38	7号住 UF	長:4.3 幅:4.1 厚:1.9 重:25.0	頁岩
39図169 図版38	23号住 RF	長:5.6 幅:3.8 厚:1.5 重:26.0	頁岩
39図170 図版38	Ⅱ区HF72 RF	長:5.8 幅:5.2 厚:1.8 重:47.5	黒色頁岩
40図171 図版38	Ⅱ区HN74 RF	長:3.7 幅:4.9 厚:1.6 重:21.0	黒色頁岩
40図172 図版38	21号住 RF	長:5.8 幅:5.5 厚:1.1 重:47.0	頁岩
40図173 図版38	Ⅱ区HM73 UF	長:7.0 幅:4.3 厚:1.8 重:40.0	黒色安山岩
40図174 図版38	Ⅱ区HI73 UF	長:8.3 幅:4.0 厚:1.1 重:33.0	黒色頁岩
40図175 図版38	Ⅱ区西試掘坑 削器	長:9.2 幅:4.8 厚:1.7 重:49.0	黒色頁岩
40図176 図版38	29号住 RF	長:(5.8) 幅:(4.2) 厚:1.1 重:26.0	頁岩
40図177 図版38	Ⅱ区北試掘坑 UF	長:4.5 幅:6.9 厚:2.4 重:55.0	黒色頁岩
40図178 図版38	Ⅱ区HJ72 UF	長:5.8 幅:4.7 厚:1.1 重:26.0	珪質頁岩
40図179 図版38	Ⅱ区GY69 UF	長:7.1 幅:5.4 厚:1.1 重:44.0	黒色頁岩
40図180 図版38	Ⅱ区HA70 RF	長:(6.8) 幅:5.3 厚:1.3 重:44.0	黒色頁岩

7. 遺構計測表及び遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土位置 器種	計測値 (cm) (g)	石材
40図181 図版38	Ⅲ区IE77 削器	長:93 幅:4.9 厚:1.4 重:28.0	黒色頁岩
41図182 図版38	30号土坑 UF	長:7.3 幅:4.0 厚:1.6 重:43.0	黒色安山岩
41図183 図版38	Ⅱ区HI71 UF	長:6.6 幅:6.3 厚:1.5 重:54.0	黒色頁岩
41図184 図版38	Ⅲ区IF78 削器	長:9.3 幅:5.0 厚:1.2 重:53.5	頁岩
41図185 図版38	Ⅱ区HA69 UF	長:7.6 幅:6.3 厚:1.7 重:87.0	珪質頁岩
41図186 図版38	Ⅲ区中 削器	長:8.7 幅:6.4 厚:1.3 重:78.0	灰色安山岩
41図187 図版38	Ⅱ区HL70 UF	長:7.2 幅:6.6 厚:1.7 重:83.0	黒色頁岩
41図188 図版38	Ⅱ区GW69 削器	長:7.8 幅:10.0 厚:1.7 重:113.0	黒色頁岩
41図189 図版38	Ⅱ区HK71 UF	長:9.0 幅:9.2 厚:1.5 重:134.0	砂岩
42図190 図版35	Ⅱ区HB71 磨製石斧	長:(12.4) 幅:6.3 厚:3.3 重:380.0	変玄武岩
42図191 図版35	Ⅱ区HJ70 磨製石斧	長:(7.8) 幅:4.6 厚:3.0 重:146.0	蛇紋岩
42図192 図版35	Ⅱ区北試掘坑 磨製石斧	長:4.7 幅:2.6 厚:0.7 重:12.0	頁岩
42図193 図版39	Ⅱ区HQ74 磨製石斧	長:5.6 幅:5.3 厚:2.1 重:80.0	デイサイト?
42図194 図版39	Ⅱ区HB71 磨製石斧	長:5.7 幅:5.2 厚:1.8 重:82.0	安山岩
42図195 図版39	Ⅱ区HG72 敲石	長:7.2 幅:7.1 厚:1.9 重:109.0	安山岩
42図196 図版39	Ⅲ区IJ72 磨製石斧	長:6.8 幅:5.7 厚:2.5 重:155.0	安山岩
42図197 図版39	Ⅱ区HQ74 磨製石斧	長:4.8 幅:3.8 厚:3.2 重:74.0	安山岩
42図198 図版39	Ⅲ区IE77 磨・敲石	長:7.5 幅:6.1 厚:6.1 重:257.0	花崗岩
42図199 図版39	Ⅱ区HO-74 敲石	長:10.3 幅:3.6 厚:2.1 重:121.0	安山岩
42図200 図版39	Ⅱ区GY70 磨製石斧	長:(5.4) 幅:4.0 厚:2.7 重:108.0	安山岩
43図201 図版39	Ⅱ区HC71 敲石	長:10.3 幅:6.2 厚:3.5 重:276.0	安山岩
43図202 図版39	Ⅱ区HY76 磨・敲・凹石	長:10.9 幅:6.0 厚:4.5 重:415.0	安山岩
43図203 図版39	Ⅱ区HC67 磨・敲・凹石	長:(9.5) 幅:7.1 厚:4.7 重:380.0	安山岩
43図204 図版39	2号掘立 磨・敲・凹石	長:11.0 幅:7.0 厚:3.3 重:343.0	安山岩
43図205 図版39	Ⅱ区GX69 磨・敲石	長:11.8 幅:6.9 厚:3.3 重:401.0	角閃石安山岩
43図206 図版39	Ⅱ区 磨・敲・凹石	長:11.6 幅:9.9 厚:4.6 重:691.0	角閃石安山岩
43図207 図版39	Ⅱ区GX69 磨石	長:12.4 幅:9.2 厚:4.3 重:740.0	安山岩
43図208 図版39	1号住周辺 磨・敲石	長:11.6 幅:8.4 厚:4.5 重:707.0	暗褐色土
44図209 図版39	Ⅲ区IC73 凹石	長:11.5 幅:7.9 厚:5.3 重:598.0	閃緑岩
44図210 図版39	30号土坑 磨・敲・凹石	長:13.8 幅:9.5 厚:4.8 重:1086.0	多孔質安山岩

挿図番号 図版番号	出土位置 器種	計測値 (cm) (g)	石材
44図211 図版39	Ⅱ区 敲石	長:13.0 幅:8.0 厚:4.4 重:657.0	安山岩
44図212 図版39	15号住 凹石	長:12.6 幅:9.2 厚:5.7 重:723.0	安山岩
45図213 図版39	Ⅲ区IE76 磨・敲石	長:(7.4) 幅:8.3 厚:3.9 重:328.0	角閃石安山岩
45図214 図版39	Ⅱ区HL74 凹石	長:13.9 幅:12.5 厚:7.5 重:1482.0	安山岩
45図215 図版39	Ⅲ区IE75 磨・敲・凹石	長:12.4 幅:8.0 厚:7.9 重:982.0	多孔質安山岩
45図216 図版39	Ⅲ区IB76 台石	長:18.4 幅:11.9 厚:6.3 重:1547.0	デイサイト
45図217 図版39	Ⅲ区IA75 磨・敲石	長:15.5 幅:9.2 厚:6.3 重:1113.0	多孔質安山岩
46図218 図版39	Ⅲ区IA73 磨・敲石	長:12.8 幅:9.8 厚:3.7 重:635.0	安山岩
46図219 図版39	Ⅲ区IB75 磨・敲石	長:(9.4) 幅:9.9 厚:3.3 重:452.0	安山岩
46図220 図版39	Ⅲ区 磨・敲石	長:9.2 幅:8.1 厚:4.0 重:445.0	安山岩
46図221 図版39	Ⅱ区GX69 磨・敲石	長:(5.9) 幅:6.7 厚:4.2 重:284.0	花崗岩
46図222 図版39	Ⅱ区HA68 磨・敲石	長:9.5 幅:8.0 厚:2.9 重:307.0	安山岩
46図223 図版39	Ⅱ区HA68 敲石	長:7.5 幅:7.1 厚:2.5 重:200.0	安山岩
46図224 図版40	Ⅱ区HQ74 磨・敲石	長:11.5 幅:5.0 厚:4.0 重:390.0	角閃石安山岩
46図225 図版40	Ⅱ区GY68 磨・敲石	長:12.3 幅:6.6 厚:4.5 重:555.0	安山岩
47図226 図版40	Ⅱ区HF70 磨・敲石	長:13.6 幅:6.6 厚:4.1 重:523.0	安山岩
47図227 図版40	Ⅰ区東台地 磨・敲石	長:14.6 幅:7.0 厚:3.6 重:575.0	多孔質安山岩
47図228 図版40	Ⅱ区HC68 磨・敲石	長:16.1 幅:6.4 厚:4.6 重:770.0	安山岩
47図229 図版40	Ⅰ区東台地 磨・敲石	長:14.9 幅:7.1 厚:5.0 重:785.0	安山岩
47図230 図版40	1号住近辺 磨・敲石	長:15.6 幅:7.2 厚:6.9 重:1395.0	花崗岩
47図231 図版40	Ⅰ区東台地 磨・敲石	長:17.9 幅:7.5 厚:4.3 重:946.0	花崗岩
48図232 図版40	Ⅱ区GY67 磨・敲石	長:16.8 幅:8.5 厚:5.8 重:1244.0	角閃石安山岩
48図233 図版40	Ⅱ区HJ72 磨・敲石	長:(8.1) 幅:7.0 厚:5.5 重:399.0	安山岩
48図234 図版40	Ⅰ区IE77 砥石	長:(11.6) 幅:7.0 厚:3.3 重:449.0	砂岩
48図235 図版40	Ⅰ区IA76 磨石	長:(12.4) 幅:4.8 厚:4.7 重:440.0	安山岩
48図236 図版40	Ⅱ区HC68 敲石	長:(8.7) 幅:6.0 厚:(4.4) 重:321.0	石英安山岩
48図237 図版40	Ⅱ区GX70 磨・敲石	長:(9.9) 幅:7.2 厚:5.0 重:529.0	角閃石安山岩
49図238 図版40	Ⅱ区HJ72 磨石	長:11.3 幅:3.2 厚:3.2 重:263.0	変ハンレイ岩
49図239 図版40	Ⅱ区HJ72 磨石	長:10.4 幅:2.6 厚:2.6 重:123.0	黒色頁岩
49図240 図版40	Ⅱ区HC70 磨・敲石	長:8.3 幅:7.2 厚:3.6 重:282.0	安山岩

Ⅲ 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	出土位置 器 種	計 測 値 (cm) (g)	石 材
49図241 図版40	Ⅱ区 磨・敲石	長:10.7 幅:8.0 厚:4.8 重:526.0	安山岩
49図242 図版40	Ⅱ区GX67 敲石	長:9.8 幅:6.7 厚:4.0 重:273.0	花崗岩
49図243 図版40	Ⅱ区GW67 磨・敲石	長:8.6 幅:7.7 厚:7.0 重:668.0	安山岩
49図244 図版40	Ⅱ区 磨・敲石	長:11.4 幅:8.0 厚:4.1 重:578.0	角閃石安山岩
50図245 図版40	Ⅱ区GY67 敲石	長:11.3 幅:9.1 厚:4.6 重:720.0	安山岩
50図246 図版40	Ⅲ区IR77 磨石	長:(11.1) 幅:7.0 厚:4.6 重:453.0	安山岩
50図247 図版40	Ⅲ区IB72 磨・敲石	長:12.8 幅:7.8 厚:4.3 重:701.0	花崗岩
50図248 図版40	Ⅲ区IC74 磨・敲石	長:12.0 幅:7.2 厚:5.2 重:611.0	砂岩
50図249 図版40	Ⅱ区HL70 磨・敲石	長:14.5 幅:7.9 厚:3.6 重:583.0	変質安山岩
51図250 図版40	Ⅱ区GY69 敲石	長:10.7 幅:7.6 厚:7.2 重:701.0	多孔質安山岩

挿図番号 図版番号	出土位置 器 種	計 測 値 (cm) (g)	石 材
50図251 図版40	Ⅱ区西北 RF	長:14.8 幅:8.8 厚:5.2 重:652.0	変ハンレイ岩
51図252 図版41	Ⅱ区 磨・敲石	長:23.5 幅:13.0 厚:6.8 重:2854.0	角閃石安山岩
52図253 図版41	Ⅲ区 磨・敲石	長:26.8 幅:10.0 厚:7.0 重:3835.0	角閃石安山岩
51図254 図版41	Ⅲ区HY71 磨石	長:20.2 幅:16.8 厚:3.9 重:2163	角閃石安山岩
52図255 図版41	Ⅱ区HB68 敲石	長:21.2 幅:11.4 厚:5.6 重:1697.0	粗粒輝石安山岩
52図256 図版41	Ⅱ区HB68 石皿	長:(20.2) 幅:(18.6) 厚:6.2 重:2777.0	角閃石安山岩
53図257 図版41	Ⅲ区IC74 多孔石	長:17.0 幅:15.9 厚:12.2 重:3566.0	角閃石安山岩
53図258 図版41	Ⅱ区表採 凹石	長:23.0 幅:19.3 厚:11.2 重:5575.0	安山岩
53図259 図版41	Ⅱ区 石棒	長:19.5 幅:8.0 厚:3.9 重:767.5	緑泥片岩

6表 住居跡・土坑出土遺物観察表

1号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
58図1 図版 ミニチュア土器	口：－ 高：－ 底：2.2	周堤帯 底部片	①細砂粒 ②明赤褐色 ③	甕あるいは壺ミニチュアか。体部下半内湾し底部器厚極めて薄い。体部外面縦位撫で。内面は横位撫で。底面には撫で目残る
58図2 図版42 ミニチュア土器	口：6.1 高：(3.0) 底：(4.3)	埋土 1/3	①細砂粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部強く開き、体部は扁平。底部器厚極めて薄い。外面口縁部縦位ミガキ、体部横位ミガキ、底部撫で。内面は丁寧な横位ミガキを施す
58図3 図版42 罎	口：9.0 高：5.5 底：2.0	東壁際埋土中 完形	①細 片岩 ②橙色 ③	口縁部僅かに内湾気味に開く。体部はやや扁平で、底部は僅かに凹み底を呈す。外面口縁部横撫で後雑な縦位ミガキ、体部は横位ヘラ削り。内面口縁部は横撫で後斜位ミガキ、体部は不定方向のミガキ
58図4 図版42 罎	口：12.0 高：(6.4) 底：－	埋土 口縁部片	①細 石英 ②明赤褐色 ③	口縁部広く直線的に開き、体部はやや扁平。丸底か。外面口縁部横撫で後縦位ミガキ、下位は横位ミガキを施す。体部は器面剥落のため判然としない。内面口縁部は横撫で後斜位ミガキ。体部は横位・不定方向のミガキ
58図5 図版42 坏	口：－ 高：－ 底：4.5	北壁際埋土中 底部片	①細 石英 ②明赤褐色 ③	口縁部は開くか。体部は扁平で底部は凹み底。体部境は鋭く外稜状となす。外面口縁部は斜位ハケ目調整。体部は斜位・横位の丁寧なミガキを施す。内面口縁部横位ミガキ、体部～底部は縦位ミガキ
58図6 図版 鉢	口：11.0 高：(7.9) 底：－	貯蔵穴埋土 口縁～体部1/2 残存	①細 石英 ②赤褐色 ③	直立気味に一体化するの口縁～体部。口唇部の作りは雑。外面口縁部～体部横位ヘラ削り後雑な横位ミガキ、底部はヘラ削り。内面横位ヘラズリ後下半に横位ミガキ。口唇部輪積み痕明瞭
58図7 図版42 高坏	口：9.2 高：－ 底：－	埋土 脚部欠損	①細 白色粒 ②明褐色 ③	体部は比較的短く、下半に僅かな丸みを持たせる。外面口縁～体部横撫で後縦位・斜位ミガキ。接合部は入念に施す。内面は縦位ミガキが丁寧に施される
58図8 図版 器台脚部	口：－ 高：－ 底：－	埋土 脚部	①細 黒色粒・白色粒 ②赤褐色 ③	内外面赤彩を施す。体部はやや深めに開く。脚部外面縦位ミガキ。体部内面は丁寧なミガキ。底面は剥落。脚部内面は横位撫で。撫で目残る。脚部孔は不規則な4個配列か
58図9 図版 罎	口：－ 高：－ 底：4.0	埋土 底部片	①細 黒色粒・白色粒 ②褐色 ③	平底。内湾気味に開く。体部器厚は薄手。外面体部は雑な縦位ミガキ。底面にも及ぶ。内面は横位・斜位のミガキ。底面は入念に施す
58図10 図版42 罎	口：－ 高：－ 底：4.5	埋土 底部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	平底。体部下半内湾する。外面底部上は横位ヘラ削り、体部は縦位ミガキ。底面は一定方向のミガキ。内面は撫で調整後縦位・斜位ミガキを加える
58図11 図版 罎	口：－ 高：－ 底：5.9	埋土 底部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	平底。内湾気味に開く。外面は横位ヘラ削り後雑な横位ミガキを施す。内面は入念なミガキ
58図12 図版42 甕	口：11.6 高：－ 底：－	埋土 口縁～体部	①粗 白色粒 ②褐色 ③	口縁部は長く頸部屈曲は強い。体部は球胴状を呈す。外面口縁部は横位・斜位ハケ目調整。体部は斜位削り後縦位ミガキ。内面口縁部は横位ヘラ撫で後縦位ミガキを雑に加える。体部は丁寧な横位ミガキを施す
58図13 図版42 甕	口：13.8 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	口縁部は短く開く。肩部はやや張り気味。外面口縁部は強い横撫で以下縦位ハケ目調整に雑な縦位ミガキを加える。内面口縁部横位ヘラ撫で。体部は横位ヘラ撫で
58図14 図版 甕	口：158.5 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 黒色粒・白色粒 ②褐色 ③	口縁部強く開く。肩部はやや緩やか。外面口縁部は横撫で。頸部は斜位ヘラ撫で。内面口縁部は横撫で、頸部以下は横位ヘラ撫でか
58図15 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.9	埋土 底部片	①粗 石英・白色粒 ②橙色 ③	平底。外反気味に開く。体部器厚薄手。外面体部縦位ヘラ削り後雑な縦位ミガキ。底面もミガキが施される。内面は撫で後不定方向のミガキ。内底面は黒褐色を呈す
58図16 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.7	埋土 底部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	平底。僅かに内湾気味に開く。体部器厚薄手。外面体部横位・斜位ハケ目調整後一部撫でを加える。底面も回転状の撫で調整を施す。内面は横位ヘラ撫で。当て目残る
58図17 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.0	埋土 底部片	①粗 白色粒 ②明褐色 ③	平底。やや突出気味で厚い。外面体部縦位・斜位ヘラ削り後撫で。底面も撫で。内面横位ヘラ撫で。当て目残る
58図18 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.4	埋土 底部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	平底。外縁に粘土紐を巻く突出底。体部は僅かに内湾気味に開く。外面撫で。底面も平滑な撫で。内面ヘラ撫で、器壁剥落する

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
58図19 図版42 甕	口：－ 高：－ 底：7.3	埋土 底部片	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	やや突出気味の平底。厚手の器厚で体部は僅かに内湾気味に開く。外面ヘラ削り後縦位ミガキ。底面もヘラ削り後ミガキを加えるが凹凸がある。内面は横位ヘラ撫で
58図20 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口唇部欠損。S字状口縁。口縁部中位の外縁は鋭く体部の張りも強い。口縁部横撫で。体部は縦位ハケ目調整。頸部に横位撫で加える。内面は横位撫で、肩部に指頭圧痕
58図21 図版21 台付き甕	口：12.2 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	小破片のため器形は判然としない。S字状口縁で口縁部は横撫で、体部は縦位ハケ目調整を施す。体部内面は横位撫で
58図22 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 脚部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	体部は強く開く。脚部上位は直線的。外面ハケ目調整後縦位撫で。内面上位は縦位指撫で、下位は横位撫で。内底面・脚部底面に砂付着
58図23 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.0	埋土 脚部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②橙色 ③	小破片のため器形は判然としない。脚部は短く折り返す。外面ハケ目調整後上位は縦位撫で、下位は横位撫でを加える。内面は上位指撫で、下位は横位撫で
58図24 図版42 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	口唇部は尖り口縁部肥厚する。外面口縁部は横位ハケ目、頸部は縦位ハケ目。内面口縁部横位ハケ目、頸部は撫で
58図25 図版42 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	口唇部は尖り気味で口縁部は肥厚する。口縁部外面は横位・斜位ハケ目、頸部は縦位ハケ目。体部は縦位撫で。内面口縁部初ハケ目、頸部以下は横位撫で。24と同一個体か
58図26 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	外反気味に開く口縁部。口唇部はやや丸みを帯びる。口縁部は斜位ハケ目に縦位沈線文が加わる。内面は平滑な撫で。外面に煤付着
58図27 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 頸部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	屈曲する頸部。4～5条単位の橢圓状工具による横位波状文が施される。内面は丁寧な横位ミガキ
58図28 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 頸部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	肩部破片か。横位櫛描き波状文が施される。内面は丁寧な横位ミガキ。外面に少量の煤付着
58図29 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 体部片	①粗 白色粒 ②明褐色 ③	体部下半。比較的薄手の器厚。外面斜位・縦位ハケ目調整後縦位ミガキを施す。内面横位ヘラ撫で
58図30 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 体部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	体部中位か。比較的薄手の器厚。外面斜位・縦位ハケ目調整後縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で。ヘラ当て目残る
58図31	図版42	管玉 埋土	長：18.0 幅：0.5 厚：0.5 重：0.7	蛇紋岩
59図32	図版50	磨石 埋土	長：4.8 幅：5.2 厚：2.7 重：50.0	白色凝灰岩
59図33	図版50	磨石 埋土	長：14.8 幅：4.5 厚：3.7 重：266.0	安山岩
59図34	図版50	磨石 埋土	長：9.0 幅：6.7 厚：5.5 重：443.0	砂岩
59図35	図版50	磨・敲石 埋土	長：13.7 幅：9.6 厚：3.7 重：663.0	珪質頁岩
59図36	図版50	凹石 埋土	長：(8.4) 幅：11.5 厚：3.6 重：476.0	多孔質安山岩
59図37	図版50	磨・敲石 埋土	長：18.2 幅：8.1 厚：7.1 重：1415.0	安山岩
59図38	図版50	台石 床直	長：17.9 幅：11.2 厚：5.3 重：1385.0	安山岩
60図39	図版50	敲石 埋土	長：27.0 幅：10.4 厚：6.8 重：2244.0	粗粒安山岩
60図40	図版50	台石 床直	長：20.7 幅：20.1 厚：8.0 重：5671.0	砂岩
2号住居跡				
62図1 図版42 高坏?	口：15.9 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	大きく開く体部器形。口唇部は尖り、薄手で端正な作り。外面縦位ヘラ削り後縦位ミガキを入念に施す。内面縦位ミガキ
62図2 図版42 坏	口：－ 高：－ 底：3.4	埋土 底部片	①細 白色粒 ②褐色 ③	平底。内湾気味に開く体部。外面横位ミガキ。底面もミガキを施す。内面は撫で後不定方向のミガキ
62図3 図版 高坏?	口：－ 高：－ 底：－	埋土下位	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	台付き甕脚部の可能性もある。外面は入念な縦位ミガキ。内底面は撫で。脚部内面は撫で
62図4 図版 甕?	口：14.5 高：－ 底：－	埋土下位 口縁部片	①粗 白色粒 ②褐色 ③	直立気味の口縁部。角頭状の口唇部を呈す。外面は強い横撫で内面はヘラ撫で

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
62図5 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土上位 体部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	内湾気味の体部下半。外面縦位・斜位ヘラ削り後縦位ミガキを雑に施す。内面横位撫で調整後縦位ミガキを加える
62図6	図版50	磨石	長：5.1 幅：5.1 厚：4.9 重：144.0	安山岩
62図7	図版50	磨・敲石 床直	長：9.2 幅：8.2 厚：3.9 重：405.0	角閃石安山岩
62図8	図版50	磨・敲石 床直	長：10.3 幅：8.5 厚：4.6 重：515.0	砂岩
62図9	図版50	敲凹石	長：(8.3) 幅：9.3 厚：5.9 重：442.0	角閃石安山岩
3号住居跡				
63図1 図版42 小型甕	口：10.5 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部は短く強く開く。頸部の屈曲は強く肩部の張りも強い。球胴で体部中位に径を持つ。外面口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整後斜位ミガキを加える。内面口縁部横位ハケ撫で、体部は横位ヘラ撫で
63図2 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：8.0	床直上 脚部片	①細 石英 ②鈍い黄色 ③	小破片のため器形は判然としない。S字状口縁甕か。薄手で脚端部折り返す。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で、下半は横位撫で。内面指撫でか。折り返し部に指頭圧痕残る
4号住居跡				
65図1 図版42 鉢	口：14.9 高：8.1 底：6.3 口：－	床直 完形	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部～体部一体化し僅かに内湾する。底部突出し器厚はやや厚手。外面斜位・横位ハケ目調整、底面は撫で調整。内面口唇部は横位ハケ撫で、体部は横位ヘラ撫で、底面は不定方向の丁寧なミガキ
65図2 図版42 高坏	高：－ 底：11.0 口：18.4	床直 脚部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	僅かに外反気味に開く脚部。孔は3単位か。外面横位撫で後縦位ミガキ。内面は横位ヘラ撫で。底部内面は器壁剥落
65図3 図版42 甕	高：10.7 底：7.2 口：－ 高：－	床直 1/2	①粗 白色粒 ②橙色 ③	口縁部僅かに折り返し内湾気味に開く体部と一体化する。底部は突出する。底面に小孔1。外面口縁部横位ヘラ削り後疎らな横位ミガキ、体部は斜位ヘラ削り後斜位ミガキを加える。内面口縁部撫で、体部撫で調整後疎らな横位ミガキを施す
65図4 図版 甕	底：(11.7) 口：－ 高：－	埋土 底部片	①粗 石英・白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部は突出し、体部は強く開く。外面は縦位ハケ撫で後斜位ミガキ。底部端部は横位ヘラ撫で。内面は不定方向のハケ撫でが覆う。外面底面に木葉痕
65図5 図版 甕	底：－ 口：－ 高：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②黒褐色 ③	折り返し口縁。3～4条単位の櫛描き波状文が横位に施される内面丁寧な横位撫で
65図6 図版 甕	底：－ 口：－ 高：－	埋土 口縁部片	①粗 石英・白色粒 ②鈍い褐色 ③	折り返し口縁。5・6条単位の櫛描き波状文が横位に施される。内面平滑な撫で調整後ミガキを加える。外面少量の煤が付着
65図7 図版 甕	底：－ 口：－ 高：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	多段の折り返し口縁。指頭による圧着か、指頭痕残る。内面は横位ヘラ撫で。撫で目残る
65図8 図版 甕	底：－ 口：－ 高：－	床直上 体部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	体部上半か。斜位ハケ撫で後格子目状沈線を施す。内面は丁寧な横位ミガキ
5号住居跡				
66図1 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部破片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	口唇部尖る。比較的厚手。外面口唇部横撫で、以下縦位・斜位ハケ撫で。内面横位ハケ撫で調整後弱いミガキを加える
66図2 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②暗褐色 ③	S字状口縁台付き甕。体部は内湾気味に開く。外面体部～脚部縦位・斜位ハケ目調整後脚部縦位撫で。内面縦位指撫で。底部内面・脚部底面砂付着
6号住居跡				
68図1 図版42 ミニチュア土器	口：4.7 高：5.0 底：3.2	床直上 ほぼ完形	①細 ②鈍い橙色 ③	甕か。口唇部圧縁のため不定。外面丁寧な横位ミガキのため、光沢を持つ。撫で目残る。内面口縁部横位ヘラ削り。体部撫で
68図2 図版 坏か	口：(11.5) 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い橙色 ③	口縁部肥厚し体部との境に浅い段を持つ。体部は内湾し丸みを帯びる。外面口縁部横撫で後横位ミガキ、体部は丁寧な横位ミガキ。内面は丁寧な横位ミガキで光沢を持つ。外面、僅かに赤彩が残る
68図3 図版42 器台	口：7.8 高：－ 底：－	床直 坏部	①粗 白色粒 ②橙色 ③	口縁部外反し体部は内湾気味に強く開く。底面中央に1cm程貫孔。内外面とも丁寧な横位ミガキを施す。光沢があり均整のとれた器形

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴(形態・手法等)
68図4 図版42 壺?	口:(12.2) 高:- 底:-	床直上 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口唇部角頭状をなす。口縁部~頸部緩やかに外反する。肩部の張りは弱い。外面口唇部指頭圧痕明瞭。口縁部横位ヘラ撫で、体部は疎らな縦位ミガキが加わる。内面は斜位・横位撫で後雑なミガキを施す
68図5 図版 台付き甕?高坏	口:- 高:- 底:-	床直上 底部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②褐色 ③	厚手の器厚を呈し体部は直線的に強く開く。外面は入念な縦位ミガキ。内面体部は横位撫で、脚部は縦位撫で、底面は指撫で
68図6 図版42 台付き甕	口:- 高:- 底:-	床直上 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	やや厚手の体部器厚。外面縦位・斜位ハケ目調整後接合部に縦位撫でが加わる。内面は撫で、脚部内面は砂質で縦位指撫でを施す
68図7 図版42 甕	口:15.2 高:29.8 底:7.8	床直上 1/2	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部は外反し頸部は強く屈曲する。体部は球胴を呈し中位に径を持つ。底部は突出する。口縁部縦位ハケ目調整、頸部横位ミガキ、体部斜位ハケ目調整後縦位ミガキ。内面口縁部横位ハケ目調整後疎らなミガキを施す。体部は横位ヘラ撫で、底面に斜位ミガキを加える
68図8 図版42 甕	口:(16.0) 高:- 底:-	床直上 口縁~肩部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部やや短く外反。頸部は強く屈曲する。肩部の張りも強く体部中位の径か。口縁部外面は斜位ハケ目調整後横撫で。体部はハケ目調整後頸部に横位ミガキを施す。内面口縁部は横位ハケ目調整後横位ミガキを加える。体部はヘラ撫で後疎らな斜位ミガキ
68図9 図版42 台付き甕	口:(14.0) 高:- 底:-	床直上 口縁~体部片	①粗 白色粒 ②黒褐色 ③	S字状口縁を呈す。口縁部上位強く外反。中位外稜は尖る。外面口縁部は横撫で、肩部は縦位、体部は横位・斜位のハケ目調整。内面口縁部は横撫で、肩部に指頭痕、体部は不定方向のヘラ撫で
68図10 図版 甕	口:- 高:- 底:-	床直上 口縁部片	①粗 小礫・石英 ②黒褐色 ③	口唇部僅かに内湾。斜位ハケ撫で後、5・6条単位の横位櫛描き波状文を多段に施す。内面丁寧な撫で
68図11 図版 甕	口:- 高:- 底:21.0	床直上 底部片	① ②鈍い橙色 ③	大型の甕底部。厚手で量感ある。底部突出し、体部は大きく開く。外面体部は斜位ヘラ撫で後縦位ミガキ。底部は横位ヘラ撫で。内面は器壁剥落。底面に木葉痕
68図12 図版 甕	口:- 高:- 底:6.1	床直上 底部1/2	①粗 小礫・石英 ②鈍い褐色 ③	底部は直立気味で体部下半は外反気味に開く。体部器厚比較的薄手。外面縦位ミガキ、底面にも及ぶ。内面撫で調整後不定方向のミガキを加える
68図13 図版 甕?	口:- 高:- 底:4.2	床直上 底部	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	底部突出し体部直線的に開く。体部器厚比較的薄手。外面体部縦位ヘラ撫で、底部は横位ヘラ撫で、底面は撫で。内面は横位ヘラ撫で、撫で目残る
68図14 図版42 甕?	口:- 高:- 底:5.9	床直上 底部	①粗 白色粒 ②暗褐色 ③	外底面は平坦ではなく凹凸有り。体部は強く開く。外面縦位ミガキ。内面不定方向のミガキ。内底面も雑な調整で凹凸ある
68図15 図版 甕?	口:- 高:- 底:6.2	南壁際床直 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い黄褐色 ③	底部僅かに直立し体部は直線的に開く。外面縦位ヘラ削り後縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で後雑な横位ミガキを加える
68図16	図版50	磨・敲石	長:11.9 幅:7.2 厚:4.7 重:609.0	安山岩
68図17	図版50	磨・敲石	長:16.7 幅:6.6 厚:4.2 重:812.0	安山岩
7号住居跡				
69図1 図版42 柑	口:11.8 高:7.0 底:2.6 口:-	床直 完形	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	口縁部は広く、僅かに内湾気味に開き、体部は丸みを帯びる。底部は凹み底を呈す。外面口縁部縦位ミガキ、体部横位ヘラ削り、底部凹みはミガキ。内面口縁部斜位ミガキ、体部は丁寧な横位ミガキ。端正な作り
69図2 図版 甕	高:- 底:- 口:-	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	短い折り返し口縁。口縁部外面斜位ハケ撫で後横撫で、内面横位ハケ撫で後ミガキ
69図3 図版42 台付き甕	高:- 底:9.6	埋土 脚部片	①細 黒色粒・白色粒 ②橙色 ③	直線的な脚部。端部内面を折り返す。外面縦位・斜位ハケ目調整後下半は斜位・横位撫で、脚部上半は縦位撫で、下半横位撫で。内面縦位指撫で、折り返し部に指頭圧痕残る。上端に砂壤土付着

7. 遺構計測表及び遺物観察表

8号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
70図1 図版42 坏	口：－ 高：－ 底：4.5	床直 底部片	①粗 石英・白色粒 ②橙色 ③	口縁部外反する。体部境の屈曲は緩やかで、体部はやや扁平で丸みを帯びる。器厚は薄手。外面体部斜位ヘラ撫で後斜位ミガキ。内面体部斜位ハケ目調整後雑なミガキを加える。底面は入念なミガキを施す
70図2 図版 器台	口：8.7 高：－ 底：－	埋土 坏部片	①粗 石英・白色粒 ②赤褐色 ③	小型の坏部。体部はやや内湾気味に開く。底面の貫孔は8mm程度か。外面は斜位ヘラ撫で後縦位ミガキ。撫で目残る。内面は横位ヘラ撫で後縦位ミガキ

9号住居跡

71図1 図版 埴	口：11.7 高：－ 底：－	床直 口縁部片	①粗 石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	強く外反する口縁部。外面縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で後更に撫でを加え平滑にする
71図2 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	床直 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	小破片。口縁部強く外反する。中位の稜は鋭い。肩部ハケ目調整。内面横撫で。ハケ目残る
71図3 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土下位 破片	①細 白色粒 ②褐色 ③	薄手の器厚を呈す。外面ヘラ撫で後雑なミガキ、格子目状沈線を施す。撫で目残る。内面撫で調整後雑なミガキを加える。外面に煤付着
71図4 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	床直 破片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	薄手の器厚を呈す。外面ヘラ撫で後雑な縦位ミガキ、格子目状沈線を施す。撫で目残る。内面横位ヘラ撫で。3と同一個体か
71図5 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 破片	①粗 白色粒 ②橙色 ③	薄手の器厚を呈す。外面撫で調整後格子目状沈線を施す。沈線は浅い。内面撫で
71図6 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	床直 体部片	①粗 黒色粒・石英 ②明赤褐色 ③	体部下半か。体部外面横位ヘラ撫で後斜位ミガキを施す。撫で目残る。内面は斜位撫で後横位ミガキを雑に加える

10号住居跡

72図1 図版42 坏	口：12.5 高：－ 底：－	壁際床直上 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	小破片のため判然としない。口縁部は外傾し僅かな屈曲を経て体部に至る。口縁部横撫で、体部外面は横位ヘラ削り、内面は横位ヘラ撫で
72図2 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 破片	①粗 石英・白色粒 ②橙色 ③	体部上半部か。斜位・縦位のハケ撫で後縦位ミガキを加える。内面は横位ヘラ撫で。当て目・撫で目残る

11号住居跡

73図1 図版42 高坏	口：19.1 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁～体部一体化し僅かに内湾気味に開く。薄手の器厚で、外面は斜位撫で後縦位ミガキ。内面は横位撫で後縦位ミガキを施す
73図2 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 破片	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	やや厚手。肩部～体部上半部か。横位・斜位のハケ撫で。乱雑な調整。内面横位ヘラ撫で

14号住居跡

75図1	図版50	磨石(円磔)	長：4.9 幅：4.1 厚：3.1 重：3.5	角閃石安山岩
------	------	--------	-------------------------	--------

15号住居跡

77図1 図版42 ミニチュア土器	口：－ 高：－ 底：2.8	埋土 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い黄褐色 ③	小型甕か。薄手の器厚。底面は平滑。底部突出し体部は内湾する。内面輪積み痕跡は、内稜を模したのか。内外面指撫で調整
77図2 図版42 坏	口：16.0 高：－ 底：－	床直上 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③黒斑有り	口縁部は肥厚し体部は内湾気味に強く開く。やや厚手の器厚。外面口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整後雑な不定方向のミガキを加える。内面口縁部横位ハケ目調整後横位ミガキ、体部は入念な斜位ミガキ
77図3 図版42 器台	口：7.8 高：－ 底：－	埋土下位 坏部	①細 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	浅い坏部。口縁部緩やかに外反し、屈折部を経て体部は強く開く。脚部の開きも強い。脚部孔は3単位。外面口縁部～体部横位ミガキ、脚部縦位ミガキ。内面口縁部横位ミガキ、体部入念な斜位ミガキ
77図4 図版42 器台	口：8.3 高：－ 底：－	埋土 坏部	①粗 白色粒・黒色粒 ②褐色 ③	口縁部強く外反し、屈折部を経て体部は強く開く。底面の中央孔は1.2cm程を穿つ。外面口縁部は横撫で、体部は縦位ミガキ。内面口縁部は横撫で、体部は横位ミガキを入念に施す。孔は縦位撫で

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
77図5 図版42 鉢	口：18.7 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い赤褐色 ③	大型品。口縁～体部一体化し僅かに内湾気味に開く。厚手の器厚。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整後縦位ミガキを加える。内面口縁部横撫で、体部斜位撫で後縦位ミガキを疎らに施す
77図6 図版42 埴	口：13.8 高：－ 底：－	埋土下位 口縁部	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	大型の埴か。口唇部尖り、薄手で端正な作り。口縁部広く内湾気味に開く。頸部の屈曲は強い兆し。外面入念横位・斜位ミガキ。内面は横位ミガキを施す
78図7 図版42 壺？	口：10.5 高：－ 底：－	床直上 底部欠損	①粗 白色粒 ②黒褐色 ③	口縁部は直立気味に外傾する。頸部の屈曲も強く、体部は球胴状で中位に径を持つ。器厚薄手。外面口縁部横位・ヘラ撫で、体部横位・斜位ヘラ撫で。内面口縁部横位ヘラ撫で、肩部斜位・縦位撫で、体部横位ヘラ撫で
78図8 図版 小型甕？	口：－ 高：－ 底：－	埋土 体部片	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	頸部～体部のみが残存。頸部屈曲強い兆し。肩部の張りも強く径は体部中位程か。外面横位・斜位ミガキ。内面横位ヘラ撫で、肩部に指頭痕
78図9 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：－	床直上 体部片	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③黒斑あり	8と同一個体か。球胴を呈する。外面斜位ヘラ削り後横位・斜位ミガキ。内面横位ヘラ撫で。肩部指頭痕残る
78図10 図版42 高坏	口：23.5 高：－ 底：－	床直上 坏部	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	大型品。坏部口縁～体部一体化して内湾気味に開く。下半に屈曲部を持ち外反気味に開く。外面は線状の丁寧な横位ミガキが覆う。体部下半は横位、脚部は縦位ミガキ。内面は丁寧な縦位ミガキを施す
78図11 図版42 高坏	口：－ 高：－ 底：－	埋土上位 脚部	①粗 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	緩やかに開く脚部器形。中位に孔を3単位設ける。外面縦位撫で後入念な縦位ミガキ。内底面はミガキ、脚部上位は弧状斜位撫で、下位は横位ヘラ撫でを施す
78図12 図版 高坏	口：－ 高：－ 底：－	埋土 脚部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③内面黒色	体部は強く開く。脚部はやや短く裾部で屈曲する。外面接合部横位撫で、脚部縦位ハケ目調整後下位には縦位ミガキが加わる。内底面撫でによる平滑、脚部横位・斜位ハケ目調整
78図13 図版42 台付き甕	口：14.4 高：－ 底：－	床直上 口縁～頸部	①細 白色粒・石英 ②鈍い黄色 ③	S字状口縁。口縁部上位外反し、中位外稜やや緩やか。体部上半に径を持つ。外面口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整。内面体部横位撫で後縦位撫でが加わる。肩部に指頭痕残る。体部外面煤付着
78図14 図版 台付き甕	口：14.3 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 褐色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	S字状口縁。口縁部上位やや短く外傾する。外稜鋭い。外面口縁部横撫で、体部細かな斜位ハケ目調整。横位ハケ目調整も重なる。内面頸部横位ハケ目調整後指頭痕
78図15 図版42 台付き甕	口：16.0 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・片岩 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部上位短く外傾し、外稜やや弱い。外面口縁部は横撫で、体部は斜位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部縦位指撫で
78図16 図版 甕	口：17.4 高：－ 底：－	埋土中位 口縁～頸部	①粗 白色粒・石英 ②黒褐色 ③	外反する折り返し口縁。頸部屈曲は緩やかで肩部張りもやや弱い。外面口縁部横位ハケ目調整以下縦位ハケ目、体部斜位ミガキが加わる。内面斜位ハケ目調整後斜位ミガキ。2次加熱か混和材が発泡する
78図17 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部強く外傾する。外面口縁部横撫で、体部縦位・斜位ハケ目調整。内面横位ハケ目調整
78図18 図版42 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②明褐色 ③	緩やかに外反する折り返し口縁。外面折り返し部は横位撫で、口頸部は縦位ハケ目調整、内面横位ハケ目調整後横位ミガキを加える
78図19 図版42 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.6	床直上 脚部片	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	S字状口縁台付き甕。直線的な脚部。端部は内面に短く折り返す。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で下位は横位撫で調整。内面縦位指撫で以下横位ヘラ撫で。全体感は比較的端正で鋭利な印象を得る
78図20 図版 壺？	口：－ 高：－ 底：4.6	埋土上位 底部	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	大きく開く体部形態。僅かに突出する底部。外面横位ミガキ。内面丁寧な不定方向なミガキ
18号住居跡				
82図1 図版43 高坏	口：13.3 高：11.4 底：11.4	床直上 ほぼ完形	①粗 石英・白色粒 ②橙色 ③	均整の取れた器形。口唇部僅かに直立。体部内湾気味に開き下位で段を持つ。脚部孔は3単位。脚部は外反気味に広がり裾部で強い。外面体部斜位撫で後疎らな縦位ミガキ。接合部・脚部も縦位ミガキ。内面体部は沈線状の斜位ミガキを施す。脚部は横位ヘラ撫で

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
82図2 図版43 高坏	口：－ 高：－ 底：16.0	床直 脚部	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	脚部～裾部は一体化し強く外反する。脚部孔は3単位。外面接合部～脚部は丁寧なミガキが覆う。内面坏部底面は不定方向の丁寧なミガキを施す。脚部内面上位は絞り目が残り、下位は横位撫で
82図3 図版43 高坏	口：－ 高：－ 底：－	床直上 脚部	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	直線的な脚部上半、裾部は外反気味に開く兆し。脚部孔は3単位。脚部上半は縦位ミガキ、裾部は横位ミガキ。脚部内面上位は横位ハケ目調整、下位で横位撫でが加わる
82図4 図版43 台付き甕	口：15.8 高：26.5 底：10.0	貯蔵穴上層 ほぼ完形	①粗 小礫・白色粒 ②橙色 ③	外反する素口縁。頸部屈曲は緩やかで、球胴状の体部中位に径を持つ。口縁部横位撫で後、頸部～体部下半斜位ハケ目調整。脚部縦位撫で。内面口縁部横位ハケ目調整後撫で、体部上半は撫で調整、下半はハケ目調整後中位に横位ミガキを加える。体部上半に煤付着
82図5 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	床直上 脚部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	S字状口縁台付き甕。脚部は緩やかに直立気味に内湾し、体部は強く開く。体部上位ハケ目調整。接合部は横位撫で。脚部は斜位ハケ目調整後縦位撫で、下半は横位撫でを施す。脚部底部砂壤土が付着する
82図6 図版43 台付き甕	口：－ 高：－ 底：7.4	床直 脚部片	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	僅かに内湾気味の脚部。端部は短く折り返す。外面粗いハケ目調整後縦位撫で。内面斜位撫で、端部指頭圧痕。底面に砂壤土が付着する
82図7 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	床直上 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	口唇部は尖り、口縁部は強く外反し頸部屈曲も強い。頸部内面の輪積み痕顕著。口縁部横撫で。外面頸部縦位ハケ目調整、体部は横位ハケ目。内面横位ハケ目調整。体部は撫で
82図8 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	床直上 底部片	①粗 小礫・白色粒 ②橙色 ③	大型の甕底部。体部は強く開く兆し。内底面は入念な指撫で。外底面には木葉痕残る
83図9	図版50	敲石	長：9.4 幅：6.7 厚：4.9 重：302.0	角閃石安山岩
83図10	図版50	磨・敲石	長：16.2 幅：6.8 厚：5.7 重：795.0	安山岩
83図11	図版50	磨石	長：15.1 幅：7.7 厚：5.1 重：901.0	安山岩
83図12	図版50	敲石	長：18.2 幅：8.1 厚：6.0 重：1365.0	安山岩
83図13	図版50	敲石	長：(10.0) 幅：9.7 厚：5.6 重：856	安山岩

19号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
84図1 図版43 埴	口：10.5 高：5.8 底：－	床直 完形	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③黒斑有り	口縁部は長く外傾し、体部はやや扁平で底部は丸底。体部境は明瞭な凹線が巡る。口縁部横撫で後縦位ハケ目調整、雑な縦位ミガキを加える。体部は横位ミガキが覆う。内面は丁寧な横位斜位ミガキを施す
84図2 図版43 埴	口：10.5 高：5.1 底：2.5 口：－	埋土下位 1/2	①細 白色粒 ②橙色 ③	口縁部は内湾気味に大きく開き、やや扁平な体部器形を呈す。底部は凹み底。外面口縁部横撫で、下位は斜位撫で。頸部ハケ目調整、体部ヘラ削り後ミガキを加える。内面口縁部は斜位撫で体部は横位撫で
84図3 図版 器台	高：－ 底：－	埋土 脚部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	体部は強く開く兆し。脚部は僅かに外反気味か。底面孔は13程。外面縦位ミガキ。内面はヘラ撫で。当て目残る
84図4 図版43 甕	口：－ 高：－ 底：5.4	埋土 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	直立気味に突出する平底。体部は緩やかに開く。外面斜位ヘラ撫で、撫で目強く残る。底面弱い撫で。内面は横位ヘラ撫で、当て目残る
84図5 図版 甕	口：－ 高：－ 底：8.0	床直 底部片	①粗 黒色粒・白色粒 ②明赤褐色 ③	僅かに突出する平底。体部は強く開く。外面横位・斜位ヘラ撫で後斜位・横位ミガキを施す。底面撫で。内面横位ヘラ撫で、当て目残る
84図6 図版 甕	口：－ 高：－ 底：8.2	埋土 底部片	①粗 小礫・石英 ②明赤褐色 ③	僅かに突出する平底。体部は強く開く。外面横位・斜位ヘラ撫で後ミガキ僅かに施す。底面ヘラ削り後撫で、凹凸有り。内面横位ハケ目調整
84図7 図版43 小型甕	口：－ 高：－ 底：4.7	埋土 底部～体部	①粗 白色粒・褐色粒 ②橙色 ③	肩部と体部破片からなる。球胴を呈し体部中位の径。底部は僅かに突出し上げ底を呈す。内外面器面が荒れる。外面体部下半は斜位ヘラ撫で、内面体部は横位ヘラ撫でを施す。焼成前の補修粘土の痕跡有り
84図8 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 脚部片	①粗 小礫・白色粒 ②明赤褐色 ③	体部・脚部とも緩やかな開きである。体部器厚はやや薄手のため大型高坏の可能性もある。外面縦位ミガキ。内面底部は横位ミガキ、脚部はケズリ調整後不定方向ミガキ

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
84図9 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	強く外反する口縁部。頸部は屈曲し肩部は張る。口縁部横位ハケ目調整。外面頸部縦位・斜位ハケ目調整。内面はミガキが加わる
84図10 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 小礫・石英 ②鈍い赤褐色 ③	強く外反する口縁部。頸部屈曲は緩やか。口縁部弱い横撫で。頸部は縦位ハケ目調整。内面口縁部は横位ハケ目調整、頸部は斜位ハケ目調整
84図11 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	外傾する折り返し口縁。外面、指頭による押圧のため凹凸が顕著。内面は横位ハケ目調整後横位ミガキを施す
84図12 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	頸部上位破片。頸部の屈曲は緩やか。器厚は薄手。外面口縁部は横位・斜位ハケ目調整。撫でに近い。肩部はハケ目調整後ミガキ。内面口縁部横位・斜位ハケ目調整後雑なミガキを施す
84図13 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部短く折り返す。折り返し部にハケ目工具の小口による連続刺突文を2段配す。内面ハケ目調整
84図14 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	13と同様に、折り返し部の連続刺突文が特徴。別個体で器厚薄手。唇部も尖る。内面ハケ目調整
84図15 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	外反する口縁部。折り返し部の連続刺突文が看取される。外面は斜位ハケ目。内面は斜位ハケ目調整後ミガキを加える。あるいは、12・13と同一個体か
20号住居跡				
86図1 図版43 罎	口：10.2 高：5.5 底：2.6	床直 完形	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③黒斑有り	口縁部直立気味で体部境を外反気味に湾曲する。体部はやや扁平。底部は若干凹み底。外面撫で調整後口縁部斜位・体部縦位ミガキを施す。内面口縁部横位撫で後斜位ミガキを加える。頸部～体部上半横位ヘラ撫で。底面ヘラ撫で、当て目強く残る
86図2 図版43 罎	口：11.4 高：6.6 底：3.5	床直上 1/2	①細 白色粒・石英 ②明黄褐色 ③	口縁部外傾し、体部境凹線状で体部球胴状をなす。底部は凹み底を呈す。外面口縁部横撫で、体部横位・斜位ヘラ削り。下半ミガキが弱く加わる。内面口縁部横位ミガキ、体部横位撫で後縦位ミガキを施す
86図3 図版43 罎	口：12.6 高：7.9 底：－	床直 ほぼ完形	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	口縁部広く外傾し、体部は若干扁平。底部丸底ながら安定感有る。器厚やや厚手、外面口縁部横位撫で、体部は横位ヘラ削り後上半に撫でを加える。内面口縁部横撫で、体部丁寧な横位撫でを施す。内底面凹凸有り
86図4 図版43 器台	口：－ 高：－ 底：12.0	床直上 脚部	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い赤褐色 ③	脚部上下に孔を3単位配す。底面孔は中央に穿たれ径約1cm。外面接合部横位ミガキ、脚部横位撫で後縦位ミガキ。内面脚部上半は斜位撫で、下半に横位撫でを施す。内底面に赤彩か、僅かに残る
86図5 図版43 器台	口：10.0 高：－ 底：－	床直 脚部欠損	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	口唇部尖り、坏部は口縁～体部が一体化し内湾気味に開く。接合部で強く屈曲する。外面坏部は強い横位ヘラ撫で。撫で目残る。接合部はヘラ削り、脚部は縦位撫でを施す。内面坏部横位ヘラ撫で、脚部縦位撫で
86図6 図版43 高坏	口：11.3 高：－ 底：－	床直 坏部	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	坏部口縁～体部一体化し、内湾気味に開く。外面口縁部は横位撫で後横位ミガキ、体部は斜位削り後縦位・横位ミガキを加える。内面横位撫で後縦位・斜位ミガキを施す
86図7 図版43 高坏	口：17.6 高：－ 底：－	床直上 1/2	①粗 石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部強く外反し、体部下半で屈曲する。脚部は外反気味に開き裾部に顕著。外面坏部は丁寧な縦位ミガキ、下半で丁寧な横位ミガキ、脚部縦位ミガキ。内面も入念な縦位・横位ミガキを施し、脚部は縦位撫で。内底面器壁剥落
86図8 図版43 高坏	口：18.5 高：15.0 底：11.1	床直 ほぼ完形	①粗 白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	坏部深く一体化して大きく開く。脚部は直立気味で裾部で屈曲し開く。外面坏部は縦位削り後縦位ミガキ、脚部～裾部やや疎らな縦位ミガキ。内面口縁部横位ミガキ、体部入念な斜位・横位ミガキを施す。脚部横位ヘラ撫で
86図9 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土下位 体部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	体部のみの残存ながら、体部中位に径を持つ球胴を示す。器厚は薄手で端正な作りを窺わせる。外面体部斜位ヘラ撫で後雑な横位ミガキ。内面体部上半横位ヘラ削り、強い調整。下半は横位ヘラ撫で
86図10 図版43 小型甕?	口：－ 高：－ 底：3.9	床直 体～底部	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	体部歪み大きい。内面に輪積み痕明瞭であるいは手捏ねか。外面体部横位ヘラ撫で後横位ミガキ。底面撫で。内面横位・斜位強いヘラ撫で

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
86図11 図版43 甕	口：12.9 高：8.1 底：5.3	床直 ほぼ完形	①粗 石英・白色粒 ②明赤褐色 ③内面白色物付着	口縁部輪積み痕を沈線状に凹む効果。口縁～体部は僅かな湾曲を持つが、ほぼ直線状に開く。底面孔は不整形で中央に穿たれる。外面口縁部は指頭圧痕残る。体部は縦位・斜位ハケ目調整。内面は強い斜位・横位ヘラ撫で
86図12 図版43 甕	口：－ 高：－ 底：6.3	埋土下位 底部	①粗 小礫・石英 ②鈍い赤褐色 ③内面白色物付着	僅かに外反気味に開く。底面孔は中心から僅かに外れる。外面斜位ハケ目調整後ヘラ撫で。内面撫で調整後強い斜位ミガキ
86図13 図版43 台付き甕	口：13.3 高：26.7 底：9.2	床直上 ほぼ完形	①粗 小礫・白色粒 ②褐色 ③体部上半煤付着	素口縁が外傾し、頸部の屈曲はやや緩やか。球胴状で体部中位に径を持つ。脚部は短足で、直線状に開く。外面口縁部は横位ヘラ削り、体部・脚部は斜位ハケ目調整後入念な縦位ミガキを加える。内面口縁部もハケ目調整後横位ミガキ、体部は横位ミガキ、底面は斜位ミガキが覆う。脚部は横位ハケ目調整
86図14 図版43 台付き甕?	口：－ 高：－ 底：5.9	床直上 脚部	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	小型品か。脚部は僅かに外反気味に開く。脚端部に面を持つ。外面横位・斜位ヘラ撫で。内底面は横位弧状ヘラ撫で。脚部内面横位ヘラ撫で
86図15 図版43 台付き甕?	口：－ 高：－ 底：7.8	埋土下位 脚部1/2	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③内底面黒色処理	脚部直線状に開く。脚端部磨滅。外面斜位ハケ目調整後縦位・斜位ミガキ。内面底部は入念なミガキ。脚部は横位ハケ目調整
86図16 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 体部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	S字口縁甕脚部。外面体部縦位ハケ目調整。脚部斜位ハケ目調整後縦位撫で。内底面横位撫で、脚部縦位撫で。内底面及び台部砂壤土付着
86図17 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 体部片	①細 白色粒 ②褐灰色 ③	S字口縁甕脚部。外面体部縦位ハケ目調整。脚部斜位ハケ目調整。内底面横位撫で、脚部横位撫で。内底面及び脚部砂壤土付着
86図18 図版 甕?	口：－ 高：－ 底：－	床直上 体部片	①粗 石英・白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	体部大型破片2点からなる。器厚薄手で器壁剥落著しい。体部下位で緩やかに屈曲する。外面縦位ミガキ。内面斜位・横位ヘラ撫で
86図19 図版43 甕	口：－ 高：－ 底：4.8	床直上 底部	①細 白色粒 ②鈍い橙色 ③	小型甕か。体部器厚薄手。平底で突出する。外面体部縦位指撫で。底面は平滑な撫で。内面横位ヘラ撫で
86図20 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.0	床直上 底部	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い赤褐色 ③	体部は強く開く。突出する平底。底面僅かな凹凸。外面斜位ヘラ削り後斜位ミガキ。底面は削り調整。内面縦位・斜位ミガキを施す
86図21 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.1	埋土下位 底部片	①粗 白色粒 ②褐灰色 ③	体部器厚はやや厚く、強く開く。突出する平底。底面僅かな凹凸。外面撫で調整後疎らな縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で
87図22 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・石英 ②黒褐色 ③	外反気味に開く折り返し口縁。外面横位撫で後不定方向のミガキ。内面丁寧な横位ミガキが施される
87図23 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②褐色 ③	外反気味に開く折り返し口縁。折り返し部横撫で。体部は横位ハケ目調整後浅いミガキ。内面丁寧な横位ミガキを施す
87図24 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	短い折り返し口縁。外傾する。外面横位・斜位ハケ目調整。内面横位撫でを施す
87図25 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②褐灰色 ③	口唇部は尖り口縁部外傾し頸部屈曲する。器厚は薄手。外面口唇部は横位撫で頸部斜位ハケ目調整体部横位撫で後口縁部に斜格子目状沈線を乱雑に施す
87図26 図版43 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 体部片	①粗 白色粒 ②黒褐色 ③	S字状口縁台付き甕。口縁部は強く外反する。口縁部外面横位撫で。体部縦位ハケ目調整。横位ハケ目も加わる。内面斜位撫で、指頭痕残る
87図27 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	床直上 口縁～肩部片	①細 白色粒 ②褐灰色 ③	口縁部外反するか。外面は斜位ハケ目調整後縦位ミガキを雑に加える。内面斜位削り後撫で、体部中位に横位ミガキを施す
87図28	図版51	凹石	長：9.8 幅：8.1 厚：4.2 重：132.0	軽石
87図29	図版51	磨・敲石	長：8.4 幅：5.7 厚：2.1 重：139.0	安山岩
87図30	図版51	敲石	長：10.3 幅：9.5 厚：5.1 重：900.0	花崗岩
88図31	図版51	敲石	長：10.5 幅：8.6 厚：4.8 重：757.0	安山岩
88図32	図版51	磨石	長：13.3 幅：9.3 厚：7.1 重：1063.0	安山岩
88図33	図版51	敲石	長：12.6 幅：8.6 厚：3.4 重：645.0	安山岩

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
88図34	図版51	磨・敲石	長：12.3 幅：6.5 厚：4.8 重：620.0	安山岩
88図35	図版51	磨・敲石	長：16.4 幅：7.3 厚：4.3 重：860.0	安山岩
21号住居跡				
91図1 図版43 高坏	口：9.3 高：－ 底：－	床直上 坏部	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③黒斑有り	脚付き増か。口縁部は外傾し体部は扁平。体部境に稜状凹線が巡る。脚は細身か。口縁部横位撫で後縦位ミガキ。体部横位ヘラ削り後横位ミガキ、脚部は縦位ミガキ。内面口縁部縦位ミガキ、体部上位横位撫で後底面に丁寧なミガキを施す
91図2 図版43 器台？	口：8.4 高：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	器種不明。口縁部直立し体部強く開く。体部上位に焼成前の小孔を丁寧に穿つ。外面口縁部横位ミガキ、体部不定方向の丁寧なミガキ。内面横位ミガキ後丁寧な縦位ミガキ
91図3 図版43 小型甕	口：8.4 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	器形歪む。口縁部は短く、頸部屈曲は内面に比して緩やか。体部中位～下位に径を持つか。口縁部は横位ヘラ撫で。体部横位斜位ミガキ。内面口縁部横位ヘラ削り後ミガキ、体部は横位ヘラ撫で。内面輪積み痕明瞭
91図4 図版43 増	口：－ 高：－ 底：3.5	埋土下位 底部	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	内湾気味に緩やかに開く体部下半。底部は凹み底。外面体部ハケ目調整後斜位・横位ミガキ。底面もミガキを施す。内面丁寧な横位・斜位ミガキ
91図5 図版43 広口甕	口：12.0 高：－ 底：－	床直上 底部欠損	①細 白色粒・黒色粒 ②橙色 ③	短く外傾する低位の折り返し口縁。頸部屈曲強く、体部上半に径を持つ。外面口縁部横位撫で。頸部ハケ目調整折り返し前調整。体部斜位ヘラ撫で後斜位ミガキ。内面口縁部横撫で後横位ミガキ。体部横位ミガキ
91図6 図版43 台付き甕	口：－ 高：－ 底：8.8	床直上 脚部	①粗 白色粒・黒色粒 ②橙色 ③	直線的に開く脚部器形。体部は内湾気味に開く。外面縦位・斜位ハケ目調整後上位に疎らな縦位ミガキを加える。内底面ミガキ、脚部横位ヘラ撫で、端部横位ハケ目調整。工具当て目が沈線状に刻まれる
91図7 図版43 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 底部片	①粗 白色粒・褐色粒 ②橙色 ③	直線的な脚部器形。体部は内湾気味に開く。外面縦位ハケ目調整後縦位ミガキを加える。内底面撫で調整後ミガキ、脚部斜位ヘラ撫で
91図8 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土中位 体部片	①細 白色粒・雲母末 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁台付き甕。大型の体部破片。器厚薄手で上半に径を持つ。外面斜位ハケ目調整。内面横位ヘラ撫で後上半には縦位指撫でが加わる
91図9 図版43 台付き甕	口：－ 高：－ 底：11.0	埋土下位 脚部片	①粗 片岩・石英 ②鈍い橙色 ③	S字状口縁台付き甕。脚部僅かに内湾気味に開く、端部内面は短く折り返す。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で、下位は横位撫でを施す。内面底面撫で、脚部斜位撫で、指頭痕残る。底面砂壤土付着
92図10 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 脚部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄褐色 ③	僅かに内湾気味に開く脚部。外面縦位・斜位ハケ目調整。脚部内面器壁剥落著しい。縦位撫でか。内底面はヘラ当て目残る
92図11 図版 壺？	口：14.3 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	外反気味に開く折り返し口縁。器厚やや厚手。外面口縁部横撫で後縦位ミガキ。内面丁寧な斜位ミガキ
92図12 図版43 壺	口：11.9 高：－ 底：－	埋土上層 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	折り返し口縁部強く外傾する。頸部は屈曲し肩部強く張る。口縁部横撫で、口頸部斜位・横位撫で後縦位ミガキ。内面横位・斜位撫で後雑な横位ミガキ
92図13 図版 甕	口：14.3 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	低位の折り返し口縁か。口唇部は尖り、頸部強く屈曲し肩部張る。外面口縁部横位撫で、口頸部斜位ハケ目調整後縦位ミガキを加える。内面横位ハケ目調整後斜位ミガキ、体部横位ヘラ撫でを施す
92図14 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部外傾し口唇部尖る。薄手の器厚を呈す。外面斜位ハケ目調整後細沈線による斜格子文を施す。内面横位撫で後斜位ミガキ加える
92図15 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②橙色 ③	緩やかに外反する口縁部。口唇部は尖る。外面縦位ハケ目調整後口唇部横撫で。内面横位・斜位ハケ目調整
92図16 図版 甕	口：15.9 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	口唇部短く直立し口縁部外反する。頸部は強く開く。器厚は厚手。内外面とも丁寧な横撫でを施す
92図17 図版 甕	口：11.1 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部強く外傾し肩部の張りはやや弱い。外面頸部縦位ハケ目調整後口縁部横撫で、体部横位ミガキ。内面横位撫で後体部疎らなミガキを加える

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
92図18 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.8	埋土下位 底部	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	体部強く開く。平底で不整形。器厚極めて薄手。外面体部縦位ミガキ、底面も一方向のミガキを施す。内面撫で、底面にヘラ当て目残る
92図19 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.9	埋土 底部	①粗 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	体部僅かに内湾気味に開く。底部は上げ底。外面体部縦位・斜位ミガキ、底面丁寧なミガキ。内面不定方向のミガキを施す
92図20 図版 甕	口：－ 高：－ 底：8.0	埋土下位 底部	①粗 白色粒 ②橙色 ③	体部内湾気味に開く。底部は突出するが底面剥落する。外面体部縦位ミガキ、底部上は横位ミガキ。内面斜位ミガキを施す
92図21 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.2	埋土 底部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	体部僅かに内湾気味に開く。底部突出する。底面は上げ底。外面体部斜位ヘラ撫で後縦位ミガキ、底面削り調整後疎らなミガキ。内面斜位・横位ヘラ撫で。ヘラ当て目残る
92図22 図版43 甕	口：－ 高：－ 底：4.3	床直上 底部片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	体部内湾気味に開く。底部小径で僅かに上げ底。外面斜位・横位ヘラ撫で、撫で目残る。底面ヘラ削り。内面横位・斜位ヘラ撫で、平滑な印象を得る
92図23 図版43 台付き甕	口：13.0 高：－ 底：－	貼床内 口縁部片	①細 黒色粒 ②鈍い橙色 ③	S字状口縁。口縁部上位強く外反。外稜も鋭い。肩部は強く張る。外面口縁部横撫で、体部細かなハケ目調整を縦位に施す。内面口縁部横撫で、体部横位撫で、指頭痕残る
92図24 図版 台付き甕	口：15.0 高：－ 底：－	床直上 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁。口縁部上位強く外反。外稜も鋭い。外面口縁部横撫で、体部粗いハケ目調整を縦位に施す。内面口縁部横撫で、肩部に指頭痕残る
92図25 図版43 台付き甕	口：17.1 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・片岩 ②浅黄橙色 ③	S字状口縁。口縁部上半強く外反し、外稜も極めて鋭い。外面口縁部横撫で、体部縦位に粗いハケ目調整を施す。内面口縁部横撫で、肩部に指頭痕残る
92図26 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.9	埋土 脚部片	①細 黒色粒 ②浅黄橙色 ③	S字状口縁脚部か。内湾気味に開く脚部形態。端面内面短く折り返す。外面横位ヘラ撫で、内面横位ヘラ撫で、折り返し部に指頭痕
92図27 図版43 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 脚部片	①粗 白色粒 ②橙色 ③	体部は強く開き、脚部は内湾気味。外面体部下半縦位ヘラ撫で接合部以下縦位ミガキを加える。内面撫で調整後不定方向のミガキ。脚部入念な横位ヘラ撫で、当て目残る
92図28 図版 ミニチュア土器	口：－ 高：－ 底：3.3	埋土 底部	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	瓶か？器厚は薄手。底部中央孔は外面より更に加工する。外面縦位撫で。内面斜位撫で
92図29	図版51	敲石	長：13.9 幅：4.0 厚：2.8 重：240.0	安山岩
92図30	図版51	磨・敲石	長：17.0 幅：4.0 厚：5.6 重：1130.0	安山岩
93図31	図版51	敲石	長：17.0 幅：7.6 厚：7.1 重：1291.0	安山岩
93図32	図版51	敲石	長：19.7 幅：7.2 厚：5.9 重：1181.0	変はんれい岩
93図33	図版51	凹石	長：17.3 幅：7.7 厚：5.8 重：1431.0	安山岩
93図34	図版51	敲石	長：20.3 幅：6.3 厚：7.2 重：1289.0	安山岩
93図35	図版51	敲石	長：15.4 幅：10.7 厚：5.9 重：1285.0	安山岩
22号住居跡				
94図1 図版43 高坏	口：17.2 高：10.6 底：9.7	床直上 完形	①粗 石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	短脚高坏。坏部口縁～体部一体化し内湾気味に開く。脚部は直線的に短く開く。外面坏部は横位・斜位撫で後疎らな縦位ミガキを加える。接合部は入念な縦位ミガキ。脚部は縦位ミガキ。内面口縁部横位撫で後体部に入念なミガキ。脚部内面は指撫でと横位ヘラ撫でを施す
94図2 図版43 甕	口：15.4 高：13.0 底：5.6	床直上 ほぼ完形	①粗 石英・白色粒 ②鈍い橙色 ③	広口の小型甕。口縁～頸部緩やかに外反する。体部中位に明瞭な径を持ち、底部は突出する。外面口縁部下に斜位ハケ目調整以下横位斜位ヘラ削りが施される。内面は口縁～頸部横位・斜位ヘラ撫で、体部は縦位ヘラ削り後弱い撫でを加える
94図3 図版43 台付き甕	口：15.4 高：20.9 底：7.8	床直上 1/2	①粗 白色粒 ②橙色 ③外面体部中位に煤付着	口唇部は尖り、口縁～頸部強く外反する。肩部の張りは強く、体部上半に径を持つ。脚部は短い。外面口縁部は横撫で。肩部縦位ハケ目調整、以下体部は横位・斜位ヘラ撫で。脚部は斜位撫でを施す。内面横位ヘラ撫で後体部下～底面に入念な斜位ミガキを加える。脚部内面は横位ハケ目調整

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
94図4 図版43 台付き甕	口：15.1 高：25.0 底：8.8	床直上 ほぼ完形	①粗 白色粒・石英 ②鈍い橙色 ③外面体部上半に煤付着	口縁～頸部強く外反し、肩部の張りは強く、体部中位に径を持つ。脚部は内湾気味に開く。外面口縁部横撫で、体部はやや弱い。斜位ハケ目調整、脚部は縦位ハケ目調整後不規則な横位撫でを加える。内面口縁部横撫で、頸部横位ハケ目調整以下横位・縦位ヘラ撫でを施す。脚部内面斜位ハケ目調整
94図5	図版50	磨・敲石	長：9.9 幅：4.7 厚：3.9 重：312.0	安山岩
23号住居跡				
97図1 図版44 埴	口：－ 高：－ 底：3.8	埋土 1/2	①細 黒色粒・石英 ②赤褐色 ③	口縁部は僅かに内湾気味に広く外傾する。体部は扁平。体部境は強く凹線で画す。底部は凹み底を呈す。外面口縁部縦位ミガキ、体部入念な不定方向ミガキ。底面もミガキを施す。内面口縁部縦位ミガキ、体部入念な横位ミガキを施す
97図2 図版 坏	口：－ 高：－ 底：－	埋土 底部	①細 白色粒・片岩 ②明赤褐色 ③	小径で体部扁平。丸底。体部外面横位ヘラ削り後不定方向ミガキ。内面横位撫で後密接な放射状ミガキを施す
97図3 図版44 坏	口：(13.0) 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口唇部尖り、口縁～体部一体化して内湾気味に開く。外面口唇部横撫で、体部斜位ヘラ撫で後疎らな横位・斜位ミガキ。内面口唇部横撫で、体部丁寧な横位・斜位ミガキを施す
97図4 図版 坏?	口：8.6 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	口唇部尖る。口縁部短く外傾し、体部屈曲し扁平。あるいは脚が付く高坏・器台か。外面口縁部横撫で後疎らなミガキ、体部撫で調整後疎らなミガキを加える。内面口縁部斜位撫で後横位ミガキ、体部は撫で調整
97図5 図版 片口	口：(9.2) 高：－ 底：－	埋土 底部	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口縁部を突出したのみの簡素な片口部。口縁～体部一体化し緩やかに内湾する。体部中位の径か。外面横位撫で後疎らな横位ミガキ。片口部に撫で目残る。内面も撫で調整後疎らな横位ミガキを施す
97図6 図版44 高坏	口：14.4 高：－ 底：－	埋土 口縁～脚部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	体部は強く開き口縁部と一体化し緩やかな内湾を示す。脚部は長脚で外反気味に開く。外面口縁部横撫で体部疎らな縦位ハケ目調整後斜位ミガキを加える、脚部丁寧な縦位ミガキ。内面坏部丁寧な縦位ミガキを施す。脚部内面はヘラ撫で
97図7 図版 埴?	口：－ 高：－ 底：3.2	埋土 底部	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	底部小径で体部は内湾気味に開く。外面縦位・斜位ミガキ。内面横位ミガキを施す
97図8 図版 埴?	口：－ 高：－ 底：4.0	埋土 底部片	①粗 白色粒 ②浅黄褐色 ③	体部は内湾気味に強く開く。外面斜位ミガキ。底面磨減。内面不定方向ミガキ
97図9 図版 甕	口：－ 高：－ 底：3.6	埋土 底部	①細 白色粒 ②鈍い橙色 ③	体部器厚薄手で外反気味に開く。底部中央孔径1.0cm程。外面縦位ミガキ底面撫で。内面縦位ミガキ底面で弧線状を描く
97図10 図版 甕	口：15.0 高：－ 底：－	埋土 6住と接合 口縁～肩部片	①細 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	長く外傾する折り返し口縁。頸部強く屈曲する。外面折り返し部横位ハケ目調整、口頸部縦位ハケ目調整、体部斜位・横位ミガキ。内面口縁部横位ハケ目調整後横位ミガキ、体部斜位撫で後ミガキ
97図11 図版44 甕	口：16.0 高：－ 底：－	埋土 口縁～肩部1/2	①細 白色粒・石英 ②鈍い橙色 ③	10と同一個体か。折り返し口縁はやや外反気味。頸部屈曲し肩部の張りはやや弱い。口頸部に強い横位撫でが加わる。体部斜位ミガキ。内面口縁部ハケ目調整後横位ミガキ、体部斜位ハケ目調整後ミガキ
97図12 図版44 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁～体部片	①細 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	口縁部外反し肩部の張りやや強い。頸部屈曲し体部中位に径を持つ。球胴状の形態か。口頸部～頸部は縦位ハケ目調整、体部入念な斜位ミガキを施す。内面口縁部横位ミガキ、体部丁寧な横位・斜位ミガキを施す。屈曲部に撫で目残る
97図13 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.0	埋土 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	体部はやや内湾気味に強く開く。突出底で極僅かに上げ底。外面斜位ミガキ、底面に疎らなミガキ。内面不定方向ミガキ
97図14 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.2	埋土 底部	①細 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	体部強く開く。僅かに突出底で上げ底。外面横位ミガキ後斜位ミガキ、底面にも及ぶ。内面横位ミガキを丁寧に施す
97図15 図版44 甕	口：－ 高：－ 底：4.8	埋土 底部	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	体部下半部に内湾を持ち開く。体部器厚薄手で底部突出。外面横位・斜位ミガキ、底面も入念に施す。内面斜位・縦位ミガキ

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
97図16 図版 甕	口：－ 高：－ 底：3.8	埋土下位 底部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	あるいは増か。直線的に開く。外面斜位ミガキ、底面も入念に施す。内面横位ミガキ。内外面とも一部器壁剥落
97図17 図版44 甕	口：－ 高：－ 底：6.0	埋土下位 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	体部外反気味に開き、底部突出。厚手の器厚。外面撫で調整後縦位ミガキ、底面も削り後雑なミガキ。内面縦位・横位ミガキを施す
97図18 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.0	埋土 底部	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	強く開く体部。底部突出。内底面中央肥厚する。外面斜位ハケ目調整後縦位ミガキ、底面は丁寧な撫で。内面横位ヘラ撫で後横位ミガキ
97図19 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.0	埋土 底部	①粗 石英・白色粒 ②鈍い褐色 ③	体部僅かに内湾気味に強く開く。外面斜位ヘラ削りを施し、底面は撫で調整。内面縦位・斜位ヘラ削り。一部に撫でが加わる
97図20 図版 甕	口：－ 高：－ 底：8.0	埋土 胴～底部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	比較的薄手の器厚。体部は直線的に強く開く。底部器壁剥落。外面縦位・斜位ミガキ。内面横位ハケ目調整後横位ヘラ撫で、斜位指撫でを加える
97図21 図版44 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.6	埋土 肩～底部	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	S字状口縁台付き甕。体部上半に径を持ち、脚部は直線的に開く。内面端部は折り返す。外面体部は2帯の斜位ハケ目調整。脚部は斜位ハケ目後縦位撫でと横位撫でを加える。内面体部横位ヘラ撫で、脚部横位撫で、端部に指頭痕
97図22 図版44 台付き甕	口：10.4 高：－ 底：－	埋土 口縁～体部片	①細 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁台付き甕。小径で口縁部はやや直立気味。外縁は弱い。体部上半に径を持つ。口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整後ヘラ撫でが加わる。内面体部斜位ヘラ撫で。指頭痕残る
97図23 図版44 台付き甕	口：13.0 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁台付き甕。口縁部外傾し、外縁はやや鋭い。肩部の張りも強い。口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整。内面体部斜位指撫で。指頭痕残る
97図24 図版44 台付き甕	口：14.0 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄橙色 ③	23と同一個体か。S字状口縁台付き甕。口縁部外傾し、外縁はやや鋭い。肩部の張りも強い。口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整。内面体部斜位指撫で、指頭痕残る
97図25 図版44 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 底部片	①細 白色粒・片岩 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁台付き甕。体部は内湾気味に開く。外面体部縦位ハケ目調整後縦位ヘラ削り、撫で加わる。内面斜位・横位ヘラ撫で、脚部縦位指撫で。砂壤土付着
97図26 図版44 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.6	埋土 脚部	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁台付き甕。やや大型の脚部。端部内面折り返す。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で、下半斜位撫でを施す。内面斜位ヘラ撫で。端部指頭痕残る。砂壤土付着
97図27 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：(8.2)	埋土 脚部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁台付き甕。端部内面折り返す。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で下半横位撫で・斜位撫でを加える。内面縦位指撫で、指頭痕残る。砂壤土付着
97図28 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：(9.0)	埋土 脚部片	①粗 白色粒・石英 ②明褐色 ③	強く開く脚部器形。外面横位撫で後縦位ミガキ。内面斜位ヘラ撫で。撫で目残る
98図29 図版44 ミニチュア土器	口：7.4 高：4.2 底：3.8	埋土 脚部片	①粗 白色粒・石英 ②明褐色 ③	広口甕か。口唇部歪む。口縁部短く外反し、体部内湾する。外面口縁部横位横撫で、体部指頭痕が覆う。内面口縁部ハケ目調整、体部横位撫で
98図30 図版44 ミニチュア土器	口：－ 高：－ 底：3.2	埋土 1/3	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	台付き甕か。短足の脚部に内湾気味の体部。外面縦位・斜位撫で。内面体部横位撫で、脚部斜位撫で
98図31 図版44 土製品	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部欠損	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	薄手の土器片再利用。上端に小孔を穿ち、周縁を方形に整形する。図左側縁と下端は欠損。模造品か
98図32 図版44 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	外反する折り返し口縁。頸部は屈曲する。外面折り返し部横位ハケ目調整、口頸部横位・斜位ハケ目調整を施す。内面口縁部横位・斜位ハケ目調整後横位ミガキを加える
98図33 図版 坏か	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	あるいは鉢か。口縁～体部一体化して内湾気味に開く。口唇部尖る。口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整後斜位・縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で
98図34 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	32と同一個体か。口縁部は外反し、折り返し口縁を呈す。外面は横位・斜位ハケ目調整、内面口縁部は横位ハケ目調整後ミガキを加える。内面頸部器壁剥落

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特徴(形態・手法等)
98図35 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	外反する折り返し口縁。折り返し部丁寧に撫でる。外面3・4条単位の細かな櫛描き波状文を横位多段に施文する。内面は丁寧な横位ミガキ
98図36 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	緩やかに外反する折り返し口縁。外面横位・斜位撫で後細沈線を斜位に施す。内面丁寧な横位ミガキ
98図37 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	外面色調差があるが36と同一個体。外反する折り返し口縁。折り返し部横位、以下縦位・斜位ヘラ撫で後斜位細沈線を施す。内面は丁寧なミガキ
98図38 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②灰褐色 ③	折り返し口縁。肥厚差は少ない。外面折り返し部斜位ハケ目調整、以下縦位ハケ目調整後平行沈線による斜格子文を施す。内面は丁寧な横位ミガキ
98図39	図版51	磨・敲石	長：(7.6) 幅：5.2 厚：5.1 重：310.0	角閃石安山岩
98図40	図版51	磨・敲石	長：9.1 幅：5.3 厚：4.7 重：376.0	安山岩
98図41	図版51	磨・敲石	長：14.0 幅：7.4 厚：6.1 重：1086.0	ベンガラ付着 角閃石安山岩
98図42	図版51	磨・敲石	長：12.9 幅：7.6 厚：4.5 重：711.0	角閃石安山岩
24号住居跡				
100図1 図版 器台	口：－ 高：－ 底：－	埋土中位 脚部片	①細 白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	底面孔は15mm程。ほぼ中央に穿たれる。坏部下半は内湾気味に強く開く。脚部やや外反気味に開く。孔は中位の3単位のみ。外面接合部横位ミガキ、脚部縦位ミガキ。内底面横位ミガキ、脚部は弱い撫で調整
100図2 図版44 器台	口：－ 高：－ 底：－	埋土 脚部片	①細 白色粒 ②褐色 ③	底面中央孔は12mm程。脚部～裾部外反気味に開くか。上位の孔は不規則な4単位。あるいは下位孔が接近するか。底部器厚やや厚手。外面は脚部縦位ミガキを施す。内底面横位ミガキ、脚部内面は撫で
100図3 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：11.0	埋土下位 脚部片	①細 白色粒・黒色粒 ②橙色 ③	脚部内面短く折り返す。薄手で直線的に立ち上がる。外面縦位ハケ目調整後縦位撫で、下半は横位撫で。内面横位・斜位ヘラ撫で、折り返し部に指頭痕残る
100図4 図版 甕	口：12.8 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②暗褐色 ③	内湾気味にやや広く直立する口縁部。頸部の屈曲は緩やかだが内面は鋭く内稜状となす。外面口縁部横撫で後雑な横位ミガキ、頸部縦位ハケ撫で後縦位ミガキを加える。内面口縁部横位撫で、体部は斜位ヘラ削りを施す
100図5 図版 甕	口：12.6 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②黒褐色 ③	口縁部外反気味に開き、頸部強く屈曲する。肩部の張りはやや強い。外面口縁部横撫で、頸部ハケ撫で後横位ミガキを加える。体部は縦位ヘラ削り後縦位ミガキ。内面口縁部横撫で、体部は横位ヘラ削り後撫でを重ねる
100図6 図版 甕	口：－ 高：－ 底：9.0	埋土 底部片	①細 白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	平底。体部は緩やかに開く。底面は僅かな凹凸有り。底面中央削りにより薄手。外面横位ヘラ削り後縦位ミガキ。底面は削り後雑なミガキ。内面縦位ヘラ削り後撫でを加える
100図7 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	頸部下位破片。緩やかな湾曲を呈す。外面縦位・斜位ハケ撫で後沈線による斜格子文を施す。細沈線が混在するが工具角度による偏差であろう。内面横位ミガキ
100図8 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 破片	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	体部上半か。外面縦位・斜位ハケ撫で後沈線による斜格子文を施す。内面横位撫で後横位ミガキ。7と同一個体か
100図9 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 破片	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	体部上半か。外面斜位ハケ撫で後細沈線による斜格子文を施す。内面横位撫で後不定方向のミガキを加える
100図10 図版44 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	幅広の口縁部は強く外傾し、頸部の屈曲も強い。外面口縁部上位横撫で、下位～頸部斜位・横位ハケ撫で、体部斜位ハケ撫で後雑なミガキを加える。内面口縁部横位ハケ撫で、体部斜位撫で後ミガキを施す
100図11 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	やや厚手。口縁部外傾する。頸部屈曲するか。外面口縁部上位横位ハケ撫で、下位は縦位ハケ撫で。内面口唇部横位ハケ撫で、以下斜位ハケ撫で後不定方向のミガキを加える
100図12 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 黒色粒 ②橙色 ③	小破片。S字状口縁。口縁部強く外傾する。中位の稜はやや緩やか。口縁部横撫で

7. 遺構計測表及び遺物観察表

25号住居跡

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
102図1 図版44 ミニチュア土器	口：6.8 高：5.0 底：4.2	埋土 口縁～底部	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	口唇部は内削ぎ状に尖る。体部は一体化し内湾する。底部はやや張り出し厚手の器厚を呈す。口縁部横撫で、体部は不定方向のヘラ撫で、底面は撫で調整。内面口唇部横撫で、体部は横位・斜位ヘラ撫でを施す
102図2 図版44 埴	口：12.3 高：7.7 底：2.2	埋土下位 ほぼ完形	①細 石英 ②赤褐色 ③	大型の丸底埴。口縁部は大きく外傾し、頸部は緩やかに屈曲し体部は球胴。外面口縁部横撫で後一部ミガキを加える。体部横位ミガキ、内面口縁～体部横位ミガキを施す。内外面とも下半の器壁剥落。内面赤彩残る
102図3 図版44 器台	口：7.9 高：－ 底：－	埋土上位 坏部	①細 黒色粒・白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	坏部一体化し内湾する。下半に弱い外稜を持つ。底面孔は中央に径11mm程で整った穿孔を示す。脚部は開き薄手の器厚。外面坏部丁寧な横位ミガキ、脚部は縦位ミガキ。内面横位・斜位ミガキ。比較的弱いミガキを施す
102図4 図版 器台	口：9.0 高：－ 底：－	埋土上位 坏部片	①粗 石英・白色粒 ②褐色 ③	坏部一体化し内湾気味に開く。下半外稜を持つ。外面口縁部横撫で、体部は斜位ヘラ撫で後斜位ミガキを加える。内面横撫で後底面に不定方向のミガキを施す。底面孔は欠損
102図5 図版44 器台	口：－ 底：12.7	埋土上位 脚部	①細 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	緩やかに外反する脚部。上位孔2単位、下位孔2単位を数え、不規則な交互配列を示す。外面丁寧な縦位ミガキ、裾部横位ミガキを施す。内面上位は縦位弧状ミガキ、下位は横位ミガキを丁寧に施す
102図6 図版 坏?	口：11.0 高：－ 底：－	床下埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	あるいは椀か。器厚薄手で口縁部僅かに外反する。外面口縁部横撫で体部に浅い撫でが加わる。内面横位撫で
102図7 図版 埴	口：11.0 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	僅かに内湾気味に外傾する口縁部。破片下端で屈曲する兆しはあるが判然としない。外面口縁部横撫で後やや雑なミガキを加える。内面口縁部上位は横位撫で、下位は斜位撫で後雑な縦位ミガキを施す
102図8 図版 坏	口：－ 高：－ 底：4.0	埋土 脚部	①細 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	僅かに上げ底。体部は比較的大きく開く。外面は縦位ミガキ。内面は不定方向の入念なミガキ
102図9 図版 鉢?	口：15.3 高：－ 底：－	埋土 脚部片	①細 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	あるいは瓶か。口縁～体部一体化し開く。口縁部横撫で後体部に斜位ヘラミガキが加わる。内面口縁部は横位撫で、体部上位にハケ目調整を施す
102図10 図版44 甕	口：－ 高：－ 底：5.6	埋土 体～底部片	①粗 白色粒・片岩 ②鈍い褐色 ③	体部破片と底部破片2点からなる。球胴を呈し、体部中位の径と考えた。底部は突出する。器厚は比較的薄手。体部外面は縦位・斜位ヘラ削りを施す。底面も削り調整。内面は横位ヘラ撫でが施される
102図11 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.3	埋土 脚部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	脚部端部磨滅。直線的な器形。外面縦位ヘラ削り後縦位ミガキ。端部に横位ハケ撫での痕跡。内面は雑な調整。不定方向のヘラ削り
102図12 図版44 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.0	埋土 脚部	①細 石英 ②鈍い赤褐色 ③	厚手で量感に富む。体部は緩やかに開き外反する脚部。外面体部・脚部とも縦位ハケ目調整後丁寧な縦位ミガキを施す。内面底面は丁寧なミガキ。脚部内面は横位ハケ目調整。底面には指頭痕を見る
102図13 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：6.8	埋土 脚部	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	あるいは高坏脚部か。短足で外反する形態。外面縦位ハケ撫で後接合部縦位ミガキ。内面横位ハケ撫で。上位に絞り目
102図14 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 砂礫・白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	外傾する口縁部、僅かに肥厚する。口唇部は内削ぎ状。櫛描き波状文を横位多段に施す。内面は横位ミガキ
102図15 図版44 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②橙色 ③	S字状口縁。口縁部上位強く外傾する。外稜はやや弱い。口縁部横撫で、体部外面縦位ハケ目調整。内面撫で。加熱を受けたのか多孔質に変質している
102図16 図版44 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁部	①細 白色粒 ②橙色 ③	S字状口縁。口縁部上位やや強く外傾する。外稜は弱い。口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整。条間隔やや粗い。内面ヘラ撫で。多孔質である。15と同一個体か
102図17 図版44 台付き甕	口：13.4 高：－ 底：－	埋土上位 口縁部	①細 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁。口唇部やや丸頭。外稜もやや弱い。口縁部横撫で、体部細かな縦位・斜位ハケ目調整。内面横位ヘラ撫で。口唇部内外面に煤付着

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
102図18 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：6.9	埋土 脚部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	直立気味の筒形形態。体部は強く開く。接合部に強い撫で線。外面縦位ミガキ。内面上は横位ヘラ削り
102図19 図版44 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.0	埋土上位 脚部	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	短足で開く。体部はやや内湾気味に開く。脚部上端底部は広い。外面接合部横位ミガキ、脚部は縦位ミガキ。内面横位ヘラ削り。上端底部には撫でを加える
102図20	図版44	鉄製品 鎌	床下直上	長：11.2 幅：3.2 厚：1.0
28号住居跡				
104図1 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.2	床直上 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	僅かに上げ底を呈す。体部外面斜位ヘラ撫でか。底面は中央は平滑撫で。外縁には木葉痕残る。内底面縁辺は強い撫で
29号住居跡				
105図1 図版44 小型甕	口：9.2 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	口縁部は外傾し頸部屈曲する。体部中位に径を持つ。器厚は薄手。外面口縁部縦位撫で、体部縦位・斜位ヘラ撫でを施す、撫で目残る。内面口縁部は横位・斜位ヘラ撫で撫で目残る。体部斜位ヘラ撫でを施す
105図2 図版44 甕	口：－ 高：－ 底：4.0	埋土 体～底部	①粗 石英 ②橙色 ③	僅かに内湾気味に開く体部。底部はやや上げ底。体部器厚薄手。外面縦位ヘラ削り、底面も削り調整。内面横位・斜位ヘラ撫で
105図3 図版 甕	口：14.8 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	折り返し口縁。内湾気味に開く口縁部、頸部は屈曲する。外面口縁部は横位・斜位ハケ撫で後縦位・斜位の細沈線による乱雑な格子目文を施す。内面横位ミガキ
105図4 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 体部片	①細 白色粒 ②褐色 ③	体部上半か。破片上端で屈曲する兆し。外面斜位ハケ撫で後細沈線を縦位・斜位に施す。体部は斜位ミガキが加わる
105図5 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 脚部片	①粗 小礫・白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁甕脚部か。体部内湾気味に強く開く。脚部も僅かな内湾を持つ。外面体部縦位ハケ目調整、脚部斜位ハケ目調整後縦位撫でを加える。内面体部横位ヘラ撫で、脚部横位撫で。内底面に砂壤土付着
105図6 図版44 壺	口：－ 高：－ 底：－	埋土下位 体部	①粗 白色粒 ②明黄褐色 ③	内傾する肩部。屈曲する頸部か。あるいは体部下半に径を持つか。外面頸部は横位櫛描き波状文を施す。肩部～体部横位ハケ目調整後体部に入念な縦位ミガキを覆う。内面横位ヘラ撫で、撫で目残る
31号住居跡				
108図1 図版44 鉢	口：12.2 高：6.3 底：4.8	床直上 口縁～底部2/3	①粗 白色粒 ②明褐色 ③	口縁部～体部上半歪む。口縁～体部一体化して緩やかに内湾する器形。底部はやや上げ底を呈す。口縁部内外面に圧延の指頭痕、外面体部は縦位ハケ目調整。下半は横位ヘラ削り。中位に棒状撫で加わる。内面横位・斜位強いヘラ撫でを施す
108図2 図版44 高坏	口：－ 高：－ 底：10.4	床直上 脚部	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い橙色 ③	細身で棒状の脚部と直線的に短く開く裾部。外面脚部縦位ミガキ、裾部は入念な斜位ミガキを施す。内面脚部上位絞り目が残る。下位に横位ハケ目調整。裾部との境に浅い段を持つ。裾部内面は横位撫で
108図3 図版 鉢	口：－ 高：－ 底：－	埋土 脚部片	①細 白色粒・石英 ②橙色 ③	細身で棒状の脚部。緩やかな内湾を見せる。外面縦位ミガキ。内底面撫で、脚部上位は絞り目か、下位は横撫で
108図4 図版 甕	口：14.8 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②橙色 ③	口唇部角頭状の低位折り返し口縁。やや内湾気味に外傾する。頸部の屈曲はやや緩やか。外面口縁部横位ヘラ撫で。ナデ目残る。頸部斜位ヘラ撫で。内面細かな横位ハケ目調整後縦位ミガキを施す
108図5 図版 甕	口：18.4 高：－ 底：－	埋土 口縁部片	①粗 白色粒 ②橙色 ③	口唇部尖り、口縁部大きく外傾する。頸部強く屈曲し、肩部の張りはやや弱い。外面口唇部縦位・斜位ハケ目調整後口縁部は横撫でを加える。内面口縁部横位弧状の横位ハケ目調整。頸部指頭痕。体部斜位ヘラ撫でを施す。指頭痕残る
108図6 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.1	埋土 底部	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	体部はやや外反気味に開く。底面は細かな凹凸有り。外面体部縦位ヘラ撫で後不定方向ミガキ。底面も雑なミガキを加える。内面横位・斜位ミガキを丁寧に施す
108図7 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.6	埋土上位	①粗 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	薄手の器厚を呈す。内湾気味に開く体部。外面縦位ハケ目調整。一部ミガキ加わる。ハケ目調整は底面にも至る。内面横位ヘラ撫で。当て目残る

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
108図8 図版44 甕	口：－ 高：－ 底：7.8	床直 体～底部	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い橙色 ③	体部は内湾気味に開き、底部は突出する。外面は斜位ヘラ撫で後強い斜位ミガキが加わる。内面横位ヘラ撫で
108図9 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：7.9	埋土 脚部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	体部・脚部とも直線的に開く。外面脚部斜位ハケ目調整後体部縦位・脚部横位ヘラ撫で。内底面丁寧な縦位ミガキ、脚部下位横位弧状のハケ目調整、上位は横位撫でを施す
108図10 図版44 台付き甕	口：－ 高：－ 底：7.8	貯蔵穴	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	やや開きの弱い脚部。厚手の器厚。外面縦位ハケ撫で後横位撫で、縦位指撫で。指頭痕残る。内面細かな斜位ハケ撫で後端部横撫でを加える
108図11 図版44 甕	口：16.0 高：－ 底：－	床直 口縁～体部	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	口縁部外傾し頸部強く屈曲する。体部中位に径を持つ。外面口縁部横撫で、指頭痕残る。体部は横位・斜位ヘラ撫で。内面口縁部横撫で、体部強い横位ヘラ撫で
108図12	図版44	勾玉 埋土	長：2.7 幅：1.6 厚：0.5 重：3.0	安山岩
32号住居跡				
110図1 図版45 片口	口：9.8 高：13.8 底：6.5	床直上 口縁～底部1/2	①粗 白色粒 ②橙色 ③	片口部強く突出する。輪積み痕を折り返し状効果としている。体部は内湾し球胴状の形態。底部は強く突出し、やや厚手の器厚。外面口縁部横位ハケ目調整。体部斜位ハケ目調整後体部中位は入念な横位ミガキ。底部はハケ目調整残る。底面撫で。内面横位ヘラ撫でを施す
110図2 図版45 埴	口：12.0 高：5.4 底：－	床直 ほぼ完形	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	広口で口縁部内湾気味に大きく開く。体部は極めて扁平で底部は丸底を呈す。外面口縁部横撫で後体部縦位ヘラ撫で、底部不定方向撫でを施す。内面体部縦位ミガキ、底部不定方向ミガキを丁寧に施す。内外面煤付着
110図3 図版45 小型壺	口：8.5 高：7.4 底：3.7	床直 ほぼ完形	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③黒斑あり	口縁部短く外傾し、頸部屈曲は弱い。体部は緩やかに内湾し、中位に径を持つ。外面丁寧な横位ミガキが覆い、光沢を持つ。内面横位ヘラ削り後口縁部横位ミガキ、体部斜位ミガキを丁寧に施す
110図4 図版45 台付き甕	口：9.9 高：15.8 底：8.0	床直 ほぼ完形	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	小型品。口縁部は短く外反し、頸部屈曲は緩やか。肩部の張りは弱く、体部上半に径を持つ。外面口縁部は横位、体部中位は斜位、下半脚部は縦位のミガキが入念に施される。内面口縁部にハケ目残るが横位ミガキ。脚部は横位・斜位ヘラ撫で
110図5 図版45 埴	口：7.8 高：(11.0) 底：2.9	埋土 口縁～底部1/2	①粗 白色粒・石英 ②淡黄色 ③	口縁部片と体部2点からなる。口縁部が離れる復元図。口縁部内湾気味に外傾し頸部屈曲する。体部は中位に径を持つ算盤玉形。底部は凹み底。外面は横位ミガキ。内面口縁部横撫で、肩部にハケ目調整。横位ヘラ撫で
110図6 図版 小型甕	口：10.5 高：－ 底：－	埋土下位 口縁～体部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口唇部は尖り口縁部はやや短く外傾する。頸部屈曲は緩やか。体部内湾し上半に径を持つ。外面口縁部横位ヘラ撫で、体部横位ヘラ撫で後強いヘラ撫でを縦位に施す。内面口縁部横位ヘラ撫で後横位ミガキ。体部は横位弧状ヘラ撫で
110図7 図版45 埴	口：－ 高：－ 底：3.5	床直上 口縁部欠損	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	頸部屈曲強く、球胴を呈し体部中位に径を持つ。底部僅かに突出する。外面体部上半横位・斜位ミガキ、下半斜位ミガキ。丁寧な調整。内面横位ヘラ撫で。外面体部上半に煤付着
110図8 図版45 甕	口：－ 高：－ 底：4.5	埋土下位 体～底部片	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	体部小径で緩やかな内湾を呈す。底部は強く突出する。外面体部縦位ヘラ削り後縦位ミガキ。底面撫で。内面横位・縦位撫で後縦位ミガキを疎らに施す
110図9 図版45 埴	口：－ 高：－ 底：3.2	床直上 上半部欠損	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	体部強く張り、中位に径を持つ。底部は凹み底。器厚極めて薄手。外面丁寧な縦位ミガキが覆う、底面もミガキを施す。内面横位・斜位のハケ目調整を顕著に見る。体部下半の小孔は焼成前穿孔で意図的な例
110図10 図版45 埴	口：－ 高：－ 底：5.0	床直上 頸～底部1/2	①粗 白色粒・石英 ②赤褐色 ③黒斑有り	体部強く張り中位～下半に径を持つため安定感がある。底部は丸底状だが平坦面を持つ。外面体部丁寧な横位ミガキ、光沢を持つ。底面は撫で。内面上半指撫で。中位～下半は強いヘラ撫で。一部に強い撫で線がある
110図11 図版45 甕	口：14.7 高：－ 底：－	床直上 口縁～体部1/2	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	外傾する低位折り返し口縁。頸部強く屈曲し体部中位に径を持つ。口縁部横位ヘラ削り、頸部縦位ハケ撫で後体部縦位ミガキを加える。内面口縁部横位ヘラ撫で、体部横位ヘラ撫で後疎らな横位ミガキを施す

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
110図12 図版45 甕	口：14.1 高：－ 底：－	床直上 口縁～体部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	素口縁。口唇部尖り直立気味に外傾する。頸部屈曲し体部中位に径を持つ。外面口縁部横撫で、口頸部斜位ハケ撫で、体部ハケ撫で後縦位・斜位ミガキを加える。内面口縁～体部横位撫で後ミガキを施す
110図13 図版 壺？	口：－ 高：－ 底：－	埋土下位 頸～肩部1/2	①粗 小礫・石英 ②橙色 ③	頸部直立し、口縁部強く外傾する兆し。外面口頸部斜位ハケ目調整後ミガキ。肩部横位撫で後横位ミガキを施す。内面調整弱く凹凸・輪積み痕が顕著。口頸部横位ハケ目調整後雑なミガキ。肩部横位撫で後雑な横位ミガキを施す
110図14 図版45 甕？	口：－ 高：－ 底：－	床直上 口縁～頸部片	①粗 石英・黒色粒 ②明赤褐色 ③	口頸部緩やかに外反。頸部は強く屈曲する。口頸部外面は器壁剥落。頸部縦位ヘラ撫で後体部縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で後、肩部横位ミガキを加える
110図15 図版 甕	口：13.3 高：－ 底：－	埋土下位 口縁～頸部片	①細 白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	口唇部尖り口縁部は直立気味に外傾する。器厚薄手。外面斜位ハケ目調整後線状ミガキを横位に施す。内面横位・斜位ハケ目調整後横位ミガキを加える
110図16 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	埋土 口縁～肩部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②明褐色 ③	口縁部外傾し頸部屈曲強い。体部の張りはやや弱い。外面横位・斜位ハケ目調整後体部中位に横位ミガキを加える。内面横位ヘラ撫で後中位に横位ミガキを施す
110図17 図版45 台付き甕	口：－ 高：－ 底：8.6	埋土 脚部	①細 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	やや厚手。裾部は直線的に開く。外面縦位削り調整後縦位ミガキを入念に施す。内底面は丁寧なミガキ、脚部は横位・斜位ヘラ撫で。工具当て目残る
110図18 図版45 甕	口：12.7 高：－ 底：－	床直上 口縁～肩部1/2	①細 白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	緩やかに外反する低位折り返し口縁。頸部屈曲はやや弱く、肩部の張りも緩やか。外面口縁部～肩部横位波状を多段に施文する。体部は横位ヘラ削り後縦位ミガキ。内面口縁部横位ミガキ、体部斜位ミガキ
110図19 図版 壺	口：－ 高：－ 底：－	ピット内 肩部破片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	あるいは13と同一個体か。口頸部は直立気味で、肩部は大きく張る。外面頸部縦位ミガキ、体部横位・斜位ミガキを施す。内面口頸部に横位ハケ目調整後体部は横位ミガキ。肩部に縦位撫で加わる。体部器厚は薄手
110図20	図版45	砥石	長：5.2 幅：2.6 厚：2.0 重：40.3	安山岩

土坑出土遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
116図1 図版45 器台	口：6.9 高：－ 底：－	Ⅱ区1土坑 脚裾部欠損	①細石英・白色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁小径で坏部一体化して開く。脚部は僅かな膨らみを持って開く。底面孔はほぼ中央。脚部孔は3単位か。外面口縁部横撫で、坏部斜位撫で後下半～脚部縦位ミガキを加える。内面坏部疎らなミガキ、脚部横位撫でを施す
116図2 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	Ⅱ区21土坑 胴部片	①粗白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	肩部～体部上半か。緩やかな湾曲を示す。小櫛描き波状文を横位多段に施す。内面丁寧な横位ミガキ
117図1 図版45 甕	口：11.0 高：－ 底：－	Ⅲ区27土坑 口縁部片	①粗白色粒・石英 ②黒褐色 ③	緩やかに外反する折り返し口縁。頸部屈曲は緩やか。体部中位に若干径を持つ。外面口縁部横位ハケ目調整、体部斜位ハケ目調整後中位に横位・斜位ミガキ。内面口縁部斜位ハケ目調整後疎らなミガキ、体部は横位ミガキを丁寧に施す
117図2 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.3	Ⅲ区27土坑 底部片	①細白色粒 ②明赤褐色 ③	底部突出し、体部下半は大きく外反する。底部は上げ底を呈す外面横位・斜位ヘラ撫で。内面横位ヘラ撫で

7表 遺構外出土遺物観察表

Ⅲ区遺構外出土遺物(弥生)

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
118図1 図版49 甕 (弥生)	口：－ 高：－ 底：7.5	IJ72 頸部～底部1/2	①細白色粒 ②鈍い橙色 ③	頸部直立し体部上位に径を持つ。外面口頸部横位ヘラ撫で、肩部簾状文1段、以下櫛描き波状文を多段横位に施す。体部上半は横位・斜位ヘラ撫で後縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で後丁寧な横位ミガキを施す
118図2 図版49 甕 (弥生)	口：－ 高：－ 底：－	IJ-72 頸部～体部	①粗白色粒 ②鈍い橙色 ③	頸部緩やかに外反する。体部上位に径を持つがやや弱い。外面口頸部斜位ヘラ撫で、頸部簾状文を挟み櫛描き波状文を多段に配す。体部横位ヘラ撫で後疎らなミガキ。内面頸部横位ヘラ撫で後横位ミガキ、体部横位・斜位ヘラ撫で疎らなミガキ
118図3 図版49 甕 (弥生)	口：15.1 高：20.6 底：7.1	IJ-72 ほぼ完形	①粗白色粒 ②鈍い橙色 ③	口縁部内湾し頸部は緩やかに外反する。頸部屈曲は弱く体部中に径を持たせる。口唇部に横位波状文。頸部縦位ハケ目調整後横位撫で。頸部簾状文1段。肩部は横位櫛描き波状文を多段に配す。体部は横位ヘラ撫で後強いヘラ撫でにより光沢を持つ。内面横位・斜位ヘラ撫で、体部下半に縦位撫で加わる
118図4 図版49 壺? (弥生)	口：22.0 高：－ 底：－	IJ-72 口縁片	①粗白色粒 ②鈍い橙色 ③	口唇部に押圧状刻み。口縁～口頸部強く外反する。頸部の屈曲・肩部の張りはやや弱い。外面口頸部縦位ヘラ撫で後横位撫で、頸部簾状文1段以下横位櫛描き波状文を施す。内面口縁部は丁寧なミガキ、体部は横位撫で
118図5 図版49 壺? (弥生)	口：－ 高：－ 底：10.4	IJ-72 体下端部～底部	①粗白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	大型甕・壺底部。底部は上げ底気味で突出する。体部下半は緩やかな内湾を示す。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で。内面横位弧状のハケ目調整
118図6 図版48 甕 (弥生)	口：－ 高：－ 底：－	IJ-72 頸部片	①細石英・白色粒 ②灰黄褐色 ③	頸部破片。簾状文1段を挟み、4～5条単位の横位櫛描き波状文を施す。体部は斜位・横位ヘラ撫で。内面横位ヘラ撫で後ミガキを加える
118図7 図版48 甕 (弥生)	口：－ 高：－ 底：－	IJ-74 頸部片	①粗白色粒・石英 ②鈍い黄褐色 ③	頸部破片。口頸部縦位ハケ目調整。頸部に簾状文以下肩部は横位櫛描き波状文を施す。内面横位ヘラ撫で
118図8 図版49 壺? (弥生)	口：－ 高：－ 底：－	IJ76 頸部片	①細白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	頸部破片。簾状文を1段施す。肩部は横位櫛描き波状文以下に円形ボタン状貼付文を基点とする、大型鋸歯文が横位に配される。区画内は細沈線が充填される。内面撫で

Ⅰ区遺構外出土遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
119図1 図版45 坏	口：13.0 高：4.7 底：－	FX65 口縁～体部片	①粗白色粒・石英 ②赤褐色 ③	口縁部短く外傾。内面凹む。体部は内湾気味に開く。外面口縁部～体部横位撫で、体部横位・斜位ヘラ削り。内面口縁部横撫で、体部撫で後斜位ミガキ 6世紀後半
119図2 図版45 甕	口：－ 高：－ 底：－	西台地FP下 口縁部片	①細石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁～頸部強く外反する。口唇部端部角頭状を呈し薄手。内外面とも横位撫で
119図3 図版45	口：－ 高：－ 底：6.9	西台地FA下 頸部～底部	①細白色粒 ②明赤褐色 ③	丸胴の体部形態。中に径を持つ。頸部縦位ミガキ、体部撫で調整後斜位ミガキを入念に加える。内面横位・斜位撫で後上半は疎らなミガキ、下半は丁寧なミガキを施す

Ⅱ区遺構外出土遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
120図1 図版 ミニチュア土器	口：4.5 高：3.9 底：3.7	HK72 1/3	①細白色粒 ②褐色 ③	鉢か。口唇部尖り体部中位が僅かに膨らむ。外面指撫でにより凹凸強い。内面口縁部横位撫で、体部斜位撫でを施す
120図2 図版45 ミニチュア土器	口：－ 高：－ 底：3.0	HG72 頸～底部	①粗白色粒 ②明赤褐色 ③	壺か。口縁部は開き頸部で屈曲する。体部中位が膨らむ。底部器厚手。外面横位撫で後横位・斜位ミガキ。内面口縁部横位ミガキ、体部横位撫で
120図3 図版45 ミニチュア土器	口：7.0 高：－ 底：－	HF71周辺 口縁～体部片	①細白色粒 ②鈍い褐色 ③	甕か。口縁部は折り返し短く外傾する。体部は緩やかな内湾を呈し上半が膨らむ。口縁部横撫で指頭痕残る。体部は縦位・斜位ヘラ削り。内面は横位ヘラ撫で
120図4 図版45 ミニチュア土器	口：6.4 高：－ 底：－	HK72 口縁～頸部片	①粗白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	甕か。全体的に歪みあり。口縁部上位肥厚する。下位は外傾し体部の張りは弱い。外面縦位ヘラ調整後口縁部指撫で、体部は横位・縦位ヘラ撫で。内面横位ヘラ撫で

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
120図5 図版45 ミニチュア土器	口：－ 高：－ 底：3.1	HQ72 ほぼ完形	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い橙色 ③	坩か。頸部緩やかに屈曲し口縁部は外傾する。体部上半に膨らみを持ち、底部は凹み底。外面縦位ハケ目調整後横位ミガキ。内面口縁部横位ミガキ、体部斜位ヘラ撫で
120図6 図版45 ミニチュア土器	口：9.0 高：7.1 底：3.9	HK72 1/2	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	甕か。口縁部は僅かに内湾気味に開く。頸部屈曲し体部上半に膨らみを持つ。外面口縁部横位撫で、体部斜位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部横位ヘラ撫で
120図7 図版46 ミニチュア土器	口：10.0 高：7.1 底：4.8	HM71 完形	①細 白色粒 ②褐色 ③	甕か。やや大振り。口縁部は短く外傾し頸部は緩やかな屈曲を呈す。体部上半に僅かな膨らみを持たせる。底部器厚手。外面斜位・縦位ヘラ削り。内面横位・斜位ヘラ撫で
120図8 図版45 ミニチュア土器	口：－ 高：－ 底：5.2	HK72 頸～底部片	①細 白色粒 ②明黄褐色 ③	壺か。頸部緩やかな屈曲、体部上半に膨らみを持たせる。底部は広い。外面体部横位斜位ヘラ削り後頸部横位撫で。内面体部横位ヘラ撫で、下半は縦位撫で
120図9 図版45 ミニチュア土器	口：－ 高：－ 底：2.2	HC72 体～底部	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	器種不明。内湾を持たせて開く体部下半。外面縦位ヘラ削り。内面横位・斜位ヘラ撫で
120図10 図版 ミニチュア土器	口：－ 高：－ 底：4.6	HM71 体下端～底部	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	器種不明。底部突出し内湾気味に開く体部下半。外面横位・縦位ミガキ。内面横位ヘラ削り
121図11 図版48 坏	口：12.8 高：5.4 底：－	HP73周辺 ほぼ完形	①細 白色粒 ②橙色 ③	模倣坏蓋。口縁部は緩やかに外反する。外縁は浅く、体部はやや扁平。口縁部横撫で、体部は手持ちヘラ削り。内面丁寧な横位撫で。6世紀後葉
121図12 図版48 坏	口：12.0 高：5.0 底：－	HP73周辺 ほぼ完形	①細 白色粒 ②橙色 ③	模倣坏蓋。口縁部は緩やかに外反し鋭い外縁を持つ。体部は内湾が際立ちやや身深。口縁部横撫で、体部は手持ちヘラ削り、上半部に僅かな撫でが加わる。内面丁寧な撫で。6世紀後葉
121図13 図版48 坏	口：9.4 高：4.4 底：－	HP73周辺 口縁1/2欠損	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	模倣坏身。口縁部内傾し受け部は強く突出する。体部は内湾が際立つ。口縁部横撫で、体部は手持ちヘラ削り。内面丁寧な撫でを施す。6世紀後葉
121図14 図版48 坏	口：13.5 高：74.8 底：－	HP73周辺 底部一部欠損	①粗 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	口縁部はやや強く開き口唇部は丸頭。外縁は鋭く体部は湾曲する。口縁部横撫で、体部はヘラ削り。内面は丁寧な撫で。6世紀後葉
121図15 図版 坏	口：15.4 高：－ 底：－	HG71 口縁～体部片	①細 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	口縁部強く外反する。外縁は浅く、体部はやや扁平。口縁部横撫で、体部ヘラ削り後撫でを加える。内面横位撫で。6世紀後葉
121図16 図版 坏	口：14.6 高：－ 底：－	HM73 口縁～体部	①細 白色粒 ②橙色 ③	受け口状の口縁部形態。口縁部下に屈曲を持ち、体部は内湾する。外面口縁部横撫で、体部横位撫で後雑な横位ミガキを加える。内面体部横位撫で後縦位・斜位ミガキを施す
121図17 図版45 埴	口：10.7 高：6.6 底：2.0	HG72 1/4	①細 白色粒 ②橙色 ③	口縁部は長く僅かに内湾気味に開く。体部は扁平で底部は凹み底。外面口縁部縦位ミガキ、体部境は横位ミガキ、体部は撫で後ヘラ削り。内面横位撫で後口縁部縦位ミガキ、体部は丁寧な不定方向のミガキを施す
121図18 図版45 埴	口：12.0 高：6.7 底：－	HF71周辺 2/3	①細 石英・白色粒 ②橙色 ③	口縁部は長く僅かに内湾気味に開く。体部は扁平で底部は丸底。外面口唇部横撫で、口縁部斜位ハケ目調整後疎らな縦位ミガキ、体部は丁寧な横位ミガキ。内面口縁部斜位ハケ目調整後雑な斜位ミガキ、体部は丁寧な横位ミガキ
121図19 図版45 埴	口：14.0 高：5.5 底：2.8	HA69 1/2	①細 石英・白色粒 ②鈍い橙色 ③	やや広口。口縁部は強く外傾する。体部境も緩やかでほぼ一体化する。体部は身深で底部は凹み底。外面口縁部斜位ハケ目調整後縦位ミガキ、体部斜位ヘラ撫で。内面丁寧な横位ミガキ
121図20 図版45 鉢	口：8.9 高：5.8 底：3.2	HC67 2/3	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	小型の鉢。口唇部尖り、口縁～体部僅かに内湾気味に一体化する。底部はやや不安定。外面撫で・ハケ目調整後雑なミガキを加える。内面横位ヘラ削り後雑な横位ミガキ
121図21 図版45 鉢	口：14.4 高：6.2 底：4.5	GY69 完形	①細 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	口唇部尖り、口縁～体部内湾気味に一体化する。底部は上げ底を呈す。外面口縁部横撫で。体部横位ヘラ撫で後下半に斜位ミガキ。内面口縁部横撫で、体部ヘラ撫で後下半斜位ミガキ
121図22 図版45 鉢	口：14.0 高：5.3 底：5.1	HP・Q72 完形	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	口唇部歪む。口縁～体部内湾気味に一体化する。底部は厚く突出する。外面口縁部横撫で、体部横位・斜位ヘラ削り後中にミガキを加える。内面横位撫で後横位ミガキを施す
121図23 図版 坏	口：－ 高：－ 底：3.0	HA71 体～底部	①細 石英・白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	体部境の外縁は鋭い。体部は広く扁平な印象。底部は凹み底。内外面とも丁寧な横位ミガキを施す

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
121図24 図版 坏	口：17.5 高：－ 底：－	HG72 口縁部片	①細石英・白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	身深の坏か。口縁～体部僅かに内湾気味に一体化する。外面横位撫で後横位・斜位のミガキ。内面は横位撫で後上半は疎らな下半は密なミガキを施す
121図25 図版46 坏	口：13.0 高：－ 底：－	HK71 口縁～体部片	①細白色粒 ②鈍い褐色 ③	あるいは椀か。口縁～体部内湾気味に一体化する。外面入念な横位ミガキ。内面もミガキが覆う。一部弧状の動きも見られる
121図26 図版 坏	口：14.0 高：－ 底：－	HE70 口縁～体部片	①細白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	口縁～体部内湾気味に一体化する。外面口縁部は細かな横位ミガキ、体部は横位ミガキ。内面も横位ミガキが施される
121図27 図版45 埴	口：(13.1) 高：－ 底：－	HG71 口縁～頸部片	①粗白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部は長く内湾気味に開く。体部境は明瞭で体部は丸みを帯びる。外面横位撫で後雑な横位ミガキ。体部は丁寧なミガキ。内面口縁部横位・斜位ヘラ撫で、体部は斜位ヘラ撫でを施す
121図28 図版 埴	口：13.2 高：－ 底：－	HA71 口縁～頸部片	①細石英・白色粒 ②鈍い褐色 ③	輪積みによる折り返し状口縁。僅かに内湾気味に開く。体部はやや扁平。外面口縁部横位撫で・ハケ目調整後斜位ミガキ。体部横位撫で後横位ミガキ。内面口縁部縦位ミガキ、体部は横位撫で後規則的な縦位ミガキを加える
121図29 図版 坏	口：(20.0) 高：－ 底：－	HP74 口縁部片	①細石英・白色粒 ②明褐色 ③	小破片のため口径は確定性に乏しい。口縁～体部内湾気味に一体化する。外面丁寧な横位ミガキ。内面縦位ミガキ
121図30 図版 埴	口：－ 高：－ 底：5.0	HS74 底部片	①細白色粒 ②明赤褐色 ③	内湾気味に開く体部下半。底部は平底。外面横位ヘラ削り後横位ミガキ。内面横位・斜位撫で後疎らな斜位ミガキ
121図31 図版46 鉢?	口：10.4 高：－ 底：－	HC68 口縁～肩部片	①細白色粒 ②明赤褐色 ③	ミニチュアか。歪みあり。口縁部は折り返し状。体部は中位に膨らみを持つ。外面口縁～体部上半斜位撫で、下半は縦位ヘラ撫で。内面横位撫で
121図32 図版 埴?	口：－ 高：－ 底：－	HE70 底部片	①細石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	丸底。厚手の器厚を呈す。外面横位ヘラ削り、内面撫で後丁寧なミガキを施す
122図33 図版47 埴	口：18.0 高：－ 底：－	HK71 口縁～頸部1/2	①細白色粒 ②鈍い褐色 ③	口唇部は尖り、僅かに内湾を以て開く口縁部。頸部の屈曲は強い。外面口縁部丁寧な横位ミガキ、口頸部縦位ミガキ。内面も口縁部横位ミガキ、口頸部縦位ミガキを施す
122図34 図版46 鉢	口：17.1 高：11.0 底：1.8	GV69 1/3	①粗白色粒 ②明赤褐色 ③	口唇部は尖り口縁部緩やかに外反する。体部中位～下半に径を持つ。底部が強く突出するためやや安定性に欠ける。外面口縁部～体部は丁寧な縦位ミガキ。底部は横位削りが施される。内面撫で後縦位・斜位ミガキ。底面は丁寧
122図35 図版46 埴	口：－ 高：－ 底：5.5	GY69 体～底部1/4	①細石英・白色粒 ②赤褐色 ③	内湾気味に開く体部下半。底部は凹み底。外面斜位・横位ヘラ撫で後疎らな横位ミガキ。内面横位ヘラ撫で後横位ミガキを施す
122図36 図版47 埴	口：－ 高：－ 底：4.3	HC68 底部	①細白色粒 ②橙色 ③	内湾気味に強く開く体部下半。底部は僅かに凹み底。器厚は薄手。外面は丁寧な斜位・横位ミガキ。内面は斜位ヘラ撫でを施す
122図37 図版 埴	口：－ 高：－ 底：－	HP72 底部	①細石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	内湾気味に開く体部下半。底部は平底でやや厚手。外面横位ミガキ。内面底面縦位ミガキ後体部中位は横位ミガキ
122図38 図版 坏か?	口：－ 高：－ 底：－	GW70 口縁部片	①粗白色粒 ②赤褐色 ③	細片。内外面とも横位ミガキを施す。やや薄手の器厚
122図39 図版47 鉢か?	口：11.5 高：－ 底：－	GY69 口縁部片	①細白色粒・黒色粒 ②橙色 ③	口縁部折り返し状を呈し強く外反する。外面横位弧状ヘラ撫で後疎らな縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で
122図40 図版 鉢	口：12.6 高：－ 底：－	HS73 口縁部片	①細白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	口縁部は短く内湾し体部も湾曲を持って開く。やや厚手の印象を得る。口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整後横位・斜位ミガキが加わる。内面口縁部横位ミガキ、体部斜位・縦位ミガキ
122図41 図版 鉢?	口：17.7 高：－ 底：－	HB71 口縁部片	①細白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	口唇部は尖り、直線的に強く開く形態。輪積みによる折り返し状の口縁部か。外面斜位ハケ目調整後口縁部横位線状ミガキ、以下は縦位ミガキ。内面は縦位・斜位ミガキを施す
122図42 図版 器台	口：8.0 高：－ 底：－	HR74 口縁～脚部片	①細石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	坏部直線的に短く開く。脚部は外反か。底面孔は中央に穿たれる。外面坏部横撫で後横位ミガキ。脚部縦位ミガキ。内面坏部横位ミガキ

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
122図43 図版46 器台	口：－ 高：－ 底：10.9	HA70 脚部片	①細白色粒 ②明褐色 ③	緩やかに外反する脚部。脚部孔は上下に3単位か。外面横位撫で後縦位ミガキを疎らに施す。内面は横位ヘラ撫で
122図44 図版46 器台	口：－ 高：－ 底：－	HO72 脚部片	①細白色粒 ②明赤褐色 ③	坏部は内湾する。脚部は緩やかな外反を呈し中位に孔を穿つ。外面坏部縦位・斜位ハケ目調整後脚部に縦位ヘラ撫で。内面坏部不定方向ミガキ、脚部横位ヘラ撫で
122図45 図版46 器台か	口：－ 高：－ 底：10.7	HE71 脚部片	①細白色粒 ②明赤褐色 ③	緩やかに外反する脚部、裾部は開く。中位に脚部孔を穿つ。3単位か。外面縦位ミガキ。内面横位ミガキ
122図46 図版46 器台か	口：8.7 高：－ 底：－	HC69 坏部片	①細石英・白色粒 ②橙色 ③	坏部強く外反する。体部下半は屈曲し強く開く。坏部外面横撫で、体部下半は撫で、ハケ目調整残る。内面口縁部は横撫で、体部はミガキを施す
122図47 図版 器台か	口：9.2 高：－ 底：－	HA71 口縁部片	①細石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部緩やかに外反し、体部は僅かに内湾し下半で屈曲する。外面口縁部横撫で、体部ハケ目調整後横位ミガキを加え、下半は横位削りが残る。内面横位撫で後縦位ミガキを施す
122図48 図版46 高坏	口：12.0 高：11.4 底：13.0	HG72 ほぼ完形	①細白色粒 ②橙色 ③	坏部上半若干内湾気味に開く。下半で屈曲し脚部は強く外反する。脚部孔3単位。均整の取れた器形。外面坏部上半横位撫で後縦位ミガキ。下半接合部は斜位ミガキ。脚部は縦位ミガキ。内面坏部は縦位ミガキ、脚部上位縦位指撫で下位横位ヘラ撫で
122図49 図版46 高坏	口：15.4 高：16.6 底：13.0	HP72 口縁～底部1/2	①細白色粒 ②明赤褐色 ③	坏部・脚部からなる2点の資料。坏部緩やかな内湾を持って開く。長脚で外反して開く。脚部孔3単位。坏部横位撫で後不定方向のミガキ、脚部縦位ミガキが覆う。内面坏部横位撫で後縦位ミガキ、脚部上位縦位撫で絞り目残る。下位は横位ヘラ撫で
122図50 図版 高坏	口：16.0 高：－ 底：－	HB68 口縁部片	①細白色粒 ②明赤褐色 ③	口唇部は尖り口縁部強く外反する。体部下半の内湾強く、下端で屈曲する。内外面とも撫で調整後横位線状ミガキを施す
122図51 図版46 高坏	口：15.9 高：－ 底：－	HP72 口縁部片	①細石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	坏部僅かに内湾気味に開く。外面入念な縦位ミガキ。内面横位撫で後縦位ミガキが加わる
122図52 図版46 高坏	口：17.0 高：－ 底：－	HH70 口縁部片	①細石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	坏部上半若干内湾気味に開き下半で屈曲する。器面剥落著しい外面斜位ハケ目調整後斜位ミガキ。内面横位ミガキ
122図53 図版46 高坏	口：－ 高：－ 底：13.4	HG72 脚部	①粗白色粒・石英 ②橙色 ③	やや短脚で強く開く脚部。比較的薄手の器厚。脚部孔は3単位か。外面脚部上位縦位ミガキ、裾部横位・斜位ミガキ。内底面ミガキ、脚部上位絞り目、下位斜位ハケ目調整
122図54 図版 高坏?	口：－ 高：－ 底：－	HP79 脚部	①細白色粒 ②鈍い褐色 ③	短脚で裾部が強く開く。裾部内外面器壁剥落。やや厚手の器厚外面縦位ミガキ。内面上位は横位撫で、裾部はミガキを施す
122図55 図版 高坏?	口：－ 高：－ 底：10.8	HF71周辺 脚部片	①細白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	短脚で緩やかに開く形態。外面は縦位ハケ目調整後疎らな縦位ミガキを加える。内面横位・斜位ハケ目調整
122図56 図版46 高坏?	口：－ 高：－ 底：9.3	HP74 脚部1/3	①細白色粒 ② ③	短脚で緩やかに開く形態。器厚はやや薄手。外面縦位・斜位ハケ目調整後撫でと縦位ミガキが加わる。内面横位・斜位ハケ撫で。ハケ当て目残る
123図57 図版 高坏?	口：－ 高：－ 底：10.5	HN71 脚部片	①細石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	僅かに外反気味に開く脚部。孔はおそらく中位に3単位か。外面縦位ミガキ後裾部横位ミガキ。内面上位は横位撫で、下位は横位・斜位ハケ目調整
123図58 図版46 高坏	口：－ 高：－ 底：10.2	GV70 脚部片	①細白色粒 ②赤褐色 ③	僅かに外反気味に開く脚部。孔はやや上位に3単位か。外面上位は縦位ミガキ、裾部横位ミガキ。内面上位縦位指撫で、下位横位ハケ目調整
123図59 図版46 高坏?	口：－ 高：－ 底：12.7	HG67 脚部片	①細石英・白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	脚部外反し裾部強く開く。孔は中位に穿たれる。外面縦位・斜位ハケ目調整後上位は縦位ミガキを加える。内面横位ヘラ撫で
123図60 図版 高坏?	口：－ 高：－ 底：12.9	HJ70 脚部片	①細白色粒 ②明赤褐色 ③	直線的な脚部。裾部は短く開く。やや薄手の器厚。外面斜位ヘラ削り後横位撫でを経て雑な縦位ミガキを加える。内面横位ヘラ撫で
123図61 図版 高坏	口：－ 高：－ 底：－	HK73 脚部片	①細白色粒 ②赤褐色 ③	内湾気味に開く体部下半。脚部は緩やかな外反か。脚部孔は中位に設けられる。外面脚部縦位ヘラ撫で後縦位ミガキ。内面坏部は丁寧なミガキ、脚部は横位・斜位ヘラ撫で

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
123図62 図版46 高坏	口：－ 高：－ 底：10.1	HK70 脚部1/2	①細 石英・白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	短脚で外反する形態。孔はやや上位に穿たれる。外面縦位ヘラ撫で後上位に縦位ミガキ。裾部は横位撫で。内面上位は横位・斜位撫で、裾部にミガキが加わる
123図63 図版 器台	口：－ 高：－ 底：－	GW68 脚部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	短脚か。比較的強く開く形態。底面孔は中央で、脚部孔はやや上位に設けられる。外面縦位ミガキ、内面横位ミガキを施す
123図64 図版 器台	口：－ 高：－ 底：－	HJ71 脚部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	短脚で強く開く形態か。底面孔はやや広く中央に、脚部孔はほぼ中位に穿たれる。外面縦位ミガキ、内面横位撫で
123図65 図版46 高坏?	口：－ 高：－ 底：12.6	HQ73周辺 脚部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	長脚で緩やかに外反する脚部形態。器厚はやや薄手。孔はほぼ中位。外面縦位ミガキを入念に施す。内面上位は絞り目残る。下位は横位ヘラ撫で
123図66 図版46 高坏	口：－ 高：－ 底：11.3	HE71 脚部	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	長脚で強い外反を呈する形態。上位は棒状となる。外面丁寧な縦位ミガキ、裾部は横位ミガキを重ねる。内面坏部はミガキ、脚部は横位撫で、裾部にハケ目痕残る
123図67 図版 高坏	口：－ 高：－ 底：－	HD67 脚部片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	やや短脚。比較的薄手の器厚で直線的に開く、裾部は強く開く兆し。外面縦位・斜位ハケ目調整。内面横位ヘラ撫で
123図68 図版 高坏	口：－ 高：－ 底：－	GW68 脚部片	①細 石英・白色粒 ②鈍い橙色 ③	直線的な棒状脚部。下位は緩やかな開きか。外面縦位ハケ目調整後縦位ミガキを加える。内面坏部は入念なミガキ、脚部は撫でを施す
123図69 図版 高坏	口：－ 高：－ 底：－	HM72 脚部片	①細 白色粒 ②褐色 ③	内湾を持った紡錘状の形態か。やや薄手の器厚。外面縦位ミガキ。内面上端に絞り目、以下横位撫で
123図70 図版 高坏	口：－ 高：－ 底：－	HQ73周辺 脚部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	長脚で紡錘状の形態。裾部は緩やかな開きか。外面縦位ミガキが覆う。内面上位縦位指撫で、指頭痕残る。下位は横位撫で
123図71 図版 高坏	口：－ 高：－ 底：－	HJ71 脚部片	①細 石英・白色粒 ②橙色 ③	直線的な棒状脚部。下半で緩やかな外反か。外面縦位ミガキ。内面横位撫で。坏部との接合痕明瞭
123図72 図版45 小型甕	口：9.9 高：5.5 底：3.2	HF70 1/2	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	広口。口縁部強く開き、頸部屈曲する。体部上半に径を持つ。外面口縁部横撫で、体部斜位ヘラ撫で後雑なミガキ、内面口縁部横撫で、体部斜位撫で後雑なミガキを加える
123図73 図版46 小型甕	口：－ 高：－ 底：3.8	HB71 口縁部欠損	①細白色粒・黒色粒 ②鈍い赤褐色 ③	頸部直立気味に外反する。体部器形歪む。中位に径を持ち底部は上げ底を呈す。外面頸部横位撫で、体部斜位ヘラ削り後雑なミガキを加える。内面横位弧状の撫で。ハケ目痕残る
123図74 図版 小型甕	口：8.1 高：－ 底：－	HK73 口縁～体部片	①細石英・白色粒 ②口縁～胴部片 ③	広口壺。口縁部僅かに外傾、体部上位に径を持つ。外面口縁部ハケ目調整後撫で、肩部に横位ミガキ、体部は横位ヘラ削り後撫で下半ミガキを加える。内面横位ヘラ削り後弱い撫でを施す
123図75 図版46 小型甕	口：8.2 高：9.7 底：6.0	HM71 1/2	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	広口壺。口縁～頸部一体化し外反する。体部中位に径を持つ。底部は平底。外面斜位ヘラ削りで覆われる。内面は口縁部横位撫で、体部は斜位ヘラ撫で
123図76 図版46 小型甕	口：9.2 高：7.5 底：5.0	HG72 完形	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	折り返し口縁部は短く外傾する。体部上位に径を持ち底部は突出する。やや薄手の器厚。外面口縁部横撫で、体部横位ヘラ削り後撫でを加え、下半に縦位撫でを施す。体部は横位ヘラ撫で
123図77 図版46 小型甕	口：9.1 高：9.1 底：5.4	GW69 1/2	①細 石英・白色粒 ②褐色 ③	口縁部外傾し頸部の屈曲は強い。体部中位に径を持つ。外面口縁部横位撫で後ミガキ、体部は斜位撫で後疎らな横位ミガキ。底部ヘラ削り。内面横位撫で後横位ミガキ。底面は丁寧
123図78 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：－	HM72 口縁～肩部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部はやや長く外傾する。体部上半の径か。外面口縁部横位撫で後雑なミガキ、頸部縦位ハケ目調整後ミガキ、体部は入念な横位ミガキ。内面は丁寧なミガキを施し滑沢
124図79 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：－	HI73 口縁～体部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い黄橙色 ③	球胴。おそらく中位に径を持つ。外面横位弧状のハケ目調整。頸部剥落痕跡上に指頭痕残る。内面斜位ヘラ撫で
124図80 図版45 小型甕	口：8.4 高：－ 底：－	HJ72 口縁～体部	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口縁部は歪む。折り返し状口縁を印象する貼付があるが不揃い。頸部湾曲は緩やかで体部中位に径を持つ。外面横位ヘラ撫で後斜位ヘラ撫で。内面横位ヘラ撫で
124図81 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：－	HM71 体部片	①粗白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	あるいは広口壺か。体部下半に径を持ち、底部はおそらく丸底。外面横位弧状のハケ目調整。内面横位・斜位撫で調整後上半部に横位ヘラ削りを加える

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
124図82 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：5.0	GY70 底部	①粗 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	底部は突出し外反気味に開く体部下半。中位に径を持つか。器厚はやや厚手。外面横位撫で後横位ミガキを乱雑に加える。内面横位撫で後横位ミガキ
124図83 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：4.1	HA70 底部	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	あるいは埴か。大きく開く体部下半。内外面とも横位ミガキが覆う
124図84 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：5.4	HJ71 底部	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	底部突出しやや上げ底。体部は緩やかな内湾を持って開く。下半の径か。外面縦位ヘラ撫で、ハケ目調整重なる。内面入念な斜位ミガキが施される
124図85 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：4.7	GW69 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	ミニチュア土器か。体部中位に径。底部器厚に比して体部薄手外面横位ヘラ削り後疎らな縦位・横位ミガキ。内面横位撫で後疎らなミガキを施す
124図86 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：3.3	HH73 底部	①粗 白色粒・黒色粒 ②明褐色 ③	緩やかな内湾を持って強く開く体部下半。やや薄手。外面横位ミガキ、内面不定方向のミガキを施す
124図87 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：4.0	HI73 底部	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	僅かな内湾を持って強く開く体部下半。底部上げ底。外面縦位ヘラ削り。内面縦位・斜位ミガキ
124図88 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：3.8	HE71 底部	①粗 白色粒 ②黒褐色 ③	直線的に開く体部。やや厚手。外面入念な不定方向のミガキ、内面横位ヘラ撫で
124図89 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：3.5	HI73 底部	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	僅かに内湾気味に開く体部下半。底部は上げ底を呈す。外面入念な横位ミガキ。内面横位ヘラ撫でを施す
124図90 図版 小型甕	口：－ 高：－ 底：5.0	HL73 底部	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	底部は僅かに突出する。体部下半は外反気味に開く。外面縦位ヘラ撫で。内面は不定方向のミガキを施す
124図91 図版48 甕	口：11.6 高：－ 底：－	HF71周辺 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部外傾し頸部屈曲する。肩部の張りはやや弱い。口唇撫でにより玉縁状。外面口縁部横撫で、体部斜位撫で後雑な縦位ミガキ。内面口縁部横撫で、体部ヘラ撫で後雑な横位ミガキ
124図92 図版 甕	口：11.4 高：－ 底：－	HJ72 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口縁部外傾。頸部屈曲し肩部の張りは弱い。外面口縁部横位ヘラ削り後疎らな横位ミガキ、体部は縦位ミガキが覆う。内面は横位撫で後横位・斜位ミガキを施す
124図93 図版 甕	口：11.3 高：－ 底：－	HE70 口縁部片	①細 石英・白色粒 ②橙色 ③	あるいは鉢か。口縁～頸部内傾する。体部上半の径か。外面口縁部横撫で、体部横位ヘラ削り後縦位ヘラ削り。内面横位・斜位ヘラ撫で
124図94 図版 甕	口：12.0 高：－ 底：－	GY67 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部外傾し頸部屈曲強い。肩部も張る。体部上半部の径か。外面口縁部横撫で後斜位ヘラ削り、体部は縦位ヘラ削り。内面口縁部横位ヘラ削り体部横位ハケ目調整
124図95 図版46 甕	口：9.6 高：－ 底：－	HA68 口縁～体上端	①粗 白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	口縁部は僅かに内湾し開く。頸部屈曲やや弱い。体部湾曲も弱く筒状をなす。外面口縁部横撫で後横位ミガキ、体部は入念な縦位ミガキのため光沢を持つ。内面口縁部横位撫で後横位ミガキ、体部斜位ヘラ撫で後疎らな横位ミガキを加える
124図96 図版46 甕	口：10.8 高：10.8 底：4.9	HJ71・HK70 口縁1/2欠損	①細 白色粒 ②鈍い橙色 ③	口縁部外傾し頸部屈曲強い。体部は球胴で中位に径を持つ。底部は突出する。外面口縁部縦位ハケ目調整後横位・斜位撫で、体部斜位・縦位ハケ目調整。底面にも至る。内面口縁部斜位撫で、体部は横位ハケ目調整を施す
124図97 図版 甕	口：16.0 高：－ 底：－	HN71 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	口縁部は直線的に長く開く。頸部屈曲も強い。薄手で内外面とも横位撫でを施す
124図98 図版47 甕	口：15.8 高：－ 底：－	HQ71 口縁部片	①粗 小礫・石英 ②鈍い黄橙色 ③	緩やかに外反する口縁部。頸部は強く屈曲し肩部の張りも強い体部中位の径か。外面口縁部横位撫で、体部横位・縦位ヘラ撫で。内面口縁部横位ヘラ撫で、体部は横位弧状ヘラ撫で
124図99 図版 甕	口：16.0 高：－ 底：－	HE70 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部は僅かに内湾気味に開く。頸部屈曲強い。外面口縁部横撫で後口頸部に斜位縦位の撫でを加える。ハケ目残る。内面口縁部横撫で、口頸部横位ミガキを施す
124図100 図版 甕	口：12.0 高：－ 底：－	HA69 口縁部片	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	口唇部角頭状。口縁部長く外傾し頸部屈曲する。肩部の張りは弱い。やや厚手の器厚。外面口縁部～体部横位・斜位ハケ目調整後体部斜位ミガキが加わる。内面口縁部横位・斜位ハケ目調整。体部横位ヘラ撫で後疎らな斜位ミガキを施す

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特徴(形態・手法等)
124図101 図版47 甕	口：13.2 高：－ 底：－	GX69 口縁～頸部片	①細 石英・白色粒 ②褐色 ③	口縁部外傾やや弱い。頸部も緩やかで肩部張りも弱い。体部中位に径を持つ。外面斜位ハケ目調整後疎らな横位ミガキを加える。内面横位・斜位ヘラ撫で後疎らな横位ミガキを施す
124図102 図版47 甕	口：14.0 高：－ 底：－	GY69 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②褐色 ③	口縁部外傾し頸部屈曲強い。肩部の張りも強い。外面口縁部横位撫で後斜位ハケ目調整。体部斜位ミガキを施す。内面横位撫で後疎らな横位ミガキが施される
124図103 図版47 甕	口：15.6 高：－ 底：－	HQ74 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②黒褐色 ③	口縁部外傾し頸部屈曲強い。肩部の張りは強い。外面口縁部横位、頸部縦位のハケ目調整後体部斜位ミガキを施す。内面口縁部横位ハケ目調整後強い斜位ミガキ。体部は斜位ヘラ撫で後斜位ミガキ
124図104 図版 甕	口：12.5 高：－ 底：－	HM71 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口唇部角頭状、口縁部外傾し頸部強く屈曲する。外面口縁部斜位ハケ目調整、体部は不定方向のハケ目。内面口縁部横位斜位ハケ目調整、体部横位ハケ目
124図105 図版 甕	口：12.0 高：－ 底：－	GX66 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口唇部角頭状、口縁部外傾し頸部強く屈曲する。外面口縁部横位撫で後縦位ハケ目調整、体部横位ミガキ。内面横位ハケ目調整後横位ミガキを加える
124図106 図版48 甕	口：17.0 高：－ 底：－	HF71周辺 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	口唇部角頭状。口縁部外傾やや弱い。頸部屈曲し体部の張りやや弱い。外面口縁部横位ヘラ撫で頸部以下斜位ハケ目調整後疎斜位ミガキ。内面横位ヘラ撫で
125図107 図版 甕？	口：17.0 高：－ 底：－	HA68 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	口唇部尖り、口縁部大きく外反する。口頸部斜位ハケ目調整後疎らな斜位ミガキ。内面横位撫で後疎らな横位ミガキ
125図108 図版 甕	口：14.0 高：－ 底：－	HK70周辺 口縁～肩部片	①細 白色粒 ②明褐色 ③	口縁部短く外傾。頸部屈曲し肩部も張る。口縁部横位撫で、体部斜位ハケ目調整後中に斜位ヘラ撫でが重なる。内面口縁部横位ハケ目調整。体部斜位ヘラ撫で後疎らなミガキ
125図109 図版 甕	口：15.0 高：－ 底：－	HP72 口縁部片	①細 白色粒 ②灰褐色 ③	口縁部やや短く外傾し頸部屈曲する。体部の張りは弱い。口縁部横撫で後口頸部斜位ハケ目調整・撫で調整後疎らな斜位ミガキを施す。内面口縁部横位ミガキ、体部横位ヘラ撫で
125図110 図版47 甕	口：16.1 高：－ 底：－	HG72 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	口縁部強く外傾し頸部屈曲も顕著。外面口縁部斜位ハケ目調整後横位撫で、体部斜位ハケ目調整。内面口縁部横位撫で、体部は斜位ヘラ削り
125図111 図版 甕	口：14.0 高：－ 底：－	HJ70 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口縁部は強く外反する。口唇部輪積み痕のため肥厚な印象を受ける。口縁部横位撫で、口頸部縦位ハケ目調整後疎らな縦位ミガキ。内面斜位ハケ目調整後斜位ミガキが加わる
125図112 図版46 甕	口：11.0 高：－ 底：－	HA71 口縁～上端部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	折り返し口縁は短く外傾する。頸部屈曲強く体部中位～上半に径を持つ。外面口縁部横撫で、体部斜位ミガキ。内面口縁部横位ミガキ、体部横位撫で後斜位ミガキを加える
125図113 図版46 甕	口：11.7 高：－ 底：－	GY69 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	折り返し口縁は短く外傾する。頸部屈曲強く体部上半に径を持つ。外面口縁部横撫で、体部は横位ハケ目調整後中位より横位ミガキが加わる。内面横位撫で後疎らな横位ミガキ
125図114 図版47 甕	口：12.0 高：－ 底：－	HA68 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	短く外傾する折り返し口縁。頸部屈曲やや弱く体部上半の径か。口縁部横撫で、体部横位ハケ目調整後横位ミガキ。内面横位撫で後横位ミガキ。口縁部は入念
125図115 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	GY70 上端部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②橙色 ③	頸部強く屈曲し、体部中位に径を持つ大型品。外面縦位ミガキ、内面横位・斜位ヘラ撫で
125図116 図版47 甕	口：－ 高：－ 底：8.0	HM72 下端～底部片	①粗 白色粒 ②橙色 ③	底部突出し内湾気味に強く開く。中に径を持つ。外面縦位・斜位ヘラ撫で、底部は入念な縦位撫で。内面は横位・斜位ヘラ撫で
125図117 図版47 甕	口：13.0 高：16.0 底：7.3	GX66 完形	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	折り返し口縁。口頸部緩やかに外傾する。頸部屈曲弱く肩部の張りも弱い。外面口縁部横位撫で指頭痕残る。口頸部縦位ヘラ削り後体部縦位ミガキ、内面横位ヘラ撫で後口縁部横位ミガキ、体部縦位ミガキを加える
125図118 図版46 甕	口：17.0 高：－ 底：－	HG71 口縁～頸部	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	折り返し口縁は短く外傾。頸部屈曲はやや弱く。体部上位～中位に径を持つ。底部はやや突出気味で体部下半は外反する。外面口縁部横位ヘラ撫で。体部横位撫で後縦位ヘラ削り、縦位ミガキを加える。内面口縁部横位ヘラ撫で、体部斜位ヘラ削り後疎らな縦位ミガキ。底面は入念に施す

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
125図119 図版47 甕	口：18.6 高：－ 底：－	GY69 口縁～肩部片	①粗 小礫・石英 ②明赤褐色 ③	折り返し口縁は短く、口頸部は大きく外反する。頸部屈曲は強く肩部の張りは強い、体部中位の径か。外面口縁部横位ハケ目調整後口頸部に横位ミガキを加える。体部斜位ハケ目調整後横位・斜位ミガキを施す。内面横位ヘラ撫でを施す
125図120 図版47 甕	口：16.7 高：－ 底：－	GX66・67・69 口縁～体上端部	①粗 白色粒 ②橙色 ③	折り返し口縁は低位。口頸部外傾し頸部は強く屈曲する。肩部の張りは強く中位に径を持つ。外面口縁部横撫で、口頸部縦位ハケ目調整。折り返し前の調整。頸部横位ミガキ、体部縦位ミガキを施す。内面横位ハケ目調整後横位ミガキを加える
125図121 図版46 甕	口：13.1 高：－ 底：－	HK70周辺 口縁～肩部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	折り返し口縁は短く外傾。頸部屈曲は強く体部中位の径か。口縁部横位撫で、体部横位ハケ目調整後横位ミガキ。内面横位撫で後横位ミガキ。体部下半が入念
125図122 図版 甕	口：11.4 高：－ 底：－	HA69 口縁～肩部片	①細 白色粒 ②暗赤褐色 ③	折り返し痕不明瞭。口縁部は短く外傾。頸部屈曲は強く体部中位に径を持つ。口縁部横撫で、口頸部～体部縦位ハケ目調整後中位よりヘラ撫でを加える。内面口縁部横位ハケ目調整。体部は斜位ヘラ撫で後疎らなミガキを施す
126図123 図版47 甕	口：10.2 高：－ 底：－	HM73 口縁～肩部片	①粗 白色粒 ②灰黄褐色 ③	折り返し口縁は低位。口唇部に僅かな歪み。口縁部長く内湾気味に開く。頸部強く屈曲し、体部上半に径を持つ。口縁部横位・体部縦位ハケ目調整。頸部にヘラ撫で加わる。内面口縁部横位ハケ目調整、体部横位ヘラ撫で後横位・斜位ミガキ
126図124 図版47 甕	口：15.6 高：－ 底：－	HP74 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	折り返し口縁。緩やかに外反する口頸部。頸部は屈曲。外面口縁部横撫で、口頸部縦位ハケ目調整後斜位ミガキ。内面口縁部横位ハケ目調整後中位より斜位ミガキを施す
126図125 図版47 甕	口：15.5 高：－ 底：－	HF70 口縁部片	①細 白色粒 ②灰褐色 ③	緩やかに外傾する折り返し口縁。口唇部沈線が巡る。外面口縁部横位撫で、指頭痕残る。口頸部斜位ハケ目調整後縦位ミガキ。内面斜位ヘラ削り後疎らな横位ミガキを施す
126図126 図版47 甕	口：17.1 高：－ 底：－	GY68・69 口縁～頸部2/3	①粗 白色粒・石英 ②鈍い橙色 ③	折り返し口縁。口頸部緩やかに外反し頸部の屈曲も不明瞭。外面口縁部横撫で、口頸部縦位ハケ目調整後沈線による斜格子文を配す。内面入念な横位ミガキ
126図127 図版47 甕	口：14.2 高：－ 底：－	HJ71 口縁部1/2	①細 白色粒 ②鈍い橙色 ③	折り返し口縁。口頸部横位撫で後沈線による波状文が施される。肩部は縦位ヘラ撫で。内面入念な横位ミガキを施す
126図128 図版47 甕	口：14.0 高：－ 底：－	GY69 口縁～肩部片	①細 白色粒 ②褐色 ③	低位の折り返し口縁。口頸部外傾し、頸部屈曲する。肩部の張りは強く体部中位の径か。口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整と縦位撫で。体部横位撫で後縦位ミガキ。内面口縁部横位撫で、体部は横位・斜位ヘラ撫で
126図129 図版47 甕	口：13.8 高：－ 底：－	HR72 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	折り返し口縁は外傾し、口頸部は若干直立気味。口縁部横位撫で後ハケ目調整。口頸部は縦位ハケ目。内面は横位ハケ目調整が覆う
126図130 図版47 甕	口：13.0 高：－ 底：－	HJ71 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	折り返し口縁。口頸部強く外反する。外面口縁部横位ミガキ。口頸部縦位・斜位ハケ目調整後縦位・横位ミガキを加える。内面口縁部は横位ミガキ、口頸部は横位撫で後斜位ミガキを施す
126図131 図版46 甕	口：15.2 高：－ 底：－	GV70 口縁部1/2	①粗 白色粒・石英 ②鈍い橙色 ③	強く外傾する折り返し口縁。口頸部緩やかな外反。頸部屈曲は強い。口縁部横撫で、口頸部は斜位ハケ目調整後縦位ミガキ。内面口縁部横位ヘラ撫で後疎らな縦位ミガキ。肩部ヘラ撫で
126図132 図版46 甕	口：－ 高：－ 底：－	GY68・69 体部	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	球胴の大型甕。頸部は屈曲し、肩部の張りは強く、体部径を中位に持つ。外面頸部縦位ハケ目調整、体部は斜位ハケ目調整後斜位ミガキを加える。下半部のミガキが丁寧。内面横位・斜位ヘラ撫でを施す
126図133 図版 壺	口：－ 高：－ 底：－	HI72 口縁部片	①細 白色粒・石英 ②鈍い橙色 ③	小破片のため、断面のみの表現。口唇部は短く直立し、口縁部上半で有段状に湾曲する。頸部は強く屈曲する。内外面とも横位撫で調整
126図134 図版47 壺	口：18.3 高：－ 底：8.0	HC70・71 口縁～底部1/2	①粗 小礫・石英 ②橙色 ③	口縁～体部上半と体部下半～底部の2点からなる。有段口縁。口縁部は緩やかな外反を呈し、頸部屈曲は強く内稜状となる。肩部は弱い張り。体部径は中位か。底部は突出し体部下半は内湾気味に開く。外面口縁部縦位ミガキ、口頸部上位は横位、下位は縦位ミガキ、体部上位は横位、中位は縦位ミガキ。下半は斜位ヘラ撫で後斜位ミガキ。内面口縁～頸部横位ミガキ、体部は横位ヘラ撫で後横位・斜位ミガキを加える

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
126図135 図版46 甕	口：16.4 高：－ 底：－	GY67～69 底部欠損	①粗 白色粒・石英 ②鈍い橙色 ③	折り返し口縁。口頸部外反し頸部屈曲弱い。体部上半に径を持つ。体部下半は緩やかな開き。口縁部横撫で、横位ハケ目残る。口頸部縦位ハケ目調整後沈線による格子目文を配す。体部は斜位ヘラ削り後斜位ミガキを重ねる。下半が入念。内面口縁部横位ミガキ、体部は斜位ヘラ撫で後横位・斜位ミガキを施す
126図136 図版47 甕	口：19.3 高：－ 底：－	HP72 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	有段口縁。口縁部外反する。口頸部外傾し頸部屈曲強い。外面口縁部・口頸部とも縦位ミガキ。内面口縁部縦位ミガキ、口頸部は横位ミガキ
126図137 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.2	HK71 底部3/4	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	突出する底部。体部下半は強く開く。外面縦位・横位ミガキ。内面細かな不定方向のミガキを施す
126図138 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.9	HL73・74 底部1/2	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	突出する底部。直線的に開く体部下半。外面縦位ミガキ、内面横位ミガキを施す
126図139 図版 甕?	口：－ 高：－ 底：5.5	GW68 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	強く開く体部下半。比較的薄手の器厚。外面縦位ヘラ撫で後斜位ミガキを施す。内面不定方向のミガキ
126図140 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.7	GV68 底部	①粗 白色粒・黒色粒 ②褐色 ③	底部は突出する。内湾気味に強く開く体部下半。底部はやや上げ底。外面横位撫で後横位ミガキ。内面不定方向の丁寧なミガキを施す
121図141 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.8	GY68 底部	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	底部は僅かに突出する。体部は直線的に開く。外面横位ミガキ。内面撫で調整後横位・斜位ミガキを疎らに施す
126図142 図版 甕?	口：－ 高：－ 底：4.4	HQ74 底部	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	あるいは増か。大きく開く体部下半。底部はやや上げ底。外面不定方向の丁寧なミガキ。内面縦位斜位の丁寧なミガキ
126図143 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.4	HJ71 底部	①粗 白色粒 ②黒褐色 ③	底部僅かに突出する。体部は若干内湾気味に開く。外面斜位ヘラ撫で後縦位ミガキ。底部にまで至る。内面不定方向のミガキを施す
127図144 図版 甕	口：－ 高：－ 底：8.4	HA68 底部	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	緩やかな内湾を持って強く開く体部下半。底部は僅かに突出し上げ底を呈す。外面丁寧な縦位ミガキ。内面も縦位ミガキ
127図145 図版 甕	口：－ 高：－ 底：8.0	HA70 底部1/2	①粗 白色粒・黒色粒 ②明褐色 ③	体部下半は外反気味に開く。底部は若干張り出し突出する。外面縦位ヘラ撫で。内面は横位ミガキを丁寧に施す
127図146 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.7	GV67 底部	①細 白色粒 ②明褐色 ③	外反気味に開く体部下半。底部は僅かに上げ底。外面縦位・横位ミガキ。内面横位撫で
127図147 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.0	GY69 底部1/2	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	底部突出し、体部下半は内湾を持って開く。やや厚手の器厚。外面横位撫で後横位・斜位ミガキ。内面不定方向のミガキ
127図148 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.0	HK70 底部	①粗 小礫・石英 ②鈍い褐色 ③	底部突出し、体部下半は内湾を持って開く。外面縦位ハケ目調整後縦位ミガキを加える。内面斜位ヘラ撫で後縦位ミガキ、底面は丁寧なミガキ
127図149 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.1	HH71 底部3/4	①粗 白色粒 ②褐色 ③	僅かに外反気味に開く体部下半。外面横位ミガキ、内面不定方向のミガキを入念に施す
127図150 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.9	HG73 底部	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	外反気味に開く体部下半。やや厚手の器厚。外面縦位ミガキ、内面丁寧な横位ミガキ
127図151 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.0	HQ72 底部	①細 白色粒 ②褐色 ③	外反気味に開く体部下半。外面縦位ヘラ削り後疎らな斜位ミガキを加える。内面撫で調整後横位ミガキ
127図152 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.0	HP72 底部	①粗 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	緩やかな立ち上がりを示す。外面縦位ヘラ削り後密な縦位ミガキを施す。内面斜位ヘラ削り
127図153 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.5	HI72 底部	①粗 白色粒 ②褐色 ③	大きく開く体部下半。僅かに上げ底を呈す。外面斜位ミガキ、内面横位ヘラ撫で。底面はヘラ削り後浅い撫でを加える

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特徴(形態・手法等)
127図154 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.5	HJ70 底部	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	底部短く突出。体部下半は外反気味に開く。底部は極僅かに上げ底。外面縦位ミガキ。内面丁寧な横位ミガキ
127図155 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.5	HL73 底部	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	底部は突出。外面端部に指頭痕。内面は不定方向のミガキ
127図156 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.5	HC70 底部1/2	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	底部突出する。器厚は厚手。外面撫で縦位ミガキ、内面横位撫で
127図157 図版47 甕	口：－ 高：－ 底：5.7	GX68・69 体～底部1/2	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	緩やかな内湾を持って開く体部下半。底部は僅かに突出。外面撫で調整後不定方向のミガキ。内面斜位ヘラ撫で
127図158 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.8	HB69 底部	①粗 白色粒 ②褐色 ③	やや歪みある器形。体部下半は僅かな内湾を持って強く開く。器厚やや薄手。外面縦位ヘラ削り後縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫でを施す
127図159 図版 甕	口：－ 高：－ 底：8.0	HE70 底部2/3	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	底部突出する。内湾気味に開く体部下半。底部は若干上げ底を呈す。器壁剥落多い。外面縦位ミガキ、内面横位撫で
127図160 図版 甕?	口：－ 高：－ 底：6.4	GY67 底部3/4	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	埴か。体部下半は内湾気味に開く。外面ヘラ削り後縦位ミガキ。内面縦位ヘラ撫で
127図161 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.1	GY69 体部～底部片	①粗 白色粒・石英 ②明褐色 ③	底部僅かに突出し、直線的に開く体部下半。底部はやや上げ底。外面横位・斜位ヘラ削り後疎らな縦位ミガキ。内面横位・斜位ヘラ撫で
127図162 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.9	HN71 底部2/3	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部強く突出する。体部下半も強く開く。厚手。外面縦位ヘラ撫で。内面撫で調整後疎らな不定方向のミガキ。底面に木葉痕残る
127図163 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.1	GW68 底部	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部突出する。体部下半は直線的に開く。外面縦位ミガキを密接に施す。内面横位ヘラ撫で後縦位ミガキが加わる
127図164 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.2	HK71 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	底部突出し内湾気味に開く体部下半。外面縦位ミガキ。内面細かな斜位撫で、指撫でか
127図165 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.0	HQ73 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	僅かに内湾気味に開く体部下半。外面縦位ヘラ削り後縦位ミガキ。内面横位撫で
127図166 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.8	GW70 底部	①粗 白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	埴か。底部僅かに突出し、体部下半は若干内湾して開く。外面横位ヘラ削り。内面不定方向の丁寧なミガキ
127図167 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.2	HC70 底部	①粗 白色粒・石英 ②黒褐色 ③	極僅かに内湾気味に開く体部下半。底部は若干上げ底。外面斜位ヘラ削り後疎らな斜位ミガキ。内面横位ヘラ撫で
127図168 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.1	HS73 底部	①粗 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	底部僅かに突出し、体部下半は若干内湾気味に開く。外面斜位ヘラ撫で後横位撫で。内面撫で調整後不定方向のミガキ。底面に木葉痕残る
127図169 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.9	HH70 底部	①細 白色粒 ②褐色 ③	埴か。底部僅かに突出し、体部下半は強く開く。上げ底を呈す。外面横位ヘラ削り後疎らな横位ミガキ。内面丁寧な横位ミガキ
127図170 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.3	HB70 底部	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	埴か。体部下半は直線的に強く開く。僅かに上げ底。外面横位ヘラ削り後疎らな斜位ミガキ。内面丁寧な横位ミガキ
127図171 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.8	HG72 底部	①粗 白色粒 ②褐色 ③	体部下半は直線的に強く開く。上げ底を呈す。器厚やや厚手。外面縦位ミガキ。内面横位撫で
127図172 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.4	HM71 底部	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	直線的に強く開く体部下半。上げ底を呈す。外面横位ヘラ削り後縦位ミガキ。内面横位・斜位ヘラ削り
127図173 図版 甕	口：－ 高：－ 底：10.0	HJ71 底部	①粗 白色粒 ②明黄橙色 ③	体部下半は緩やかに外反して開く。上げ底を呈す。外面縦位ミガキ。内面撫で

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
127図174 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.7	HJ71 底部	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	底部は僅かに突出し、体部下半は強く開く。外面横位ヘラ削り後疎らな横位ミガキ。内面不定方向のヘラ撫でを施す
127図175 図版 甕	口：－ 高：－ 底：8.2	HP72 底部	①粗 白色粒 ②灰褐色 ③	底部突出する。体部下半は強く開く。外面横位・斜位ヘラ削り。内面不定方向の丁寧なミガキ。底面に木葉痕残る
127図176 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.4	HH72 底部	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	小径の底部。体部下半は緩やかに開き全体に丸みを帯びる。僅かに上げ底。外面斜位・横位ヘラ削り。ハケ目残る。内面丁寧な斜位ミガキ
127図177 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.8	HK71 底部	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	底部僅かに突出し、外反気味に開く体部下半。外面縦位ヘラ削り後縦位ミガキを加える。内面丁寧な横位ミガキを施す
127図178 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.0	HB71 底部	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	体部下半は緩やかに開き全体に丸みを帯びる。極僅かに上げ底。外面縦位ハケ目調整後横位・縦位ミガキ。内面斜位ヘラ撫で
127図179 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.0	HA68 底部	①粗 小礫・石英 ②鈍い赤褐色 ③	底部突出し体部下半は緩やかな外反を示す。やや器厚薄手。外面縦位ミガキ。内面不定方向の丁寧なミガキを施す
127図180 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.4	HQ70 底部	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	直線的に開く体部下半。僅かに上げ底。器厚薄手。外面撫で調整後疎らな縦位ミガキ。内面横位撫で
127図181 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.4	HJ73 底部	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	底部突出し、外反気味に体部下半が開く。僅かに上げ底。やや厚手の器厚。外面横位ミガキ。内面斜位ミガキ
127図182 図版47 甕	口：－ 高：－ 底：6.0	HK70 底部	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	底部短く突出し、内湾気味に開く体部下半。体部中位に径か。薄手の器厚。外面縦位ハケ目調整後斜位ヘラ削り。内面横位弧状のヘラ撫で
127図183 図版 甕？	口：－ 高：－ 底：4.5	HH72 頸～底部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	体部中位は直立し、内湾気味の体部下半。平底。外面体部中位は横位撫で、下半は斜位ハケ目調整後横位ヘラ削り。内面丁寧な横位ミガキ。底面は器壁剥落
127図184 図版47 甕	口：－ 高：－ 底：8.0	HK69・70 底部1/2	①細 白色粒 ②鈍い橙色 ③	底部突出し、顕著な上げ底を呈す。体部下半は緩やかに開く。器厚やや厚手。外面縦位ヘラ削り後縦位ミガキ。内面横位・斜位ハケ目調整
127図185 図版47 甕	口：－ 高：－ 底：5.7	GY69 体～底部1/2	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部突出し、上げ底を呈す。体部下半は緩やかな内湾を保つ。器厚やや薄手。外面縦位ハケ目調整後疎らな縦位ミガキ。内面横位・斜位ヘラ撫で
128図186 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.2	HN73 底部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	外反気味に開く体部下半。外面縦位ヘラ撫で、内面強い横位ハケ目調整
128図187 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.2	HQ72 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部突出し体部下半は外反気味に開く。僅かに上げ底。全体に丸みを帯びる。外面縦位ハケ目調整。内面斜位ヘラ削り
128図188 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.3	HJ72 底部片	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	底部突出し、体部下半は外反気味に開く。僅かに上げ底。外面横位・斜位ハケ目調整。内面横位ヘラ撫で
128図189 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.8	HF71周辺 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	底部突出し僅かに内湾気味に開く体部下半。外面斜位ヘラ撫で後疎らな縦位ミガキ。内面丁寧な横位ミガキを施す
128図190 図版 甕	口：－ 高：－ 底：3.5	HC72 底部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	坩か。直線的に強く開く体部下半。器厚薄手。外面斜位ヘラ削り後縦位・斜位ミガキ。内面不定方向のミガキが丁寧に施される
128図191 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.1	HJ72 底部	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	小型品。底部突出し外反する体部下半。外面縦位ハケ目調整。内面横位撫で
128図192 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.5	HL73 底部片	①粗 白色粒 ② ③	体部下半は緩やかな外反を呈す。やや上げ底。外面縦位ヘラ撫で後。内面横位ヘラ撫で
128図193 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.4	HN72 底部	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部突出し、体部下半は外反気味に開く。やや器厚薄手。外面斜位ヘラ削り。内面横位ハケ目調整

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
128図194 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.5	HF70 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	底端部僅かに張り出す。外反気味に立ち上がる。底部器厚やや厚手。外面斜位ハケ目調整。内面横位ハケ目調整
128図195 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.0	HK71 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部突出し、体部下半は外反気味に開く。外面縦位ハケ目後浅い撫で。内面縦位ヘラ撫で
128図196 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.6	HJ70 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	小径で小型品か。底部突出し、体部下半は外反する。外面斜位ハケ目調整。横位ヘラ撫で
128図197 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.0	HA70 底部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	底部突出し直線的に開く体部下半。器厚厚手。外面縦位ハケ目調整・縦位ヘラ撫で。内面横位ヘラ撫で
128図198 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.4	HM71 底部片	①細 石英・白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	外反気味に開く体部下半。体部器厚薄手。外面横位ヘラ削り、内面縦位ハケ目調整
128図199 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.2	HL73 底部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	小径で大きく開く体部下半。底部器厚厚手。外面撫で後縦位ミガキ。内面丁寧なミガキを施す
128図200 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.8	HP72周辺 底部片	①粗 白色粒 ②明褐色 ③	底部突出し、内湾気味に開く体部下半。外面縦位ハケ目調整。内面斜位ヘラ撫で、内底面凹凸あり。底面木葉痕残る
128図201 図版 甕	口：－ 高：－ 底：8.6	HF71 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	底部は上げ底で突出し、体部下半は大きく開く。大型品か。外面縦位・斜位ハケ目調整。底面木葉痕残る
128図202 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.5	HJ73 底部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	坩か。緩やかな内湾を持って開く体部下半。底部やや上げ底。器厚薄手。外面斜位ヘラ削り後撫で。内面横位ヘラ撫で
128図203 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.2	HA70 底部片	①粗 小礫・石英 ②赤褐色 ③	僅かに内湾気味に開く体部下半。厚手で丸みを帯びる。外面横位ヘラ削り。内面横位撫で
128図204 図版 甕	口：－ 高：－ 底：3.8	HJ73 底部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	坩か。底部僅かに突出し内湾を持って開く体部下半。器厚薄手。外面横位ヘラ撫で、内面斜位ヘラ撫で
128図205 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HT73 底部片	①粗 白色粒 ②橙色 ③	体部下半は緩やかに外反する。僅かに上げ底。外面斜位ヘラ撫で、内面斜位ヘラ撫で
128図206 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.0	HA71 底部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	緩やかに外反する体部下半。僅かに上げ底。外面横位ヘラ削り、疎らな縦位ミガキを加える。内面横位ヘラ撫で
128図207 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.1	HM71 底部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	体部下半は僅かに内湾する。やや歪みある底部。外面縦位・斜位ヘラ削り。内面横位ヘラ撫で
128図208 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.2	GW68 底部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	体部下半は僅かに内湾気味に開く。底部も上げ底を呈す。外面横位ヘラ削り後縦位ハケ目調整。内面横位ヘラ撫で
128図209 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.8	HK73 底部	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	底部突出し体部下半は内湾して開く。外面横位・縦位ヘラ削り後雑な縦位ミガキを施す。内面横位・斜位ヘラ撫で。一部強い撫でが加わる
128図210 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.4	GW70 底部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②浅黄橙色 ③	大きく開く直線的な体部下半。外面横位ヘラ削り後雑な横位ミガキ。内面横位・斜位ヘラ撫で
128図211 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.2	GX70 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	直線的に開く体部下半。底部は極僅かに上げ底。外面横位ヘラ撫で後端部にミガキを施す。内面横位撫で
128図212 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.8	HN72 底部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部突出し、体部下半は外反する。体部は縦位ヘラ撫で、内面斜位ヘラ撫で
128図213 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.9	HN72 底部	①細 白色粒 ②橙色 ③	底部突出し、体部下半は外反する。内外面体部撫で調整

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
128図214 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.1	GY69 底部	①粗 白色粒 ②明褐色 ③	坩か。大きく開く体部下半。外面横位ヘラ撫で、内面撫で
128図215 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.9	GW69 底部片	①細 石英・白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部突出する。体部外反気味に開く。内外面撫で調整。底面木葉痕残る
128図216 図版 甕?	口：－ 高：－ 底：5.1	HJ73 底部片	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	底部強く突出する。体部は直線的に大きく開く。内外面撫で調整
128図217 図版 甕(or 蓋)	口：－ 高：－ 底：－	HM73 底部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	底部強く突出する。体部は内湾を持って開く。上げ底を呈す。外面縦位ヘラ削り後底部撫で。指頭痕残る。内面横位・斜位ヘラ撫でを施す
128図218 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.2	HF70 底部片	①粗 白色粒 ②褐色 ③	底部突出する。外反気味に開く体部下半。上げ底を呈す。外面縦位ヘラ削り後端部撫で、指頭痕顕著に残る。内面横位撫で
128図219 図版 甕	口：－ 高：－ 底：15.0	HP72周辺 底部片	①粗 小礫・石英 ②橙色 ③	外反気味に開く体部下半。平底で底径広い。大型品か。外面横位ヘラ削り、内面横位弧状のヘラ撫で
128図220 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HC68 口縁部片	①粗 白色粒 ②褐色 ③	口唇部尖り、内湾気味に開く口縁部。外面櫛描き小波状文が多段に施される。内面横位ミガキ
128図221 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HP73 口縁部	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	口唇部平坦部あり。口縁部は外反気味に開く。外面櫛描き波状文を横位多段に施す。内面横位ミガキ
128図222 図版48 甕	口：－ 高：－ 底：－	HF71周辺 口縁～頸部片	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	折り返し口縁部は外反し、頸部強く屈曲する。外面横位櫛描き波状文を施す。やや乱雑な施文。内面ミガキ
128図223 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HP72 破片	①粗 白色粒 ②褐色 ③	体部中位～下半か?。外面横位櫛描き波状文と簾状文1帯構成。比較的丁寧な施文。内面撫で
128図224 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HF70 頸部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	大きく外反する頸部。外面横位櫛描き波状文を多段に施す。内面横位ミガキ
128図225 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HF70 破片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い赤褐色 ③	肩部破片。外面横位波状文が施される。内面ミガキ
128図226 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HN71 破片	①粗 白色粒 ②褐色 ③	肩部破片。外面横位櫛描き波状文を多段に施す。内面横位ミガキ
128図227 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HN72 肩部片	①粗 白色粒 ②灰褐色 ③	頸部破片。緩やかな外反を示す。外面横位櫛描き波状文を施す。内面横位ミガキ
128図228 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA71 頸部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	頸部破片。緩やかな外反を示す。外面横位櫛描き波状文を施す。内面ミガキ
128図229 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HN71 破片	①粗 白色粒 ②黒褐色 ③	頸部破片。緩やかな外反か。外面4～5条単位の横位櫛描き波状文を施す。内面横位ミガキ
128図230 図版 甕?	口：－ 高：－ 底：－	GX70 破片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	体部上位か。外面縦位ハケ目調整後横位櫛描き波状文を施す。内面横位ハケ目調整
129図231 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HH71 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	外傾する口縁部。外面横位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文を施す。内面疎らな横位ミガキ
129図232 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HM72 口縁部片	①粗白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口唇部は尖り緩やかに外反する口縁部。外面縦位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文を施す
129図233 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HJ71 口縁部片	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	口唇部尖り、大きく外反する口縁部。外面斜位ヘラ撫で後沈線による斜格子目文を施す。整った施文。内面横位ミガキ

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
129図234 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HG71 口縁部片	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	口縁部外傾し頸部屈曲する。外面斜位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文が配される。整った施文。内面疎らな横位ミガキ
129図235 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HK70 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	口唇部尖る。外面細沈線文による斜格子目状文か。内面ミガキ
129図236 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HH73 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	緩やかに外反する口縁部。外面縦位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文を施す。内面ミガキ
129図237 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HH73 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口唇部角頭状をなす。外面縦位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文を施す。内面ミガキ
129図238 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HR74 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	外反する口縁部。斜位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文を施す。内面ミガキ
129図239 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HJ70 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	外反する口縁部。横位・斜位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文を施す。内面ミガキ
129図240 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	Ⅱ区黒色土中 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	強く外反する口縁部。口唇部横撫で。口縁部縦位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文が施される。内面撫で後横位ミガキ
129図241 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HO72 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	角頭状の口唇部を呈し、口縁部外傾する。外面縦位ハケ目調整後細沈線を施す。内面ミガキ
129図242 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HH70 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	口唇部尖り、口縁部は外傾する。外面斜位・横位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文を施す。内面横位ミガキ
129図243 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HH70 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	強く外反する折り消し口縁。外面横位・斜位ハケ目調整後斜位沈線を施す。斜格子目文か。内面横位ミガキ
129図244 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HI72 口縁部片	①細 白色粒 ②褐色 ③	口唇部尖り口縁部外反する。頸部屈曲やや弱い。外面横位・斜位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文。内面口縁部横位ミガキ、体部横位ヘラ撫で
129図245 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HH73 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	折り返し口縁。緩やかな外反を呈す。外面横位・斜位ハケ目調整後斜位沈線を施す。斜格子目文か。内面丁寧な横位ミガキ
129図246 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HM72 口縁部片	①粗 白色粒 ②灰黄褐色 ③	口唇部尖り、口縁部強く外傾する。横位ハケ目調整後斜位沈線が施される。斜格子目文か。内面横位ミガキ
129図247 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HO72 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	外傾する口縁部。外面口唇部横撫で、口縁部横位ハケ目調整後沈線による斜格子目文が施される。内面横位撫で
129図248 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HG71 頸部片	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	頸部破片。強く屈曲し、肩部は張る。外面斜位ハケ目調整後沈線による斜格子目文を施す。施文下端と思われる。内面口縁部は横位ミガキ、体部は横位ヘラ撫で
129図249 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HP73 肩部片	①粗 白色粒 ②黒褐色 ③	肩部破片。外面斜位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文。施文最下端か。内面横位ヘラ撫で後雑なミガキ
129図250 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	GY67 肩部片	①粗 白色粒 ②灰褐色 ③	肩部破片。外面斜位ハケ目調整後沈線による斜格子目文。施文最下端か。内面横位ヘラ撫で
129図251 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA67 肩部片	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	肩部破片。外面横位ハケ目調整後沈線による斜格子目文。丁寧な施文。内面ミガキ
129図252 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA67 肩部片	①粗 白色粒・石英 ②灰黄褐色 ③	肩部破片。外面縦位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文。施文最下端か。内面ミガキ
129図253 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HN72 頸部片	①粗 白色粒 ②黒褐色 ③	頸部破片。強く屈曲する。外面撫で調整後沈線による斜格子目文。内面ミガキ

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
129図254 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA67 体部片	①細 白色粒 ②灰黄褐色 ③	体部上半か。外面縦位ハケ目調整後沈線による斜格子目文を施す。内面横位ミガキ
129図255 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HK70 体部片	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	体部上半か。外面縦位・斜位ハケ目調整後細沈線による斜格子目文を施す。内面横位ミガキ
129図256 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	GY67 体部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	体部上半か。外面斜位ハケ目調整後沈線による斜格子目文を施す。内面横位ミガキ
129図257 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA68 体部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い黄褐色 ③	体部上半か。外面斜位・横位ハケ目調整後沈線による斜格子目文を施す。内面ミガキ
129図258 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HG71 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	口縁部外反する。外面輪積み痕を意図的に残し、横位撫でを加える。指頭痕残る。内面横位ハケ目調整後横位撫で
129図259 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HE71 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い橙色 ③	口縁部外反する。外面輪積み痕を意図的に残し、横位撫でを施す。指頭痕残る。内面横位ハケ目調整
126図260 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HI71 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部強く外反する。外面輪積み痕を意図的に残し、横位撫でを加える。指頭痕残る
129図261 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HE69 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い黄褐色 ③	口縁部強く外反し頸部屈曲する。口唇部は尖り内面口唇部は凹部を持つ。外面口縁部は横位撫で、輪積み痕を意図的に残す。頸部は縦位ハケ目調整。内面横位撫で
129図262 図版47 甕	口：－ 高：－ 底：－	GX66・67 口縁部片	①細 白色粒 ②褐色 ③	外反する折り返し口縁。頸部は緩やかに屈曲する。比較的薄手。外面口縁部横位撫で、口頸部は縦位ハケ目調整。内面は横位ミガキを施す
129図263 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HM72 口縁部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	外反する折り返し口縁。外面斜位ハケ目調整。内面横位ヘラ撫で
129図264 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HK70 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	強く外反す折り返し口縁部。折り返し部は低位。外面口縁部横位撫で、口頸部縦位ハケ目調整。内面横位ミガキ
129図265 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HK72 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	緩やかに外反する折り返し口縁。頸部屈曲は弱いか。口縁部横位撫で、口頸部縦位ハケ目調整。内面横位ミガキ
129図266 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	H I 73 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	外傾する折り返し口縁。外面口縁部横位ハケ目調整、口頸部斜位ハケ目調整。内面横位撫で
129図267 図版47 甕	口：27.9 高：－ 底：－	HA69 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	口唇部に歪み有り。折り返し口縁で、直立気味に外傾する口縁部。外面口縁部横位ハケ目調整、頸部縦位ハケ目。内面は横位ハケ目調整後に疎らなミガキが加わる
129図268 図版 甕？	口：－ 高：－ 底：－	HF71周辺 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②明赤褐色 ③	鉢あるいは片口か。折り返し口縁部短く外傾する。体部は内湾する。器厚薄手。外面口縁部横位ハケ目調整。体部斜位ハケ目。内面は横位ヘラ撫で
129図269 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HC72 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	折り返し口縁部は外傾し、頸部強く屈曲する。外面折り返し部横位ハケ目調整、口頸部縦位ハケ目調整。内面横位ハケ目調整後疎らなミガキを施す
130図270 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HQ72 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い橙色 ③	大きく外反する折り返し口縁部。折り返しは幅広く低位。外面口縁部は 横位・斜位ハケ目調整、口頸部縦位ハケ目。内面横位撫で後横位ミガキ
130図271 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	GY70 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	折り返し口縁部は短く外傾し、頸部は強く屈曲する。外面横位ハケ目調整後細沈線による斜位に施す。おそらく斜格子目文か。内面横位撫で後疎らなミガキ
130図272 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA71 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	折り返し口縁部は短く外傾。外面横位ハケ目調整後細沈線を斜位に施す。斜格子目文か。内面ミガキ
130図273 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	GX70 頸部片	①粗 白色粒 ②褐色 ③	頸部屈曲はやや弱い。器厚薄手。外面縦位ハケ目調整後斜位沈線が施される。施文下端か。内面は口縁部横位ミガキ、体部横位ヘラ撫で

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
130図274 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HM72 口縁部片	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	強く外反する折り返し口縁部。器厚薄手。外面縦位ハケ目調整のため折り返し低位。内面横位ヘラ撫で後疎らなミガキ
130図275 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HN71 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	口縁部外傾。頸部屈曲弱い。やや厚手の器厚を呈し凹凸もある。外面口縁部横位ハケ目調整、口頸部縦位ハケ目。内面口縁部横位、頸部斜位ハケ目調整
130図276 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HL73 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	口唇部尖り口縁部外傾する。外面口唇部横位ハケ目調整、以下斜位・横位に施される。内面横位撫で後ミガキ
130図277 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HC67 口縁部片	①細 白色粒 ②明褐色 ③	口唇部尖り口縁部内湾気味に外傾する。外面口唇部横位ハケ目調整、以下斜位ハケ目。内面横位ハケ目後丁寧なミガキ
130図278 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HB71 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	口唇部尖り口縁部外傾する。外面口唇部横位ハケ目調整、以下斜位ハケ目。内面横位ハケ目調整後ミガキを施す
130図279 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	GX69 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②灰褐色 ③	口唇部尖り口縁部外傾する。頸部は強く屈曲する。外面横位・斜位ハケ目調整。内面丁寧な横位ミガキ
130図280 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HH71 口縁部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	口縁～頸部一体化し強く外反する。器厚薄手。外面横位撫で口頸部縦位ハケ目調整。内面横位ハケ目調整後撫でを加える
130図281 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HF71 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部外反し頸部屈曲する。口縁部横位ハケ目調整、口頸部斜位ハケ目。内面丁寧なミガキを施す
130図282 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	GW69 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口縁部外傾し頸部やや弱く屈曲する。器厚薄手。口唇部横位撫で、口頸部斜位ハケ目調整。内面丁寧なミガキ
130図283 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HM71 口縁部片	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部強く外傾し頸部やや弱く屈曲する。外面口唇部横位撫で、口頸部縦位ハケ目調整。内面口縁部横位撫で以下横位ハケ目調整
130図284 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HQ72 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	口縁部外傾する。外面口唇部横位撫で、以下縦位ハケ目調整。内面横位撫で後雑なミガキ
130図285 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HG72 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	口唇部角頭状をなす。口縁部は緩やかに外傾する。外面縦位・斜位ハケ目調整、内面横位・斜位ハケ目
130図286 図版 甕？	口：－ 高：－ 底：－	HN71 口縁～肩部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部直立気味に外傾。肩部は張る。薄手の器厚を呈す。外面横位ハケ目調整、頸部～体部斜位矢羽根状ハケ目調整。内面横位ハケ目調整
130図287 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HJ73 口縁～肩部片	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	口縁部は短く外傾し、頸部屈曲する。肩部の張りは弱い。口縁部横位撫で、体部縦位ハケ目調整
130図288 図版 甕？	口：－ 高：－ 底：－	HA71 肩部片	①細 石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	内湾する体部形態。頸部は屈曲する。器厚薄手。頸部に刺突列が加わる。内面撫で
130図289 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HM72 肩部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口縁部外傾し、頸部は強く屈曲する。外面斜位ハケ目調整後頸部斜格子目文を施す。内面横位弧状のハケ目調整
130図290 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HM71 体部片	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	内湾気味の体部。外面斜位ハケ目調整。内面横位撫で
130図291 図版 甕？	口：－ 高：－ 底：－	HB68 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部外傾し、折り返し端部顕著。端部に棒状刺突文を施す
130図292 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA67 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	外反する口縁部破片か。縦位ハケ目調整後沈線を施す。内面ミガキ調整
130図293 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA67 肩部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	内傾する肩部破片か。縦位ハケ目調整後沈線を施す。内面ミガキ

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
130図294 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA67 脚部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	台付き甕脚部か。直線的に開く。外面縦位ハケ目調整後撫でを加える。内面横位・斜位ハケ目調整
130図295 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HJ73 底部片	①粗 白色粒 ②橙色 ③	底部僅かに突出する。大きく開く体部下半。外面横位撫で、底面に木葉痕残る
131図296 図版47 台付き甕？	口：－ 高：－ 底：10.0	GX70 底部片	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	体部下半は内湾を持って開く。脚部は直立し裾部は大きく開く。脚部器厚極めて厚い。外面体部斜位ヘラ削り、脚部斜位ヘラ撫で、指頭痕残る。内面は撫で
131図297 図版 台付き甕？	口：－ 高：－ 底：6.0	HB60 脚部片	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	小型品か。脚部は低く直線的に開く。底部器厚厚手。外面横位撫で、指頭痕残る。内底面は撫で、脚部は横位ヘラ削りを施す
131図298 図版47 台付き甕	口：12.7 高：－ 底：－	HS73 口縁～肩部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部は外傾し中位外稜は突出気味。肩部の張りは弱い。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、肩部に指頭痕明瞭に残る
131図299 図版47 台付き甕	口：14.0 高：－ 底：－	HJ71 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部強く外傾し、中位外稜はやや鋭い。肩部の張りは強い。体部斜位ハケ目調整後強い斜位撫でが重なる。内面口縁部横撫で、肩部指頭痕残る
131図300 図版47 台付き甕	口：15.7 高：－ 底：－	JY69 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部外傾し、中位外稜やや弱い。肩部の張りは内湾を持って強い。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整後肩部に横位1条加わる。内面口縁部横撫で、体部横位ヘラ撫で
131図301 図版47 台付き甕	口：15.0 高：－ 底：－	HJ71 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②明黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部強く外傾し、中位外稜鋭い。肩部は内湾を持って強く張る。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部横位弧状ヘラ撫で
131図302 図版 台付き甕	口：14.0 高：－ 底：－	HA68 口縁部片	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	S字状口縁。口縁部強く外傾し、中位外稜鋭い。頸部屈曲も強く肩部も大きく張る。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整後肩部に横位調整が加わる。内面口縁部横撫で、肩部指頭痕残る
131図303 図版47 台付き甕	口：14.9 高：－ 底：－	HF71 口縁部片	①細 白色粒 ②灰黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部強く外傾し、中位外稜やや弱い。肩部の張りはやや弱い。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部斜位ヘラ撫で
131図304 図版47 台付き甕	口：12.8 高：－ 底：－	HJ70 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部外傾し、中位外稜緩やか。肩部の張りもやや弱い。外面口縁部横撫で、体部縦位・斜位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部横位ヘラ撫で
131図305 図版47 台付き甕	口：15.2 高：－ 底：－	HC67 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部外傾し、中位外稜緩やか。肩部の張り弱い。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部指頭痕残る
131図306 図版 台付き甕	口：15.1 高：－ 底：－	HB68 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部強く外傾し中位外稜鋭い。頸部屈曲はやや弱い。外面口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整。内面口縁部横撫で
131図307 図版 台付き甕	口：14.2 高：－ 底：－	HM72 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②暗褐色 ③	S字状口縁。口縁部外傾し中位外稜鋭い。頸部屈曲はやや強い。外面口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部斜位ヘラ撫で
131図308 図版47 台付き甕	口：15.6 高：－ 底：－	HP73 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②灰黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部強く外傾し、中位外稜やや弱い。頸部屈曲は強い。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部不定方向の指撫でを施す
131図309 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HG72 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁。口縁部外傾し、中位外稜やや鋭い。肩部張る。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部撫で、指頭痕残る
131図310 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HI73 口縁部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄色 ③	S字状口縁。口縁部強く外傾し中位外稜も鋭い。やや肥厚する。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部撫で
131図311 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HI70 口縁部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	S字状口縁。口縁部強く外傾し、中位外稜やや弱い。肩部の張りも弱い。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部撫で
131図312 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HH70 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②橙色 ③	S字状口縁。口縁部強く外傾し、中位外稜弱く肩部の張りも緩やか。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部撫で

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
131図313 図版47 台付き甕	口：－ 高：－ 底：7.3	HK71 脚部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	小型品か。小径で内湾気味に開く脚部。体部も狭い立ち上がり。脚部端部内面短く折り返す。外面縦位ヘラ削り後疎らな縦位ミガキ。内面底面は平滑な撫で、脚部は横位ヘラ撫で、折り返し部に指頭痕残る
131図314 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：7.9	GX67 脚部片	①粗 白色粒 ②褐色 ③	緩やかに内湾気味に開く脚部。体部立ち上がりは狭い。外面接合部縦位撫で後脚部は横位・斜位ヘラ撫で後斜位ミガキ。内面脚部斜位ヘラ撫で。端部は強いヘラ撫でを施す
131図315 図版47 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.0	HC67 脚部	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	内湾気味に開く短足脚部。体部の開きは広い。外面斜位ヘラ撫で後横位・斜位ミガキ。内面底面は撫で、脚部は斜位ヘラ撫で
131図316 図版47 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.3	GY69 脚部片	①細 白色粒 ② ③	外反気味に開く脚部。外面斜位撫で後縦位ミガキ、端部は横位ミガキを施す。内面底面はミガキ、脚部は横位撫で後不定方向のミガキ
131図317 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：8.0	HB71 脚部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	直線的に開く脚部。やや厚手。外面縦位ミガキ後下半は横位ミガキが入念に施される。内面横位・斜位ミガキ
131図318 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.0	GX70 脚部片	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	直線的に開く脚部。薄手の器厚。外面斜位ヘラ撫で後疎らな縦位ミガキ。内面は横位・斜位ヘラ撫でを施す
131図319 図版47 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.0	HP74 脚部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	体部下半は内湾気味に開き、脚部は外反する。底部器厚厚手。外面体部横位ミガキ、脚部斜位ハケ目調整後下位に横位撫で、上位に疎らな縦位ミガキを加える。内面底面は丁寧なミガキ、脚部は横位ヘラ撫で
131図320 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.2	HC71 脚部片	①細 石英・白色粒 ②明黄橙色 ③	直線的に強く開く脚部。内面端部は短く折り返す。外面縦位ヘラ撫で後疎らな縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で。端部内外面に指頭痕顕著に残る
131図321 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.5	HO73 脚部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	S字状口縁台付き甕か。直線的に開く脚部。内面端部は短く折り返す。やや薄手の器厚。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で、内面上位縦位撫で下位は斜位撫で
131図322 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.3	HO73 脚部片	①細 白色粒 ②鈍い橙色 ③	直線的に開く脚部。内面端部は短く折り返す。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で。内面斜位ヘラ撫で、折り返し部指頭痕残る
131図323 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：8.0	HJ72 脚部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	直線的に開く脚部。端部角頭状をなす。外面斜位ハケ目調整後疎らな縦位ミガキを施す。内面上位斜位撫で、下端は横位ハケ目調整が連続する
131図324 図版47 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.6	GY69 底部1/2	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁台付き甕。体部下半は内湾気味に開く。脚部も緩やかな内湾を見せ、内面端部は折り返す。外面体部縦位ハケ目調整後強い撫でを斜位に加える。脚部は斜位ハケ目調整後下半は横位撫で、上半は縦位撫でを施す。内面体部は横位ヘラ撫で、脚部は縦位ヘラ撫で。下端部指頭痕残る
131図325 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HJ70 底部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁台付き甕。体部下半は内湾気味に開く。外面体部縦位で。ハケ目調整後斜位撫でを加える。脚部も斜位ハケ目後に縦位撫で。内面体部は横位ヘラ撫で、底面は不定方向のヘラ撫で。脚部は縦位撫でを施す
131図326 図版47 台付き甕	口：－ 高：－ 底：8.8	HK70周辺 脚部	①細 白色粒・黒色粒 ②橙色 ③	S字状口縁台付き甕か。直線的に開く脚部。内面端部は短く折り返す。外面斜位ヘラ撫で後縦位ミガキ。内面横位撫でを施す。指頭痕明瞭に残る
131図327 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HJ72 脚部片	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁台付き甕。体部下半は大きく開き、脚部の開きは弱い。外面斜位ハケ目調整後脚部中位より縦位撫でを加える。内面底面はヘラ撫で。当て目残る。脚部は縦位撫でを施す
131図328 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.0	HG72 脚部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁台付き甕か。強く開く直線的な脚部形態。脚部接合では表皮粘土の剥落痕跡と下層の斜位ハケ目調整が看取される。上層はハケ目調整と縦位撫でが加わる。内面は横位ハケ目調整後上位に撫でが施される
131図329 図版47 台付き甕	口：－ 高：－ 底：11.0	HG71 脚部	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	S字状口縁台付き甕。直線的に開く脚部形態。内面端部は折り返す。外面斜位ハケ目調整後下半は横位・斜位撫で、上半は縦位撫でが加わる。内面は縦位弧状の撫で、折り返し部の指頭痕顕著
131図330 図版47 台付き甕	口：－ 高：－ 底：11.0	HK71 脚部片	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い橙色 ③	S字状口縁台付き甕。直線的に開く脚部形態。内面端部は折り返す。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で、内底面は撫で、脚部は縦位撫でを施す

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
131図331 図版47 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.0	HL70 脚部	①粗 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁台付き甕。脚部の開きやや弱く内湾気味に開く。内面端部の折り返しは短く低位。外面粗いハケ目調整を斜位に施し横位撫でと縦位撫でを加える。内面横位撫で
131図332 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.3	HJ71 脚部片	①細 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁台付き甕。強く直線的に開く脚部形態。内面端部は短く折り返す。外面斜位ハケ目調整後下半横位撫で、上半縦位撫でを加える。内面横位斜位ヘラ撫で。下端指頭痕残る
131図333 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.4	HM71 脚部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	S字状口縁台付き甕。強く開く脚部形態。内面端部は短く折り返す。外面横位斜位撫で。内面横位撫で。端部内外面は指頭痕が残る
132図334 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HK71 脚部	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	小型品か。短足で外反気味に開く脚部形態。底部器厚は厚手。外面縦位・斜位ハケ目調整。内面斜位ヘラ撫で。接合部の接合刺突痕明瞭に残る
132図335 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：6.0	HM72 脚部	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	小型品。短足で直線的に開く脚部。外面斜位ハケ目調整後縦位ミガキ。内面底面はミガキ、脚部上位は斜位撫で、下位はハケ目調整
132図336 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HP72 脚部	①細 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁台付き甕。直線的に開く脚部。やや開きが弱い。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で。内面上位は縦位撫で、下位は斜位ヘラ撫でを施す
137図337 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HG・AG72 脚部	①細 白色粒 ②鈍い黄橙色 ③	S字状口縁台付き甕。直線的に開く脚部。外面斜位ハケ目調整後縦位撫で。内面上位は縦位指撫で、下位は縦位ヘラ撫で
132図338 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：12.0	HB68 脚部	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	やや歪み有る器形。内湾気味に開く脚部。端部は肥厚する。外面斜位ハケ目調整後端部指撫で、指頭痕残る。内面横位・斜位ヘラ撫でを施す
132図339 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.1	HF71周辺 脚部	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	外反気味に開く体部下。孔は底面中央に穿たれる。外面縦位ハケ目調整。内面横位撫でを施す
132図340 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.1	GX69 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	直線的に開く体部下。単孔で底面中央に穿たれる。外面斜位ヘラ撫で後下端は再度横位ヘラ削り調整を加える。内面は不定方向の入念なミガキを施す
132図341 図版 甕	口：－ 高：－ 底：6.1	HB68 底部	①粗 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	外反気味に開く体部下。底面中央の単孔。外面斜位ヘラ撫で。内面は丁寧な斜位ヘラ撫で後疎らなミガキを加える
132図342 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.6	HQ74 底部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	底部小径で外反気味に開く体部下。底面中央の単孔。外面斜位ハケ目調整後縦位ミガキ。内面は丁寧な横位ミガキを施す
132図343 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.8	HJ70 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い黄橙色 ③	やや大型品か。緩やかに内湾気味に開く体部下。単孔で底面中央に設けられる。外面は縦位ミガキが覆う。内面横位ヘラ撫で後疎らな縦位ミガキ
132図344 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.1	GY70 底部片	①粗 白色粒・石英 ②明褐色 ③	内湾気味に開く体部下。底面中央に単孔を設ける。器厚薄手。外面入念な縦位ミガキ。内面横位・斜位ミガキ。内面器壁剥落
132図345 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.5	GX70 底部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	緩やかに内湾気味に開く体部下。ほぼ底面中央の単孔。器厚はやや薄手。外面丁寧な縦位ミガキ。内面体部中央は横位ミガキ、下位は斜位ミガキを施す
132図346 図版 甕	口：－ 高：－ 底：4.1	HH72 底部片	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	緩やかに内湾気味に開く体部下。底面中央の単孔。外面丁寧な縦位・斜位ミガキ。内面も斜位ミガキが丁寧に施される
132図347 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HA68 口縁～頸部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	折り返し口縁。緩やかに外反する。外面口縁部～口頸部横位波状文を多段に施す頸部に斜位ハケ目調整が加わる。内面口縁部横位ハケ目調整を施し、横位ミガキが重なる
132図348 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HO～HR72～74 体部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	体部破片3点からなる。外面は斜位ハケ目調整後縦位ミガキを施す。内面は横位・斜位ハケ目調整を施す。内面器壁剥落
132図349 図版48 大甕か	口：－ 高：－ 底：－	HG72・73 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③須恵器	須恵器大甕。F P下で出土している。口縁部は直立し受け口状となす。口頸部も内傾気味に直立する。轆轤整形後撫で調整
132図350	図版45 HK72	管玉	長：1.8 幅：0.5 厚：0.5 重：0.7	蛇紋岩
132図351	図版45 HK72	管玉	長：1.9 幅：0.5 厚：0.5 重：0.9	蛇紋岩
132図352	図版45 黒色土中	砥石	長：6.3 幅：2.6 厚：2.0 重：449.0	砂岩

Ⅲ 検出された遺構と遺物

132図353	図版45 HL72	砥石	長：7.7 幅：2.2 厚：1.5 重：9.4	頁岩
132図354	図版45 HL72	砥石	長：8.5 幅：3.6 厚：0.8 重：24.1	緑色片岩

Ⅲ区遺構外出土遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
133図1 図版 鉢?	口：10.8 高：- 底：-	LA76 口縁部片	①粗 白色粒 ②鈍 い橙色 ③	器形歪む。口唇部尖る。口縁～体部一体化し内湾する。比較的薄手の器厚。口縁部横位撫で、体部斜位ハケ目調整。内面横位ヘラ撫でを施す
133図2 図版48 埴	口：10.2 高：6.6 底：3.2	Ⅲ-2区水田下 ほぼ完形	①細 白色粒 ②明 赤褐色 ③	口縁部長く外反気味に開き、頸部屈曲は緩やか。体部上半に径を持つ。底部は僅かな凹み底。外面口縁部斜位撫で、口頸部縦位撫で、体部は横位ヘラ撫で。内面口縁部斜位ヘラ削り後撫で、横位ミガキが加わる。体部は丁寧な不定方向のミガキを施す
133図3 図版48 坏	口：10.1 高：4.2 底：4.8	HY72 ほぼ完形	①細 白色粒 ②赤 褐色 ③	口縁部僅かに内湾するが、体部とほぼ一体化して開く。体部下半は外反気味で、底部は若干上げ底。薄手の器厚を呈し、端正な作り。内外面とも丁寧な横位ミガキを施す
133図4 図版48 鉢	口：12.4 高：6.4 底：4.1	IE74 完形	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	口縁～体部緩やかに一体化し僅かに内湾する。体部下半は外反気味で底部は上げ底を呈す。体部器厚に比して底部は厚い。外面口縁部横位ミガキ、体部は斜位ミガキ。内面も口縁部横位・体部斜位ミガキを施す。丁寧な調整である
133図5 図版48 鉢	口：12.0 高：- 底：-	IE75 口縁部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口唇部尖る折り返し状口縁。口縁～体内湾気味に一体化し開く外面口縁部斜位撫で、体部斜位ハケ目調整後縦位・横位ミガキが加わる。内面横位・斜位撫で後疎らな斜位ミガキが施される
133図6 図版48 鉢	口：19.0 高：9.2 底：6.8	HY74 ほぼ完形	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	口縁部緩やかに外反し、体部中位に径を持つ。器厚薄手で整った器形を呈す。外面斜位ヘラ削り後横位ミガキ、内面口縁～体部上位は横位ミガキ、下位は斜位ミガキを丁寧に施す
133図7 図版 壺?	口：- 高：- 底：-	Ⅲ-2区水田下 口縁部片	①細 石英・白色粒 ②橙色 ③	口唇部尖り口縁部緩やかに内湾する。頸部は緩やかな湾曲で肩部の張りは弱い。口唇部に横位櫛描波状文、頸部には簾状文か。内面は横位撫で後横位研磨を施す
133図8 図版 器台	口：9.0 高：- 底：-	IG77 坏部1/4	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部は小径で、坏部内湾気味に開く。底面の孔は中央に設けられる。器厚薄手で後横位ミガキ、接合部は縦位ミガキ。内面丁寧な横位撫でを施す
133図9 図版48 器台	口：10.4 高：- 底：-	HY72 坏部	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	口唇部尖り、坏部内湾気味に開く。脚部は緩やかな外反か。底面孔は12 口縁部横位撫で、体部斜位ヘラ撫で後下半斜位ミガキ、接合部～脚部入念な縦位ミガキ。内面坏部は横位ミガキ。光沢を持つ。脚部は縦位撫で
133図10 図版48 ミニチュア土器	口：3.5 高：5.0 底：4.3	HY72 ほぼ完形	①細 白色粒 ②橙色 ③	器形やや歪む。折り返し口縁か?口唇部の一部に粘土帯を付す。口唇部は尖り、口縁～体部は内湾を持って内傾し、底部は突出する平底。外面縦位撫で、内面弱い撫で。輪積み痕顕著に残る
133図11 図版48 ミニチュア土器	口：7.4 高：4.5 底：5.2	HY74 完形	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	広口甕か。器形やや歪む。外傾する幅広の折り返し状口縁。粘土帯の継ぎ目が顕著。体部は内湾し、底部径やや広い。外面撫で調整。指頭痕残る。内面横位ヘラ撫で
133図12 図版48 壺	口：- 高：- 底：10.3	HY74 1/2	①粗 白色粒・石英 ②明褐色 ③	大型品の体部下半。内湾を持って開く体部下半。体部中位に径を持つか。器厚は薄手。外面体部中位横位ミガキ、下位は斜位ミガキ。内面は横位ヘラ撫で。内外面とも器面磨減
133図13 図版48 高坏	口：15.7 高：13.2 底：9.9	IC77 3/4	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	坏部内湾気味に一体化して開く。脚部はやや長く裾部強く開く。外面坏部横位撫で後入念な斜位ミガキ。下半に集中する。脚部は縦位ハケ目調整後上半に縦位ミガキを加える。内面坏部は横位撫で後斜位ミガキ。底面は丁寧。脚部上半は縦位指撫で、下半は横位ヘラ撫でを施す
133図14 図版48 高坏	口：16.0 高：- 底：-	HY72周辺 坏部	①細 石英・白色粒 ②鈍い褐色 ③	坏部内湾気味に一体化して開く。脚部接合痕明瞭。やや厚手の器厚。外面斜位ミガキ。下半～接合部は丁寧。内面縦位・斜位ミガキ。底面は丁寧で光沢を持つ
133図15 図版48 高坏	口：- 高：- 底：-	IC77 脚部	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	緩やかに外反する脚部形態。裾部がやや強く開く。外面斜位ヘラ撫で後縦位ミガキ。下半はやや疎ら。内面上端部に絞り目残る。縦位・横位撫で後裾部に横撫でを加える
133図16 図版48 ミニチュア土器	口：8.2 高：4.9 底：4.3	IB75 完形	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	広口甕か。幅広の折り返し状口縁が外傾する。体部は緩やかに内湾する。外面口縁部横位ハケ目調整、体部は斜位ハケ目調整。折り返し端部に指頭痕。内面口縁部横位ハケ目、体部は横位ヘラ撫で、折り返し部対応域に指頭痕

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
133図17 図版48 ミニチュア土器	口：7.8 高：6.6 底：3.8	IJ74 ほぼ完形	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	小型甕か。外傾する折り返し口縁、体部内湾し上位に径を持つ。底部はやや不安定。底部厚手。外面撫で調整。指頭痕明瞭。内面口縁部横位・斜位ハケ目調整、体部縦位・横位撫で
133図18 図版48 ミニチュア土器	口：7.3 高：6.7 底：3.6	HY72 完形	①細 白色粒 ②橙色 ③	折り返し状口縁か。口唇部尖り口縁部直立する。体部内湾し上半に径を持つ。底部上げ底。口縁部横位撫で、体部斜位ハケ目調整後縦位撫でを加える。内面口縁部横位撫で、体部斜位ヘラ撫で。体部下半に小孔。焼成前の穿孔と見た
133図19 図版48 小型甕	口：7.2 高：7.0 底：4.0	HX75 ほぼ完形	①細 石英・白色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部外傾し、頸部強く屈曲する。体部内湾し上半に径を持つ。底部はやや上げ底。外面口縁部横撫で、体部上半は強い斜位ハケ目調整後下半は斜位ヘラ撫でと横位ヘラ削りを施す。内面口縁部横位ハケ目調整、体部は斜位ヘラ撫で。ヘラ当て目残る
133図20 図版48 小型甕	口：7.8 高：6.8 底：4.2	HX・Y74・75 1/2	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部外傾し、頸部内面の屈曲が顕著。体部中位に径を持ち、底部は若干上げ底。外面口縁部横撫で、体部斜位ハケ目調整後下半に斜位ヘラ撫でを加える。内面口縁部横位ハケ目調整、体部上半は斜位ハケ目、下半はヘラ撫でを施す
133図21 図版48 埴?	口：- 高：- 底：5.0	HX75 頸～底部片	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	径広く扁平な印象。口縁部外反し、浅い外縁を頸部に作出する。体部上位に径を持つ。底部は凹み底。外面頸部縦位ハケ目調整、体部は斜位ヘラ撫で後疎らな横位ミガキ。内面頸部横位ミガキ、
134図22 図版49 小型甕	口：8.8 高：7.2 底：5.0	I区黒色土 ほぼ完形	①粗 白色粒 ②褐色 ③	体部斜位ヘラ撫で後横位・斜位ミガキを疎らに施す 口縁部外傾し頸部強く屈曲する。球胴で体部中位に径を持ち、底部は僅かに突出する。上げ底を呈す。外面口縁部横位撫で、体部斜位ヘラ撫で。内面口縁部横位ヘラ撫で、肩部に指頭痕、下半は横位ヘラ撫で
134図23 図版49 小型甕	口：8.7 高：8.0 底：4.5	I区黒色土 口縁部3/4欠損	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	口縁部外傾し頸部強く屈曲する、球胴で体部中位の径は顕著。底部は上げ底。外面口縁部横撫で、頸部縦位・体部斜位ハケ目調整後横位ミガキを加える。内面斜位ヘラ撫で後疎らな斜位ミガキを加える
134図24 図版49 小型甕	口：10.8 高：10.0 底：4.1	IE75 ほぼ完形	①粗 白色粒・石英 ②黒褐色 ③	口縁部外傾し頸部強く屈曲する。球胴で体部上位に径を持ち、底部は僅かに上げ底。外面口縁部横位撫で、頸部縦位ハケ目調整後体部に横位・斜位ミガキを施す。内面斜位ヘラ撫で後疎らな不定方向のミガキを加える。均整の取れた作り
134図25 図版49 小型甕	口：10.3 高：- 底：-	HY76 口縁部片	①細白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口縁部短く外傾し、頸部強く屈曲する。球胴で体部中位に径を持つ。外面口縁部横位撫で後頸部～体部斜位ハケ目調整。内面口縁部横位ハケ目調整、肩部横位ヘラ削り後体部横位撫で
134図26 図版48 小型甕	口：11.0 高：10.6 底：3.9	HY72 ほぼ完形	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	外傾する折り返し口縁。頸部屈曲は緩やか。外部中位に径を持ち底部は突出気味に外反する。外面口縁部横位ハケ目調整後雑なミガキ、体部斜位ハケ目調整後疎らな斜位ミガキを加える。内面口唇部ハケ目残る。以下横位弧状のヘラ撫でを施す
134図27 図版48 小型甕	口：11.0 高：- 底：-	HX75 口縁～体部片	①粗白色粒 ②赤褐色 ③	口縁～頸部緩やかな外反を呈す。体部上半の径か。外面口縁部横撫で、頸部斜位ハケ目調整、体部斜位・横位ミガキを施す。内面口唇部横撫で、以下斜位ハケ目調整後横位ミガキを加える
134図28 図版49 小型甕	口：- 高：- 底：4.6	ID75 体～底部	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	内湾する体部器形。中位に径を持つか。底部は僅かに突出する。外面横位ヘラ撫で後下半に縦位ヘラ撫でが重なる。内面横位・斜位ヘラ撫でを施す
134図29 図版49 小型甕	口：- 高：- 底：6.0	HY76 体～底部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	内湾する体部器形。中位に径を持ち底部は顕著に突出する。底部器厚も厚手。外面斜位ヘラ撫で後疎らな縦位ミガキを加える。内面横位ヘラ撫で調整後に雑なミガキを中位に施す
134図30 図版49 小型甕	口：11.4 高：9.8 底：4.4	IA75 口縁部3/4欠損	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口縁部外傾し頸部強く屈曲する。球胴で体部中位に径を持ち、底部は僅かに上げ底。外面口縁部横撫で、頸部縦位ハケ目調整後体部に横位ミガキを施す。内面口縁部横位ヘラ撫で、体部斜位ヘラ撫で後斜位ミガキを丁寧に施す。均整の取れた作り
134図31 図版49 埴	口：- 高：- 底：3.8	IC77 頸～底部1/2	①粗 白色粒 ②灰褐色 ③	頸部強く屈曲する。体部は球胴で中位に径を持つ。底部は凹み底を呈す。器厚薄手。外面横位ヘラ削り後、上半縦位ハケ目調整、縦位撫でを加える。内面斜位ヘラ撫でを施す
134図32 図版49 甕	口：16.2 高：- 底：-	HX76 口縁部片	①粗 白色粒 ②灰褐色 ③	口縁部外傾し頸部屈曲する。肩部は張る。外面口縁部横撫で、口唇部斜位ハケ目調整、体部横位ミガキ。内面斜位ヘラ撫で後口縁部横位横位ミガキ、肩部雑なミガキを加える
134図33 図版49 甕	口：14.0 高：- 底：-	HY72 口縁～体部片	①細 白色粒 ②灰褐色 ③	口唇部は尖り口縁部は短く外傾する。頸部屈曲強い。肩部の張りは強く体部上半の径か。外面口縁部横撫で、頸部縦位ハケ目調整後斜位ミガキ。内面口縁部横位撫で、体部斜位ヘラ撫で

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
134図34 図版48 甕	口：13.0 高：－ 底：－	HY72 口縁～体部1/2	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	口唇部角頭状。口縁部外傾し、頸部強く屈曲する。肩部も張り、体部中位に径を持つ球胴状の体部器形。外面口唇部横位・斜位ハケ目調整後頸部斜位ヘラ撫で、体部は縦位撫で後縦位ミガキ、上半に横位ミガキを加える。内面横位ヘラ撫で後体部中位下半に疎らな横位ミガキを施す
134図35 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：7.0	IC71 底部	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	外反気味に開く体部下半。底部は上げ底を呈す。外面撫で調整後縦位ミガキ。内面横位ヘラ撫で後不定方向の疎らなミガキを施す
134図36 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：7.9	IE77 底部片	①細 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	やや強く開く体部下半。外面縦位ミガキ。内面横位・斜位ヘラ撫で後複雑な横位ミガキを加える
134図37 図版49 甕	口：16.7 高：－ 底：－	IC77 口縁～体部1/2	①粗 白色粒・黒色粒 ②橙色 ③	大型品。外反気味に開く口縁部。頸部屈曲は強く肩部も張る。体部中位の径。外面口唇部横撫で、口縁～体部中位は縦位ハケ目調整。下半に棒状工具による縦位撫でが施される。内面口縁部横位ハケ目調整、体部は斜位ヘラ削り後上半に斜位ミガキが加わる
134図38 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：－	IE75 頸～体部1/2	①粗 白色粒・黒色粒 ②鈍い赤褐色 ③	大型品。口縁部外反か。頸部屈曲屋や弱い肩部は張り、体部中位の径であろう。口縁部横位撫で、頸部縦位ハケ目調整後横位撫で、体部は斜位ハケ目後斜位ミガキが覆う。内面口縁部横位ハケ目後斜位撫で、体部横位ヘラ撫で後中位に横ミガキを加える
135図39 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：5.5	低地部分 底部	①細 白色粒 ②明褐色 ③	内湾気味に開く体部下半。底部は突出し厚手。外面縦位ハケ目調整後横位撫で、不定形の撫でを施す。内面は横位・斜位ヘラ撫で
135図40 図版 甕	口：－ 高：－ 底：5.4	HY76 底部	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	小型品か。体部下半は外反気味に開き、底部は突出する。外面縦位ハケ目調整後弱い撫で。内面横位ヘラ撫でを施す
135図41 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.2	HY76 底部	①粗 白色粒 ②明赤褐色 ③	体部下半は内湾気味に開き、底部は突出し厚手。外面縦位ヘラ撫で後縦位ミガキを加える。内面横位ヘラ撫で。底面木葉痕残る
135図42 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：4.5	IB76 底部	①粗 白色粒・石英 ②明赤褐色 ③	内湾気味に開く体部下半、底部は突出し厚手。外面縦位ミガキ、内面不定方向の入念なミガキを施す
135図43 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：7.5	HY71 底部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	内湾気味に開く体部下半、底部は突出する。外面斜位撫で調整後縦位ミガキ。内面横位・斜位ヘラ撫で
135図44 図版 甕	口：－ 高：－ 底：7.0	HY76 底部	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	体部下半は外反気味に開く。底部器厚厚手。外面縦位ミガキ。内面斜位ヘラ撫で後疎らな横位ミガキ
135図45 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：7.8	IA72 底部	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	体部下半は外反気味に開く。底部突出し厚手。外面縦位ヘラ撫で後縦位ミガキ。内面横位・斜位ヘラ撫で
135図46 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：4.5	IB76 体～底部1/2	①粗 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	底部小径。内湾気味に開く体部下半。外面斜位撫で調整後横位・斜位ミガキ。下半に偏る。内面撫で調整後横位ミガキ
135図47 図版 甕	口：－ 高：－ 底：20.0	IB76 底部1/3	①粗 白色粒 ②鈍い黄褐色 ③	底径広く大型品か。器厚も厚手。底部突出し、体部下半は緩やかに外反する。やや上げ底。外面斜位ハケ目調整後縦位ミガキ内面横位撫で
135図48 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：4.5	Ⅲ－2区水田下 体～底部1/2	①細 白色粒 ②橙色 ③	体部下半は内湾気味に開く。底部小径でやや薄手の器厚を呈す。外面縦位ヘラ撫で、内面縦位・斜位ヘラ撫でを施す
135図49 図版 甕	口：15.0 高：－ 底：－	IE75 口縁部片	①粗 白色粒 ②褐色 ③	緩やかに外反する折り返し口縁。頸部屈曲は強く肩部の張りも強い。口縁部横位ハケ目調整、口頸部斜位・縦位ハケ目後疎らなミガキを加える。肩部横位・斜位ミガキを施す。内面斜位ハケ目調整後口縁部は疎らなミガキ、頸部は撫で調整後縦位ミガキ
135図50 図版 甕	口：16.0 高：－ 底：－	HY74 口縁部片	①細 白色粒 ②橙色 ③	折り返し口縁。緩やかに外反し頸部の屈曲は強い。肩部も張る。外面口縁部横位撫で、口頸部横位ヘラ撫で。頸部は縦位ミガキが加わる。内面横位撫で後斜位ミガキを施す
135図51 図版49 壺	口：15.9 高：－ 底：－	IF77 口縁部1/2	①細 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	有段で、口縁部大きく外反する。口唇部端部は角頭状をなし、器厚は比較的薄手。外面入念な横位ミガキ、内面も入念に縦位ミガキを施す

7. 遺構計測表及び遺物観察表

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特徴(形態・手法等)
135図52 図版48 台付き甕	口：14.3 高：－ 底：－	HY72 底部欠損	①細 石英・白色粒 ②明褐色 ③	口唇部尖り、口縁部は外傾する。頸部の屈曲は強く体部は中位に径を持つ。脚部はやや小径で直線上に開く。外面口縁部横位・斜位ハケ目調整後撫で、頸部～体部斜位ハケ目調整後体部は縦位ミガキを施す。脚部は縦位撫で。内面口縁部は横位ハケ目調整、体部横位ヘラ撫で、下半に横位ミガキ。脚部は斜位撫でを施す
135図53 図版48 台付き甕	口：12.3 高：22.6 底：9.0	HY72 口縁～底部1/2	①粗 白色粒・石英 ②褐色 ③	やや小型品。口縁部外傾し頸部屈曲強い。体部は上半に径を持ち脚部はやや短く直線的に開く。口縁部横撫で、頸部縦位ハケ目調整、肩部横位・斜位ヘラ撫で後体部下半～脚部に縦位ミガキが覆う。内面口縁部横位ヘラ撫で、体部は斜位ヘラ撫で後入念な横位・斜位ミガキを施す。脚部は横位撫で
135図54 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：－	IB73 頸～体上部2/3	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	口縁部外反し頸部強く屈曲する。肩部の張りはやや弱い。口頸部縦位ヘラ撫で後疎らな横位ミガキ、体部斜位ヘラ撫で後横位・斜位ミガキ。頸部調整が入念。内面口頸部斜位ヘラ撫で後横位ミガキ、体部は横位・斜位ヘラ撫で
135図55 図版49 台付き甕	口：－ 高：－ 底：－	HW75 体部片	①粗 白色粒・石英 ②赤褐色 ③	緩やかな内湾を持って開く体部下半。体部径は中位か。外面入念な縦位ミガキ。接合部に集中する。内面縦位・斜位ヘラ撫で後横位ミガキを加える。底面が入念。脚部も横位ミガキ
135図56 図版49 台付き甕	口：－ 高：－ 底：10.0	IE75 体下～底部	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	体部下半は僅かに内湾気味に強く開く。脚部はやや小型で直線的に開く。外面体部縦位・斜位ミガキ、脚部は横位ヘラ撫で後上半部縦位ミガキが加わる。内面横位ヘラ撫で後横位・斜位ミガキ、脚部は横位ヘラ削り後下位に横位ハケ目調整を施す
135図57 図版49 台付き甕	口：－ 高：－ 底：9.2	IE74 底部	①粗 白色粒 ②鈍い橙色 ③	直線的に開く脚部。外面接合部縦位ヘラ削り後疎らな斜位ミガキを加える。脚部縦位ハケ目調整後下端横位撫でを施す。内面底面は不定方向のミガキ、脚部横位ヘラ撫でを施す
135図58 図版49 台付き甕	口：－ 高：－ 底：6.0	HX75 底部片	①粗 白色粒 ②褐色 ③	小型品。内湾気味に開く脚部。底部器厚厚手。外面縦位ハケ目調整。内面も縦位ハケ目
135図59 図版 台付き甕	口：13.2 高：－ 底：－	IB76 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②暗褐色 ③	S字状口縁。口縁部外傾し中位外径やや弱い。頸部屈曲はやや強い。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で体部横位ヘラ撫で、指頭痕残る
135図60 図版 台付き甕	口：13.0 高：－ 底：－	IB74 口縁部片	①細 白色粒・黒色粒 ②褐色 ③	S字状口縁。口縁部外傾し中位外径やや弱い。頸部屈曲はやや弱く肩部は張る。外面口縁部横撫で、体部縦位ハケ目調整。内面口縁部横撫で、体部横位ヘラ撫で、指頭痕残る
135図61 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：(10.7)	斜面包含層 底部1/2	①細 白色粒 ②鈍い橙色 ③	S字状口縁台付き甕。脚部は内湾気味に開き、端部内面は短く折り返す。外面斜位ハケ目調整後下半横位撫で、上半に縦位撫でが加わる。内面斜位撫で後下位に横位撫で、折り返し部に指頭痕
135図62 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：(10.0)	斜面包含層 底部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い橙色 ③	S字状口縁台付き甕。脚部は僅かに内湾気味に開く。端部内面は短く折り返す。外面斜位ハケ目調整後下半は斜位撫で、上半は縦位撫でを加える。内面横位ヘラ撫で、折り返し部に指頭痕
136図63 図版 台付き甕	口：－ 高：－ 底：7.3	ID76 脚部	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	短足の脚部。緩やかに外反する。外面縦位ミガキ、内面底面は縦位・斜位撫で、脚部は不定方向のミガキを施す
136図64 図版49 台付き甕	口：－ 高：－ 底：6.2	IC75 脚部	①粗 白色粒 ②鈍い褐色 ③	僅かに外反気味に開く。やや薄手の器厚。外面縦位ミガキ、内面横位・斜位ヘラ撫でを施す
136図65 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：2.3	IE75 下端部	①粗 白色粒・石英 ②鈍い赤褐色 ③	体部下半は内湾を持って開く。底部は丸底に近く中央に単孔を穿つ。外面縦位ヘラ削り後縦位ミガキ。内面は斜位撫で後体部縦位ミガキ、底部は丁寧なミガキ
136図66 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：5.3	ID75 底部片	①粗 白色粒・石英 ②橙色 ③	体部下半は外反し中位にかけて内湾気味に開く。底部は平底で孔は中央に穿たれる。外面入念な縦位ミガキ、内面は体部縦位ミガキ、底部は丁寧な横位ミガキ
136図67 図版48 甕	口：10.8 高：5.3 底：3.7	HX75 底部片	①粗 白色粒・石英 ②鈍い褐色 ③	折り返し口縁。口縁～体部一体化して開く。底部は丸みを帯び、中央に単孔を穿つ。外面口縁部横撫で、体部は横位・斜位ヘラ削り。内面は横位・斜位ヘラ撫でを施す
136図68 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	Ⅲ区FA上 口縁部片	①粗 白色粒 ②灰色 ③	口唇部内傾。口縁部は外傾する。内外面とも横位撫で調整

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特 徴 (形態・手法等)
136図69 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	ID75 口縁部片	①粗 白色粒・石英 ②灰褐色 ③	外傾する低位折り返し口縁。口唇部尖る。口縁部横位ハケ目調整以下縦位ハケ目調整。内面撫で調整後疎らな横位ミガキ
136図70 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	IA75 口縁部片	①細 白色粒 ②黒褐色 ③	口唇部は尖り、外傾する折り返し口縁。頸部屈曲する。外面口縁部横位・斜位ハケ目調整。以下斜位ハケ目。内面口縁部上位は横位撫で、下位は疎らな横位ミガキが加わる
136図71 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	IC75 口縁部片	①細 白色粒 ②褐色 ③	口唇部は尖り、僅かに内湾気味に開く口縁部。頸部屈曲する。口縁部横位ハケ目、以下縦位ハケ目。内面横位ハケ目調整
136図72 図版49 甕	口：－ 高：－ 底：－	斜面包含層 口縁～頸部片	①細 白色粒・黒色粒 ②鈍い褐色 ③	口唇部は尖り、強く外反する口縁部。頸部は屈曲し、肩部の張りは弱い。外面口縁部横位撫で、以下細沈線による斜格子目文を施す。内面横位撫で
136図73 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	IC75 口縁～頸部片	①細 石英・白色粒 ②灰褐色 ③	口縁部外傾し、頸部の屈曲は弱い。外面縦位ハケ目調整後細沈線を施す。斜格子目文であろう。内面は横位撫で後疎らなミガキを施す
136図74 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	HX76 口縁～体部片	①細 石英・白色粒 ②明赤褐色 ③	口唇部短く外傾。口縁部は緩やかな内湾を示す。外面口縁部横位・斜位ハケ目調整。内面横位撫で後疎らな横位ミガキを施す
136図75 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	IA76 頸部片	①細 白色粒 ②明赤褐色 ③	緩やかな屈曲を示す頸部。外面縦位ハケ目調整後縦位沈線文を施す。格子目文の施文下端か。内面横位撫で
136図76 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	IA76 頸部片	①粗 白色粒 ②鈍い赤褐色 ③	口縁部下位破片。緩やかな外反を示す。外面縦位ハケ目調整内面横位撫で
136図77 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	IB74 口縁～肩部片	①粗 白色粒 ②赤褐色 ③	口唇部尖る。口縁部は直立し、頸部屈曲は弱く肩部は緩やかに張る。外面口縁部横位撫で、体部は斜位ヘラ削り後撫で。内面口縁部横位撫で、体部は横位・斜位ヘラ撫で
136図78 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	IE75 口縁～頸部片	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	口唇部角頭状をなす。口縁部は長く外傾し、頸部強く屈曲する。外面口唇部横位ハケ目調整、以下縦位・斜位ハケ目。内面は横位ハケ目調整を施す
136図79 図版 大甕	口：－ 高：－ 底：－	斜面包含層 頸部片	①粗 白色粒・石英 ②灰色 ③須恵器	2点からなる。口縁部大きく外反し、頸部屈曲強く肩部張る。外面口縁部横位波状文。体部平行叩き目。内面口縁部青海波状当て目後横位撫で、体部は当て目が残る
136図80 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	Ⅲ区FA上 破片	①粗 白色粒・石英 ②灰色 ③須恵器	外面平行叩き目。内面青海波状当て目の一端か
136図81 図版48 土製品	口：－ 高：－ 底：－	ID75 1/2	①細 白色粒 ②鈍い褐色 ③	球状土製品。8mm程の孔が穿たれる。表面は撫で調整
136図82 図版 片口	口：－ 高：－ 口：－	斜面包含層 口縁～肩部片	①細 白色粒 ②赤褐色 ③	口縁部を強く突出させた片口部。外面横位撫で後疎らなミガキ。内面横位撫でを施す
136図83	図版49	HY76 管玉	長：1.5 幅：0.4 厚：0.4 重：0.4	蛇紋岩
136図84	図版49	IJ72 剥片	長：4.4 幅：1.9 厚：0.3 重：3.5	黒色片岩
136図85	図版49	IJ72 剥片	長：4.3 幅：2.1 厚：0.5 重：4.3	黒色片岩

8表 I区出土木製品計測表

図番号 図版番号	計測値 単位(cm)	種別 樹種	木取	備考
137図1 図版52	長：69.4 幅：14.1 厚：2.0	鋤	柁目	柄湾曲
138図2 図版52	長：201.8 幅：19.8 厚：11.2	梯子 クスギ節	半割材	先端部現存 基部樹皮残存
138図3 図版52	長：175.4 幅：15.6 厚：11.9	梯子 ゴヨウマツ類	割材	両端欠損
139図4 図版53	長：20.0 幅：10.2 厚：0.9	板状木製品 クリ	柁目	ほぞ穴状の加工有り
139図5 図版54	長：51.5 幅：12.4 厚：3.9	板状木製品 ケヤキ	柁目	基部湾曲 未製品か
139図6 図版52	長：112.3 幅：22.4 厚：3.2	板状木製品 ケヤキ	柁目	先端部現存
139図7 図版52	長：131.6 幅：35.7 厚：4.8	板状木製品 モミ属	柁目	ほぞ穴？有り
140図8 図版53	長：24.5 幅：14.7 厚：2.7	板状木製品 クスギ節	板目	
140図9 図版54	長：20.7 幅：13.0 厚：1.8	板状木製品 クリ	柁目	
140図10 図版53	長：30.6 幅：8.7 厚：1.8	板状木製品 クリ	板目	
140図11 図版53	長：34.3 幅：7.0 厚：2.5	板状木製品 クスギ節	柁目	
140図12 図版53	長：17.1 幅：7.9 厚：2.9	板状木製品 ケヤキ	柁目	
140図13 図版53	長：16.8 幅：9.4 厚：2.1	板状木製品 クリ	板目	
140図14 図版53	長：24.7 幅：7.2 厚：1.7	板状木製品 クリ	柁目	
140図15 図版53	長：13.3 幅：7.0 厚：1.6	板状木製品 クリ	板目	
141図16 図版53	長：53.5 幅：13.2 厚：3.0	板状木製品 クスギ節	柁目	
141図17 図版53	長：53.7 幅：9.7 厚：4.4	板状木製品 クスギ節	板目	
141図18 図版53	長：28.1 幅：11.3 厚：3.5	板状木製品 クスギ節	柁目	
141図19 図版53	長：23.5 幅：11.2 厚：2.1	板状木製品 クリ	板目	

図番号 図版番号	計測値 単位(cm)	種別 樹種	木取	備考
142図20 図版53	長：15.4 幅：12.2 厚：2.5	板状木製品 クスギ節	板目	
142図21 図版53	長：19.5 幅：10.2 厚：2.1	板状木製品 クリ	板目	
142図22 図版53	長：36.6 幅：11.9 厚：2.2	板状木製品 ハコヤナギ属	柁目	
142図23 図版53	長：51.1 幅：15.0 厚：3.8	板状木製品 モミ属	板目	
142図24 図版53	長：29.8 幅：12.5 厚：2.0	板状木製品 クリ	柁目	
142図25 図版53	長：20.2 幅：6.8 厚：2.7	板状木製品 クワ属	割材	
142図26 図版53	長：31.4 幅：8.6 厚：3.3	加工木 クスギ節	柁目	
143図27 図版54	長：27.6 幅：11.4 厚：5.5/2.1	鋤先未製品か クリ	柁目	
143図28 図版54	長：33.3 幅：6.4 厚：3.0	板状木製品 クスギ節	板目	
143図29 図版54	長：35.5 幅：5.5 厚：3.5	加工木 クリ	板目	
143図30 図版54	長：28.0 幅：5.1	加工木 コナラ節	柁目	両端加工痕有
143図31 図版54	長：22.6 幅：5.5	加工木 クスギ節	柁目	
143図32 図版54	長：34.4 幅：7.4 厚：3.7	加工木 クワ属	板目	抉り状加工有り
143図33 図版54	長：283.3 幅：10.7 厚：9.2	加工木 (杭か) クリ		抉り状加工有り 先端部現存
144図34 図版54	長：149.7 幅：8.1/7.5 厚：11.8	杭か コナラ節		
144図35 図版54	長：39.0 幅：6.1	杭 コナラ節		両端欠損
144図36 図版54	長：39.7 幅：6.1	杭 モモ		樹皮付着 先端部現存
144図37 図版54	長：42.3 幅：9.5	杭 クワ属		樹皮付着 先端部現存
145図38 図版54	長：92.6 幅：15.0 厚：4.6	板状木製品 ケヤキ	板目	ほぞ穴有り

Ⅲ 検出された遺構と遺物

図番号 図版番号	計測値 単位(cm)	種別 樹種	木取	備考
145図39 図版54	長：38.6 幅：9.5 厚：4.1	板状木製品 クスギ節	柾目	抉り有り
145図40 図版53	長：23.5 幅：6.4 厚：2.7	板状木製品 クスギ節	板目	抉り有り
145図41 図版54	長：20.2 幅：11.8 厚：2.1	板状木製品 クリ	板目	先端部調整
145図42 図版54	長：31.2 幅：10.1 厚：2.3	板状木製品 クスギ節	板目	
145図43 図版54	長：10.3 幅：9.2 厚：1.8	加工木 クリ	板目	
145図44 図版54	長：11.3 幅：6.2 厚：2.1	加工木 クリ	板目	

27号住

図番号 器種	法量(cm) ()推定値	出土位置 残存率	①胎土 ②色調 ③その他	特徴(形態・手法等)
185図1 図版 甕	口：－ 高：－ 底：－	竈埋土 口縁部破片	①細 白色粒・黒色粒 ②赤褐色 ③	小破片。「コ」字状口縁甕。緩やかな外反を呈す口縁部。内外面とも横撫でを施す
185図2 図版44 羽口	口：－ 高：－ 底：－	竈周辺	① ② ③	先端部～体部上位の破片。十数点の接合からなる。先端部は欠損が多いが滓化が著しい。表面縦位撫で調整。胎土にスサ含む
185図3	図版44	鉄製品 鉄鎌	埋土	長：－ 幅：2.4 厚：0.3

IV 分析

i. 中郷恵久保遺跡Ⅱ区竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

ここでは、古墳時代前期 (F P層より下位の) 竪穴住居跡4軒 (1・18・20・24号住) から出土した建築材と推定される炭化材合計64試料の樹種同定結果を報告する。

2. 炭化材樹種同定の方法

取上げられていた試料から、形状や大きさの異なる炭化材を選び、樹種同定試料とした。

まず横断面 (木口) を手で割り実体顕微鏡でおおよそその特徴を捉え、分類群の目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリなどは横断面の管孔配列が特徴的であり、実体顕微鏡下の観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の破断面 (横断面・接線断面・放射断面) を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定する。前述の分類群と類似するが典型的でない試料や保存が悪い試料は、走査電子顕微鏡で3方向の組織を観察し、同定を決定した。

走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡 (日本電子(株)製 JSM-T100型) で観察と写真撮影を行った。

同定した炭化材の残り破片は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

3. 結果

同定結果の一覧を表1に示した。表2には、各住居跡の検出樹種を集計した。

4軒59試料から検出された分類群は、コナラ節 (35点)・クヌギ節 (16点)・ケヤキ (3点)・クスノキ科

(1点)・ヤマウルシ (1点)の広葉樹5分類群と、樹皮 (6点)、ススキ属類似 (2点)であった。ひとつの試料から複数の分類群が検出された試料もあるので、合計点数は64点となっている。

コナラ節が35点と最も多く、次にクヌギ節が16点で、この2分類群で80%を占めていた。検出された樹皮は厚いことから、材で検出されているコナラ節やクヌギ節の樹皮である可能性がある。

クスノキ科は常緑広葉樹である可能性が高いが、そのほかの分類群は落葉広葉樹であり、針葉樹材は検出されなかった。

ススキ属類似は多数が集積していて、同一方向や規則的に交差して積み重なった状態が観察された。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

(1) コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版1 1a-1c (18号住居6)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材部では薄壁で孔口は角形の非常に小型の管孔が火炎状・放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと広放射組織がある。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。

(2) コナラ属コナラ亜属クヌギ *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris* ブナ科 図版1 2a-2c (18号住居6)

年輪の始めに大型の管孔が1層配列し、晩材部は厚壁で孔口は円形の小型の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、チロースがある。放射組織は単列のものと広放射組織がある。

クヌギ節は暖帯に成育する落葉高木でクヌギとアバマキが属する。

(3) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版1 3a-3c (18号住居9)

IV 分析

年輪の始めに大型の管孔が1層配列し、その後は小型の管孔が多数集合して接線状・斜状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～5細胞幅の紡錘形、上下端や縁に大型の結晶細胞がある。

ケヤキは暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。

(4) クスノキ科 *Lauraceae* 図版2 4a-4c(24号住居32)

小型の管孔が単独または2～3個が複合し散在する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は異性、1～2細胞幅、上下端に大きく膨らんだ油細胞がある。

クスノキ科は主に暖帯に生育し、多くは常緑の高木または低木である。

(5) ヤマウルシ *Rhus tridhocarpa* Miquel ウルシ科 図版2 4a-4c(20号住居38)

年輪の始めに中型～大型の管孔が配列し晩材に向かい徐々に径を減じて行き、年輪界では非常に小型の管孔が放射状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管には明瞭ならせん肥厚がある。放射組織は異性、1～2細胞幅である。

ヤマウルシは北海道以南の温帯から暖帯に分布し山野に普通の落葉小木である。

(6) ススキ属類似 *Miscanthus cf.* イネ科 図版2 6a(20号住居39) 7a(20号住居39) 8a(24号住小32)

直径2～8mmの草本性の稈で、節部がある。維管束は不整中心柱であり、維管束鞘の発達は貧弱である。

ススキ属は大型になる多年草で一般にはカヤ(茅)と呼ばれ、約7種ある。日本全土の平地から山地の陽地に普通に見られ刈って屋根を覆く材料とされてきたススキ、北海道から九州の湿地に生育するオギ、東南北部から近畿北部の山中の陽地に生育するカリヤス、関東南部以西の堤防の草地に生育するトキワススキなどがある。現時点では稈の組織から種を識

別することはできていない。

4. 考察

古墳時代前期の竪穴住居跡4軒から出土した炭化材樹種は、コナラ節が最も多く、次にクヌギ節が多く、この2分類群が主要な建築材であった事が判った。群馬県下を含め全国的にも古墳時代の住居跡からは、この2分類群の出土例が広く知られている。

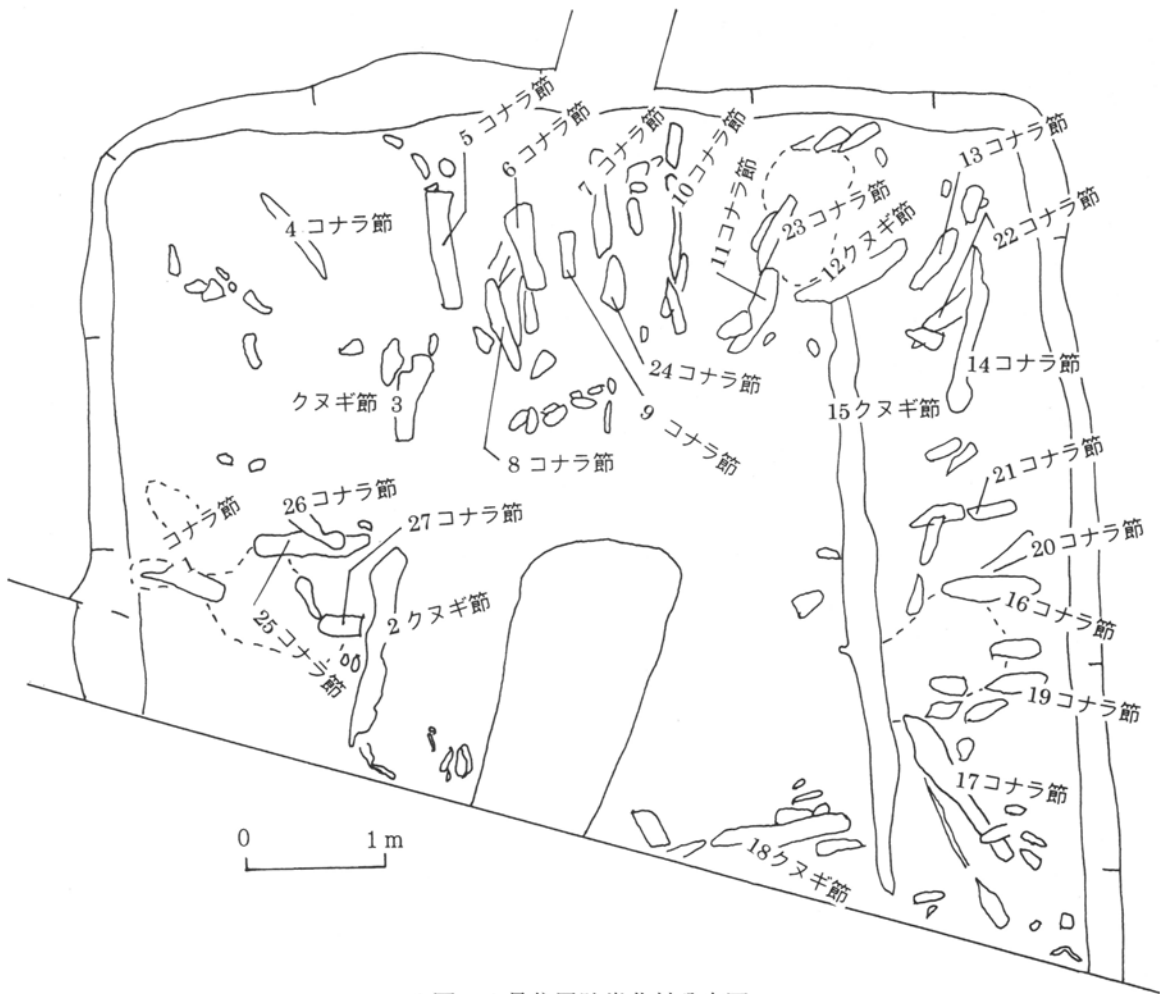
同じ子持村の白井遺跡群では、FP層より下でFA火災流に巻き込まれた倒木などの多くは、コナラ節であり、クヌギ節も検出されている(藤根、1997)。この白井遺跡群の炭化材は、住居跡ではなく畠址と思われる区画から出土したものであるが、当遺跡の住居址出土炭化材の樹種構成と白井遺跡群の樹種構成は類似している。従って当時の子持村周辺にはコナラ節が豊富に生育しており、クヌギ節も多く混在し、周辺地から入手容易なこの2分類群が住居建築材に多用されていたことが判った。

引用文献

藤根久(1997) 白井遺跡群出土炭化材の樹種同定、「白井遺跡群—古墳時代編—」、420-429、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団。

表1 中郷恵久保遺跡住居跡出土炭化材樹種同定結果一覧

地区	遺構	No	樹種	時期	地区	遺構	No	樹種	時期	地区	遺構	No	樹種	時期
Ⅱ区	1号住	1	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	1号住	23	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	15	クスギ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	2	クスギ節	古墳前期	Ⅱ区	1号住	24	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	16	コナラ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	3	クスギ節	古墳前期	Ⅱ区	1号住	25	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	17	クスギ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	4	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	1号住	26	コナラ節	古墳前期				樹皮	古墳前期
Ⅱ区	1号住	5	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	1号住	27	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	18	クスギ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	6	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	1	クスギ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	19	クスギ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	7	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	2	樹皮	古墳前期	Ⅱ区	18号住	20	コナラ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	8	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	3	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	21	クスギ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	9	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	4	クスギ節	古墳前期				樹皮	古墳前期
Ⅱ区	1号住	10	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	5	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	22	クスギ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	11	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	6	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	23	コナラ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	12	クスギ節	古墳前期				クスギ節	古墳前期				樹皮	古墳前期
Ⅱ区	1号住	13	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	7	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	24	コナラ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	14	コナラ節	古墳前期				ケヤキ	古墳前期	Ⅱ区	20号住	3	クスギ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	15	クスギ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	8	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	20号住	4	コナラ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	16	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	9	ケヤキ	古墳前期	Ⅱ区	20号住	5	コナラ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	17	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	10	クスギ節	古墳前期	Ⅱ区	20号住	7	コナラ節	古墳前期
Ⅱ区	1号住	18	クスギ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	11	樹皮	古墳前期	Ⅱ区	20号住	38	ヤマウルシ	古墳前期
Ⅱ区	1号住	19	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	12	樹皮	古墳前期	Ⅱ区	20号住	39	ススキ属類似	古墳前期
Ⅱ区	1号住	20	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	13	ケヤキ	古墳前期	Ⅱ区	20号住	40	ススキ属類似	古墳前期
Ⅱ区	1号住	21	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	18号住	14	コナラ節	古墳前期	Ⅱ区	24号住	32	クスノキ科	古墳前期
Ⅱ区	1号住	22	コナラ節	古墳前期										

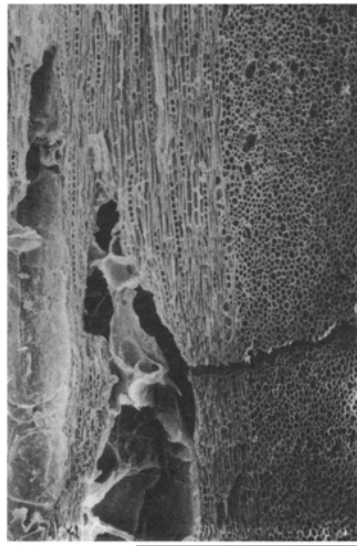


1図 1号住居跡炭化材分布図

IV 分析



1 a コナラ節 (横断面)
試料No10 bar : 0.5mm



1 b コナラ節 (接線断面)
bar : 0.5mm



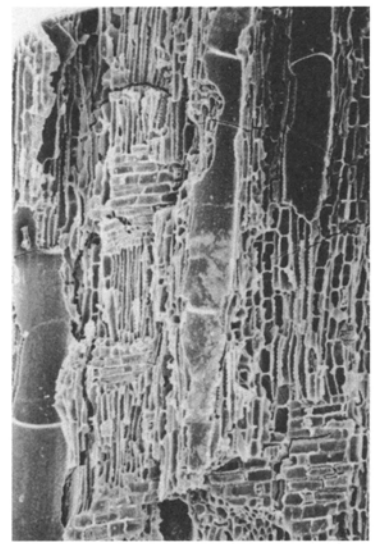
1 c コナラ節 (放射断面)
bar : 0.1mm



2 a クヌギ節 (横断面)
試料No15 bar : 0.5mm



2 b クヌギ節 (接線断面)
bar : 0.5mm

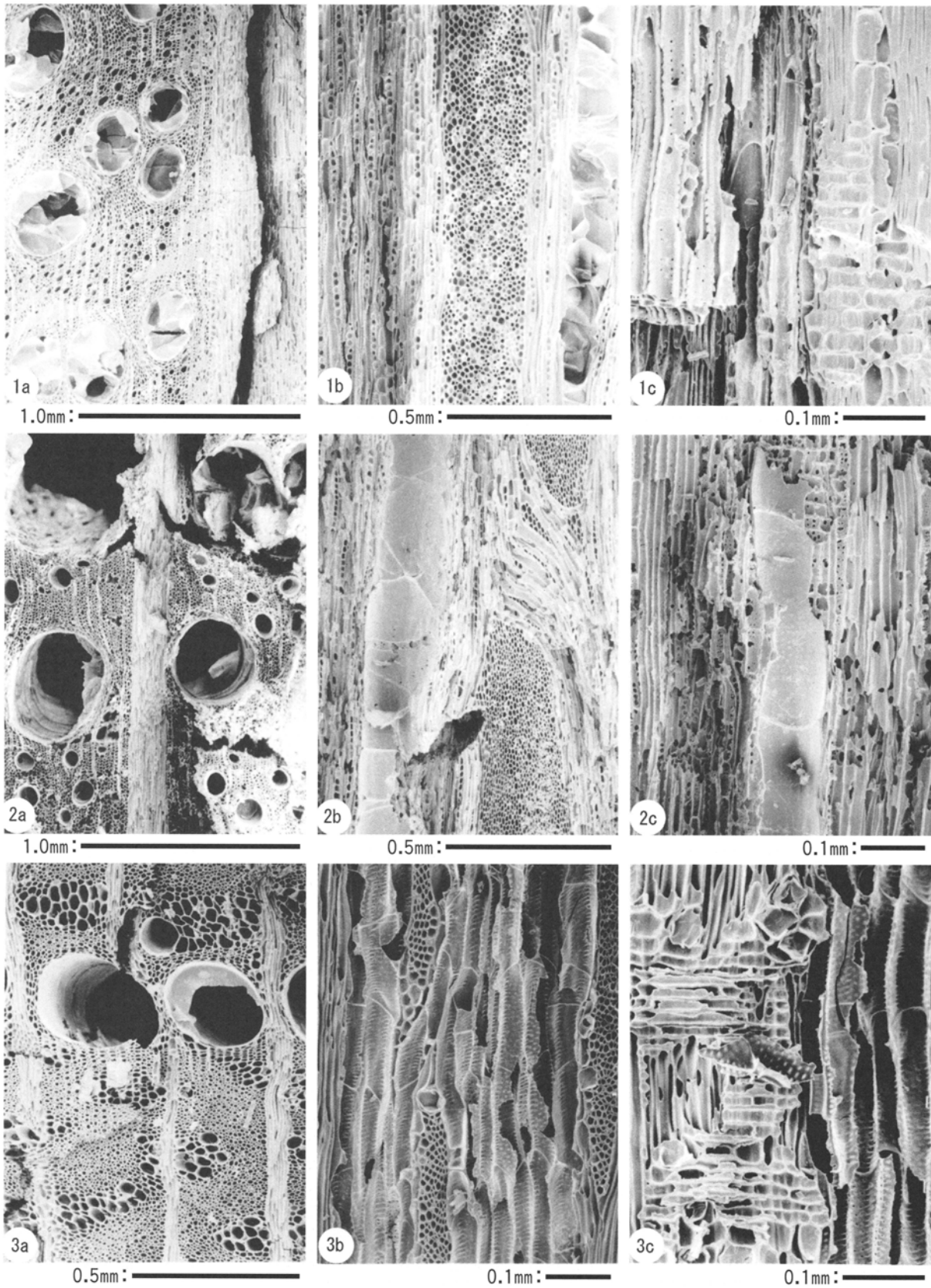


2 c クヌギ節 (放射断面)
bar : 0.1mm

図版1 中郷恵久保遺跡Ⅱ区住居跡出土炭化材組織の走査電子顕微鏡写真(1) 1号住居跡

表2 中郷恵久保遺跡Ⅱ区竪穴住居跡別の検出樹種集計

樹種	住居跡				合計
	古墳時代前期				
	1号住居	18号住居	20号住居	24号住居	
コナラ節	22	10	3		35
クヌギ節	5	10	1		16
樹皮		6			6
ケヤキ		3			3
クスノキ科				1	1
ヤマウルシ			1		1
ススキ属類似			2		2
合計	27	29	7	1	64

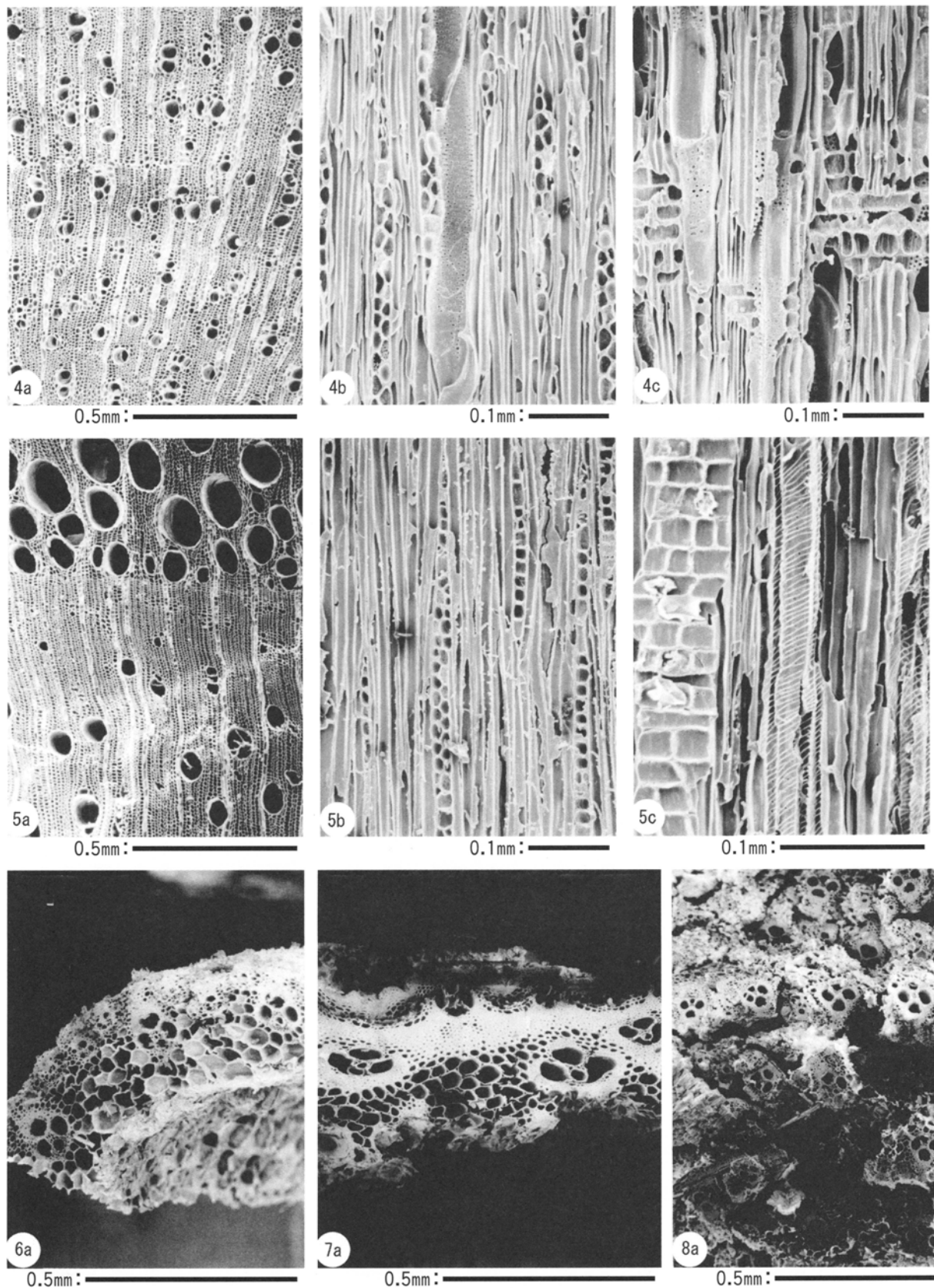


図版2 中郷恵久保遺跡Ⅱ区住居跡出土炭化材組織の走査電子顕微鏡写真(2)

1a-1c: コナラ節(18号住居6) 2a-2c: クスギ節(18号住居6) 3a-3c: ケヤキ(18号住居6)

a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面

IV 分析



図版3 中郷恵久保遺跡Ⅱ区住居跡出土炭化材組織の走査電子顕微鏡写真(3)

4a-4c:クスノキ科(24号住居 32) 5a-5c:ヤマウルシ(20号住居 38) 6a-6c:ススキ属類似(20号住居 39)
7a:ススキ属類似(20号住居 39) 8a:ススキ属類似(24号住居 32) a:横断面 b:接線断面 c:放射断面

ii. 中郷恵久保遺跡出土材の樹種

三村 昌史 (株)パレオ・ラボ

1. はじめに

中郷恵久保遺跡から出土した、梯子・杭・板材などの木製品計45点についての樹種同定結果を報告する。これらの樹種を明らかにすることで、器種別の用材傾向やその背景について調査を行った。これらの木製品は古墳時代前期の東斜面から出土したもので、時期もこれに並行すると考えられている。

2. 試料と方法

試料はすでに群馬県埋蔵文化財調査事業団によってプレパラート化され保管されていたものである。これらのプレパラート試料を光学顕微鏡にて40~400倍で検鏡し、現生標本と対照させることにより同定を行った。

3. 結果および考察

樹種同定結果の一覧を付表に、また器種別にまとめたものを表1に示す。

以下では、木製品の器種ごとに用材傾向と選択の背景について検討する(表1参照)。

まず、性格の明らかな製品からみていく。梯子は2点あり、1点にはゴヨウマツ類の材、もう1点にはクヌギ節の材が用いられていた。これらはいずれも比較的丈夫な部類の材であり、梯子としての使用に耐えうる材が選択された結果であろう。

また、杭には?付きのものも含めてクリ・コナラ節・クワ属・ケヤキ・モモが用いられていた。一般に、杭には特に決まった樹種が見出されるわけではなく、様々な樹種が用いられる傾向にある。このたび杭に見出された樹種の構成も雑多であり、特に材質に関する選択性は働いていないと類推される。杭材としては打ち込めさえすればよく、遺跡周辺の山野から適度な径長の材が選択された結果とみられる。

板としては、?付きのものも含めてモミ属・ハコヤナギ属・クリ・クヌギ節・ケヤキ・クワ属が見出された。この中には、割裂が困難でない材が多く、

製作法と使用された樹種の材質との間に関連性が認められる結果である。

加工材としては、クリ・クヌギ節・クワ属・ケヤキが見出されており、杭や板などの用材と共通しているものが多い傾向にある。

全体的にみると、利用されている樹種のうちモミ属・コナラ節・クヌギ節・クワ属・ケヤキなどは群馬県でよく見出される樹種であり、周辺の木材資源を反映しているものと推察される。また、杭に栽培植物であるモモの材が利用されているのも特徴的な点であった。わざわざモモの材を用いなければならぬほど木材資源が枯渇していたとは考え難いので、栽培されていたものが枯死や枝折れ等で活用されたことや、モモに護符の意味をもたせる風習があるように何らかの意味づけを持たせて使用されたことが想定される。

4. 分類群の記載

以下では、見出された分類群について、同定の根拠となる材組織の記載を行い、そのほか分布や材質等の一般についても簡単に記す。

(1) ゴヨウマツ類 *Pinus* subgen. *Haploxyylon* マツ科 写真図版 1a-1c

仮道管と放射柔組織、放射仮道管、および水平・垂直両樹脂道を取り囲む薄壁のエピセリウム細胞からなる針葉樹材。放射仮道管の水平壁は平滑である。分野壁孔は大型の窓状。

ゴヨウマツ類はマツ類のうち短枝に針葉が5本付く仲間で、ヒメコマツやキタゴヨウなどがある。材は比較的通直で、やや軽く、割裂・加工容易、強度もあり、耐朽性が高い。

(2) モミ属 *Abies* マツ科 写真図版 2a-2c

仮道管と放射柔組織からなる針葉樹材。晩材部は明瞭で量多い。放射組織の末端壁はじゅず状末端壁を有する。分野壁孔はスギ型で小さく、1分野にふつう2-4個。

モミ属にはモミ・ウラジロモミなどの他数種が含まれるが、周辺で採取されたものであれば母植物と

IV 分析

しては最も低標高から見られるモミであろう。材は通直でやや軽軟、強度もあり加工・割裂容易だが、狂いは大きい。

(3) ハコヤナギ属 *Populus* ヤナギ科 写真図版 3a-3c

小型で丸い道管が単独もしくは放射方向に数個複合して密に分布する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性。道管と放射組織との壁孔はヤナギ属のものに類似した大型のふるい〜蜂の巣状。ハコヤナギ属はトチノキの材構造に似るが、トチノキの場合は道管の密度もより小さく、年輪の真ん中付近で密度・径も最大になる傾向があることや、トチノキの放射組織の構成細胞は丸みを帯び、しばしば層階状に配列すること、また道管と放射組織との壁孔は中型の対列〜ふるい状であること、さらに道管内腔にらせん肥厚が認められることなどが異なっている。

ハコヤナギ属には、ヤマナラシやドロノキが含まれる。いずれも落葉性の高木で、ヤマナラシは日当たりのよい乾燥した立地に点在してみられ、ドロノキは主に本州中部以北の山地や川沿いの日当たりがよく湿った立地、特に河川上流部によくみられる。材は軽軟で加工・割裂は容易だが、耐朽性は低い。

(4) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 写真図版 4a-4c

年輪の始めに大型で丸い道管が単独で1-2列に並び、晩材部では小型でやや角張った薄壁の道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性。

クリは主に温帯下部・暖温帯に広く分布する落葉広葉樹で、明るい林内や向陽地に多くみられる。材質は重硬で弾性に富み、割裂は容易、耐朽性が高い。

(5) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 写真図版 5a-5c

年輪の始めに大型の丸い道管が単独で1-2列に並び、晩材では小型でやや角張った道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性のものに大型の広放射組織が混在する。

いわゆるナラ類の材で、温帯下部〜暖温帯に分布し、各地の低標高の山野に普通にみられるコナラ、海岸部や火山礫地、火災跡地などにみられるカシワなどがある。材は重硬で、割裂・加工は困難である。

(6) コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Aegilops* ブナ科 写真図版 6a-6c

大型の丸い道管が単独で1-数列ならび、晩材部では丸く厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性のものに広放射組織を交える。

クヌギ節にはクヌギとアベマキが含まれる。いずれも暖温帯の適湿な向陽地にみられる高木になる落葉広葉樹である。材は重硬であり弾性に富み、割裂・加工は困難。

(7) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 写真図版 7a-7c

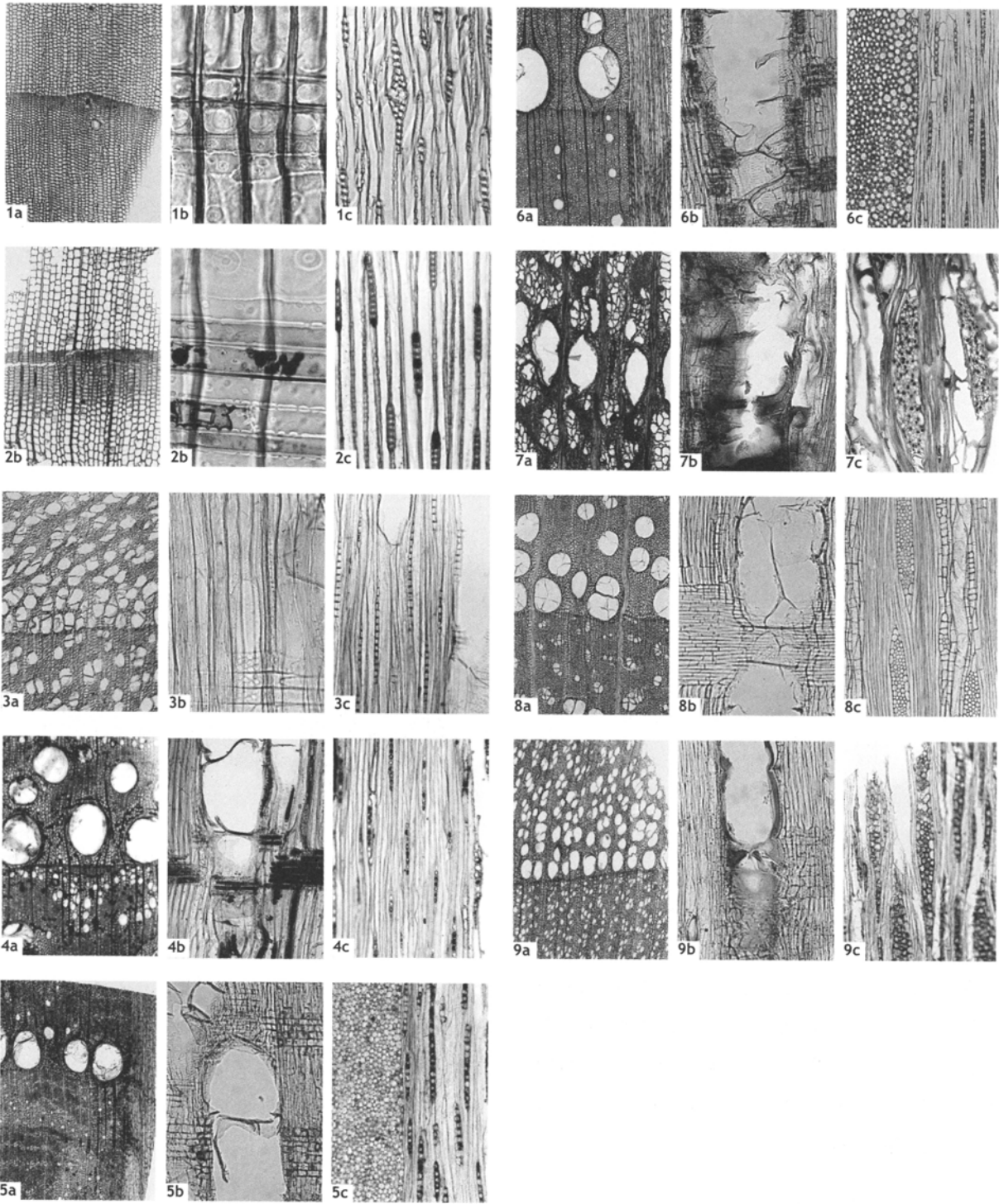
年輪の始めに大型の丸い道管が単独で1-2列に並び、晩材部では小型の薄壁で角張った道管が多数集合して接線方向あるいはやや斜めに帯をなす環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は主に上下端のみ直立細胞からなる異性で、しばしば大型の結晶を含む。

ケヤキは高木になる落葉広葉樹で、谷沿いや川沿いの肥沃な土壤にみられ、温帯に広く分布する。材はやや重硬だが、均質で切削加工は容易、割裂性は中庸である。

(8) クワ属 *Morus* クワ科 写真図版 7a-7c

年輪のはじめに大型で丸い道管が単独あるいは1-2個複合して1-2列並び、年輪界付近ではごく小型の角張った道管が数個集合して斜上状〜接線状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で1-5列ほど、上下端の直立細胞は1-2個連なる。

クワ属の母植物は分布からヤマグワが考えられる。ヤマグワは温帯〜暖温帯に広く分布し、谷沿い・川沿いの適湿地や林縁などの向陽地にみられる、低木〜小高木の落葉広葉樹である。材はやや重硬で強靱である。



1,2: a-1.0mm, b-0.1mm, c-0.4mm
 scale bar 3: a-1.0mm, b-0.2mm, c-0.4mm
 4-9: a-1.0mm, b-0.4mm, c-0.4mm
 a 横断面 b 放射断面 c 接線断面

図版4 出土材・木材組織光学顕微鏡写真

IV 分析

(9) モモ *Prunus persica* Batsch バラ科 写真図版 9a-9c

年輪のはじめにやや小型～中型で放射方向に伸びた丸い道管がほぼ単独に3-4列ならび、その後は急速に径を減じ、単独または放射方向に1-数个複合した小導管が斜めに連なる傾向をみせて分布する半環孔材。道管の穿孔は単一、道管内腔にはしばし

ばゴム状の内容物が詰まり、らせん肥厚が認められる。放射組織は異性で1-6列、構成細胞はやや角張りしばしば鞘細胞がみられる。

モモは中国西北部が原産とされる小高木になる落葉広葉樹で、古くから移入されて果樹として利用されている。材は緻密かつ重硬で靱性もあり、割裂し難い。

iii. 中郷恵久保遺跡から出土した大型植物化石

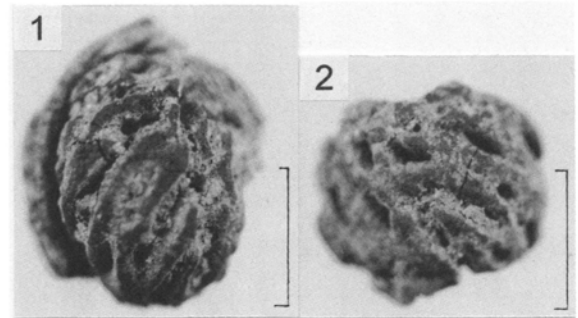
新山雅広 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

中郷恵久保遺跡は、群馬県子持村に所在する。ここでは、1号住周堤上 (FA下) より出土した大型植物化石2個体について、その同定結果を報告する。

2. 結果

いずれもモモ *Prunus persica* Batsch の炭化核であった。モモ核は側面観は両凸レンズ形、上面観は楕円形、下端にへそがあり、一方の側面には縫合線が発達する。表面には不規則な流れるような溝と穴がある。出土した炭化核は、長さ約22mm、幅約19mmで小清水(1962)による。モモ *var. subspontanea* 程度の大きさである。



図版5 出土した大型植物化石 (スケールは1cm)
1、2. モモ. 炭化核。
1号住周堤上 FA下

引用文献

小清水卓二(1962)「古代日本の住居跡から出土する桃核について」『近畿古文化論攷』 檀原考古学研究所編 吉川弘文館, pp.561-568

iv. 中郷恵久保遺跡の土層とテフラ

株式会社古環境研究所

1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間、八ヶ岳など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）などが多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、古代の畠や住居跡が検出された子持村中郷恵久保遺跡においても、地質調査を行い土層の層序を記載するとともに、土層断面から採取された試料を対象にテフラ検出分析と屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、第1地点、第2地点、第3地点、第4地点、調査区西壁セクション、1号住居跡E-Wトレンチの6地点である。

2. 土層の層序

(1) 第1地点

第1地点では、下位より褐色土（層厚4cm）、暗褐色土（層厚3cm）、成層したテフラ層（層厚8.3cm）、灰色粗粒火山灰層ブロック混じり灰色土（層厚4cm）、若干色調が暗い灰色土（層厚4cm）、成層した白色軽石層（層厚5cm以上）が認められる（図1）。これらのうち、成層したテフラ層は、下位より桃褐色細粒火山灰層（層厚2cm）、成層した灰色粗粒火山灰層（層厚5cm）、黄色細粒火山灰層（層厚1.3cm）からなる。このテフラ層は、その層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）に同定される。また、成層した軽石層は、層位や層相などから6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP, 新井,

1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）に同定される。発掘調査では、このHr-FPの直下から畠が検出されている。

(2) 第2地点

第2地点では、下位より暗灰褐色土（層厚7cm）、成層したテフラ層（層厚8cm）、灰色粗粒火山灰層ブロック混じり暗灰褐色土（層厚5cm）、暗灰褐色土（層厚9cm）、成層した白色軽石層（層厚5cm以上）が認められる（図2）。これらのうち、成層したテフラ層は、下位より成層した灰色粗粒火山灰層（層厚6cm）、黄色細粒火山灰層（層厚2cm）からなる。このテフラ層は、その層相からHr-FAに同定される。また成層した軽石層は、層位や層相などからHr-FPに同定される。発掘調査では、この地点においてもHr-FPの直下から畠が検出されている。

(3) 第3地点

1号道の畠側に位置する第3地点では、下位より暗褐色土（層厚3cm以上）、黒褐色土（層厚3cm）、成層したテフラ層（層厚7.5cm）、暗灰褐色土（層厚3cm）、黒褐色土（層厚3cm）、成層した白色軽石層（層厚5cm以上）が認められる（図3）。これらのうち、成層したテフラ層は、下位より桃褐色細粒火山灰層（層厚3cm）、灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.5cm）、成層した灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）、黄色細粒火山灰層（層厚1cm）からなる。このテフラ層は、その層相からHr-FAに同定される。また成層した軽石層は、層位や層相などからHr-FPに同定される。

(4) 第4地点

1号道状遺構に位置する第4地点では、暗灰褐色土（層厚3cm以上）の上面に形成された1号道の覆土は、下位より炭化物混じり暗灰褐色土および成層した白色軽石層（層厚5cm以上）が認められる。成層した軽石層は、層位や層相などからHr-FPに同定される。

(5) 調査区西壁セクション

調査区西壁セクションでは、Hr-FPの良好な堆積を認めることができた（図4）。ここでのHr-FPは、

IV 分析

下位より灰色軽石層（層厚5cm, 軽石の最大径43mm, 石質岩片の最大径22mm, FP-I: 早田, 1993）、桃色軽石層（層厚2cm, 軽石の最大径32mm, 石質岩片の最大径8mm, FP-II）、白色中粒軽石層（層厚12cm, 軽石の最大径78mm, 石質岩片の最大径27mm, FP-III）、白色細粒軽石層（層厚2cm, 軽石の最大径11mm, 石質岩片の最大径6mm）、白色中粒軽石層（層厚11cm, 軽石の最大径68mm, 石質岩片の最大径37mm）、白色細粒軽石層（層厚3cm, 軽石の最大径18mm, 石質岩片の最大径11mm）、白色中粒軽石層（層厚9cm, 軽石の最大径61mm, 石質岩片の最大径31mm）、白色細粒軽石層（層厚3cm, 軽石の最大径12mm, 石質岩片の最大径4mm, 以上FP-IV~V）、白色粗粒軽石層（層厚13cm, 軽石の最大径87mm, 石質岩片の最大径38mm, FP-VI）、白色中粒軽石層（層厚3cm, 軽石の最大径29mm, 石質岩片の最大径14mm, FP-VII）、黄白色粗粒軽石層（層厚28cm, 軽石の最大径87mm, 石質岩片の最大径39mm）、黄白色中粒軽石層（層厚4cm, 軽石の最大径38mm, 石質岩片の最大径14mm, FP-VIII）、黄白色細粒軽石層（層厚3cm, 軽石の最大径13mm, 石質岩片の最大径5mm, FP-IX）、正の級化構造が認められる黄白色軽石層（層厚11cm, 軽石の最大径47mm, 石質岩片の最大径18mm）、黄白色中粒軽石層（層厚4cm, 軽石の最大径52mm, 石質岩片の最大径21mm）、黄白色細粒軽石層（層厚2cm, 軽石の最大径11mm, 石質岩片の最大径4mm）、黄白色中粒軽石層（層厚9cm, 軽石の最大径52mm, 石質岩片の最大径24mm, 以上FP-X）、褐色石質岩片混じり黄白色細粒軽石層（層厚4cm, 軽石の最大径24mm, 石質岩片の最大径13mm, 以上FP-XI）からなる。

(6) 1号住居跡EWトレンチ

1号住居跡EWトレンチでは、下位より褐色土（層厚5cm以上）、若干色調が暗い褐色土（層厚8cm）、暗褐色土（層厚8cm）、黒褐色土（層厚8cm）、白色粗粒火山灰や黄褐色土粒子混じり褐色土（層厚5cm, 住居跡周堤帯構成土起源）、白色細粒軽石混じり暗褐色土（層厚13cm, 軽石の最大径4mm）、褐色土（層厚2cm）、黒褐色土（層厚8cm）、成層したテフラ層

（層厚6.3cm）、暗灰色土（層厚2cm）が認められる（図5）。

発掘調査では白色細粒軽石混じり暗褐色土と成層したテフラ層の直下から、畠遺構が検出されている。これらの土層のうち、成層したテフラ層は、下位より桃褐色細粒火山灰層（層厚2cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、白色軽石層（層厚0.5cm, 軽石の最大径24mm, 石質岩片の最大径16mm）、灰色粗粒火山灰層（層厚0.8cm）、黄色細粒火山灰層（層厚2cm）が認められる。このテフラ層は、その層相からHr-FAに同定される。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

1号住居跡EWトレンチにおいて、Hr-FAの下位の土層について基本的に厚さ5cmごとに採取された試料を中心とした8点について、テフラ検出分析を行ってテフラの降灰層準の把握および示標テフラとの同定を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を把握。

(2) 分析結果

1号住居跡EWトレンチにおけるテフラ検出分析の結果を表1に示す。分析の対象となったいずれの試料からもスポンジ状に比較的よく発泡した灰色軽石（最大径3.2mm）が検出された。また試料13、6'、5からは、さほど発泡の良くない白色軽石（最大径2.2mm）が少量認められた。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

テフラ検出分析により、灰色軽石と白色軽石の両方が認められた試料13および6'の2点について、温度一定型屈折率測定法（新井, 1972, 1993）により屈折率測定を行い、示標テフラとの同定精度の向上をはかった。

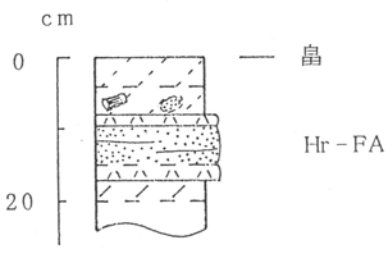


図1 第1地点の土層柱状図

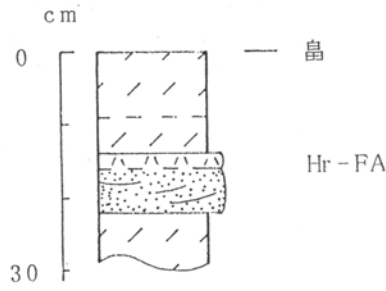


図2 第2地点の土層柱状図

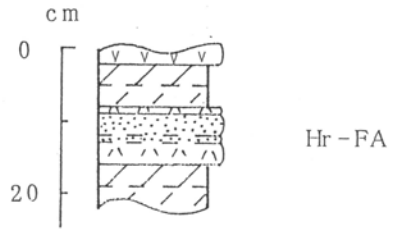


図3 第3地点の土層柱状図

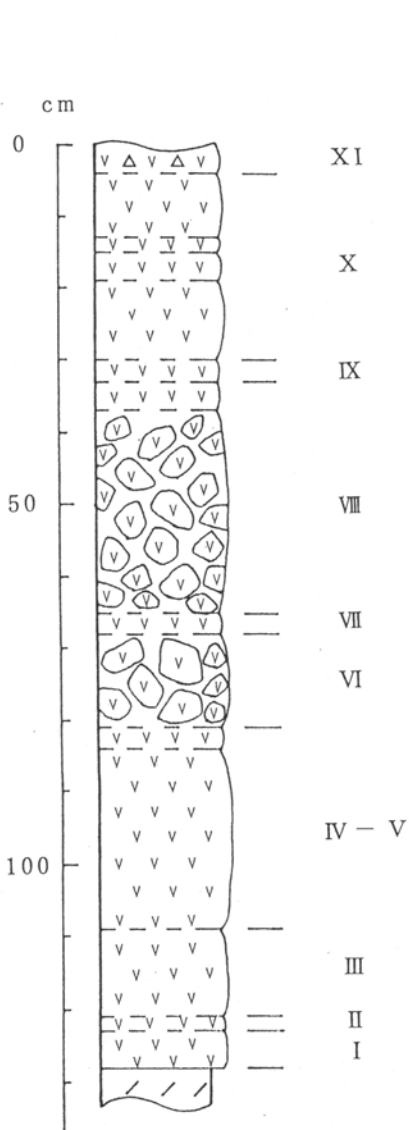


図4 調査区西壁の土層柱状図

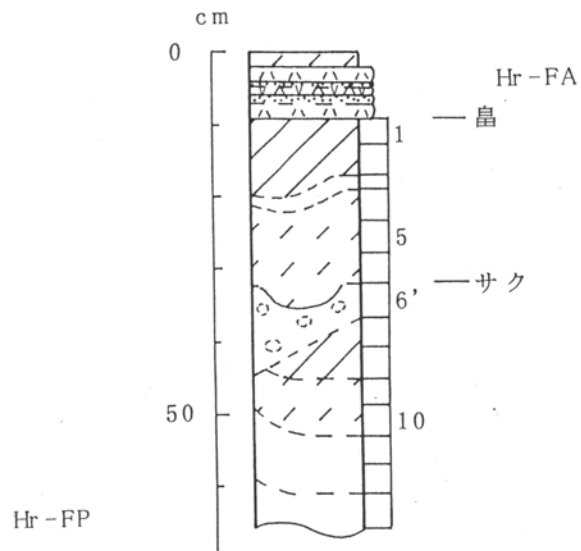
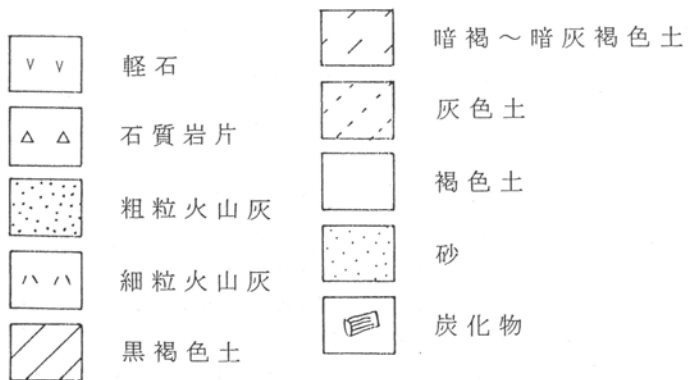


図5 1号住居跡EWトレンチの土層柱状図

数字はテフラ分析の試料番号



IV 分析

(2)測定結果

屈折率の測定結果を表2に示す。試料13に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は1.510-1.519である。重鉱物としては、斜方輝石のほかに単斜輝石や角閃石が含まれている。斜方輝石(γ)と角閃石(n_2)の屈折率は、各々1.706-1.711と1.672-1.677である。試料6'に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は1.515-1.531である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほかに角閃石が含まれている。斜方輝石(γ)と角閃石(n_2)の屈折率は1.706-1.710である。これらの試料のうち、灰色軽石はその岩相や屈折率などから、4世紀中葉*1に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。一方、白色軽石については、そ

の岩相や試料中にAs-Cには含まれていない角閃石が認められること、さらに角閃石の屈折率などから、5世紀に榛名火山から噴出した榛名有馬テフラ(Hr-AA, 町田ほか, 1984)に由来すると考えられる。

5. 考察 遺構および土層と示標テフラとの関係について

第1地点および第2地点で検出された畠の層位は、Hr-FP直下にある。また、1号住居跡EWトレンチで認められた畠のうち、下位の畠はHr-AAより上位でHr-FAより下位にある。さらに上位の畠については、Hr-FA直下に層位があると考えられる。断面の状況から、下位の畠よりさらに下位にも耕作の痕跡の存在が推定されるが、いずれもHr-AAの降灰後に

表1 1号住EWトレンチにおけるテフラ検出分析結果 (1)

試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
1	++	灰	3.1
3	++	灰	2.9
5	++	灰>白	3.1, 2.2
6'	++	灰>白	2.4, 1.6
7	++	灰	3.0
9	++	灰	3.2
11	+	灰	2.9
13	+	灰>白	2.1, 1.4

++++:とくに多い, +++:多い, ++:中程度, +:少ない, :認められない. 最大径の単位は, mm.

表2 1号住EWトレンチにおけるテフラ検出分析結果 (2)

試料	火山ガラス(n)	重鉱物	斜方輝石(γ)	角閃石(n_2)
6'	1.515-1.531	opx>cpx,(ho)	1.706-1.710	-
13	1.510-1.519	opx>cpx,(ho)	1.706-1.711	1.672-1.677

屈折率の測定は、温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)による。

opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, ho:角閃石. ()は量が少ないことを示す。

形成されたものと思われる。

6. 小結

中郷恵久保遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間C軽石 (As-C, 4世紀中葉^{*1}) および榛名有馬テフラ (Hr-AA, 5世紀) に由来する可能性の高いテフラ粒子のほか、榛名二ツ岳洪川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭) や榛名二ツ岳伊香保テフラ (Hr-FP, 6世紀中葉) の堆積が認められた。本地点において検出された3層準の畠遺構は、Hr-AAとHr-FAの間、Hr-FA直下、Hr-FP直下に各々層位があると考えられる。

*1 西暦300年前後とする見方もある (友廣, 1988など)

文献

- 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
- 荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質. 地研専報, no.14, p.1-45.
- 早田 勉 (1993) 遺跡の層序. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「白井大宮遺跡」, p.10-14.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, p.276.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学考古学研究と関係する テフラのカタログ. 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-92 8.
- 坂口 一 (1986) 榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井 神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 友廣哲也 (1988) 古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」 p.325-336.

v-1. 中郷恵久保遺跡における植物珪酸体分析 (1)

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO₂) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。

2. 試料

分析試料は、第1地点、第2地点、第3地点、1号住居跡E Wトレンチから採取された計23点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相

IV 分析

当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：105g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

(1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1～図4に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、ヒエ属型、エノコログサ属型、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大型）、Aタイプ（くさび型）

〔イネ科タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

〔イネ科その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

はめ絵パズル状（ブナ科ブナ属など）、その他

5. 考察

(1) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、イネをはじめオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネ、ヒエ属型、エノコログサ属型が検出された。以下に各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

1) イネ

イネは、1号住居跡EWトレンチのHr-AAの上位の畝遺構（試料8）から検出された。密度は700個/gと低い値であるが、上位の試料1～試料7からはまったく検出されないことから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、同遺構もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

2) ヒエ属型

ヒエ属型は、第1地点ではHr-FP直下の畝遺構（試料1）、第2地点ではHr-FP直下の畝遺構（試料1）とその下層（試料4）、第3地点ではHr-FPの下層（試料2）、1号住居跡EWトレンチではHr-FP直下の畝遺構（試料1、2）とその下層（試料6）、Hr-AAの上位の畝遺構（試料8）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点ではこれらを識別することは困難である（杉山ほか、1988）。また、密度もほとんどの試料で1,000個/g未満と低い値であることから、これらの遺構や層準でヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

3) エノコログサ属型

エノコログサ属型は、第2地点のHr-FA直下層（試料5）および第3地点のHr-FA直下層（試料4）から検出された。エノコログサ属型には栽培種のアワ

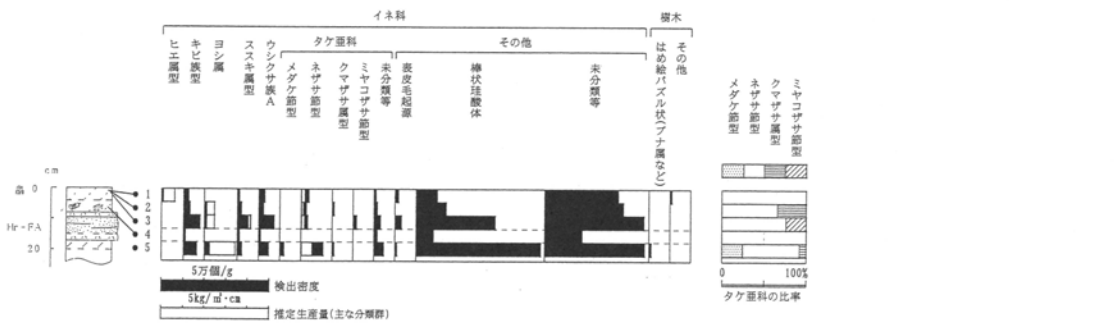


図1 吹屋三角恵久保遺跡、第1地点における植物珪酸体分析結果

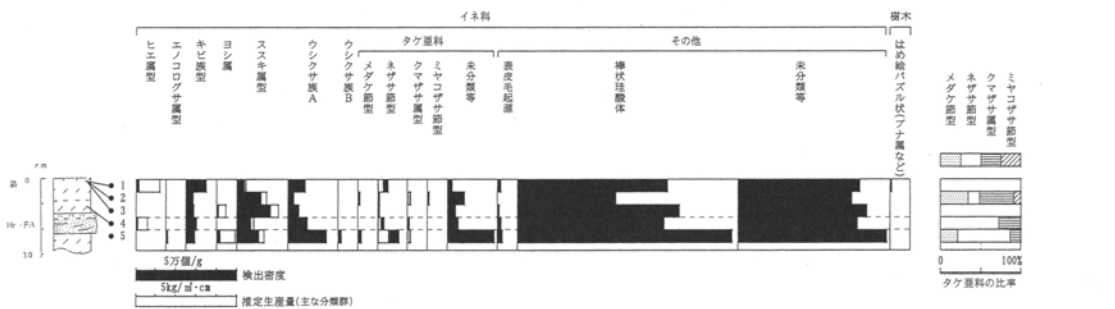


図2 吹屋三角恵久保遺跡、第2地点における植物珪酸体分析結果

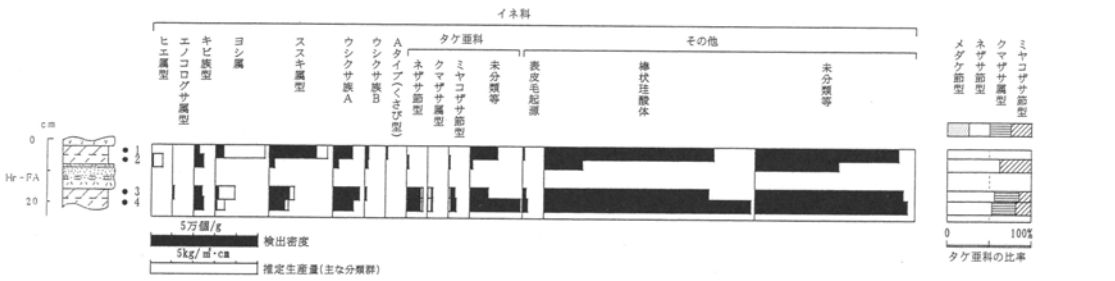


図3 吹屋三角恵久保遺跡、第3地点における植物珪酸体分析結果

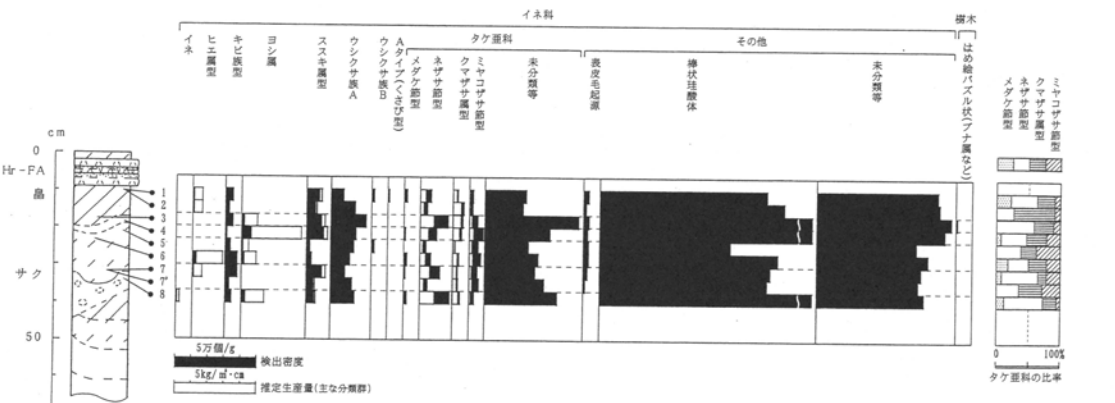


図4 吹屋三角恵久保遺跡、第1号住居E Wトレンチにおける植物珪酸体分析結果

表 1 中郷恵久保遺跡における植物珪酸体分析結果 (1)

分類群	学名	地点・試料																						
		第1地点					第2地点					第3地点												
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1号住EWTレンヂ								
イネ科	Gramineae (Grasses)																							
イネ	<i>Oriza sativa</i> (domestic rice)	7					14					6				7	7	7	22	7	7			
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																							
エノコログサ属型	<i>Setaria</i> type																							
キビ属型	<i>Panicum</i> type	21	28	76	7	59	96	34	37	51	42	22	42	36	43	44	21	44	7	28	72	71	23	36
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	7	7	7	22		7	7	7	14		36	14	7		15	58	7	14				22	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7	14	49	7	15	34	115	162	65	105	219	18	94	72	73	49	89	101	14	22	93	38	43
ウシクサ属A	Andropogoneae A type	27	21	70	7	44	83	27	52	94	190	88	24	123	94	73	147	214	152	139	115	86	128	145
ウシクサ属B	Andropogoneae B type											15	12	7		15			14					
Aタイプ(くさび型)	A type											7				7								
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																							
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>	34	21	28	103	7	15	7	7	29	105	14				15	15	7	14	7	14	7	14	
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	7	7	7	7	7	48	7	7	7	7	6	65	65	65	66	42	170	101	35	65	121	45	181
クマザサ節型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)						7	13	7	7	14	22	22	22	22	29	63	59	51	14	36	29	30	43
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	7	14	28	13	44	21	81	37	51	232	131	12	87	238	250	231	568	397	265	325	307	360	442
未分類等	Others																							
その他のイネ科	Others																							
表皮毛起源	Husk hair origin	14	28	362	78	579	7	14	7	15	21	7	14	22	22	29	14	30	22	28	29	21	8	
棒状珪酸体	Rod-shaped	96	139	362	78	579	737	479	802	719	1068	803	176	779	980	1043	1150	1630	1358	815	1111	1064	1043	1397
未分類等	Others	350	375	473	176	476	599	560	633	588	730	672	394	683	713	779	750	819	780	606	678	635	615	652
樹木起源	Arboreal																							
はめ総ハズル状(ブナ属等)	Jigsaw puzzle shaped (<i>Fagus</i> etc.)	7					7																	
その他	Others																							
植物珪酸体総数		570	625	1134	287	1377	1652	1329	1744	1627	2557	2000	698	1969	2291	2454	2496	3696	3120	2020	2576	2491	2348	3012

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oriza sativa</i> (domestic rice)	0.58					1.16			0.61		0.51				0.62	0.59			1.82	0.6		0.21	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																							
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.09	0.17	0.6	0.08	0.18	0.43	1.42	2.01	0.81	1.31	2.72	0.23	1.16	0.89	0.91	0.61	1.1	1.25	0.17	0.27	1.15	0.47	0.54
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type																							
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>																							
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	0.16	0.1	0.13			0.23	0.03	0.04	0.13	0.51	0.03	0.31	0.31	0.31	0.32	0.2	0.81	0.49	0.17	0.31	0.58	0.22	0.87
クマザサ節型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)																							
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>						0.05			0.05	0.11					0.22	0.47	0.44	0.38	0.1	0.27	0.21	0.23	0.33
植物珪酸体総数							0.04			0.02		0.02	0.09	0.11		0.07	0.06	0.15	0.26	0.17	0.22	0.15	0.18	0.09

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>						34			21		22				22				17	8		12	
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	100	66	76			100	14	100	72	65	62	56	54		41	27	58	40	38	32	57	35	60
クマザサ節型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)		34				44		28	14		28	29	28		28	64	31	31	24	28	21	36	22
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>			24			9					38	15	19		9	9	11	22	38	22	15	29	6

の他にエノコログサなどの野生種が含まれるが、現時点ではこれらを識別することは困難である(杉山ほか, 1988)。また、密度も1,000個/g未満と低い値であることから、ここでアワが栽培されていた可能性は考えられるものの、エノコログサなどの野・雑草である可能性も否定できない。

4) その他

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものが含まれており、ウシクサ族B(大型)の中にはサトウキビ属に近似したものが含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畠作物は分析の対象外となっている。

(2) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

Hr-FAの下層では、上記の分類群以外にもススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属やメダケ節型なども検出された。また、部分的にブナ属などの樹木起源も検出された。Hr-FPの下層でもおおむね同様の結果であるが、同層準ではネザサ節型が減少しており、第3地点ではススキ属型が多量に検出された。おもな分類群の推定生産量によると、Hr-FAの下層ではススキ属型やネザサ節型が優勢であり、部分的にヨシ属も多くなっていることが分かる。また、第3地点のHr-FP直下層ではヨシ属やススキ属型が優勢となっている。

以上の結果から、Hr-FAの下層の堆積当時は、ススキ属やチガヤ属を主体としてネザサ節などもみられる草原的な環境であったと考えられ、ヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。また、遺跡周辺にはブナ属などの樹木も分布していたと考えられる。その後、Hr-FAの堆積によって当時の植生は一時的に破壊されたと考えられるが、ススキ属やチガヤ属は比較的早い時期に再生したと考えられ、Hr-FP直下層の時期にはブナ属などの樹木

も見られたと推定される。

6. まとめ

植物珪酸体分析の結果、榛名有馬テフラ(Hr-AA, 5世紀)の上位の畠遺構では、少量ながらイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。また、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)直下の畠遺構ではヒエ属(ヒエが含まれる)やエノコログサ属(アワが含まれる)、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)直下の畠遺構ではヒエ属(ヒエが含まれる)が栽培されていた可能性が認められた。

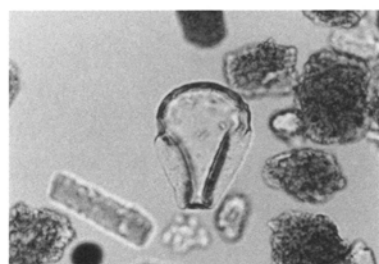
当時の遺跡周辺は、ススキ属やチガヤ属などを主体とした草原的な環境であったと考えられ、ヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。また、遺跡周辺にはブナ属などの樹木も分布していたと考えられる。

文献

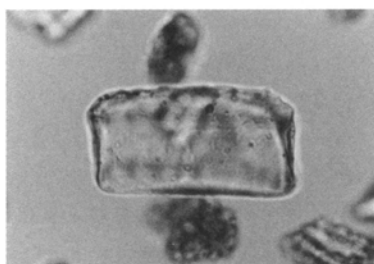
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志(1988) 機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用古代農耕追究のための基礎資料として。考古学と自然科学, 20, p.81-92.
- 藤原宏志(1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法。考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二(1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) プラント・オパール分析による水田址の探査。考古学と自然科学, 17, p.73-85.

IV 分析

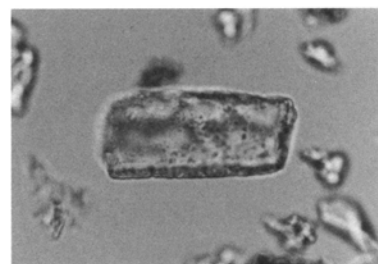
図版 1 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写



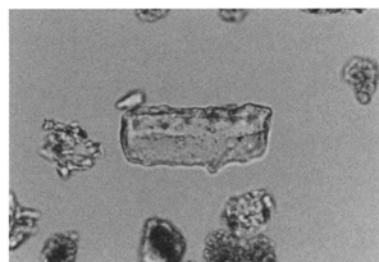
No 1 イネ



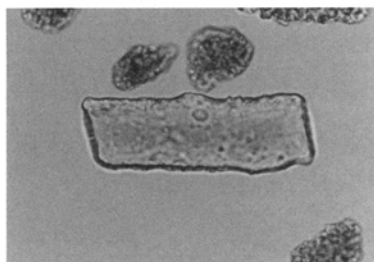
No 2 ヒエ属型



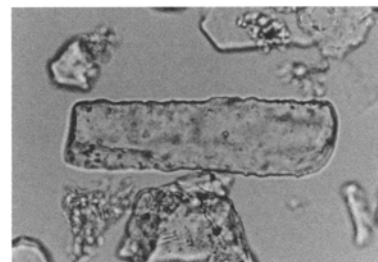
No 3 ヒエ属型



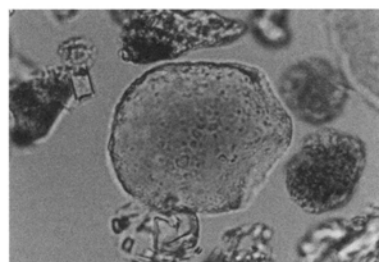
No 4 エノコログサ属型



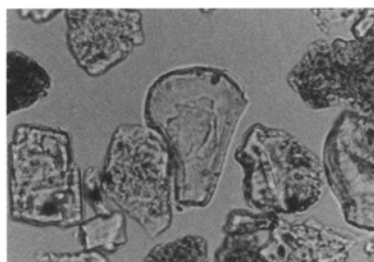
No 5 キビ属型



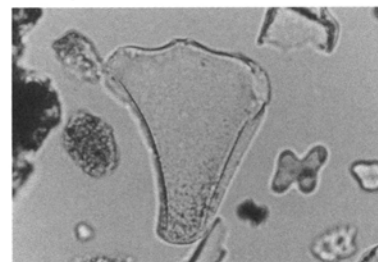
No 6 キビ属型



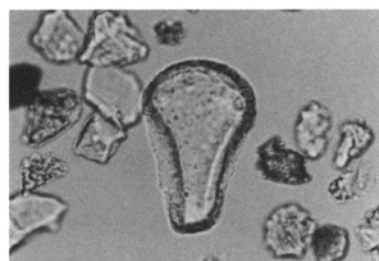
No 7 ヨシ属型



No 8 ススキ属型



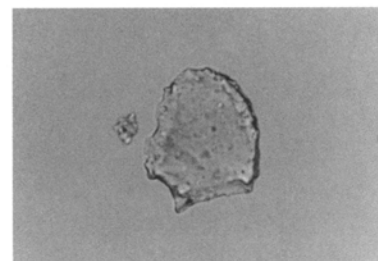
No 9 ウシクサ属型



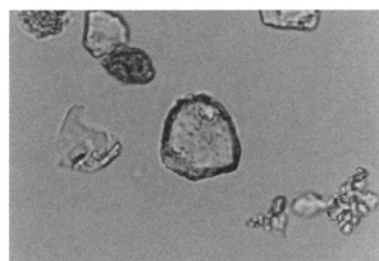
No10 メダケ属型



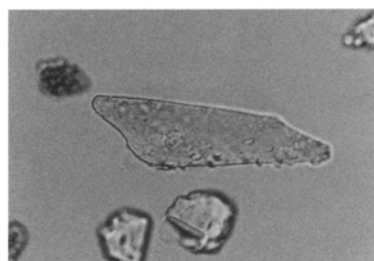
No11 ネザサ属型



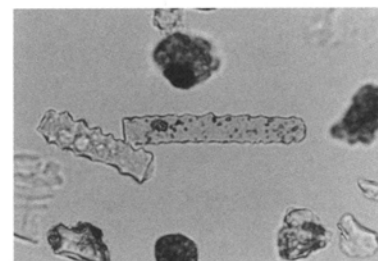
No12 クマザサ属型



No13 ミヤコザサ節型



No14 表皮毛起源



No15 棒状珪酸体

No	地点	試料名
1	1号住居	8
2	1号住居	1
3	1号住居	1
4	1号住居	3
5	1号住居	5

No	地点	試料名
6	1号住居	1
7	1号住居	3
8	1号住居	1
9	1号住居	3
10	1号住居	2

No	地点	試料名
11	1号住居	5
12	1号住居	7
13	1号住居	2
14	1号住居	1
15	1号住居	2

v-2. 中郷恵久保遺跡Ⅲ区における植物珪酸体分析 (2)

中郷恵久保遺跡の自然化学分析については、平成11年度調査対象のⅡ区で行った他、平成13年度Ⅲ区調査の際にも併行調査遺跡である吹屋栳屋遺跡と同時にやっている。本遺跡では、Ⅲ区で検出された長サク状畠跡と短サク状畠跡を主な分析対象としており、本書では抜粋の形態をとり掲載する。(編者)

1. 試料

試料は、中郷恵久保遺跡Ⅲ区の第1地点(台地部)、第2地点(斜面上部)、第3地点(斜面下部)、第4地点(斜面下部)の8地点から採取された計25点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

2. 分析法は前回と同じ

3. 分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1、図2に示した。

4. 考察

(1) 稲作跡の検討

稲作跡の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構や畠遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 中郷恵久保遺跡第1地点(台地部)

Hr-FP直下畠(試料1~3)およびHr-FA直下畠(試料4~6)について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出されなかった。

2) 中郷恵久保遺跡第2地点(斜面上部)

Hr-FA直下層(試料1、2)について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出されなかった。

3) 中郷恵久保遺跡第3地点(斜面下部)

Hr-FA直下層(試料1、2)について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出されなかった。

4) 中郷恵久保遺跡第4地点(斜面下部)

Hr-FP直下層(試料1~3)について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出され

表2 中郷恵久保遺跡における植物珪酸体分析結果 (2)

検出密度(単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料		第1地点				第2地点		第3地点		第4地点		
		1	2	3	4	5	6	1	2	1	2	1	2	3
イネ	<i>Oriza sativa</i> (domestic rice)													
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type				7			8			8			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	7	8			7	7	23	8	15	30	8	15	7
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	15	23	75	22	45	52	45	75	30	30	45	22	60
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	45	30	45	37	52	45	120	128	68	75	68	90	90

推定生産量(単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oriza sativa</i> (domestic rice)													
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type				0.63			0.63			0.63			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.47	0.48			0.47	0.47	1.42	0.48	0.95	1.91	0.48	0.94	0.47
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.19	0.28	0.93	0.28	0.56	0.65	0.56	0.93	0.37	0.37	0.56	0.28	0.74
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.22	0.15	0.22	0.18	0.25	0.22	0.58	0.61	0.33	0.36	0.33	0.43	0.43

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

IV 分析

なかった。

(2) イネ科栽培植物の検討

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）などがある。このうち、本遺跡の試料からはヒエ属型が検出された。

ヒエ属型は、中郷恵久保遺跡Ⅲ区第1地点のHr-FA直下畠（試料4）、第2地点のHr-FA直下層（試料1）、第3地点のHr-FA直下層（試料1）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビ

エなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか，1988）。また、密度も700～800個/gと低い値であることから、これらの地点でヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

5. まとめ

プラント・オパール分析の結果、中郷恵久保遺跡Ⅲ区（第1地点、第2地点、第3地点）のHr-FA直下層では、ヒエ属（ヒエが含まれる）が栽培されていた可能性も認められた。

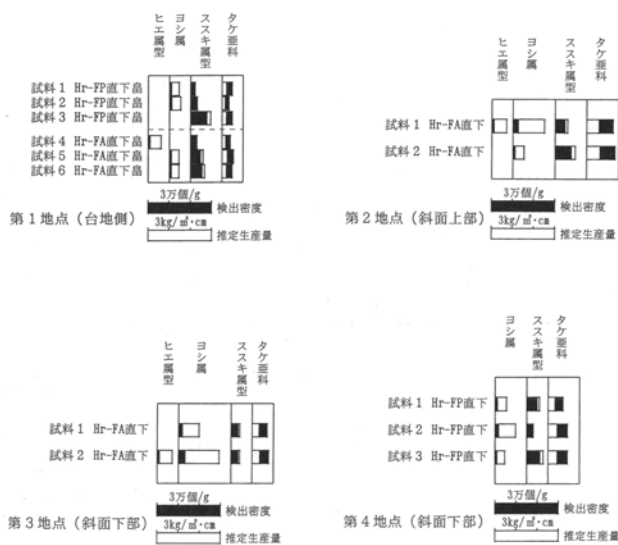
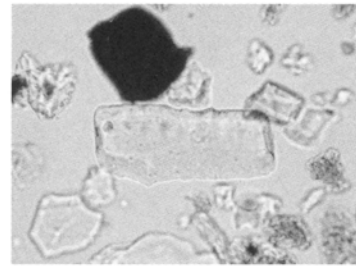
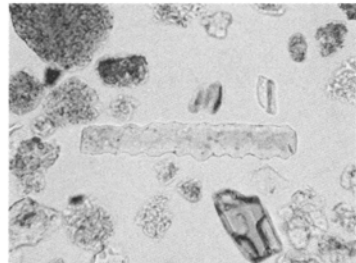


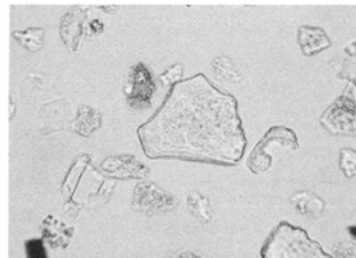
図2 中郷恵久保遺跡におけるプラント・オパール分析結果



キビ族型地
中郷恵久保 3-2



棒状珪酸体
中郷恵久保 1-3



多角形板状 (コナラ属等)
中郷恵久保 1-3

50μm

図版2 植物珪酸体の顕微鏡写真

V ま と め

中郷恵久保遺跡古墳時代資料から

本報告書では、中郷恵久保遺跡で調査された縄文時代中葉～後葉の包含層と土坑、古墳時代中葉の集落跡、古墳時代後葉（F A下とF P下）の放牧地跡と畠跡・水田跡、平安時代の住居跡1軒を報告した。子持村内における、当事業団の発掘調査は多く、特に国道17号（鯉沢バイパス）関連の調査は、子持村東部を南北に縦断する調査となっている。一方、中郷恵久保遺跡がある国道353号線（鯉沢バイパス）関連の調査は、村内を東西に横断する形態で発掘が及んでいる。この2つの鯉沢バイパスの調査により、子持村内の考古学的見知は更に深まるものと期待され、今後も調査成果の公表と充実が当事業団の課題の一つとなっている。

その中で、国道353号線（鯉沢バイパス）の一連の調査は、村内の中心部近くを通過し、幾つかの低位台地や埋没谷・沖積地を跨ぐ、起伏有る地形を調査したため、各調査面一文化層で様々な成果を得ることができた。中郷恵久保遺跡もその一つの遺跡であり、F P下面の古墳時代後葉にあたる文化層と更に下位面である古墳時代前葉の集落跡は、当地域でも良好な資料として位置付けられよう。

ここでは、古墳時代前葉の集落資料と古墳時代後葉の水田跡と放牧地跡に注目し、発掘調査と整理作業において、管見に触れ得た幾つかを列挙し、まとめとしたい。

古墳時代前葉の集落について： II-2区からIII-1区にかけて検出された33軒の竪穴住居跡が中心である。台地中央部から西斜面にかけて集中する傾向があるが、調査区が一部に限られるため、その全容は確定できない。おそらく、台地全域に幾つかの単位をもって広がりを見せるものと想定できよう。

集落の内容は、竪穴住居跡と掘立柱建物跡からなる。残念ながら、平地住居跡や祭祀跡といった、竪穴を付随しない施設については検出できなかった。本報告では、遺構外出土遺物の集中箇所から祭祀跡

の存在を推定したが、あくまで集中出土を示唆したのみで、祭祀跡としては特定できなかった。

竪穴住居跡の中には、埋没が完了せず、F P下において凹地としてその存在を示唆する例もあった。周堤帯を残していた1号住・23号住・31号住などはその顕著な例である。周堤帯が残存する場合は、例えば周堤帯上の垂木の痕跡や出入り口部の特定などが調査成果として期待される場所であるが、本遺跡の場合、周堤帯の上部構造は、古墳時代後葉の開発によってかなり攪乱された状況であり、把握には至らなかった。

しかしながら、周堤帯の残存はその住居跡の周辺住居との先後関係をも類推できる。例えば、1号住居跡の周辺には、9～11号住・21号住が近接しており、4軒とも1号住周堤帯下の層位的な新旧が把握できる。23号住は近接する住居跡が無いが31号住周堤帯下には29号住があるように、ほぼ同時期の集落とみても、若干の時間差を持って重複・近接する配置を見せている。

検出された住居跡の殆どが、焼失家屋といえよう。顕著な例は、1号住・18号住・20号住・24号住であり、炭化材樹種同定を施したが、その他にも4号住・6号住・15号住・21～23号住・32～34号住等も床面あるいは床直上に少量ながらも炭化材が散布しており焼失家屋と判断できる¹⁾。

さて、焼失住居跡の存在は、当該期の争乱痕跡と見る向きもあるが、編者は極めて否定的な見解である。おそらく、県内の古墳時代前葉段階の主要な住居跡の大半が焼失住居と捉えられよう。仮に争乱状態としても、県内全域を焼き尽くす行為は到底考えられる状況ではなく、常識では全戸を焼き尽くす争乱は想定もできない。

編者は、焼失住居は地目変化による一種の焼き払い行為と考えている。住居跡廃絶後に、地目を畠地として変化させる際に、土地の養分を促進させるために、焼き払い行為を行い、速やかに埋め戻した例と考える。つまり住居焼失化によって、土を肥沃化するものと考えているが、焼失後の炭化材を養分と

するのではなく、焼失時に発生する灰・焼土が作物生育に有益な要素となり得るものと捉えた²⁾。

また、集落地は人間生活により、作物生育に適した養分が浸透しているため、畠作に転換しやすい土壌と思われる。この養分に加え、住居焼失に伴う灰・焼土を地中に蓄えることにより、居住地から畠地への変換を果たしたものと捉えられる。

水田という定着的な生産域に反して、畠地は移動可能な生産地として、例え集落用地といえども、畠地へ転換させ、集落用地は至近距離への移動が想定される。移動先は元畠地である可能性も高く、これは畠作における連作障害への防止ともなり得る。

上記のように古墳時代農耕形態を、あたかも縄文時代の移動性集落形態かのように捉えるのは、暴論に近いかもしれないが、古墳時代前葉における、ある一定の範囲内での用益地内部で反復居住や反復畠作が行われていた可能性はあると考える。その際に、堅穴住居廃絶時には意図的な放火と埋め戻しによって、肥沃な畠地を確保したのではないかと考えた。本遺跡では、厳密な畠地転換とは断定できないが、堅穴住居跡を切る新旧関係でサク状遺構が確認されており、少なくとも住居→焼失化→畠という変遷が追える。問題点としてはサク状遺構の営まれた時期が住居廃絶後直後かどうかは確証的ではない。今後の課題の一つだが、例えば、FAやFP降下前の一定の時間幅で上記の住居→焼失化→畠という流れが観察できれば、焼失住居が畠作への意図的行為として位置づけられよう。無論、放火—焼失時前後に何らかの祭祀行為—例えば豊穰祭祀が行われる現象も想定できよう。

次に、堅穴住居跡床面に注意してみよう。本遺跡で検出された堅穴住居跡のうち、2段構成の床面が幾つか見られる。1号住・25号住・31号住に顕著であり、1号住と25号住は壁際が10cm前後の段差を持って、高く設けられる傾向が見られた。両住居跡とも全掘が適わなかったため、全容は把握できないが、床面中央が凹む一例として把握したい。同様な床面段差は、他遺跡の該期住居跡でも少量ながらも見る

ことができ、2段構成の床面として定型的な位置を与えられる例である。一方、31号住はL字状に屈曲する段差と間仕切り溝によって、床面の分割が看取された。炉の位置は低位床面北壁に接しており、「土間」として低位床面を想定できる要素ともなり得よう。間仕切り溝は、15号住や23号住でも確認されている。壁周溝の途切れ部分との関連も興味ある現象であり、例えば入り口部や棚などの住居内施設の推定に示唆的な観察項目となるだろう。

古墳時代前葉の土器について：子持村内では古墳時代前葉の集落跡の検出は比較的少なく、その様相も未だ判然としない様相である。周辺の該期遺跡としては、本遺跡と同一台地上に乗る八幡神社遺跡があるが詳細は不明である。利根川左岸では、北橋村北町遺跡や赤城村三原田三反田遺跡、見立溜井遺跡、樽舟戸遺跡が知られる。また、利根川右岸では、有馬遺跡・有馬条里遺跡・中村遺跡等が分布する。これらの周辺遺跡では、S字状口縁台付き甕に櫛描き文施文の樽式系土器や縄文施文である吉ヶ谷式系土器とともに、在地的色彩の強い、平底の甕形土器が混在する様相を示す。

中郷恵久保遺跡の古墳時代前葉の集落跡からも、S字状口縁台付き甕を含めて多量の土器が出土しているが、甕形土器に関しては、縄文を施文する吉ヶ谷式系土器が欠落する様相を示し、前述の該期遺跡とはやや趣を異にしている。これが、偶発的な所産なのか、地域性を背後としているのか、あるいは時期的な差を要因としているのか、現状の資料蓄積では判断がつかないが、本遺跡の該期土器組成における、大きな特徴の一つといえよう。

このように吉ヶ谷式系土器を欠落する、中郷恵久保遺跡の古墳時代土器組成ではあるが、在地色の強い甕形土器は組成の中心的な位置を示す。口縁部は外傾し体部は球胴状を呈す平底の甕形で、外面はハケ目調整後にミガキを加え、内面は横位撫で・ミガキを施す。口縁部は折り返す例と単口縁の例があり、多様性を含む。これ以外に単口縁の小型台付き甕等も見られ、S字状口縁台付き甕と対峙する様相で組

成の主体をなしている。両者とも台付き甕という器種から、煮沸具としての用途が充てられるが、調整方法の差は煮沸対象物の差を表しているのか、あるいは伝統的手法を含めた系統的な差と見るのか、課題の一つと捉えられよう。

さて、これら在地色の強い甕型土器にあって、極めて特徴的な様相を示す例として、「斜格子目文甕形土器」がある。図1に本遺跡出土の主な例を挙げたが、筆者の管見に触れ得た限りは、周辺の遺跡でも類例が無く、僅かに北毛の数遺跡で客体的に見られるのみである。おそらく個体として報告される遺跡は、本遺跡が初例とみることができよう³⁾。

「斜格子目文甕形土器」の特徴を概観すると、器形は完形復元できる個体が1個体のみなので、判然としないが、口縁部形状は概ね外反・外傾する形態である。単口縁(1~8)と折り返し口縁(9~12・17~20)ともに見られ、特に偏りは見出せない。頸部は比較的屈曲する例が多いが、17のように緩やかなものも見られる。ただ頸部屈曲からは、比較

的強く張る肩部と体部上半部が予想され、球胴形の体部器形も想定されよう。

外面調整は、口頸部に縦位ハケ目調整を施し、体部にミガキが加わる。内面調整は横位ハケ目調整後、横位ミガキが入念に施される。

斜格子目文は、工具1本の沈線による施文で、外面調整後に口縁部から肩部にかけて施され、口唇部にまで達する例もある。沈線幅は狭く、深く施文しており、やや乱雑な例があるが、強い施文意識の元、文様を配している。斜格子目文はおそらくLR沈線→RL沈線の施文順位で、先に右肩上がり(LR)の斜位沈線を施し、RL沈線を加える事により、格子目状の文様としているようだ。

量的には客体的な存在で、個体も復元図示し得た4個体のみである。「斜格子目文甕形土器」のみで組成の一角をなす存在ではない。

また、前にも述べたように施文部位は、口縁部~肩部に限られ、これは通常の櫛描き文を施す樽式系土器と同様の部位であり、伝統的な施文部位と捉え

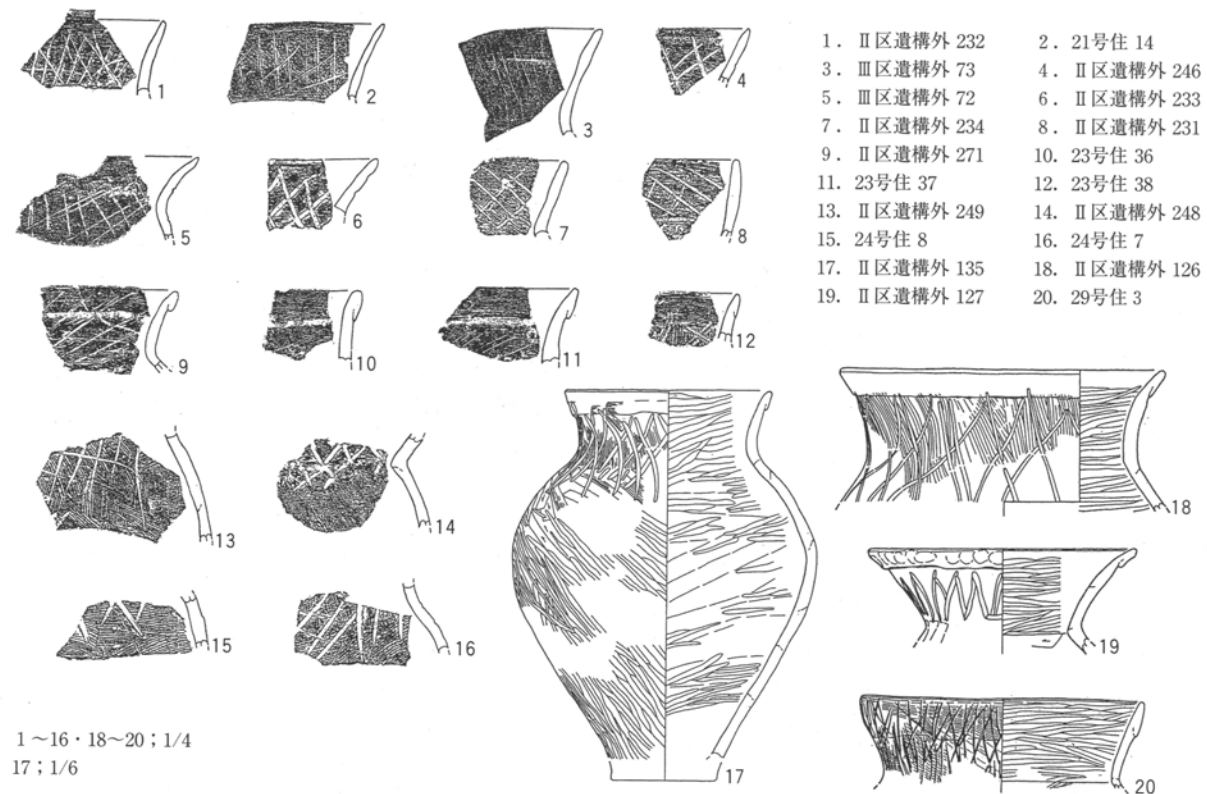


図1 「斜格子目文甕形土器」

V まとめ

られる。ただし、櫛描き文と違い1本工具による施文であり、該期土器群の施文土器の中では異色の施文方法である。ただ、格子目文の施文以外は、他に見る在地系土器群との差は無く、在地系の甕形土器の変化形との判断が妥当と考えられる。

「格子目文甕形土器」の共伴資料であるが、客体的な存在であり、良好な例には恵まれていない。遺構外出土例が多く、住居跡出土土器も殆どが破片資料であり、確定的な共伴関係を見いだせない。僅かに20が29号住で樽式系土器やS字状口縁台付き甕脚部と伴出しており、前葉段階の所産として捉えられるのみである。共伴資料の増加を望みたい。

このように、古墳時代前葉の土器群にあって、「斜格子目文甕形土器」にみる単沈線による施文は稀少例であり、極めて特徴的である。組成の中で客体的とはいえ、類例増加が果たされれば、該期土器群における施文行為を考える上で、重要な資料と位置付けられよう。本節では、資料の提示にとどまるが、伝統的な調整技法や施文手法が残存する古墳時代前葉にあって、文様描出方法を変化させた要素は注意したい。土器製作の過程で、伝統的ではない施文行為が存在することが、本遺跡の該期土器群の在地的な色彩が反映されるものと考えられる。

古墳時代後葉の放牧地跡と水田跡：古墳時代後葉にあたるF A下面とF P下面の2面の文化層が調査された。ここでは、F P下面で得られた各遺構について概略を述べたい。報告書本文では、各区分毎の記載を優先したため、ここでは、各遺構毎に特徴と問題点を抽出したい⁴⁾。

放牧地跡 子持村内のF P下面では多くの場所で馬蹄痕が認められるため、放牧地跡と位置付け、その範囲が推定できる。

放牧地跡としての用語の問題があるが、本報告では「馬がいた場所」として「放牧地跡」の名称を使用している。放牧地跡は「馬蹄痕」「道状遺構」「畦状遺構」「倒木跡」「立木痕」「植物痕」「焼土・炭化物の集中」からなり、低灌木・ススキ・ネザサが繁茂する植生や裸地状態に近い状態が想定されている。

ここでは、「馬蹄痕」「道状遺構」等に加えて「馬蹄痕ある畠跡」「踏み跡」「土塊」を放牧地跡を構成する要素として、本遺跡で検出された放牧地跡を構成する各遺構・各要素について述べる。

(畠跡) I-2区西端で短サク状畠跡、II-2区東で長サク状畠跡、III-1区で長サク状畠跡と短サク状畠跡が調査された。I-2区西端の短サク状畠跡は、馬蹄痕が近接していたが、畠跡には及んでいなかった。畝立ても高く、表面もやや軟質で放牧地に接した「機能していた畠」と見ることができよう。周辺に垣などの遮蔽物の存在が想定されたが、検出し得なかったのは残念である。II-2区東の長サク状畠跡はIII-2区西の長サク状畠跡に延長する同一の畠跡である。いずれも、馬蹄痕を多量に見ることができ、「畠としての機能を失った」状態と判断できた。II-2区側は1号住を原因とする凹地に畠が及ぶ。一方III-1区東は西斜面上位に営まれた畠で、傾斜が急になる変換点際にまで長く延びる走向を示す。III-1区側でも凹地(31住)があり、F P直下面では畠跡は検出されなかったが、F A上面での耕作痕調査で凹地にまで、サクが延長する様相が確認できた。畠としては、F A降下後に複数回の畠耕作が行われたものの、最終年度には耕作面積が縮小し、さらには畠放棄-放牧地化へと変化する過程が看取された。III-1区斜面は短サク状畠跡が段々畠のようにサクを連ねる。このIII-1区短サク状畠跡にも馬蹄痕が認められ、既に放棄された状態と見ることができた。下位段にいくに従い、畝も不明瞭になるが、斜面における耕作土の流失が要因であろうか。いずれにしても、放棄された状態を現している。このように、I-2区短サク状畠跡以外は、馬蹄痕が畠上面に認められ、馬が畠を踏み荒らした状況が看取された。少なくとも、畠→放牧地という変化は確認することができよう。加えて、III-1区F A上に見るサク状遺構の広がりからは、畠→縮小畠→放牧地という変化が読み取ることができよう。一方、I-2区短サク状畠跡は、畝立てが行われており、馬蹄痕が見られないことから、畠としての機能が果た

されていたと考えられる。短サク状畠跡は、その形状からかつて「陸苗代」と呼称されていた畠跡であるが、本例の東には極小区画水田が展開する。苗代用の畠としては、適地に立地しており、「陸苗代」として用途を想起させ得る。しかしながら、東に展開する水田の一部は既に代掻きが終了しており、本来ならば、陸苗代から稲苗が採取されていなければならない。つまり機能中のⅠ-2区短サク状畠跡は「陸苗代」としての機能ではないと判断できるのである。珪酸体分析を経なければ、特定できないというご意見も伺うが、遺構の検証を経てから科学分析データを参考にすべきであり、今後の検討を要しよう。

(道状遺構) 5条の道状遺構を検出している。このうち1号・3号・5号道状遺構は、南北の走向を見せており、かつ盛り土を付帯したり(1号・3号)、馬蹄痕跡を集中する(5号)特徴がある。この3条の道状遺構は、頻繁な南北の動線としての機能以外に、台地を東西に分割する劃線として位置付けられる。つまり、Ⅰ-1区1号道状遺構は東接する吹屋中原遺跡から延長する放牧地とⅠ-2区水田跡を画す。3号道状遺構(盛り土道)は、東の畠・水田地域と西の放牧地を分ける位置にある。さらに5号道状遺構(馬道)は東の放牧地と西の畠・水田地域を分けている。無論台地部分の大多数は、馬蹄痕跡に覆われるため放牧地跡と判断はしているが、畠が機能している期間は上記のように、道によって分割され用益地空間利用が看取されるのである。

(凹地) 本遺跡のF P下面では明瞭な凹地が3箇所確認された。本文中などで何度もふれ得たが古墳時代前葉の住居跡の埋没が完了せず、古墳時代後葉においても凹地として存在しているのである。3箇所は1号住・25号住・31号住であり、いずれも周堤帯が残存し、掘り込みの深い堅穴住居跡である。径4m以上の凹みであり、これらの凹みのうち、1号住が形成した凹みでは、前述のⅡ-2区长サク状畠跡東端が検出された。また、31号住が形成した凹みはF P直下では畠跡は見られなかったが、F A上でサ

ク状遺構の広がりを見ることができ、ここも畠跡として供されていた例が把握できた。このように、通常平坦地を畠として利用する傾向を想定しがちだが、凹地であろうと、畠用地として利用する動態が垣間見えた。凹地は水が溜まり畠作物には向かないと考えるが、養分を溜める利点もあり、凹地を避ける畠占地では無かったようだ。

(踏み跡) 道状遺構とは違い、明瞭な硬化面を持たず、微妙な硬軟差や色調差で、F P直下面で筋状にあるいは網状に把握できる遺構である。当時の人間が、放牧地内で様々な活動(耕起・馬の管理等)をした痕跡の一つと捉えている。直接的な人の足跡が伴っていないが、道状遺構とはまた違った動線として、放牧地の中では重要な要素である。低地部分では、土質が要因してなかなか把握できないため、台地上での検出に偏っている。顕著な例はⅡ-1・2区やⅢ-1区に見ることができ、例えばⅢ-1区の長サク状畠跡にあるような、南北方向の踏み跡は、畠放棄後の人の動きが想定できよう。

(土塊) 放牧地内での耕起作業を把握し得る要素である。F P降下直前まで、長時間を経たものと短時間のものがあるようだ。調査が多年度・複数回にわたったため、相互の比較が果たせなかったが、Ⅱ-1区で検出した土塊は、ゴツゴツした印象で、Ⅲ-1の土塊は低位で長時間を経た土塊と判断できる。このことから、本文中でも若干触れたが、馬蹄痕跡の分布と併せて、放牧地内の耕起作業の流れを見ることができた。即ち、東(Ⅱ-1区)ではF P降下直前耕起作業が着手されており、そのため馬蹄痕跡が少なくなる。土塊も新鮮なゴツゴツしたものが集合する。一方、西(Ⅱ-2区西・Ⅲ-2区)は耕起が未着手なため、馬蹄痕跡が多く、土塊も時間が経過した古いものと捉えられた。このことから、Ⅱ-1区からⅢ-1区間の放牧地内で、東から西への耕起作業の流れが臆気ながら想定できた。今まで静的な状態で把握されていた、放牧地においても、人間活動の痕跡を抽出し得たのではと考えている。

(馬蹄痕跡) 中郷恵久保遺跡の発掘調査では、馬蹄

V まとめ

痕に関しては詳細なデータを採用していない。白井遺跡群など、従来は馬蹄痕跡の計測をし、方向を判断し、圧痕が下位のFA層にまで達するのを見極める調査が進められたが、本遺跡の調査では下位文化層に集落跡が予想されたため、時間と予算の配分から、馬蹄痕跡に係る調査比重を軽くした。平面分布も記号化し、顕著な例以外は大小の区別も付けなかった。馬蹄痕跡調査は白井遺跡群の一連の調査から様々な試みがなされ、一定の成果が上がっている。この成果を踏まえて、確かに追証調査の必要性もあろうが、今後は視点を変えた取り組みが模索されなければならない。

水田跡 FP下面では、Ⅰ-2区とⅢ-1区低地部及びⅢ-2区で水田跡が検出されている。FP下水田の特徴の一つに、極小区画水田という形態が知られる。本遺跡では、Ⅰ-2区とⅢ-2区で調査した水田跡が極小区画であり、該期水田跡の特徴が良好に把握できた。さらに、Ⅲ-1区低地部で検出した水田跡は棚田状水田ともいべき大型区画水田であり、極小区画水田跡とは対照的な在り方を示す。

(極小区画水田跡) Ⅰ-2区の極小区画水田跡が整然とした区画が連なる良好な例である。大畦を挟み東側が耕起中水田区画で西側が代掻き後水田である。大畦を挟んだ水田耕作工程差が一望できる例である。同様な例は北牧大境遺跡(群埋文 2004)でも調査・報告されており、FP直下の水田跡様相として、中郷恵久保遺跡のFP下極小区画水田跡も追証資料として、重要な位置付けを果たす。耕起中水田区画は区画中央に土塊を残し、畦塗りが完了した段階と捉えられた。代掻き後水田区画は水田面が平坦であり、代掻きが完了した段階と見る事ができた。おそらく田植え直前と見做せよう。同様にⅢ-2区の極小区画水田跡も耕起中水田跡を見る事ができた。ただ、土塊の高まりが全体的に弱く、あるいは水を掛け流している最中の状態かもしれない。検討を要す。

(棚田状水田跡) Ⅲ-1区低地部で調査した水田跡は、不整長方形ながら大型区画であり、斜面形状に

沿って、棚田かのような景観を示していた。大規模な畦で区画され、水路状の水口が設けられていた。水田面は代掻きが完了しており、歩行を示す足跡も見ることができた。

急斜面を切り拓いた水田である。延長するⅢ-2区極小区画水田跡と比して規模差・形状差が大きく、急斜面という地形に制約を受け、棚田状の形態になったものと考えられる。また、斜面と水田跡の間の盛り土及び大畦下より、前述のⅢ-1区短サク状畠以前の畠サクがFA上調査で検出された、短サク状畠→棚田状水田という用地変換が一部とはいえ看取された。短サク状畠跡が放棄されていた状態を考えると、畠→放棄→放牧地化→斜面水田開拓という変遷を推定できよう。前述のように、畠は連作障害がつきまとう生産形態である。かつFAという火山性土壌が災いし、当地域の畠作物の生育は多くは望めず、本遺跡で調査された棚田状水田跡は、当地域において水田耕作への転換が模索された現象と捉えられないだろうか。

以上、本項はあくまでも推論の域を出ていないが、FP下面という、極めて情報量の多い調査面を得ると様々な仮説・推論が想起される。これらの傍証を蓄積し、より真実の姿に近づける努力をこれからも続けていきたい。

註

- 1) 大塚昌彦氏ご教示。当地域の該期住居跡の場合、炭化材の出土を持って焼失住居跡として判断できる可能性を示唆して頂いた。
- 2) 須永薫子氏ご教示。その他にもFP下の土壌と栽培作物との関連など、ご指導は多岐にわたる。
- 3) 少量ながら、月夜野町(現水上町)師遺跡(大江正行1989) S J 53・54やS J 66、十二原Ⅱ遺跡(相京建史1986) Y-1号住、Y-2号住に見ることができる。客観的な出土ながら、あるいは北毛地域に分布の中心を定めるべきであろうか。
- 4) FP下における調査方法や観察視点に関しては、調査中より子持村教委石井克己氏のご指導を得ている。編者もできる限り、氏のご指導に伝えるように心がけたが、浅学のため、十分に反映した調査・整理が果たせなかった。ただ、FP下面の各遺構に関する観察と解釈は、固定観念に囚われることなく、斬新な視点と素早い対応が必要とされた石井氏の調査指針は今後も踏襲していきたい。

付 篇

吹屋中原遺跡(Ⅳ区)

(国道353号線道路改築(改良)工事に伴う埋蔵文化財調査報告)

目 次

目次・例言

1. 調査に至る経過と調査経過	303
2. 調査の方法と概要	304
3. 検出された遺構	304
第1面 Hr-FP層上面の調査	305
第2面 Hr-FP層下面の調査	305
第3面 Hr-FA層上面の調査	309
第4面 Hr-FP層下面の調査	309
第5面 黒色土中・第6面 ローム層上面の調査	310

写真図版 付図版

例 言

本付篇は吹屋中原遺跡Ⅳ区発掘調査の報告である

遺跡名称 吹屋中原遺跡(Ⅳ区)

調査期間 平成8年6月10日～平成8年7月5日

調査面積 250m²

事業主体 群馬県土木部(渋川土木事務所)

調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

調査担当者 南雲芳昭・池田政志

整理担当者 山口逸弘

整理嘱託員 鹿沼敏子

整理補助員 渡部あい子 大塚とし子

矢島三枝子 小林 聖

本文執筆 池田政志・山口逸弘

付1図 吹屋中原遺跡Ⅳ区位置図は、国土地理院2万5千分の1「鯉沢」を使用した。

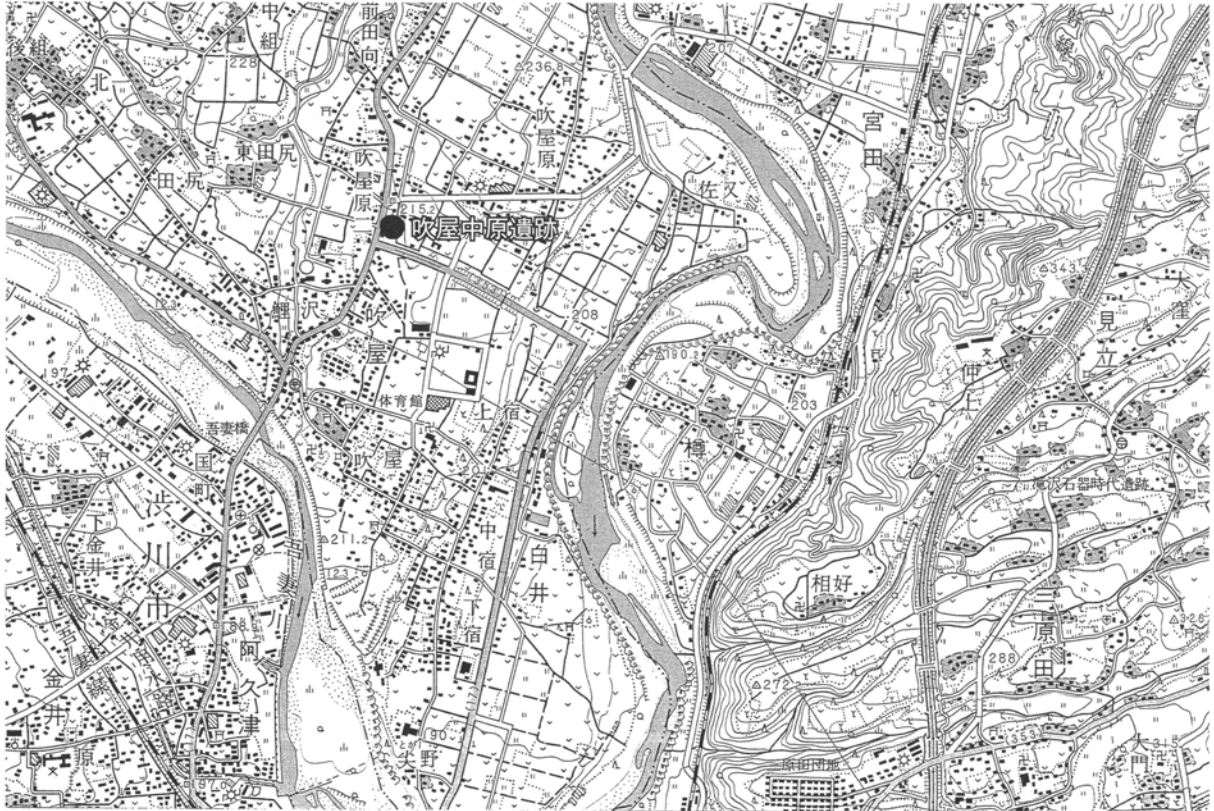
発掘調査資料・出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

1. 調査に至る経過と調査経過

国道353号線は、県中央部と吾妻郡を結ぶ幹線道路であり、この改良工事は国道17号線鯉沢バイパスの建設にあわせて計画され、第1期工事として鯉沢バイパスの分岐点から国道17号線までの間が建設されることとなった。この本線部分の調査に至る経緯については、『白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡』国道353号道路改築（改良）工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 第1集（群埋文1996）を参照されたい。本線部分の調査は平成6年3月に一部の未買収地をのぞいてほぼ終了していたが、平成9年度の第9回全国スポーツ・レクリエーション祭に伴う同線の供用開始にあわせて、この未買収地の調査が必要となったため、県文化財保護課・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・県道路建設課・渋川土木事務所で協議を行い、平成8年6月より調査を行うことになった。

調査の経過

- 6月5日 担当者による現地確認。
- 6月13日 表土掘削開始。プレハブ設置。
- 6月14日 F P上面調査。
- 6月18日 F P下面調査。馬蹄痕等検出。
- 6月19日 F P下面全景写真撮影。
- 6月20日 F A上面調査。
- 6月21日 F A上面全景写真撮影。
- 6月24日 F A下面調査。
- 6月26日 縄文面調査。
- 6月27日 機材置き場、土捨て場として使用していた最南部の調査。
F Pは削平されていたため、F A下面からの調査となる。
- 6月28日 バルーンによる遺跡全景写真撮影。
- 7月1日 調査区全体の土層実測。
- 7月2日 撤収開始
- 7月5日 調査をすべて終了する。



付1図 吹屋中原遺跡Ⅳ区位置図

2. 調査の方法と概要

吹屋中原遺跡Ⅳ区の調査は前述のように、未買収地の調査であり、既にⅠ～Ⅲ区の調査は終了していた。しかしながら、同一事業、同一遺跡の調査のため、Ⅳ区の調査方法も、Ⅰ～Ⅲ区で行った方法をそのまま踏襲することとした。調査区(グリッド)の設定方法や遺構記録方法、さらに調査面の把握、各文化層面における遺構の検出方法、出土遺物の綿密化を図るための、土壌水洗別作業など、Ⅰ～Ⅲ区で行った調査方法に習い、各面の調査にあたった。調査方法や基本土層の詳細は、調査報告書である『白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡第1冊・第2冊』(群埋文1996・1998)に詳細に述べられているため、参照していただきたい。

尚、本来ならばⅣ区調査の報告は、前冊である『白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡第2冊』(群埋文1998)に所収すべき内容であるが、調査着手・終了時より編集作業段階で手違いが生じ、本報告が『中郷恵久保遺跡』に掲載されることになった。编者として報告が著しく遅れた不手際を記して深謝したい。

3. 検出された遺構

調査区は細長く、近現代の開発が著しく多くの攪乱坑が調査範囲で確認された。

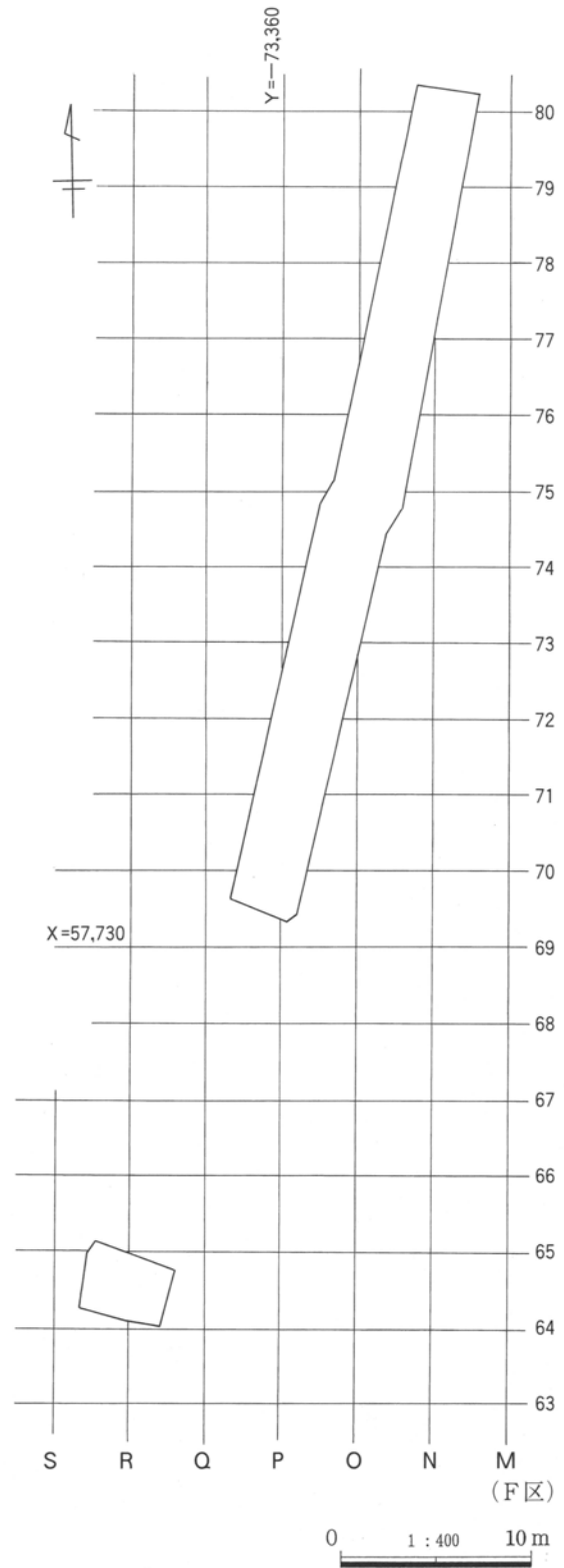
Hr-FP層上面では、時期不明の土坑が1基検出された。その他の落ち込みも調査対象としたが、現代の攪乱と判断して、記録化は差し控えた。

Hr-FP層下面では、放牧地跡を検出した。馬蹄痕跡と、ススキ株跡、風倒木跡などである。

Hr-FA層上面では、焼土範囲を検出した。FA降下後の何らかの遺構痕跡と捉えた。

FA層下面では、溝跡を1条見ている。当地域における数少ないFA下遺構として捉えられる。

ローム層上面では、縄文時代に比定される土坑2基を調査した。



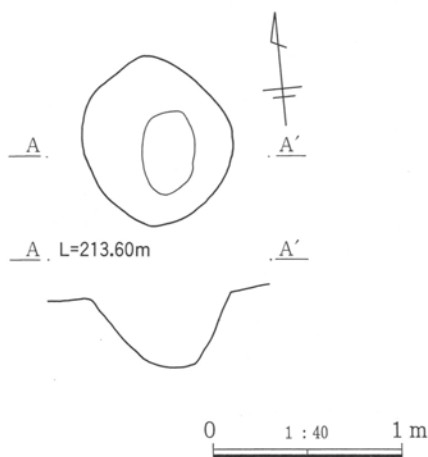
付2図 吹屋中原遺跡Ⅳ区 グリッド配置図

第1面 Hr-FP層上面の調査

当地域で、Hr-FP上で検出される遺構はいうまでもなくHr-FP降下後に構築されたものであり、求められる時代としては、古墳時代後半以降ということになる。ただ、本遺跡周辺でもHr-FP降下直後の遺構・遺物は少なく、居住痕跡が集中して認められる時期は、奈良・平安時代以降を主体とする。また、Hr-FPは軽石という特性上、透水性が高く、貧栄養土であるため、水田・畠土壌には向かないため、農耕生産跡の検出は期待できない。

吹屋中原遺跡I～Ⅲ区のHr-FP上調査においては、長方形土坑群が主体的に検出されている。長方形土坑群は、中世～近・現代にまで継続して見受けられる遺構で、作物・肥料の貯蔵用途であったり、墓塚として供される例もある。I～Ⅲ区では、それらが接続して居住域周辺を囲む、言わば地割りを想起させる様相で検出されており、当地における中世以降の居住地特定に有効な遺構であると判断できよう。IV区の調査では円形の土坑1基を調査したが、I～Ⅲ区で得られたHr-FP上面の土坑群との関連性は把握できなかった。

Hr-FP上面 1号土坑：IV区中央の北寄り(N-75)で検出された。径90×78cm程の不整円形を呈す。深さは約40cmで、立ち上がりは緩やかである。埋土はFPを混在する黒色土である。



付3図 Hr-FP上 1号土坑

第2面 Hr-FP層下面の調査

吹屋中原遺跡における発掘調査において、最も特徴的な調査面である。著名な国指定史跡である、黒井峯遺跡と同時期(同時刻)に榛名山二ツ岳を給源とする降下軽石(Hr-FP)に埋没した、古墳時代後期の生活面・生産面であり、このHr-FPを除去することによって当時の景観が復元できる調査である。

吹屋中原遺跡I～Ⅲ区Hr-FP下面の発掘調査では、畦状遺構・馬蹄痕跡・道跡等からなる放牧地跡及び陸苗代とされる畠跡、さらに白玉や鉄鏃、土師器片等を伴出した祭祀跡等が検出されている。全域に馬蹄痕跡が見られることから、放牧地跡の延長と捉えられるが、畠跡や祭祀跡等の検出は、段丘下で調査された白井遺跡群Hr-FP下面の様相に比して、遺構密度の集中を示唆する。本遺跡の乗る長坂面における該期土地利用が、下位段丘面である白井面に比して、上位とも言うべき格段の差が見受けられる例となろう。

さて、上記のようにIV区の調査は、I～Ⅲ区の調査の継続性からみると、放牧地跡の延長であるものの、遺構密度の高さが期待された地点である。故に調査も従来のI～Ⅲ区と同様の調査方法を採用し、等質の記録をとるように心がけた。

調査の結果、幅狭で南北に細長い調査区の中で、数カ所が現代の攪乱坑によって、Hr-FP下面～FA下面は大きく削り取られていた。よって、全容の把握には至らず、残存部で検出し得た各遺構を記録化する調査となった。

IV区のHr-FP下の地形は、北から南へ下る現地地形をほぼ踏襲し、東から西へ標高を下げる南西斜面を形成していた。この緩やかな斜面地形全域にかけて馬蹄痕跡が確認されたことから、現地地形に沿った北から南へ緩やかに傾斜する地形に営まれた放牧地跡と、見る事ができよう。標高はIV区北東部で212.40mで、南西部で210.10mである。距離約600m程で2m以上の傾斜となる。

馬蹄痕跡の他に、Hr-FP下面で得た資料としては、

ススキ株痕跡や立木痕跡を見ることができた。調査では調査区全域で検出し得たススキ株痕跡と馬蹄痕跡に注意を払い、ススキ株痕跡に関しては、大まかな分類を施し、平面図への記録化に努めた。また、馬蹄痕跡も確認できた全てを平面図上には網羅したが、個々の記録化には取り組まず、状態の良好な馬蹄痕跡を選び、計測値を測った。

ススキ株痕跡は、径1～2m程の低位の高まりである。炭化物が集中しており、周辺のHr-FP下面放牧地跡において普遍的に見ることのできる、植物痕跡の一つである。過去の調査で植物珪酸体分析を行ったところ、ススキの珪酸体が集中する例とその他の樹木が検出された例が見られたため、ススキとして特定はできないが、株根を持つ代表的な植物としてススキを総称に挙げている。

ススキ根株痕跡 分類

A 高まりを持ち、細かな凹凸がある。炭化物が集中する。

B 高まりはなく、細かな凹凸が多く見られ、炭化物が多く集中する。

C 高まりはなく、少量の細かな凹凸が見られ、炭化物が集中する

D 高まりはなく、平坦で黒色灰が一面に広がる。炭化物を含む場合がある

平面図凡例

A = —————

B = ————

C = —————

D = - - - - -

馬蹄痕跡も当地域のHr-FP下調査で恒常的に得られる資料である。詳細は、『白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡 第1冊』(高井・大江正直1996)で基礎的な分析が行われているため、ここでは控えるが、馬蹄痕跡の存在により、当地域のHr-FP下面は広域な放牧地跡として類推され、古代牧と直接的な関連は追えないまでも、古墳時代後期における馬の管理と生産体制を考えるに重要な資料群であることはいうまでもない。

また、他の生産跡(水田跡・畠跡)に印された馬蹄痕跡からも、生産跡のFP降下直前の土地利用状況が推定されることもあり、記録化を避けることはできないだろう。

馬蹄痕計測値

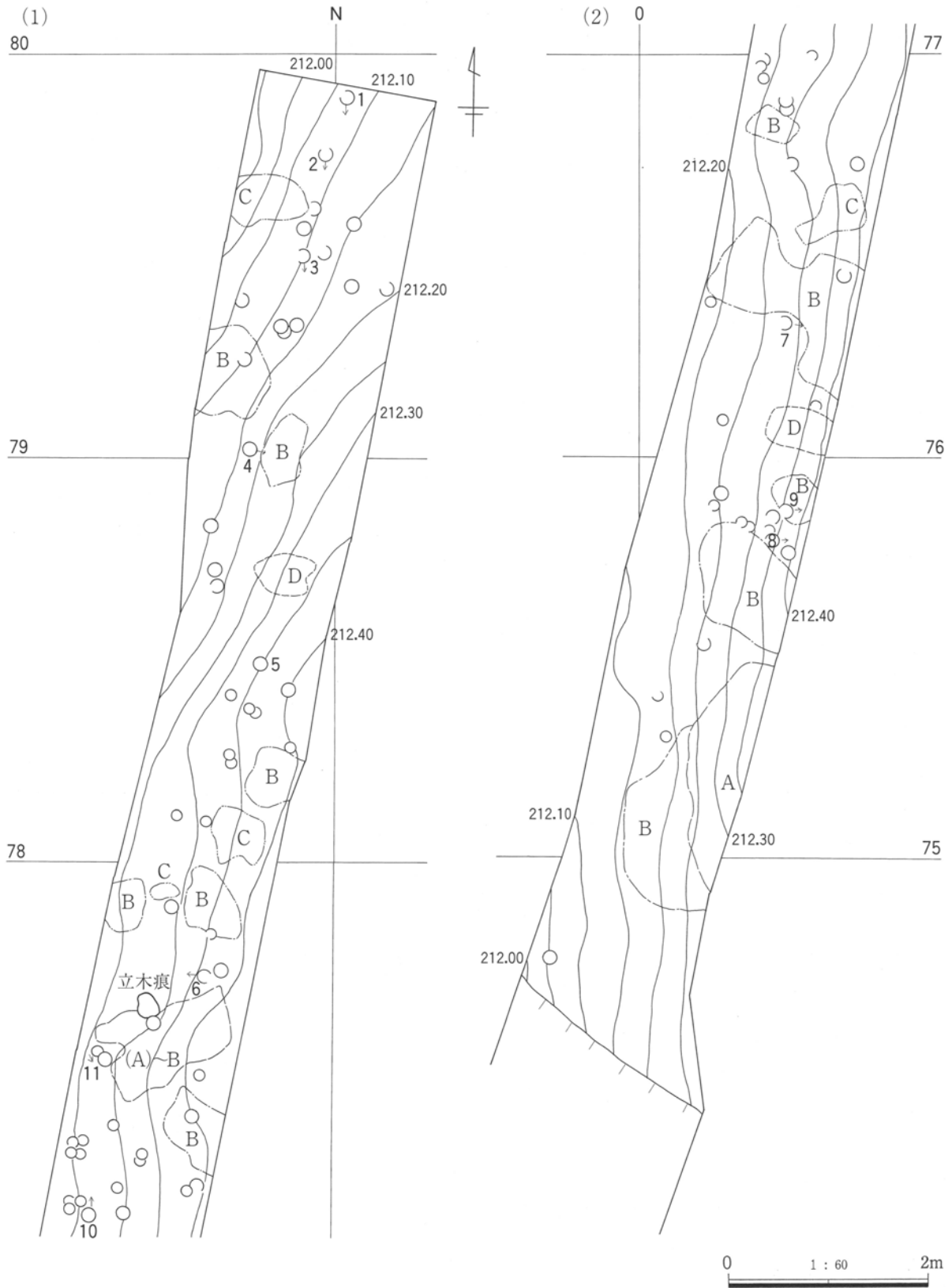
区	No	幅	長さ	方向	前後	保存度
Ⅳ	1	97	107	南	後	C
Ⅳ	2	99	95	南	前	B
Ⅳ	3	96	122	南	後	C
Ⅳ	4	113	130	南東	後	A
Ⅳ	5	109	144	?	?	C
Ⅳ	6	108	116	西	前	A
Ⅳ	7	102	119	東	後	B
Ⅳ	8	116	122	東	後	B
Ⅳ	9	110	106	東	前	A
Ⅳ	10	97	115	北	後	A
Ⅳ	11	96	110	南東	前	B
Ⅳ	12	87	117	南西	後	B
Ⅳ	13	96	101	北西	後	A

立木痕跡が調査区の北側で、1基のみが確認された。不整形の平面形を呈し、断面観察では、深さはローム層以下に達していた。埋土としてHr-FPが上層にあり、Hr-FP降下時に、立木として埋没した状況が推定できた。立木痕跡は、放牧地跡では集中した例は見られておらず、放牧地植生の一つとして、裸地状態を想定する根拠となっている。また、一連の立木痕跡が、Hr-FA降下後に生育した樹木ならば、30～50年程度の樹齢と思われる。

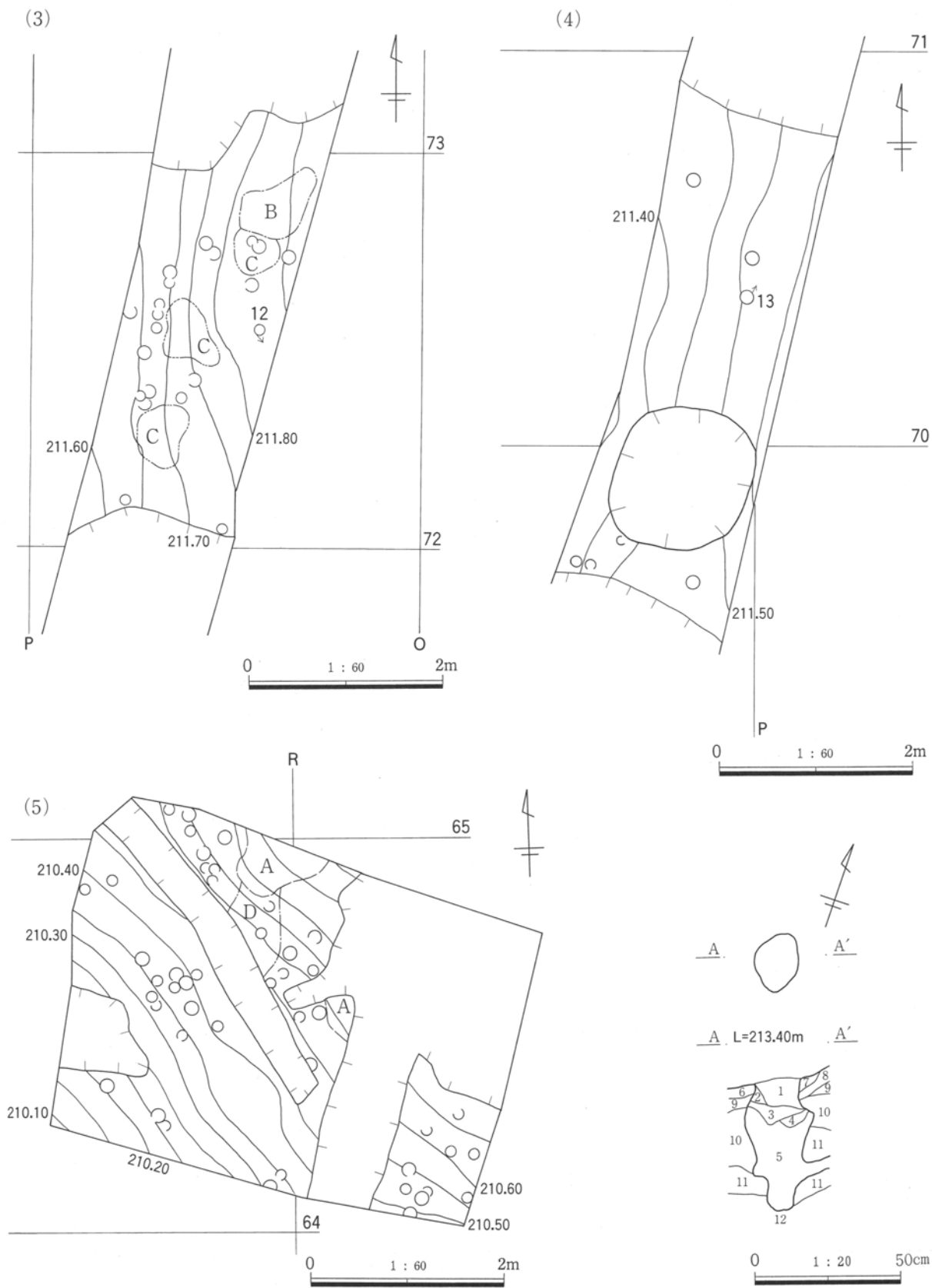
立木痕跡 土層註(付5図)

1. FP層 立木痕に沿ってユニットが確認される
2. 灰褐色土 7層が立木痕に崩落した層。FPを僅かに含む
3. 茶灰色土 FAが立木痕に崩落した層。非常に脆い
4. 〃 3に類似。FA純層に近い様相
5. 黒褐色土 立木痕に崩落した層。FPを少量含み、非常に脆い
6. 暗褐色土 FP下、放牧地跡の耕土
7. 暗灰褐色土 6層に似るが、やや粗く暗い
8. 灰褐色土 FAが立木痕の影響を受けた層。FPを含まない
9. FA層
10. 黒褐色土 As-Cを僅かに含む
11. 暗茶褐色土 淡色黒ボク土
12. 鈍黄褐色土 ローム漸移層

3. 検出された遺構



付4図 Hr-FP下 全体図(1)



付5図 Hr-FP下 全体図(2)・立木痕

第3面 Hr-FA層上面の調査

広く知られるように、子持村とその周辺地域は、古墳時代に2度にわたる榛名山による火山災害を受けた地域である。最初の噴火が6世紀初頭といわれる火砕流を伴う火山灰の降下で、これがHr-FAである。

子持村内ではHr-FA下集落はやや希薄な様相を見せており、黒井峰遺跡のような明確な集落像は把握し得てない。中筋遺跡を初めとする榛名山麓部に良好な遺跡が包蔵されているようだ。ただ子持村内においても、Hr-FA下水田は広域に検出されている。おそらく周辺地域にHr-FA下集落が存在すると思われるが、今後の調査に期待するしかない。Hr-FA除去作業に際して注意すべき点としては、FA純層も火山灰学的に幾つかのまとまりに細分されているため、その成因を考慮し、遺構に堆積するHr-FA層の位置付けを考えなければならない。Hr-FA層中には、降灰による堆積の他に水蒸気爆発によるもの、さらに火災流堆積による層位が認められる。FA下に建物跡などが存在した場合、これらのユニットによる直接的被害を特定する観察も必要である。この観察が反映している例として、渋川市中筋遺跡が挙げられよう。

Hr-FP下面調査後は、このHr-FA上面でHr-FP下水田や島の耕作痕調査を行う。吹屋中原遺跡のような、Hr-FP下において放牧跡のみの検出であっても、Hr-FA下で畝耕作に伴う「サク」痕跡が認められた遺跡は多く、Hr-FA降下後Hr-FP降下直前段階までの復興経過が読み取れる調査なのである。

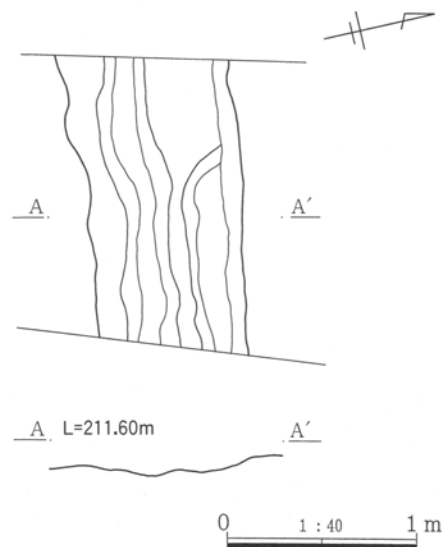
吹屋中原遺跡Ⅳ区においては、Hr-FA上面において、サク状遺構等は検出されなかったが、数カ所に焼土がまとまって検出されており、放牧地前の焼き払い行為が想起されよう。焼土範囲は本文中には掲載していないが、写真図版を参照していただきたい。

第4面 Hr-FA層下面の調査

Hr-FA直下面は、6世紀初頭の地表面であり、Hr-FP同様当時の生活面がFA災害に会う直前の姿で検出されることで知られる。先にも述べたように、当地域では、Hr-FA下面における集落跡の検出は極めて少ない。水田跡が検出される例が圧倒的に多いが、Hr-FAは確実に遺存していることから、発掘調査が重なるに従い、Hr-FA下面の集落跡も検出されることと期待したい。その意味で吹屋中原遺跡Ⅳ区で調査された1号溝は、本遺跡でも数少ないHr-FA下遺構の一つであり、放牧地に供される以前の土地利用を考える上で極めて重要な位置を占めよう。

1号溝：調査区中央やや南よりで検出された。調査区を横断する東西の走行を見せていた。西に傾く原地形に沿っており、おそらく調査区域外においても東西の走行が基本と思われる。

規模は幅約1.5mで、浅く約15cmを測る。断面形は皿状を呈し一部2段の構成をさせていた。溝底面は硬化面等は見られず、僅かな凹凸を持って、西に傾斜する。底面に砂層・酸化鉄層などは見られなかったが、地形に沿うことから、水利上の用途が想定される。ただし、道状遺構や用地分割溝の性格も可能性を指摘しておきたい。



付6図 Hr-FA下 1号溝

第5面 黒色土中・

第6面 ローム層上面の調査

Hr-FA下の調査終了後は、Hr-FA直下面である黒色土の掘り下げを行い、いわゆる縄文時代の遺物包含層の調査と、下面のローム上面において縄文時代以降の遺構を調査した。

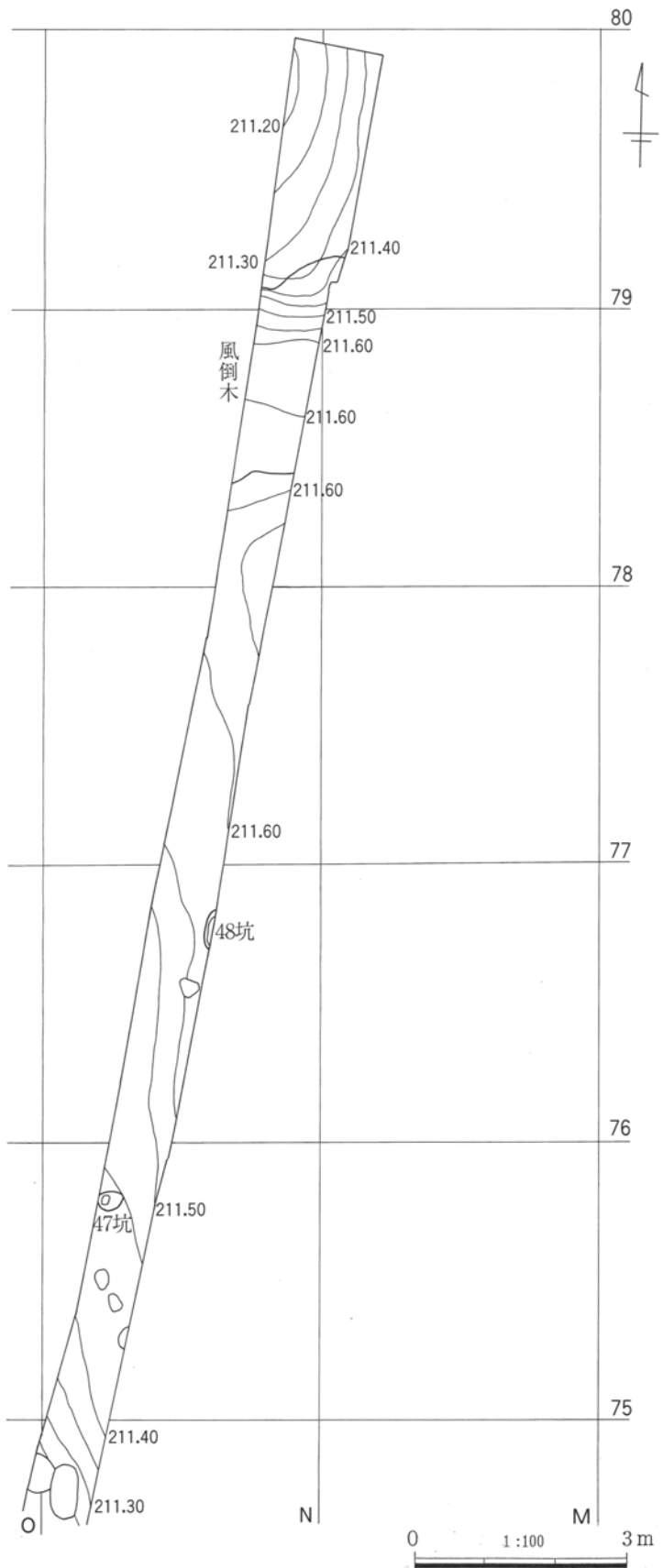
当地域のHr-FA下黒色土は、地点によっては層厚50cm以上の分厚い遺物包含層であり、本遺跡Ⅰ～Ⅲ区では大量の縄文時代に比定される遺物が出土している。おそらく斜面包含層として位置付けられるが、下位層のローム上面で土坑など遺構が検出されることから、集落跡内の斜面利用形態と捉えられる。

ローム上面の竪穴遺構調査では、掘り込みの深い大型竪穴住居跡などは、Hr-FP除去時段階よりその地点が大きく凹む例が多く、周堤帯をも検出できる状態もある。Hr-FA・FP下の遺構ほどではないが、他地域の遺構に比しては極めて良好な遺存状態を示す。

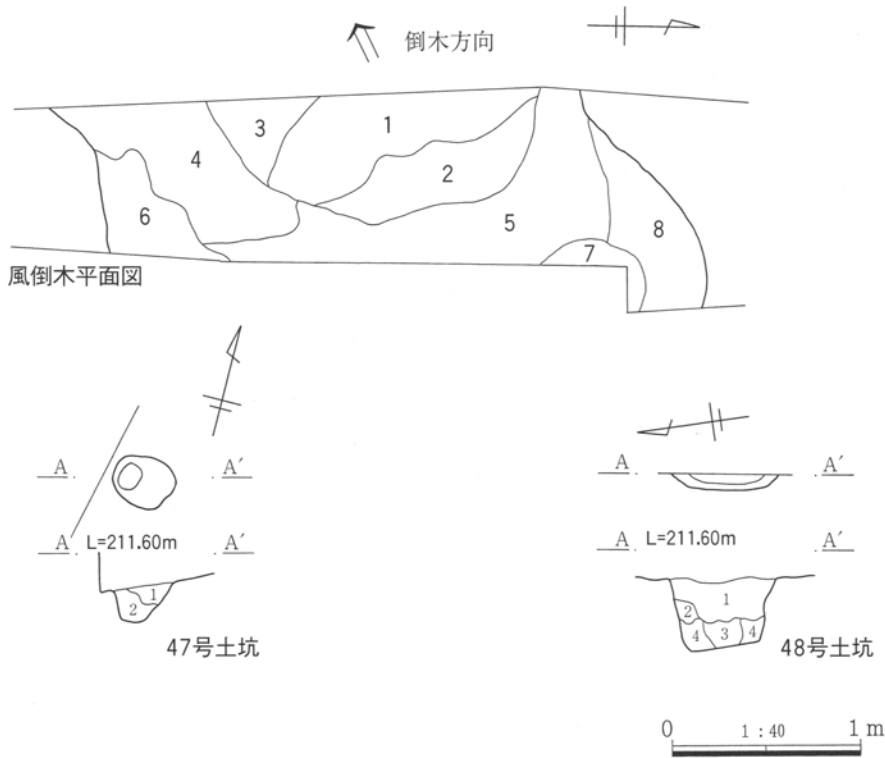
縄文時代の遺構に関しても、浅田遺跡や押出遺跡のように、配石遺構中の立石が状態良く検出できる例が知られる。

吹屋中原遺跡Ⅳ区の場合、黒色土中の出土遺物は希薄であり、縄文時代早期～中期土器細片が少量得られたのみである。また、ローム上面では土坑2基と風倒木跡を調査した。

風倒木跡は、調査区最北で検出した。幅狭の調査区のため、全容は把握できなかったが、径3m以上の大型の例と考えた。風倒木跡中位には下層を捻転させたと見られる黄褐色ローム土がまとまり、周辺には黒褐色土と暗褐色土が斑状にユニットを形成していた。黒褐色土の堆積状態と中位の黄



付7図 ローム上面遺構等配置図



付8図 ローム上面 風倒木、47・48号土坑

褐色ローム土の様相から、倒木方向は東から西と判断できた。斜面形状に沿った倒木で自然営力によるものと考えた。

土坑2基は、調査区中央やや北寄りに距離をおいて検出した。吹屋中原遺跡Ⅰ～Ⅲ区の通番のため、47号土坑と48号土坑とした。

47号土坑：調査区中央の西壁際で検出された。小型で柱穴状の土坑である。径は30cm、深さは22cmを測り、掘り込みもやや緩やかな印象を得る。

48号土坑：調査区中央やや北よりの東壁際で調査された。調査区域外に殆どが隠れるため、全容の把握はできなかった。おそらく径1m前後の円形土坑で、深さは断面観察では38cmを測る。壁の立ち上がりはしっかりしており、下層のロームを掘り窪めていた。あるいは袋状土坑の下位にあたる例かもしれない。両土坑とも出土遺物は無く、時期の判定に苦慮するが、包含層出土遺物が若干ながら前期に偏ることから、縄文時代前期に比定したい。

尚、旧石器時代試掘調査、風倒木断ち割り調査は、調査区域が狭く、安全対策上から断念した。

風倒木 平面土層註

- 1. 黄褐色土 ローム主体。黒褐色土塊と暗褐色土塊を含む
- 2. 黒褐色土 ローム塊を多量に含む。粒状の散布も見られる
- 3. 暗褐色土 黒褐色土塊とローム塊を含む
- 4. 黒褐色土 ローム粒を少量含む
- 5. ♪ 大型のローム塊を含む
- 6. ♪ 5に近似。ローム塊を多量に含む
- 7. ♪ やや明るい色調を呈す
- 8. ♪ 明るい色調を呈す。ローム塊を含む

47号土坑 土層註

- 1. 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり乏しい
- 2. 黄褐色土 大型のローム塊を主体とする

48号土坑 土層註

- 1. 暗褐色土 微量の白色粒と黄色粒を含む
- 2. 黒褐色土 均質。少量のローム塊を含む
- 3. 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 4. ♪ ローム塊を多く含む

報告書抄録

書名ふりがな	なかごういくほいせき
書名	中郷恵久保遺跡
副書名	国道353号線(鯉沢バイパス)補助公共道路改築(改良)事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	4
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	364
編著者名	山口逸弘・松村和男
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	200602
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	なかごういくほいせき
遺跡名	中郷恵久保遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんきたぐんまぐんこもちむらなかごう・ふきや
遺跡所在地	群馬県北群馬郡子持村中郷・吹屋
市町村コード	10341
遺跡番号	子持村0077
北緯(日本測地系)	373103
東経(日本測地系)	1390044
北緯(世界測地系)	373114
東経(世界測地系)	1390032
調査期間	20001101~20010903/20020401~20030331
調査面積	8,874
調査原因	道路建設
種別	集落・生産跡
主な時代	縄文・古墳・平安・近代
遺跡概要	集落-縄文時代-土坑4+包含層-縄文土器+縄文石器/古墳時代-住居跡33+掘立柱建物跡4+土坑24+包含層-土器+石製品+木製品+鉄器/平安時代-住居跡1-土器+羽口+鉄器/生産跡-古墳時代-水田跡+畠跡+放牧地跡
特記事項	古墳時代前葉集落。古墳時代に降下した火山灰・軽石下の水田跡・畠跡等

写 真 图 版



中郷恵久保遺跡遠景 南から



Ⅲ-1区 斜面部 縄文土器出土状態



Ⅲ区 30号土坑（縄文）



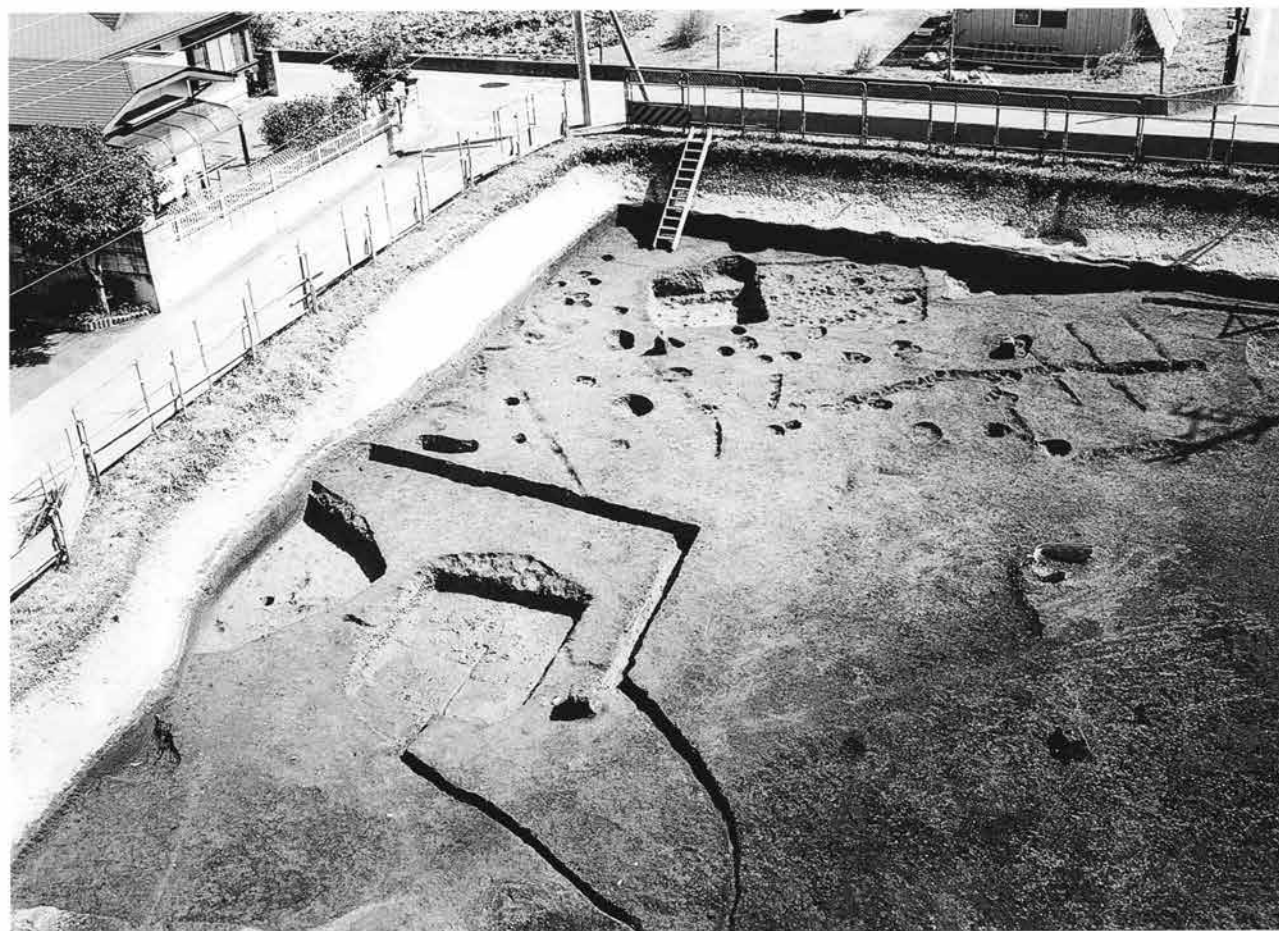
Ⅲ-2区 弥生土器出土状態



Ⅲ-1区 作業風景



Ⅲ-2区 ローム上面遠景 東から



Ⅲ-1区 ローム上面遠景 西から



1号住 炭化材出土状態 東から



1号住 南側周堤帯



1号住 炭化材出土状态



1号住 炭化材出土状态



1号住 炭化材出土状态



1号住 炭化材出土状态



1号住 炭化材出土状态



1号住 床面



1号住 床下



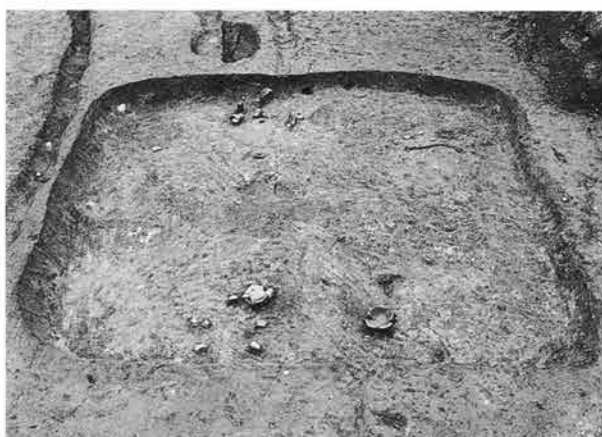
2号住 床面



2号住 床下



3号住 床面



4号住 遺物出土状態



4号住 床面



4号住 床下

図版一 6



5号住 床下



6号住 遺物出土状態



6号住 床下



7号住 遺物出土状態



7号住 床下



8・26号住 全景



9号住 床面



10号住 床面



11号住 床面



11号住 床下



14号住 床面



15号住 遺物出土状態 西から



15号住 遺物出土状態 西から



15号住 床面 西から



16号住 床面 北西から



17号住 全景 東から



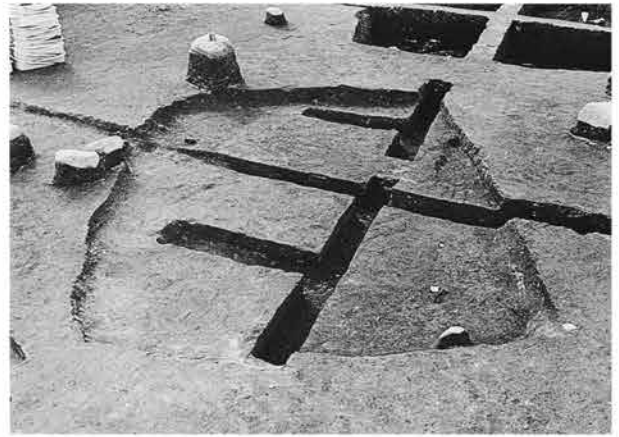
18号住 遺物出土状態 北から



18号住 床面 北から



18号住 床下 北から



19号住 床面



20号住 床面



20号住 床下



20号住 遺物出土状態



21号住 遺物出土状態



21号住 遺物出土状態



21号住 床面



21号住 床下



21号住 床下



22号住 遺物出土状態



22号住 遺物出土状態



23号住 床面



23号住 遺物出土状態



23号住 炉址 西から



23号住 床下



24号住 床面 北から



24号住 炉址 北から



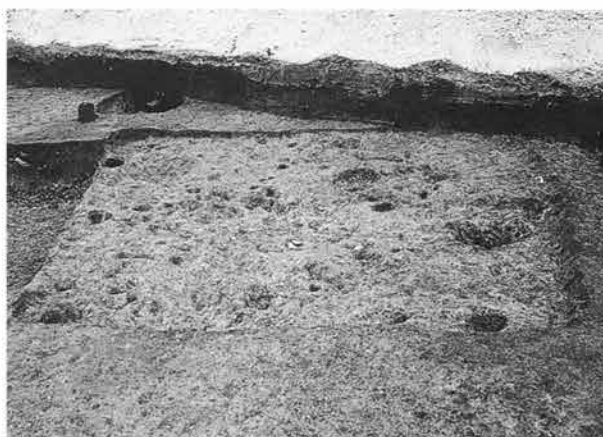
25号住 遺物出土状態 北から



25号住 床面



28号住 床面



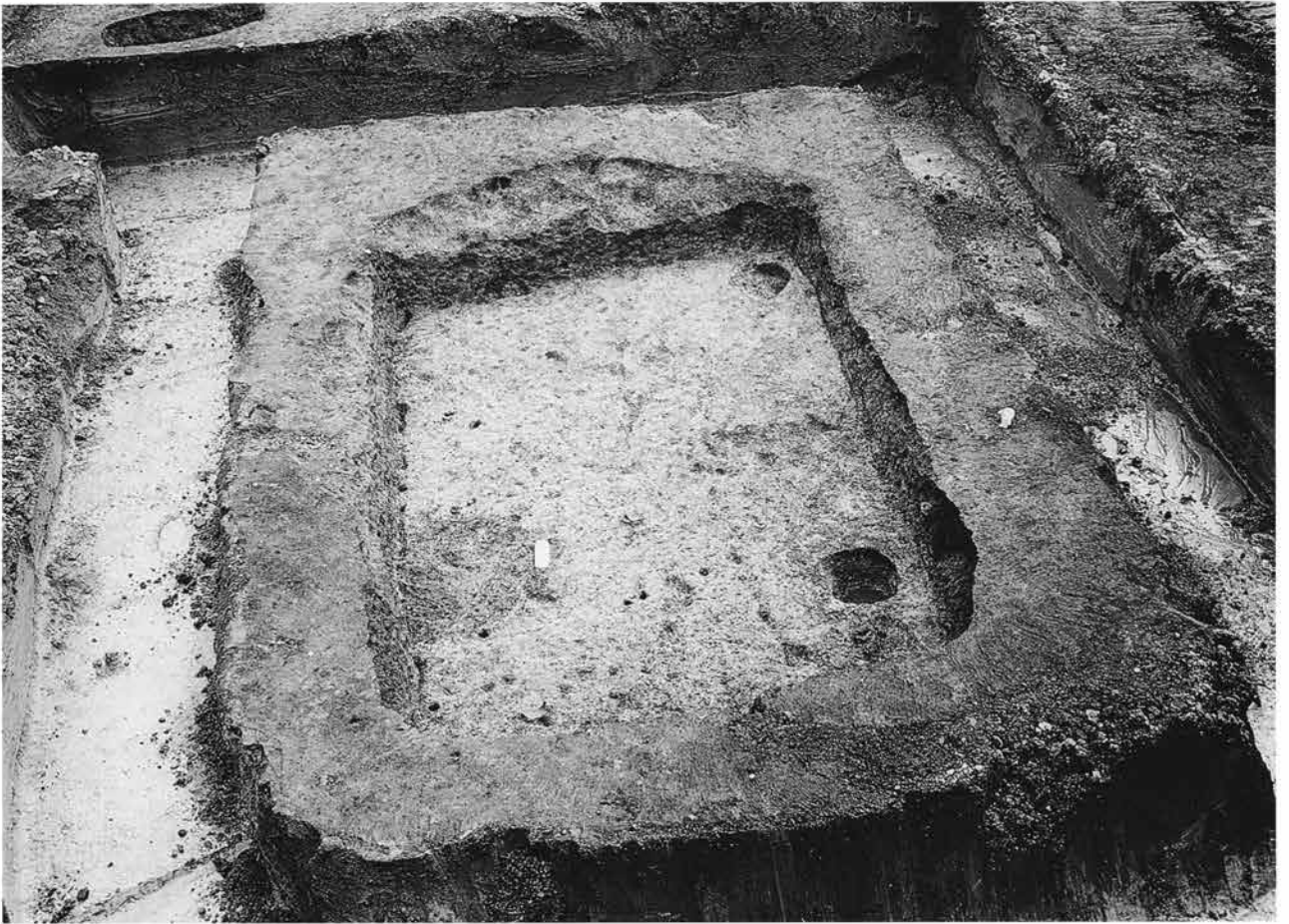
28号住 床下



29号住 床面



30号住 床下



31号住 床面 西から



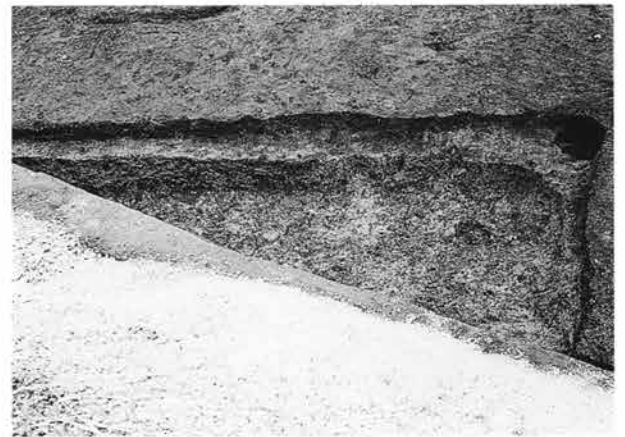
31号住 炉址 南から



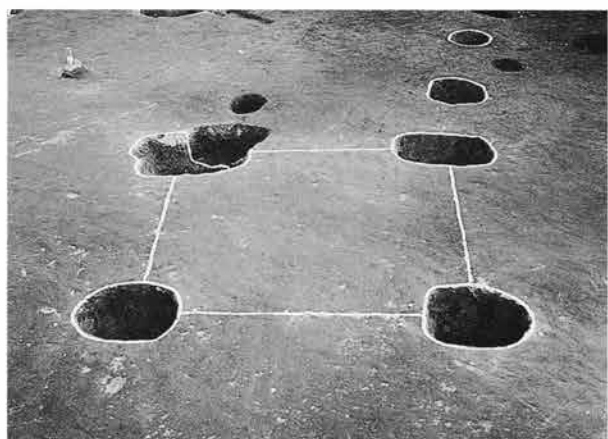
32号住 遺物出土状態



32号住 遺物出土状態



33・34号住



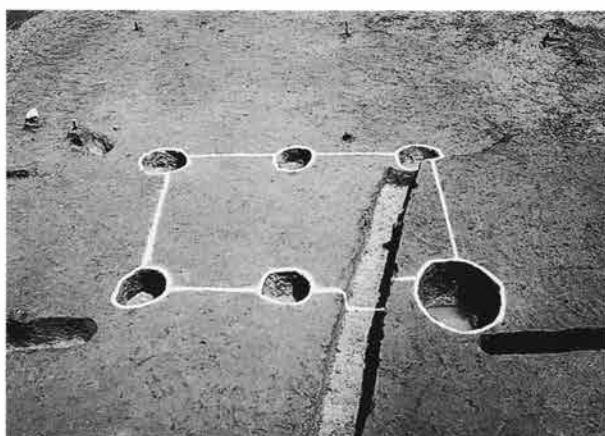
1号掘立柱建物跡 北から



2号掘立柱建物跡 北から



3号掘立柱建物跡



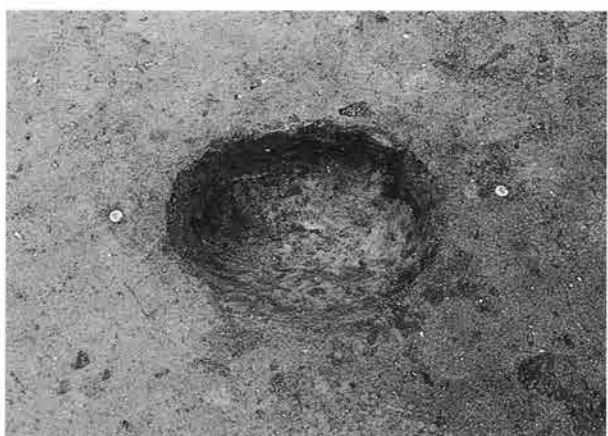
4号掘立柱建物跡



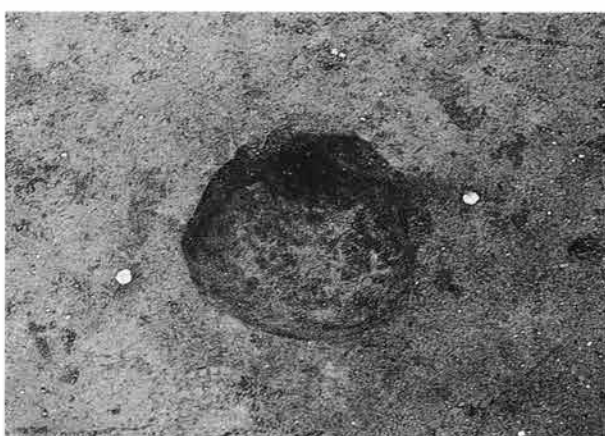
1号土坑



2号土坑

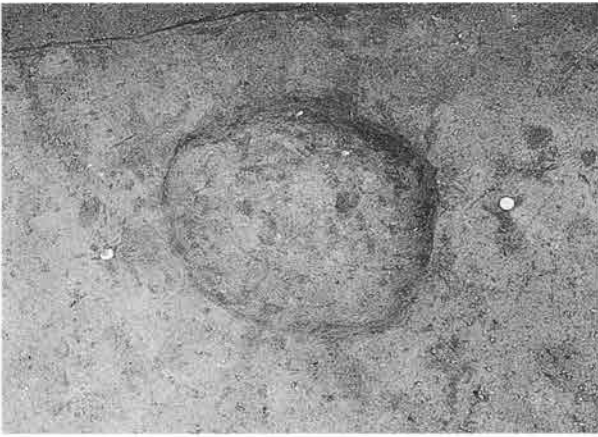


3号土坑



4号土坑

图版一14



5号土坑



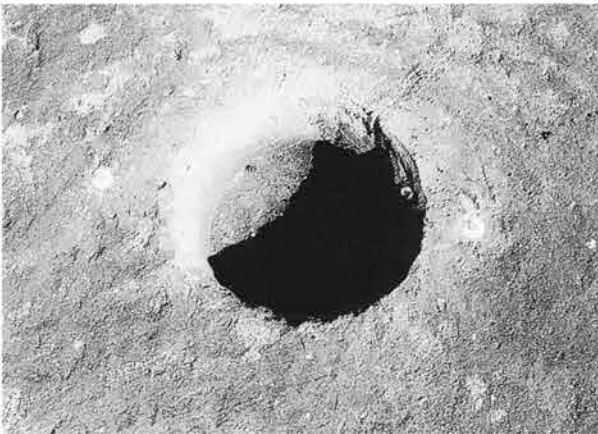
6号土坑



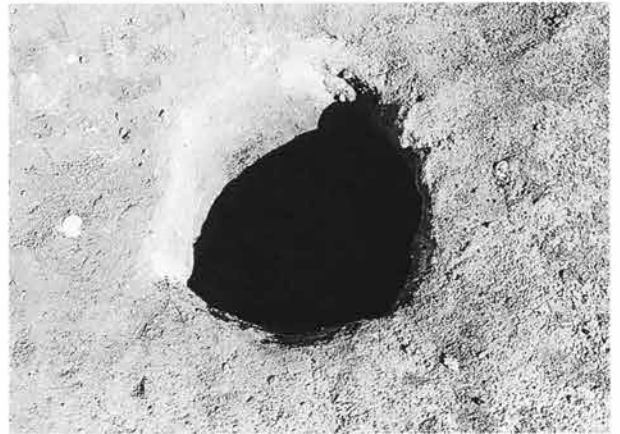
7号土坑



8号土坑



9号土坑



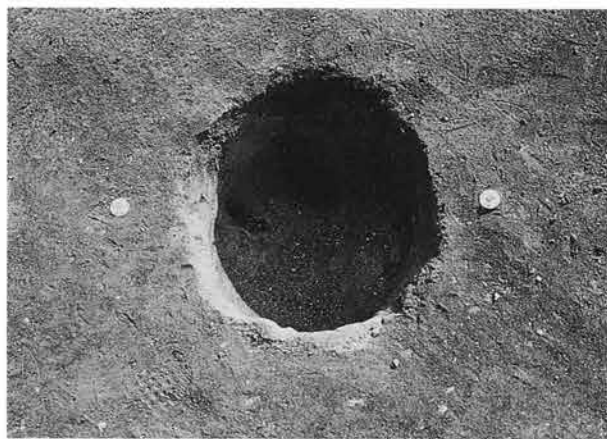
10号土坑



11号土坑



12号土坑



13号土坑



14号土坑



15号土坑



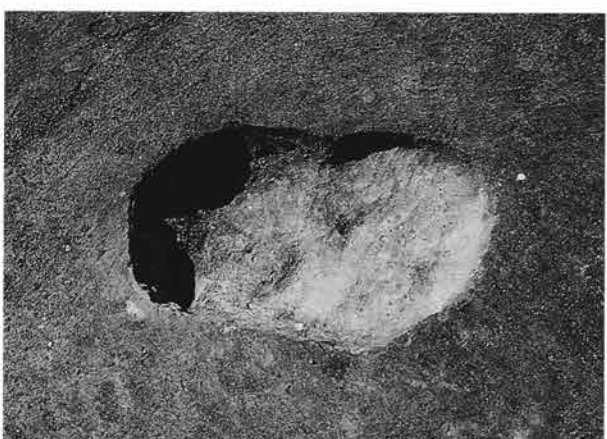
16号土坑



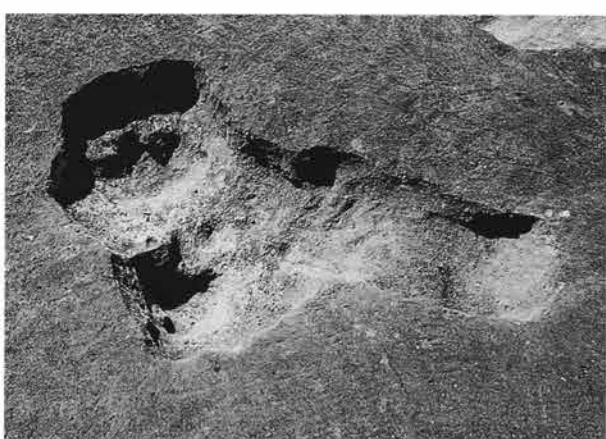
17号土坑



18号土坑



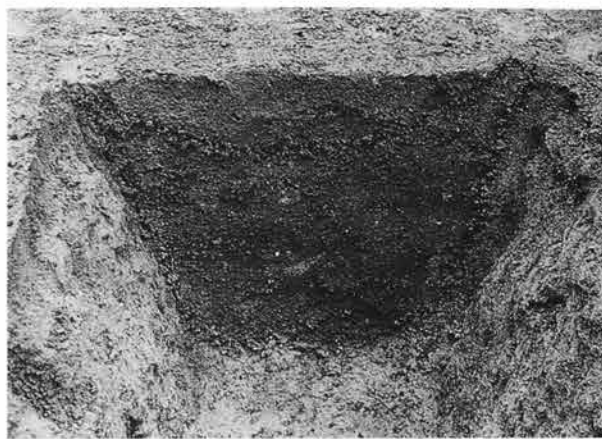
19·20号土坑



21号土坑



27号土坑



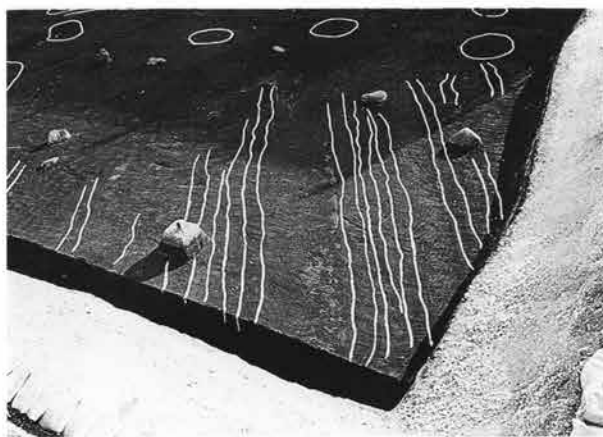
27号土坑 土層



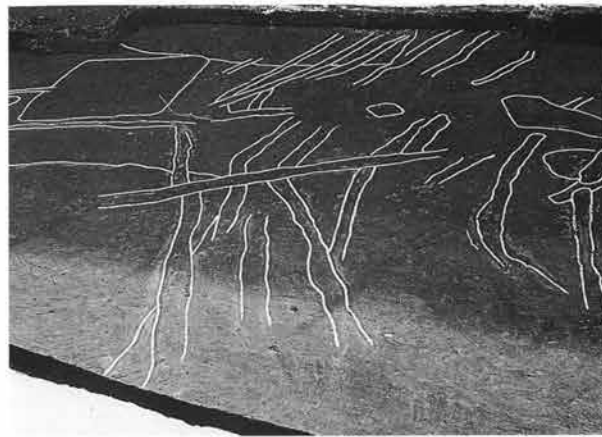
28号土坑



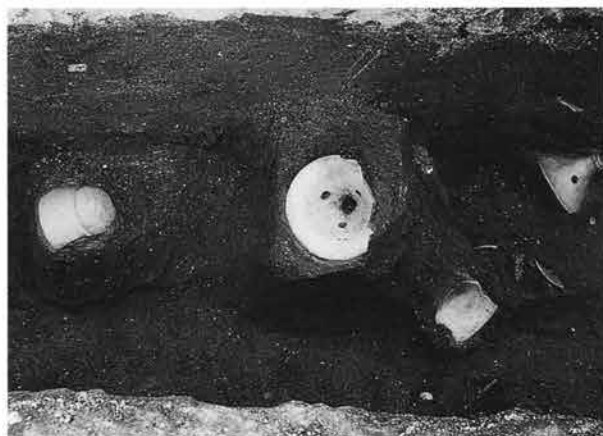
28号土坑 土層



Ⅱ区 ローム上面 サク状遺構



Ⅱ区 ローム上面 サク状遺構



Ⅱ区 遺構外遺物 出土状態



Ⅱ区 遺構外遺物 出土状態



Ⅱ区 遺構外遺物 出土状態



Ⅱ区 遺構外遺物 出土状態



Ⅲ区 (Hy72付近) 遺物出土状態



Ⅲ区 (Hy72付近) 遺物出土状態



I区 黒色土 木器出土状態



Ⅲ-2区 Hr-FA下 水田遠景 西から



Ⅲ-2区 Hr-FA下 水田遠景 東から



I-1区 Hr-FP下面 遠景 北から



I-1区 Hr-FP下面 遠景 南から



I-1区 Hr-FP下面 遠景 南西から



I-1区 Hr-FP下面 道状遺構と馬蹄痕



I-2区 Hr-FP下面 水田跡(手前)・島跡(奥)遠景 東から



I-2区 Hr-FP下面 畠跡(手前)・水田跡(奥)遠景 西から



I-2区 Hr-FP下 水田跡 北から



I-2区 Hr-FP下 水田跡 東から



I-2区 Hr-FP下 水田跡 大畦土層



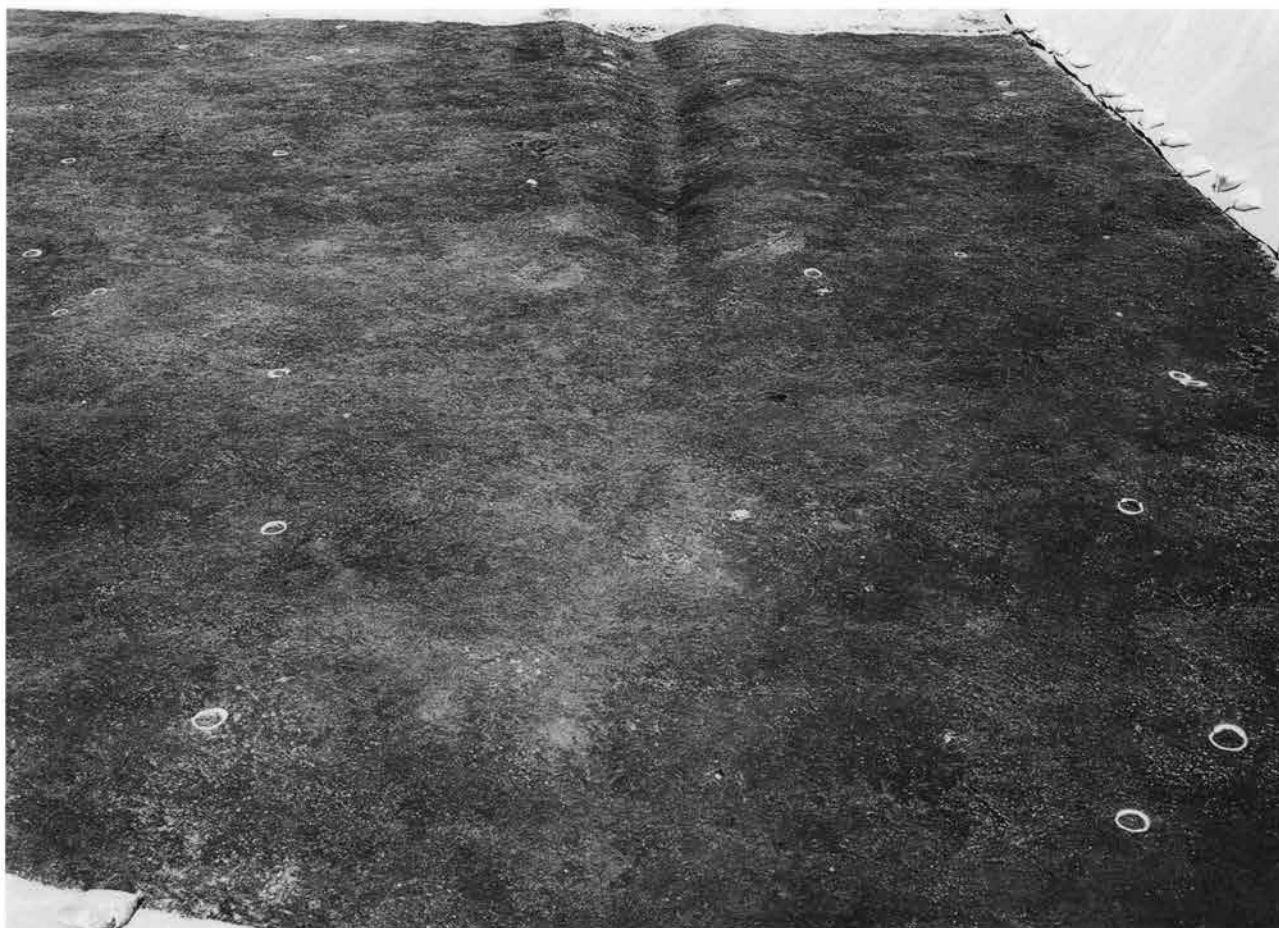
I-2区 Hr-FP下 水田跡 検出作業



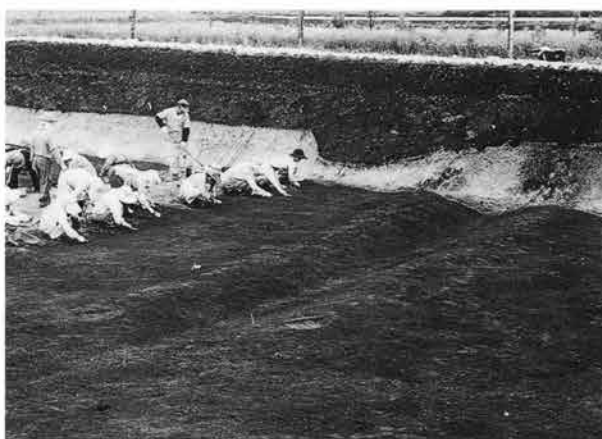
I-2区 Hr-FP下 畠跡 北西から



I-2区 Hr-FP下 畠跡 東から



Ⅱ-1区 Hr-FP下 道状遺構全景 南から



Ⅱ-1区 Hr-FP下 道状遺構 作業風景



Ⅱ-1区 Hr-FP下 道状遺構 土層断面



Ⅱ-2区 Hr-FP下 道状遺構全景 北西から



Ⅱ-2区 Hr-FP下 遠景 東から



Ⅱ-2区 Hr-FP下 道状遺構 北から



Ⅱ-2区 Hr-FP下 道状遺構



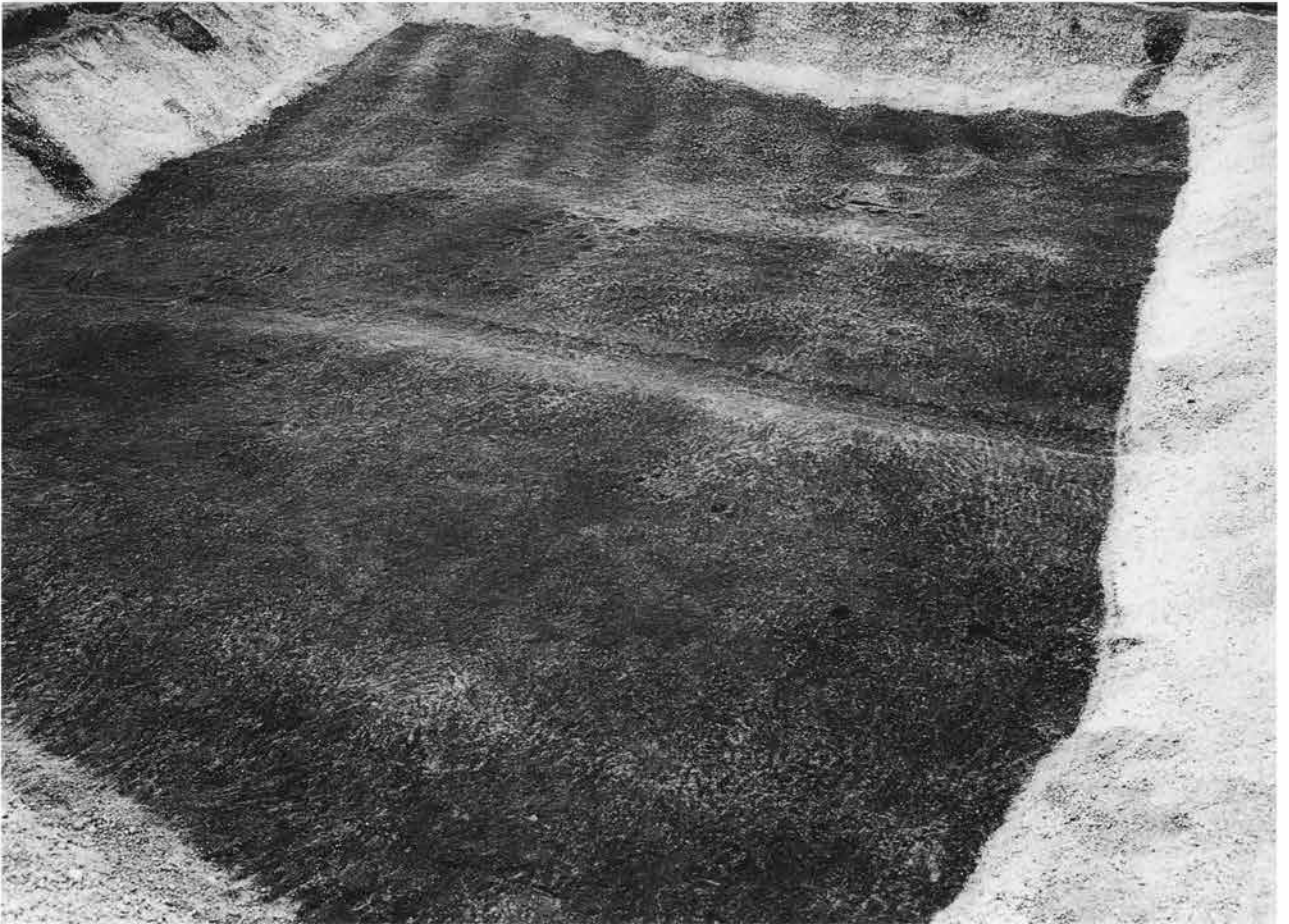
Ⅱ-2区 Hr-FP下 道状遺構内の馬蹄痕



Ⅱ-2区 Hr-FP下 畠跡内の馬蹄痕



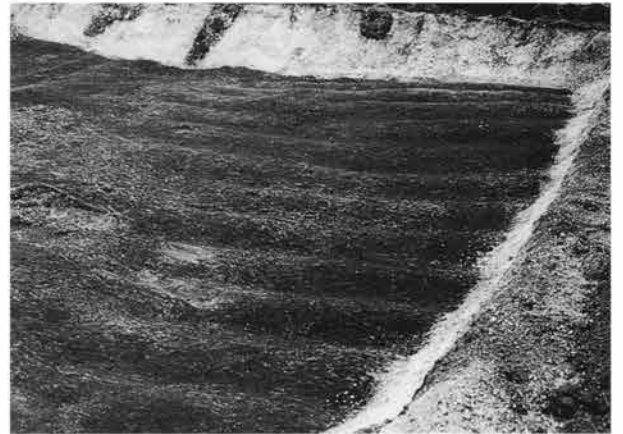
Ⅱ-2区 Hr-FP下 畠跡 作業風景



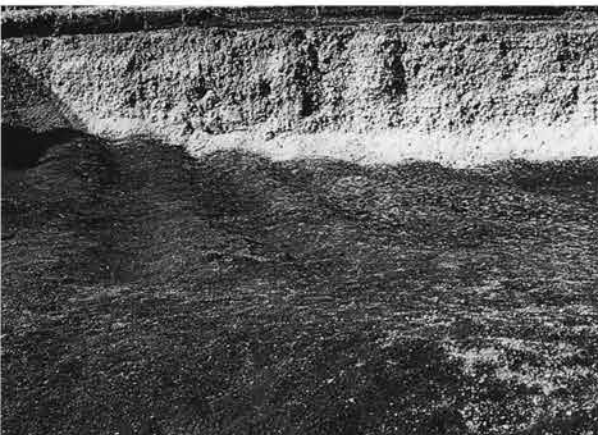
Ⅱ-2区 Hr-FP下 畠跡と道状遺構 北東から



Ⅱ-2区 Hr-FP下 畠跡 南西から



Ⅱ-2区 Hr-FP下 畠跡 北から



Ⅱ-2区 Hr-FP下 畠跡 東から



Ⅱ-2区 Hr-FP下 畠跡 北東から



Ⅲ-1区 Hr-FP下 畠跡 西から



Ⅲ-1区 Hr-FP下 畠跡



Ⅲ-1区 Hr-FP下 畠跡



Ⅲ-1区 Hr-FP下 馬蹄痕



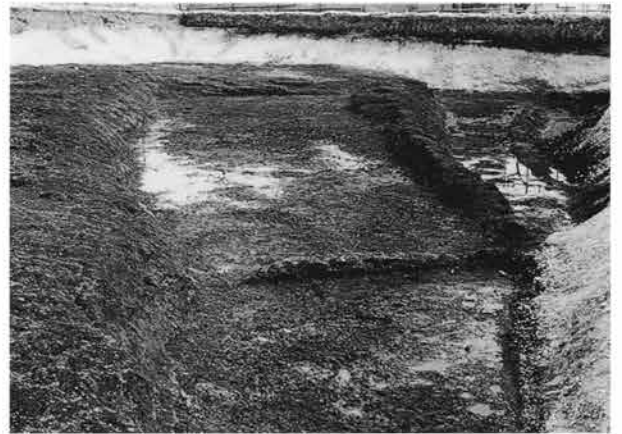
Ⅲ-1区 Hr-FP下 畠跡



Ⅲ-1区 Hr-FP下 水田跡(棚田状水田) 南から



Ⅲ-1区 Hr-FP下 水田跡(棚田状水田) 北から



Ⅲ-1区 Hr-FP下 水田跡 近接



Ⅲ-1区 Hr-FP下 水田跡(棚田状水田) 南から



Ⅲ-1区 Hr-FP下 水田跡(棚田状水田) 水口



Ⅲ-1区 Hr-FA上における畠サク状遺構の調査 西から



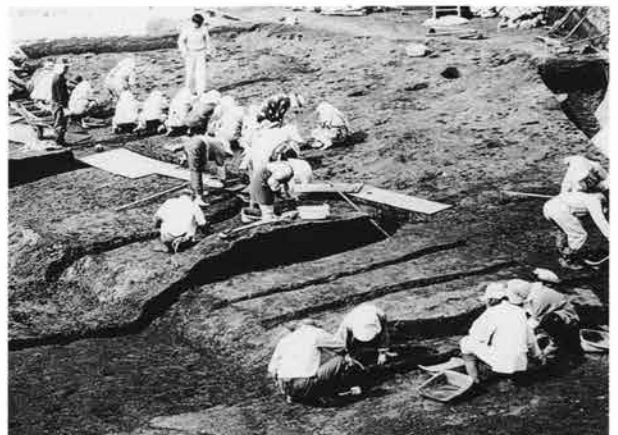
Ⅲ-1区 畦畔下の畠サク状遺構



Ⅲ-1区 Hr-FP下 水田跡畦畔土層



Ⅲ-1区 Hr-FP下 水田跡畦畔土層



Ⅲ-1区 Hr-FA上 作業風景



Ⅲ-2区 Hr-FP下 小区画水田跡全景 東から



Ⅲ-2区 Hr-FP下 小区画水田跡 東から



Ⅲ-2区 Hr-FP下 小区画水田跡 西から



Ⅲ-2区 Hr-FP下 小区画水田跡 水口



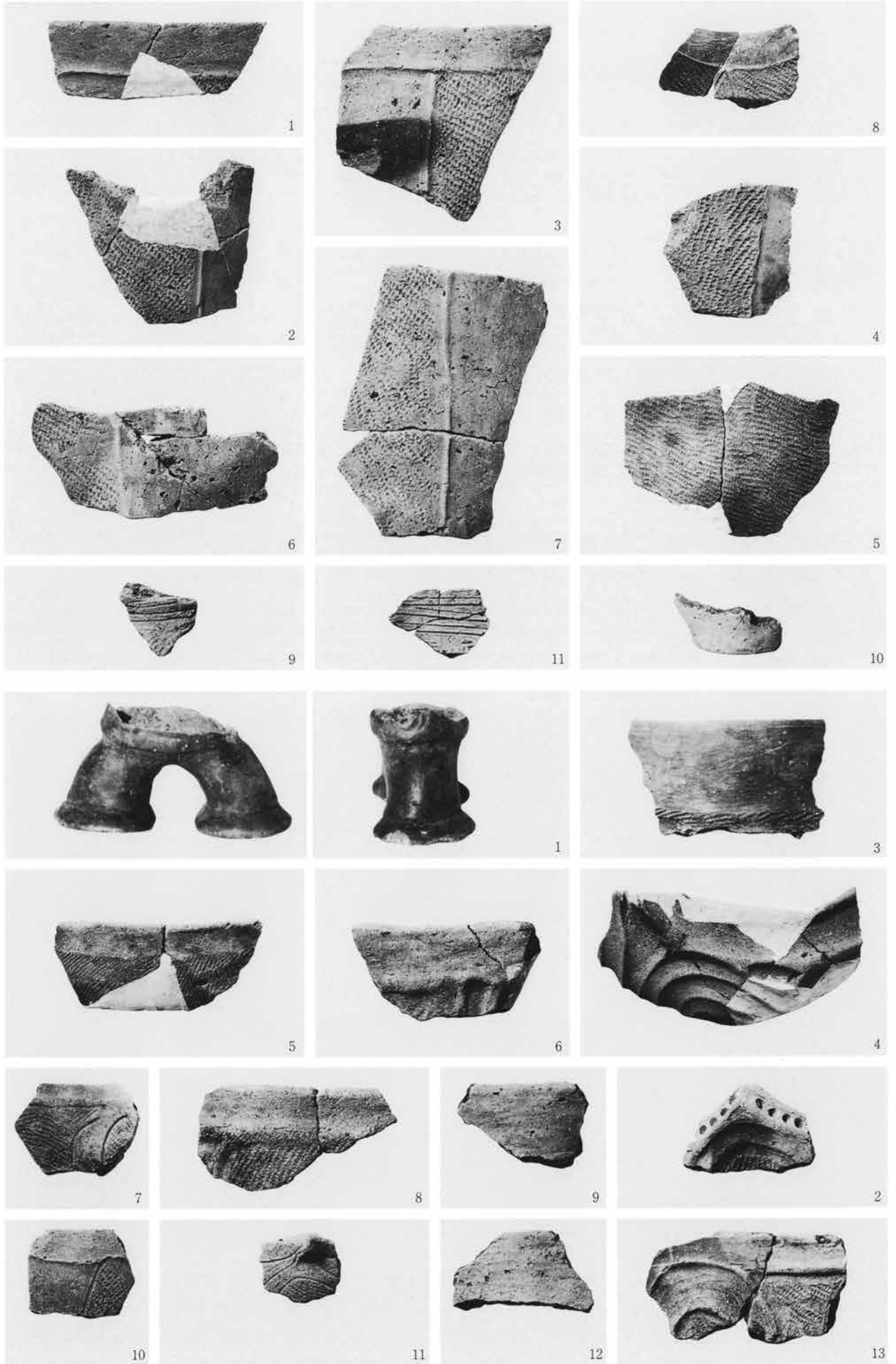
Ⅲ-2区 Hr-FP下 小区画水田跡 作業風景



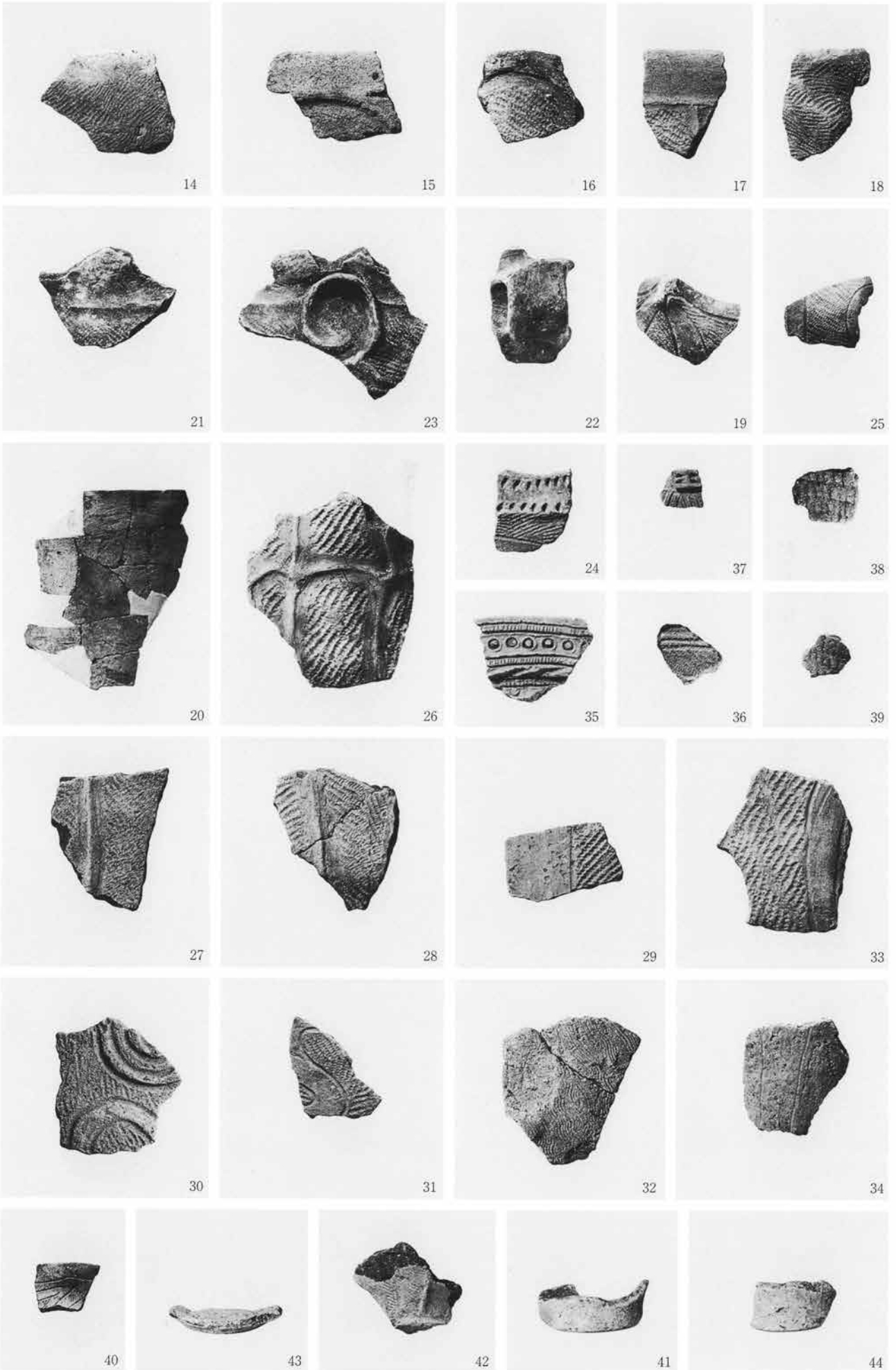
Ⅲ-1区 Hr-FP上 27号住 床面 西から



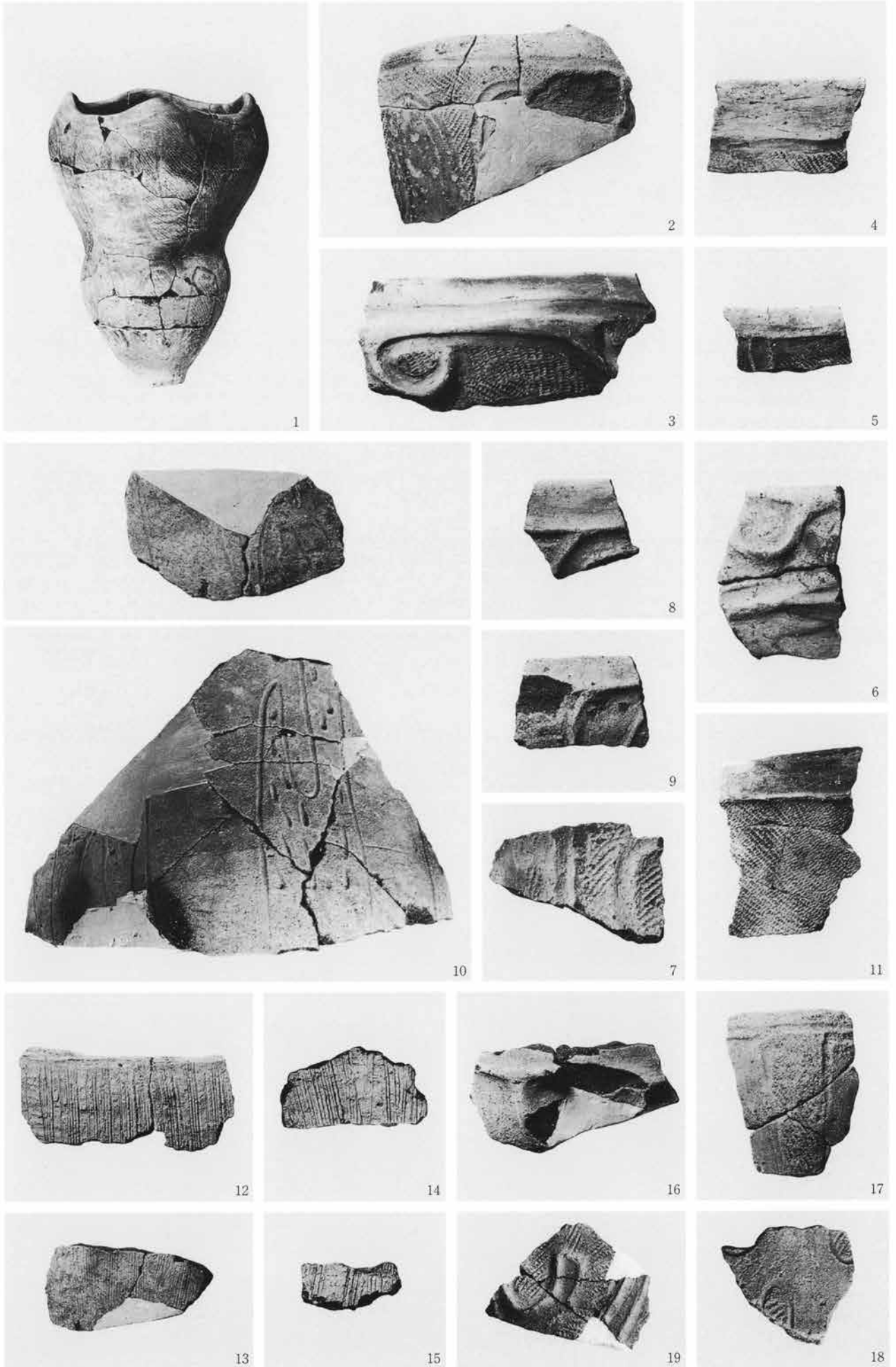
Ⅲ-1区 Hr-FP上 27号住 床下 西から



縄文時代出土土器 I・II区 (1)



縄文時代出土土器 II区 (2)



縄文時代出土土器 Ⅲ区 (1)



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



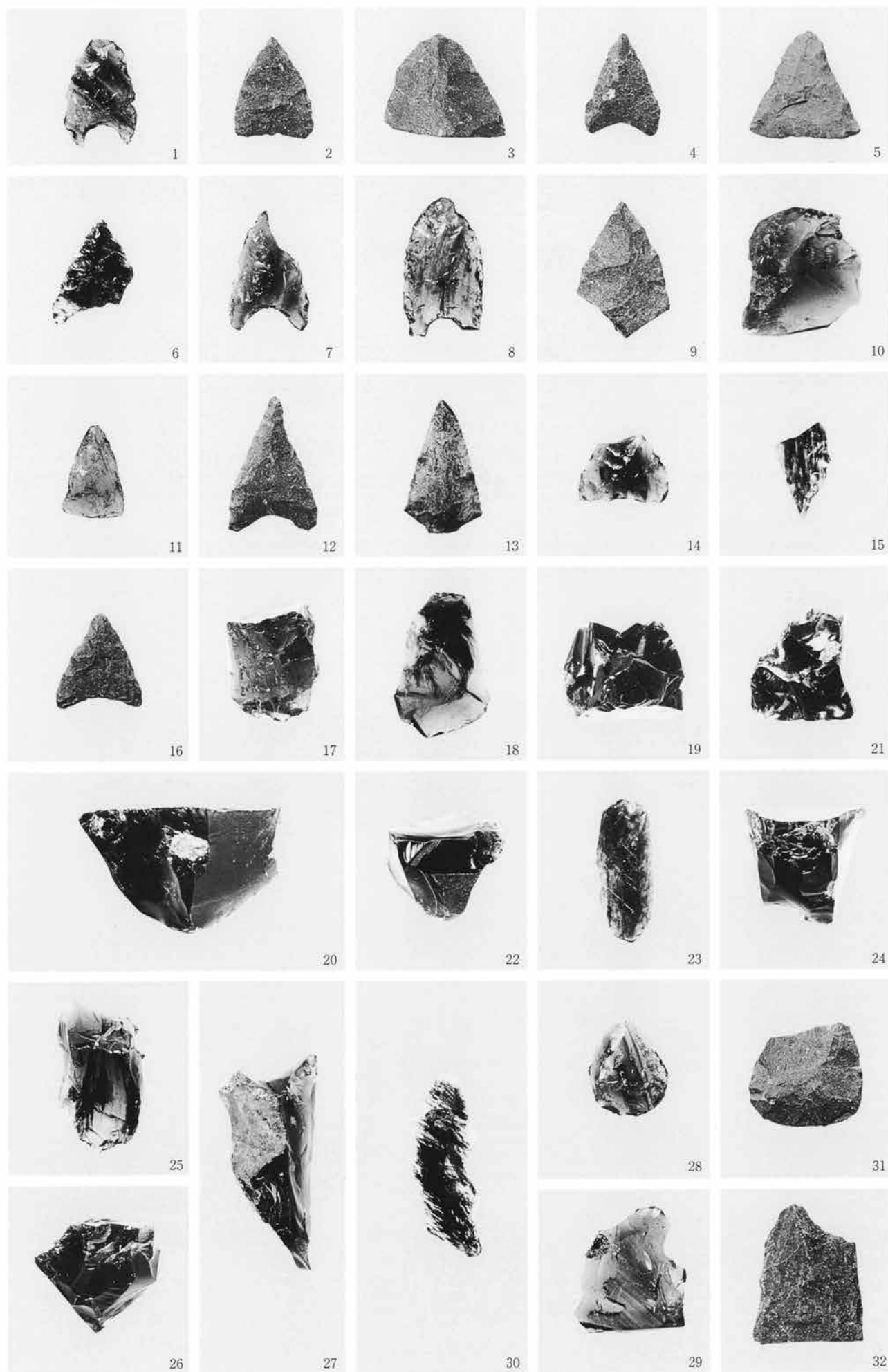
37



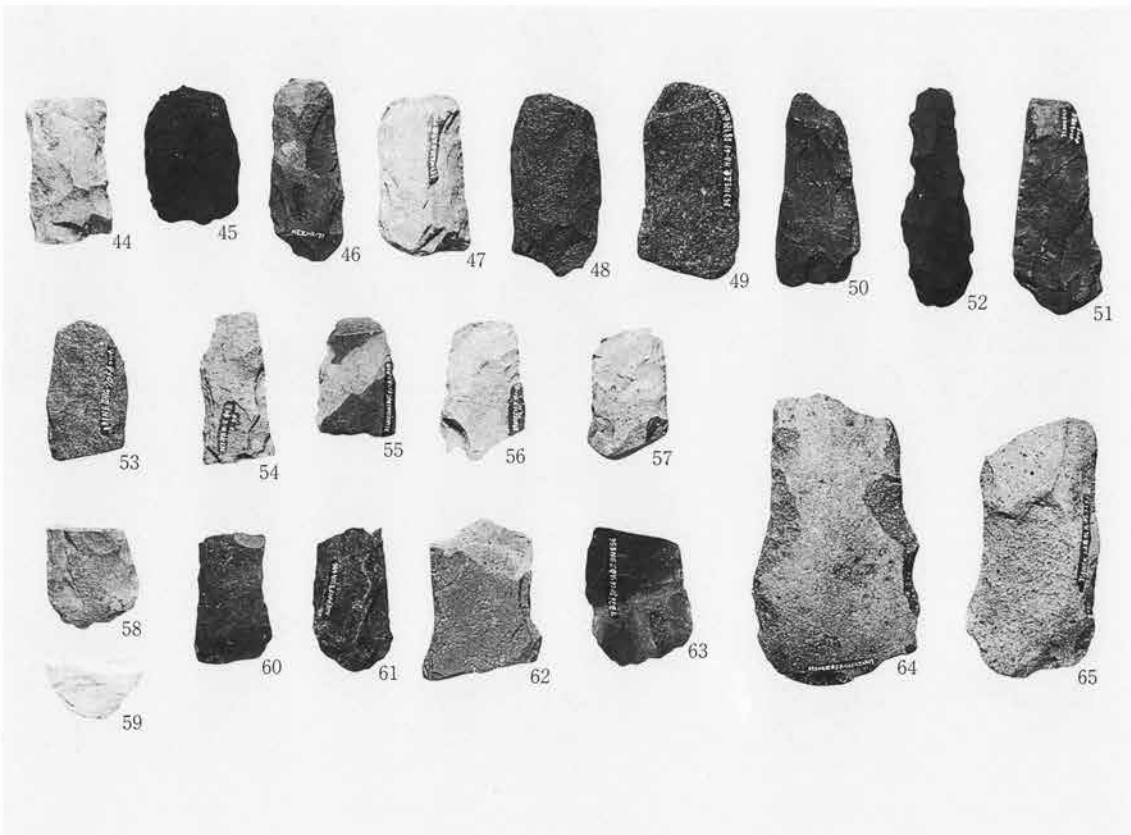
38



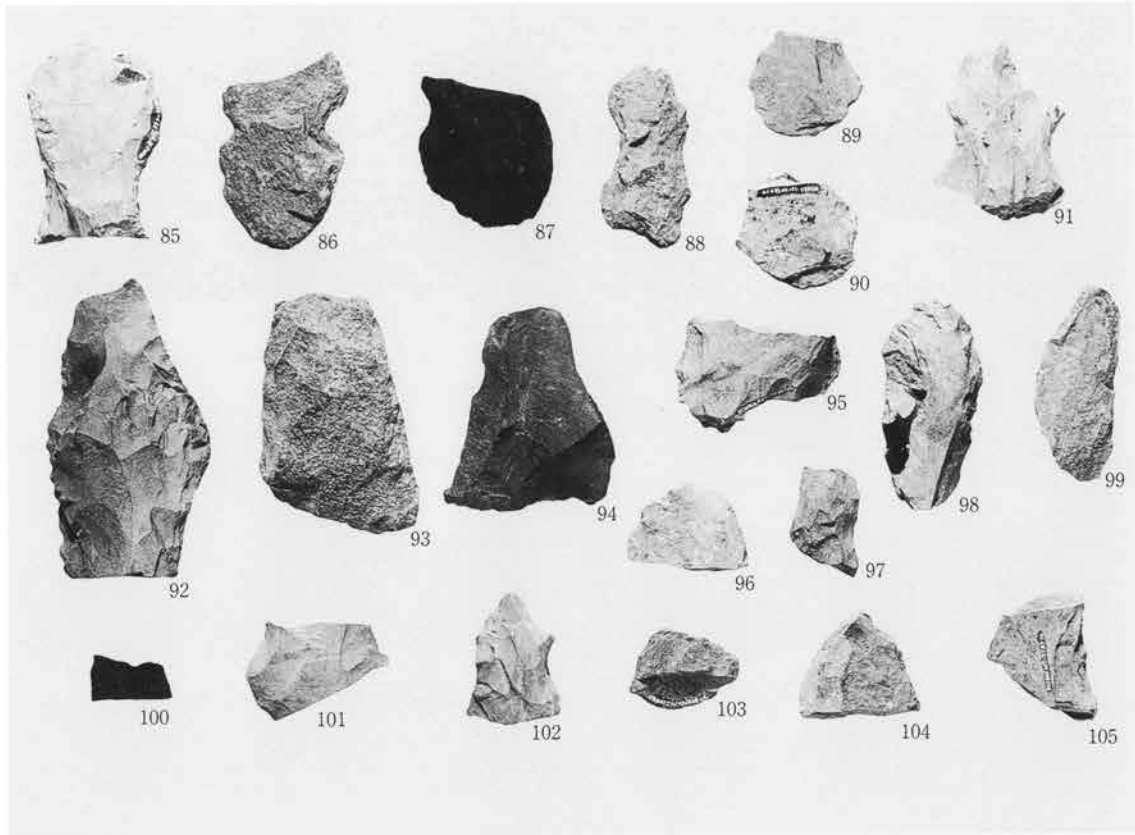
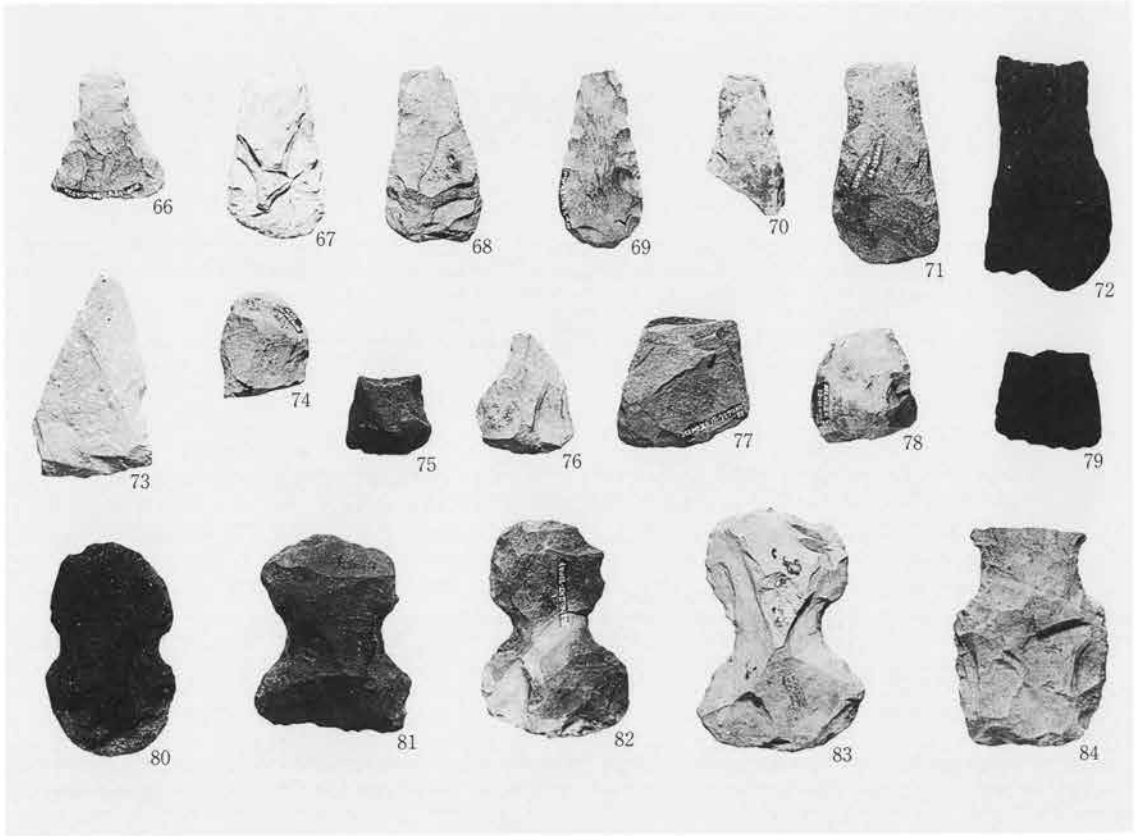
39(30土坑-1)



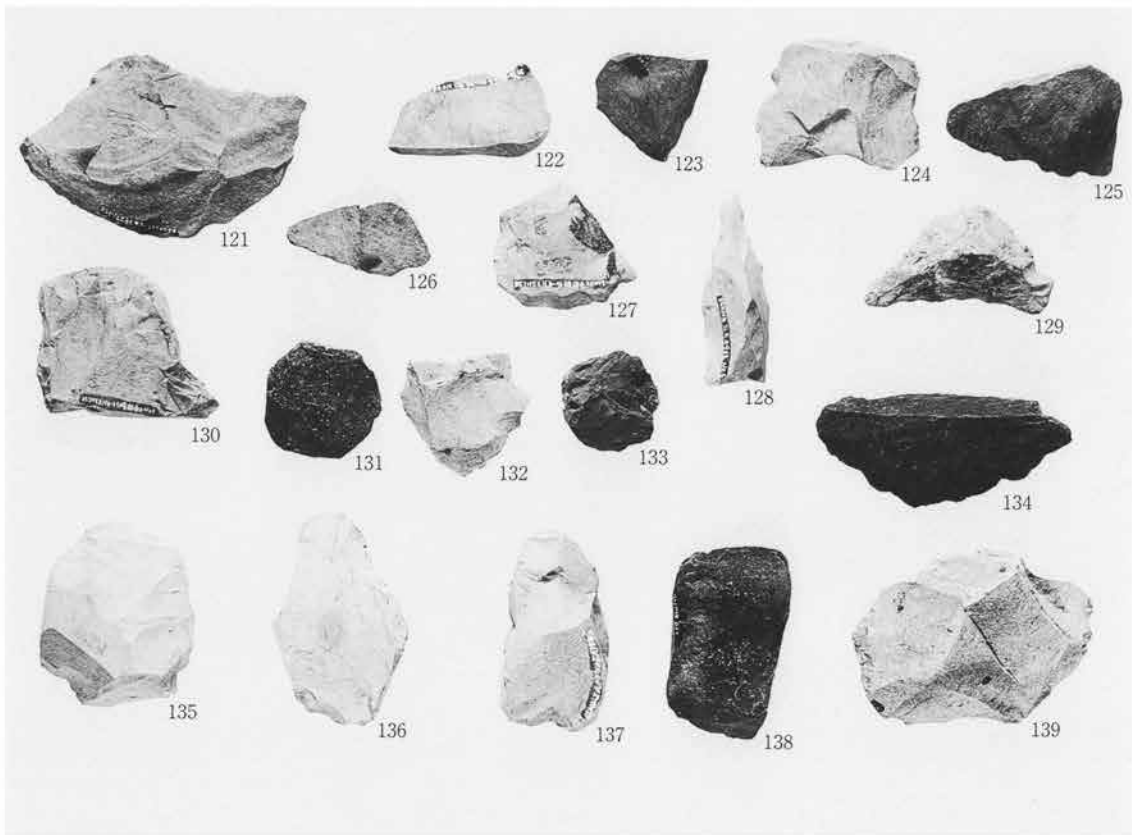
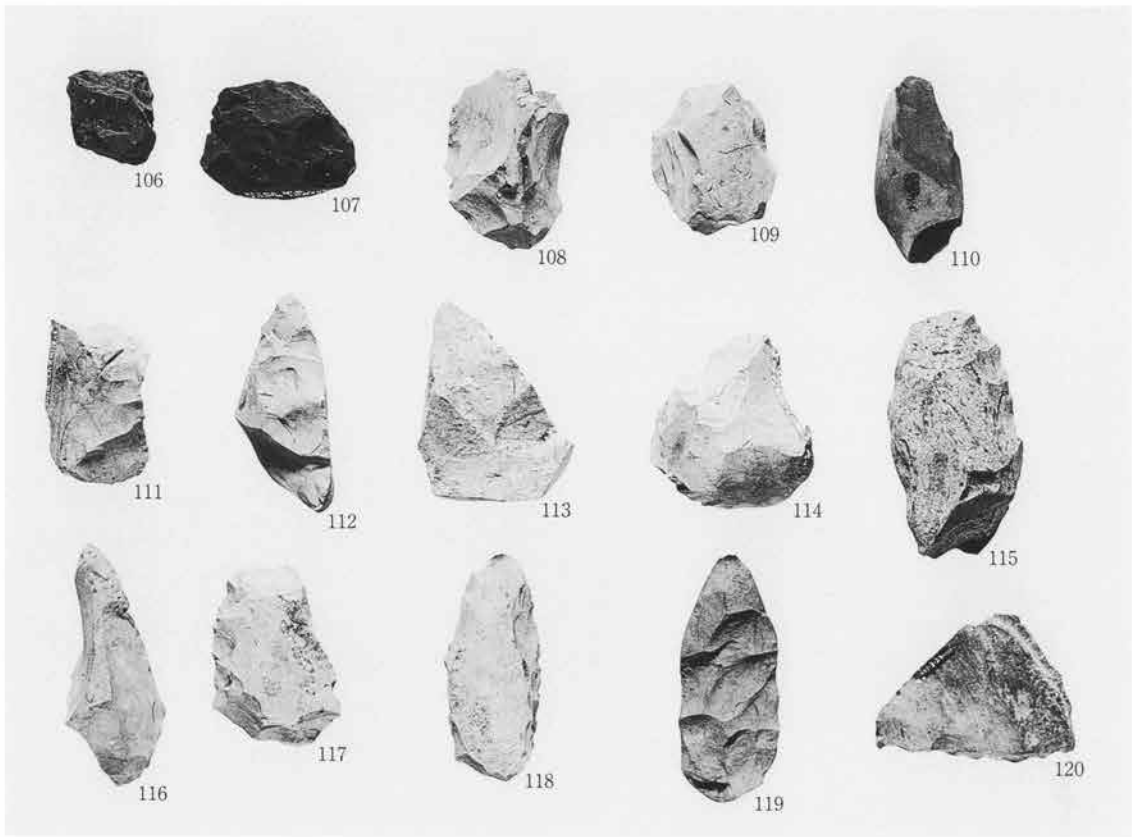
繩文時代出土石器 (1)



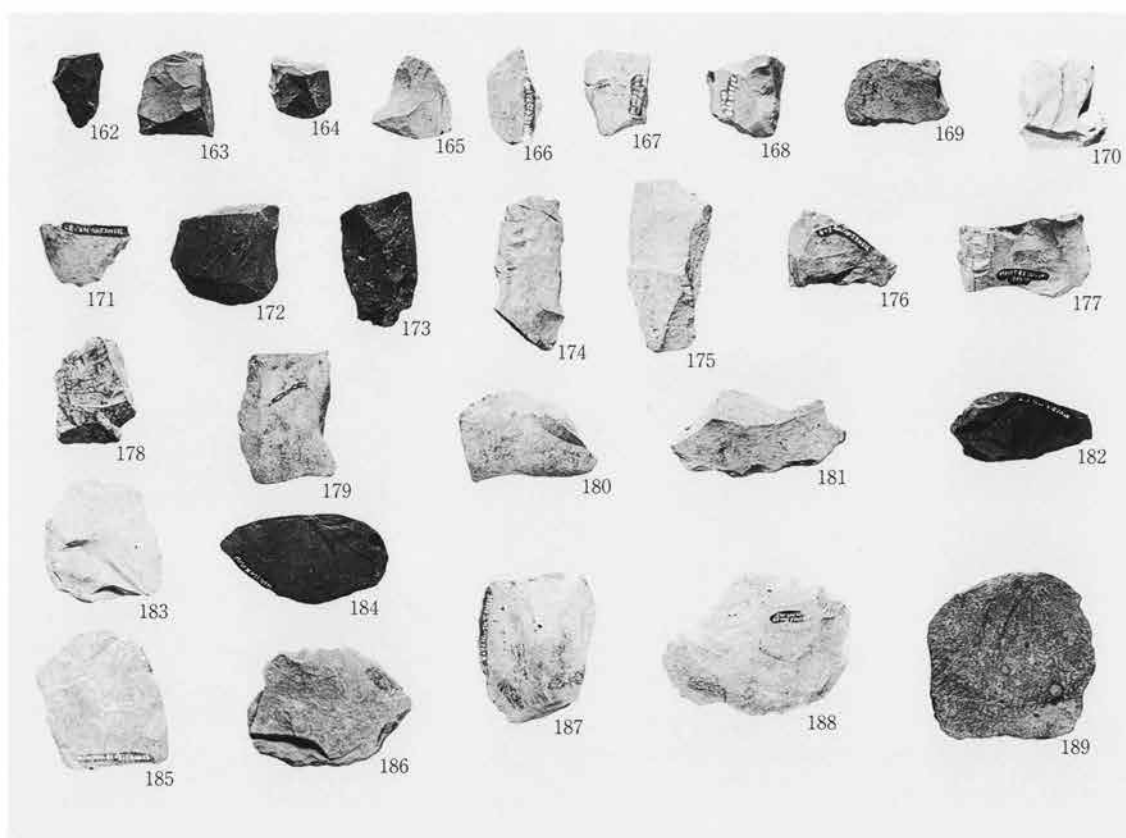
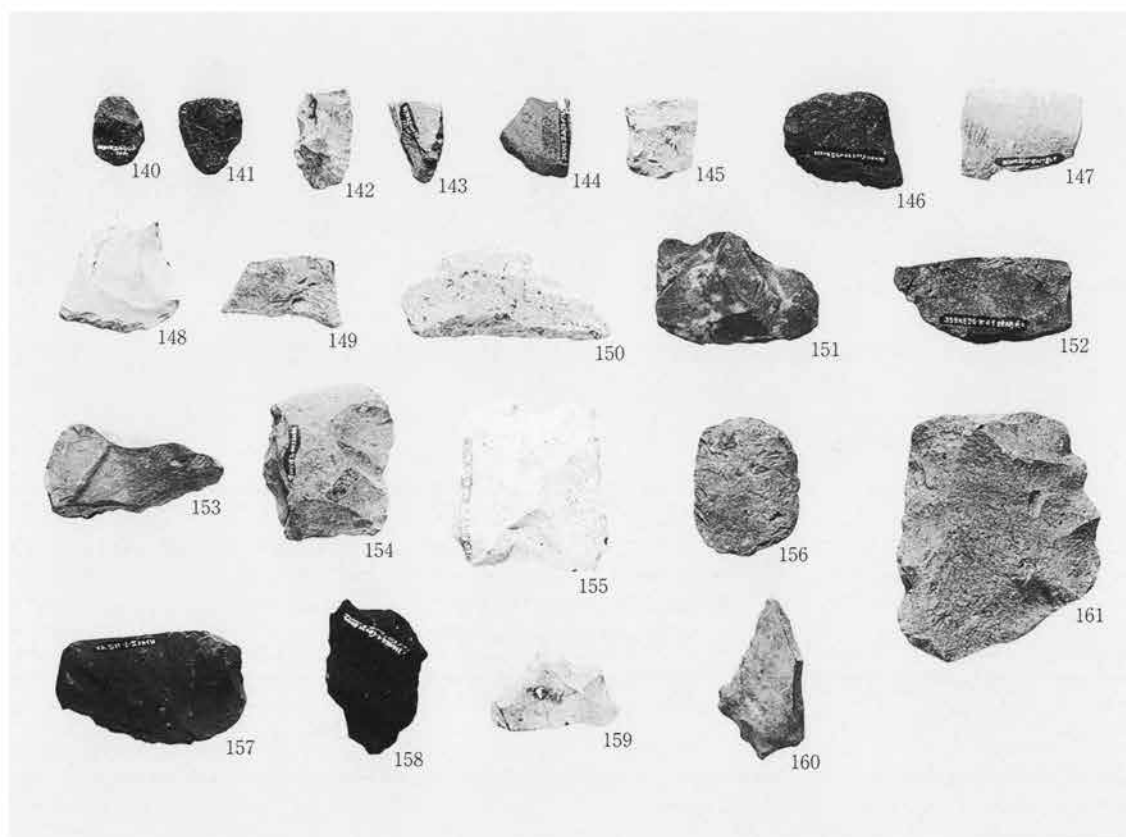
縄文時代出土石器 (2)



縄文時代出土石器 (3)



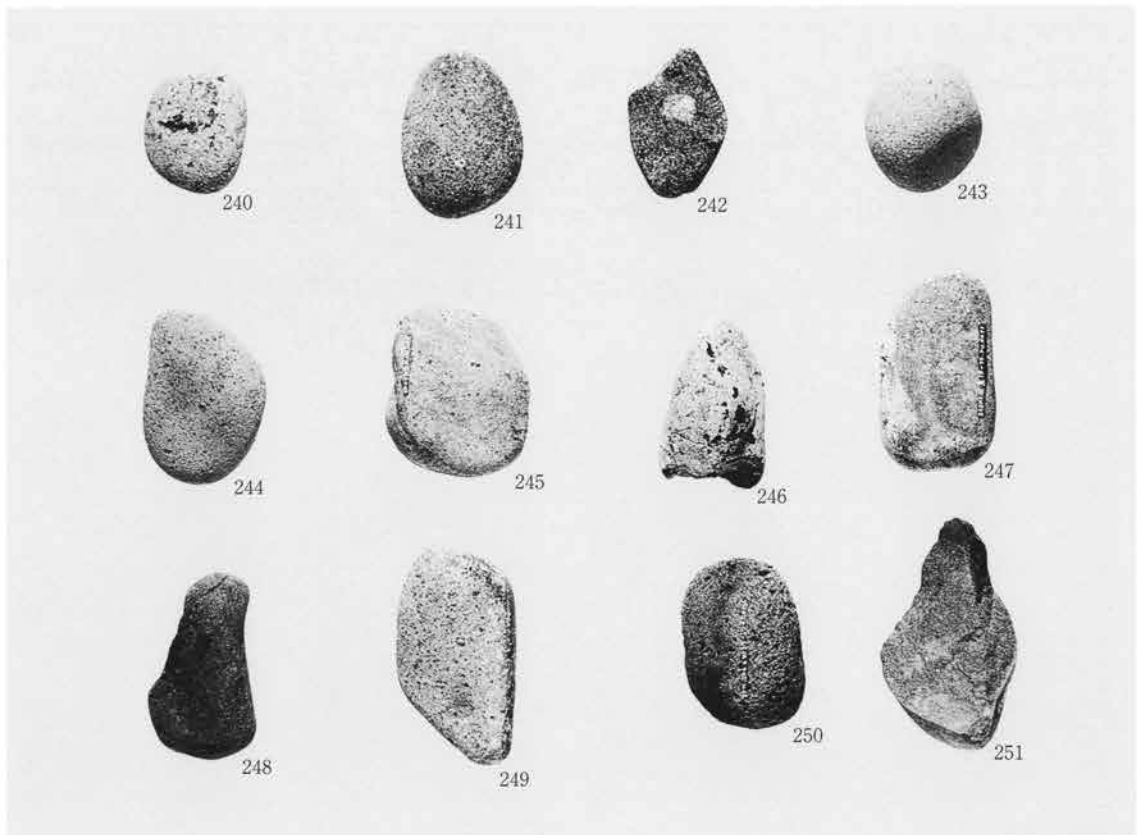
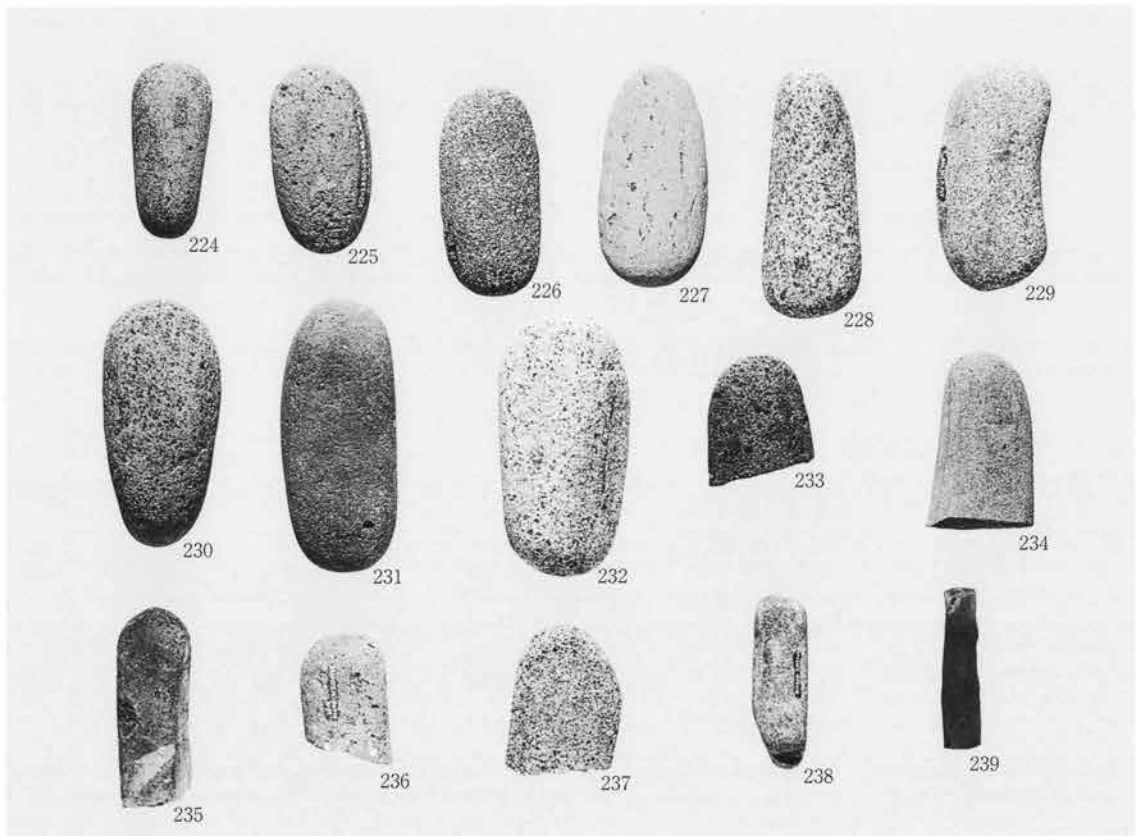
縄文時代出土石器 (4)



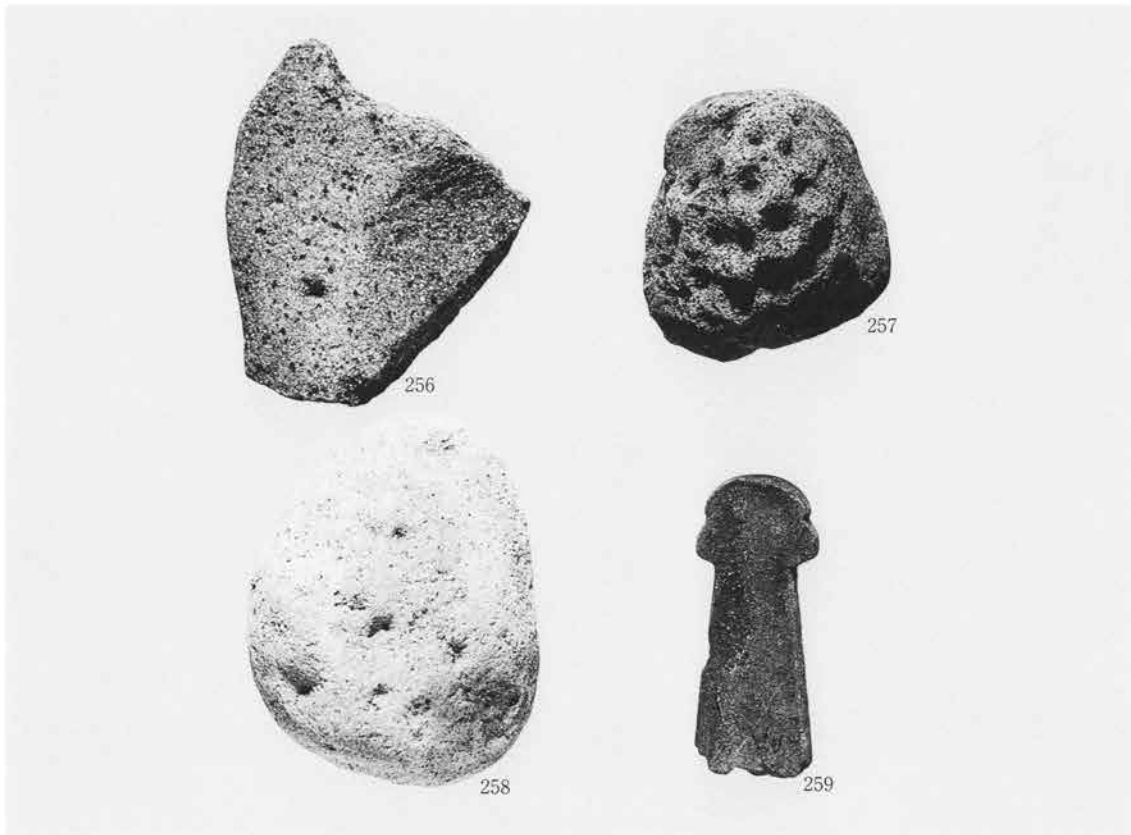
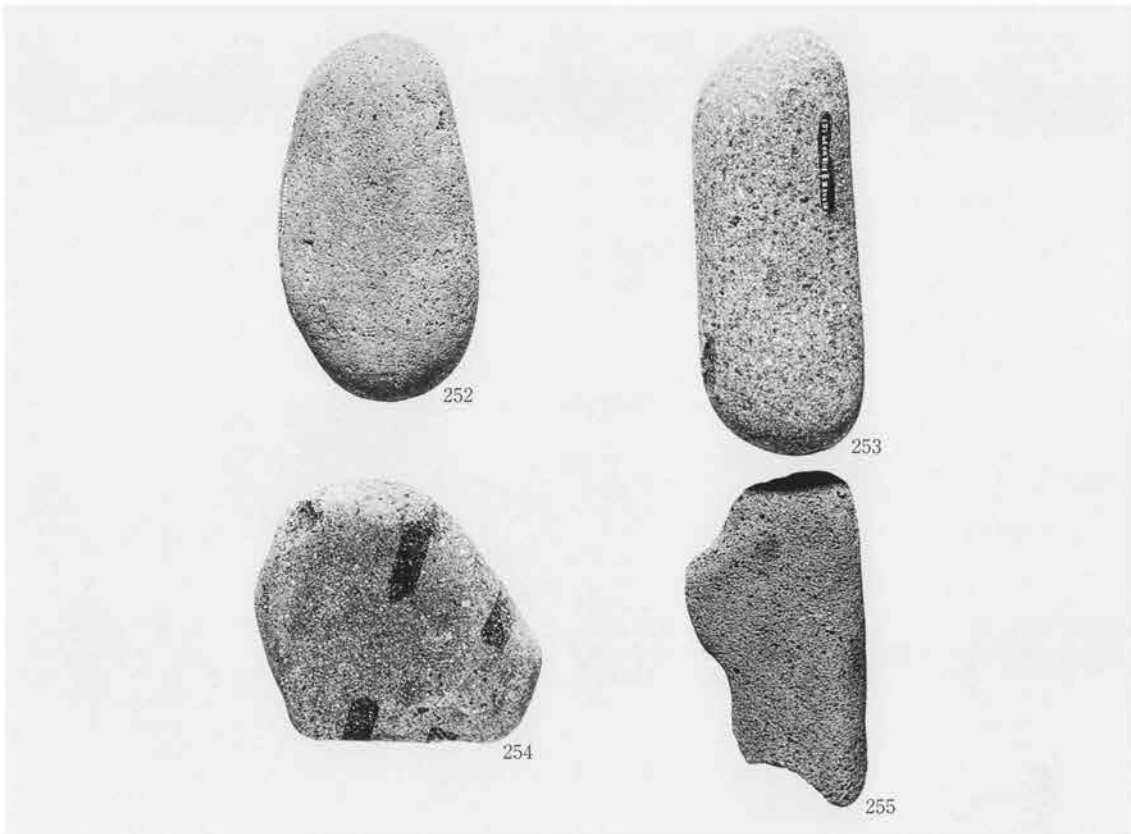
縄文時代出土石器 (5)



縄文時代出土石器 (6)



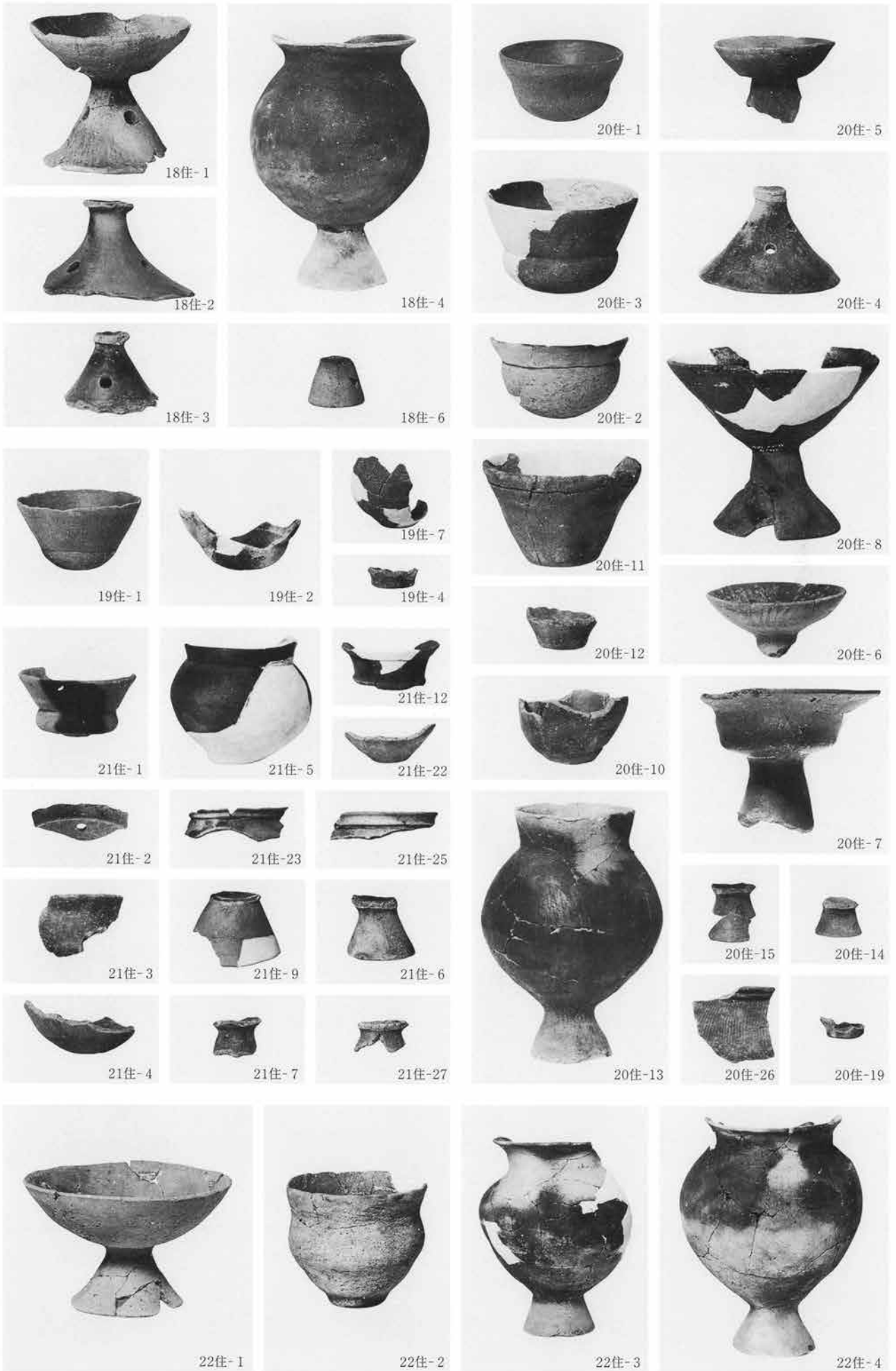
縄文時代出土石器 (7)



縄文時代出土石器 (8)



Ⅱ区 1~4・6~8・10・11・15号住居跡出土遺物



II区 18~22号住居跡出土遺物



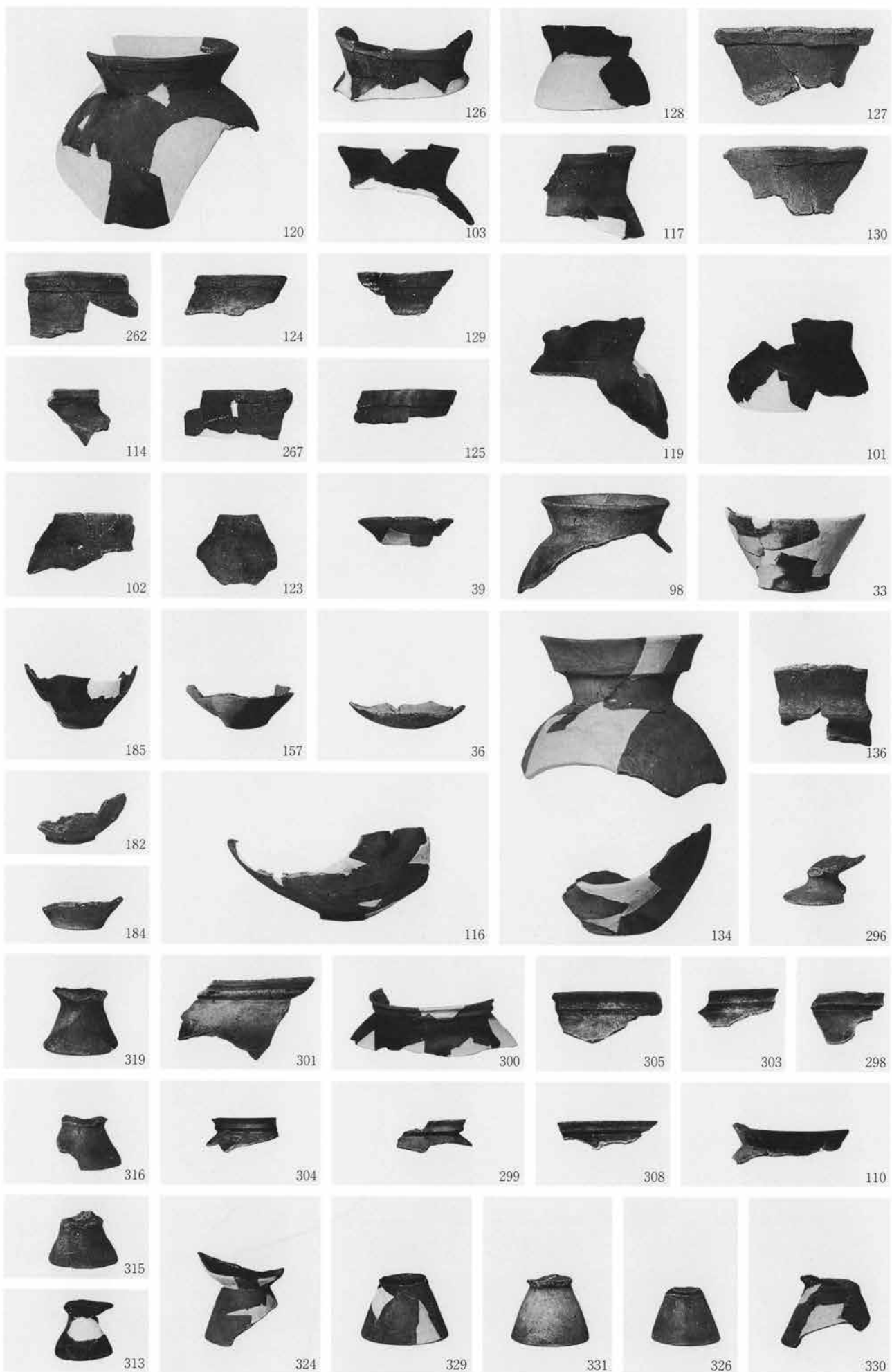
II区 23~25、III区 27·29·31号住居跡出土遺物



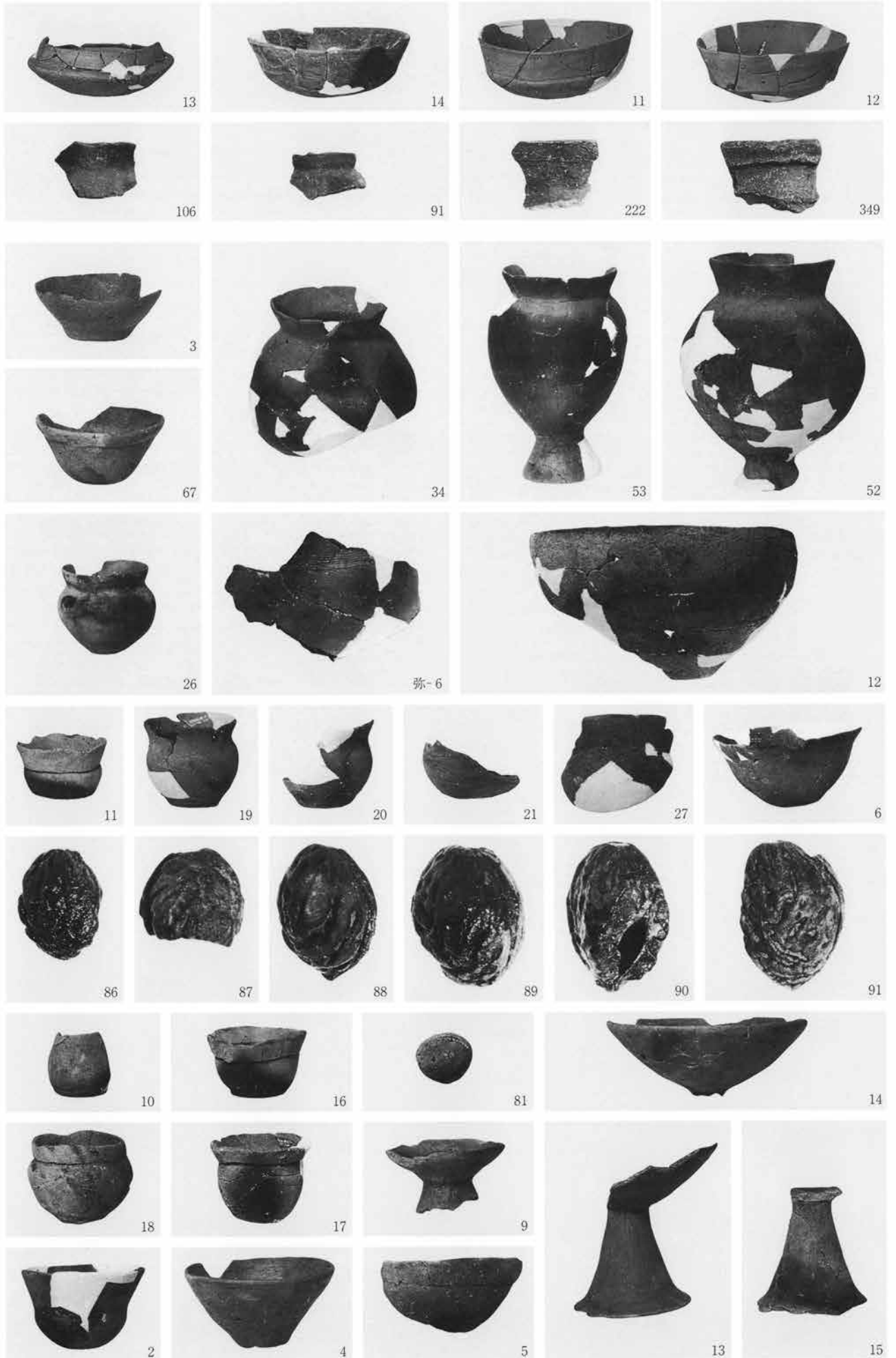
Ⅲ区 32号住居跡、Ⅱ・Ⅲ区 土坑、Ⅰ・Ⅱ区 遺構外出土遺物 (1)



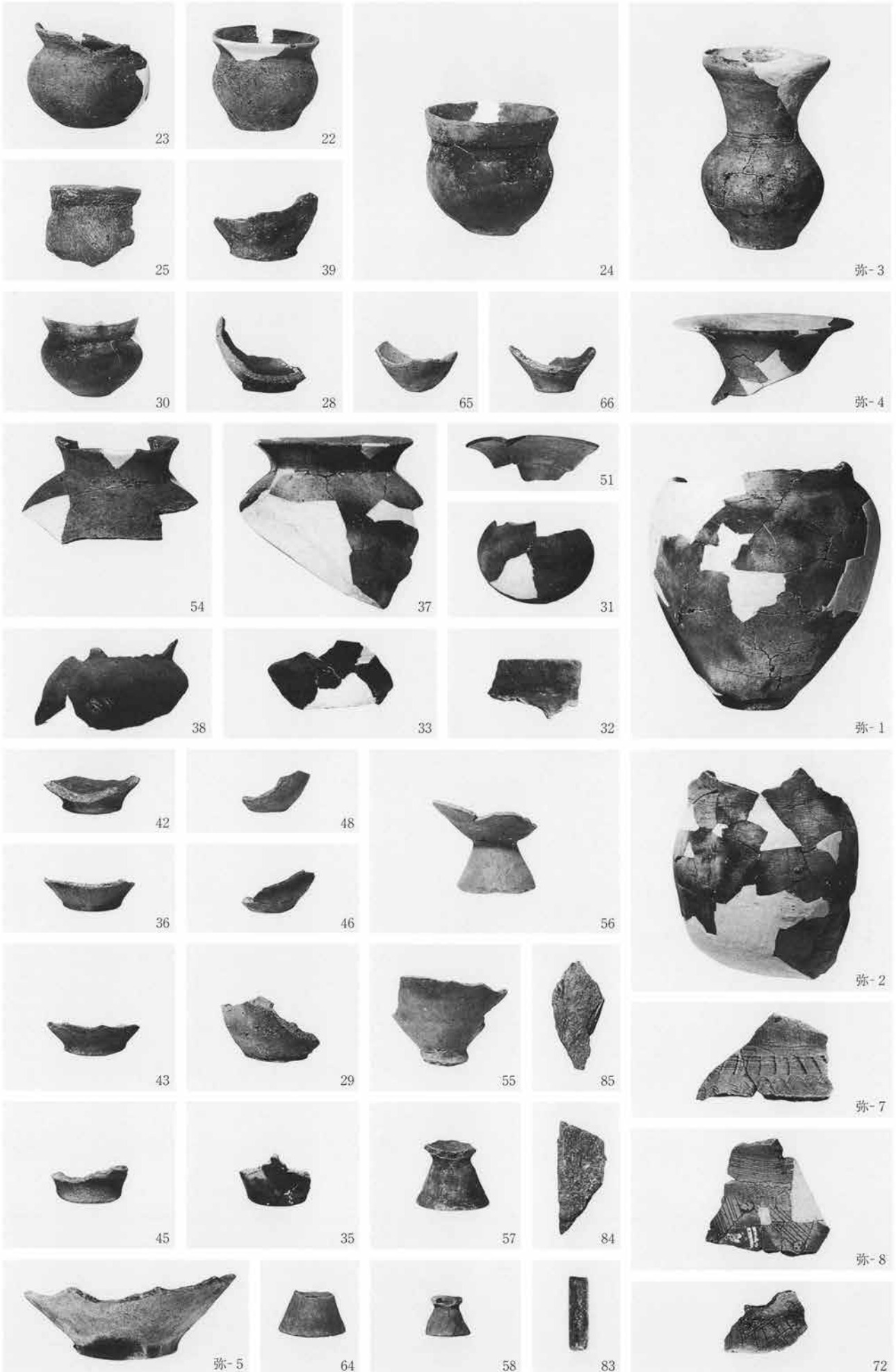
II区 遺構外出土遺物 (2)



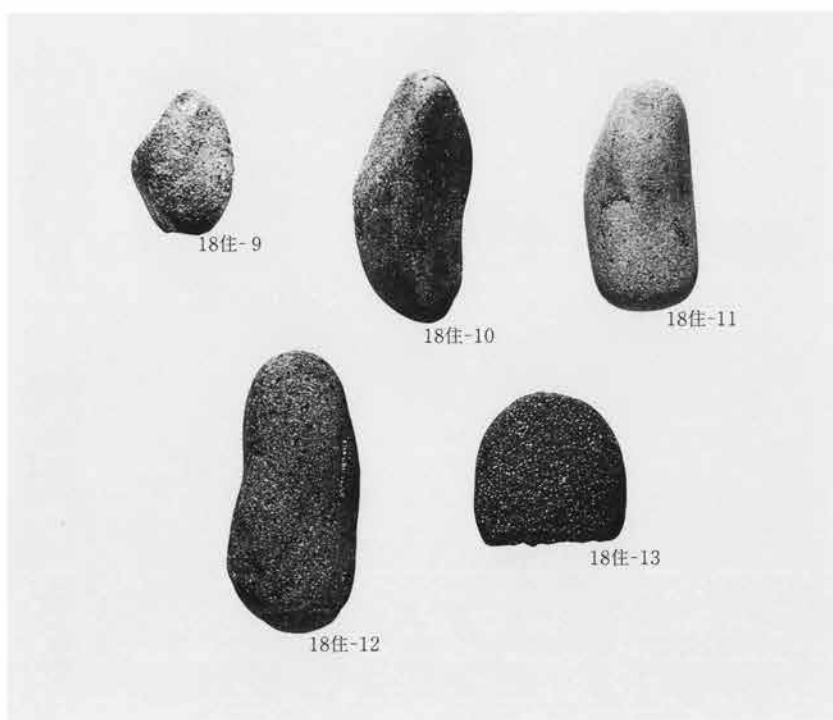
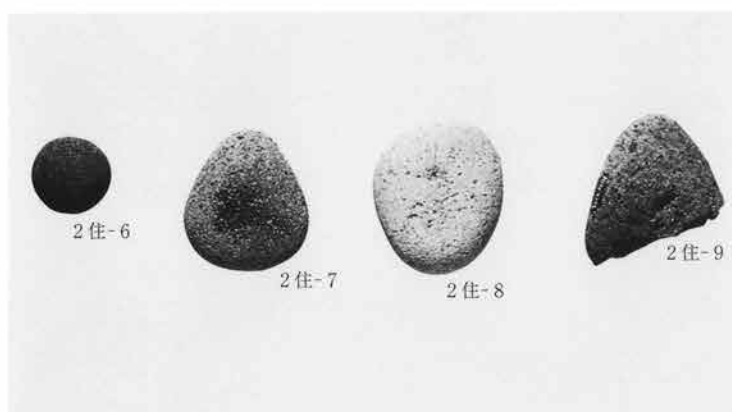
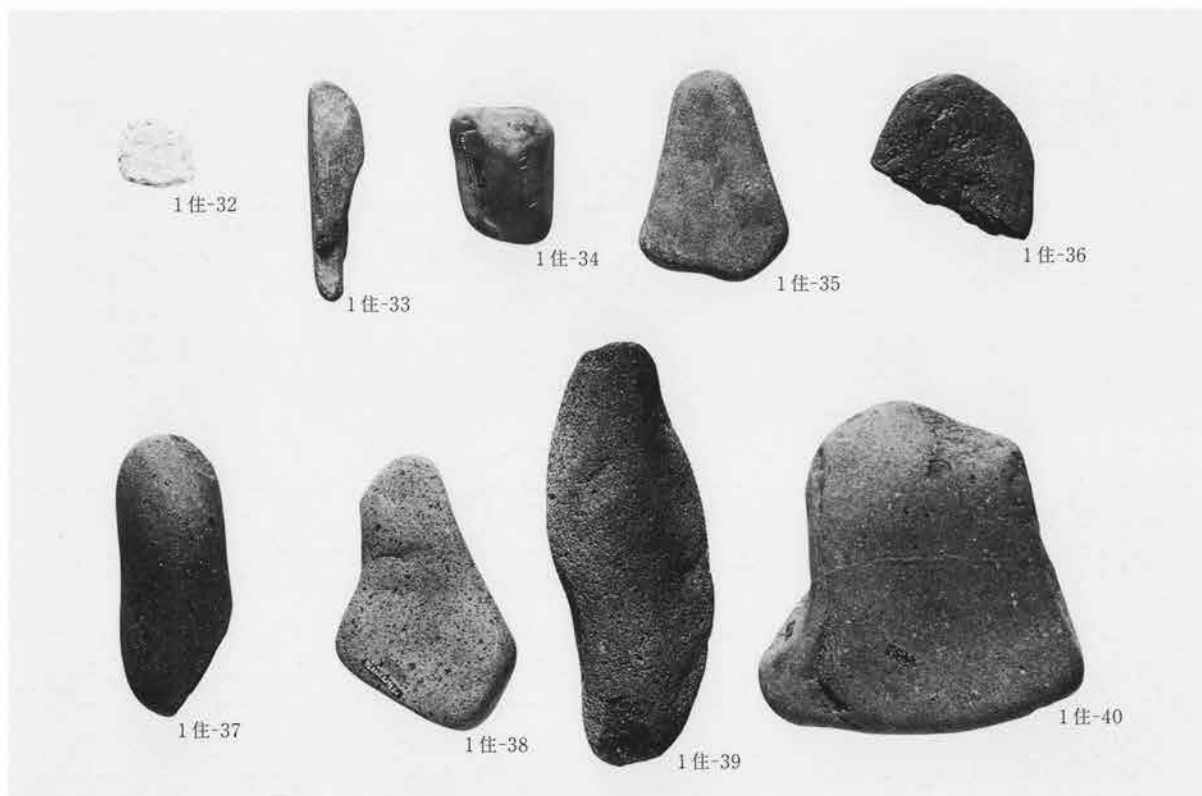
II区 遺構外出土遺物 (3)



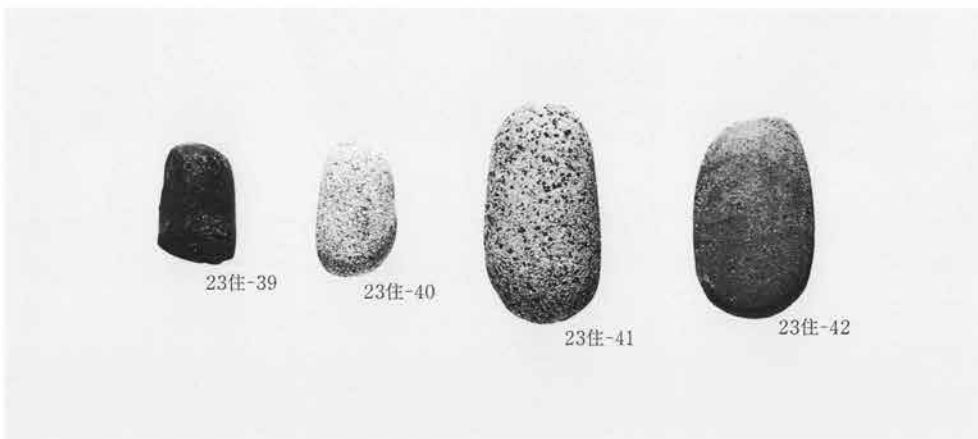
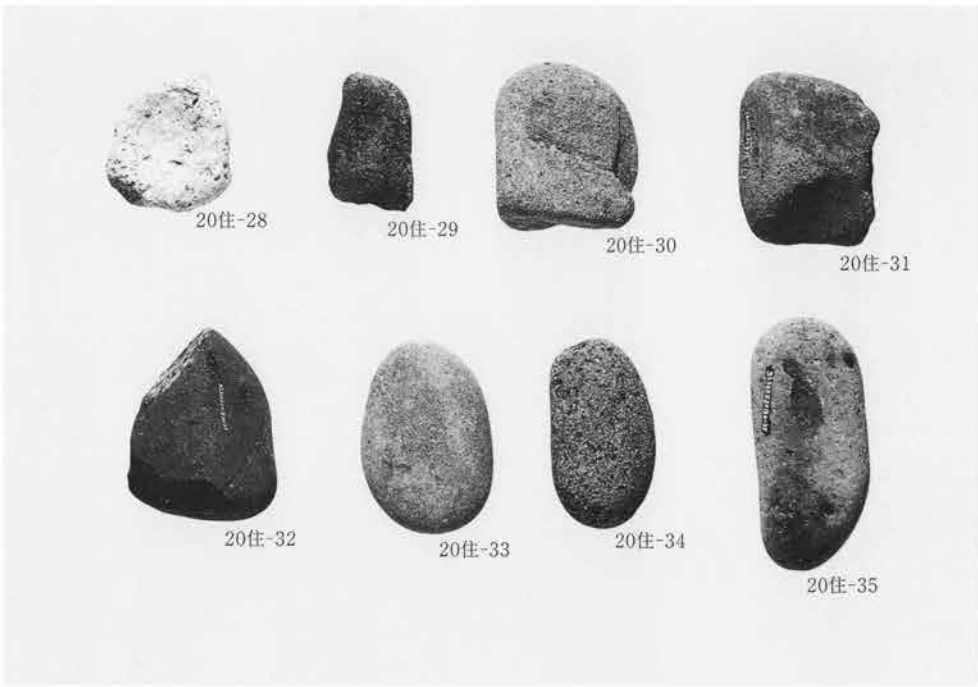
Ⅱ区 遺構外(4)、Ⅲ区 遺構外(1)・HY72・HY74グリッド出土遺物

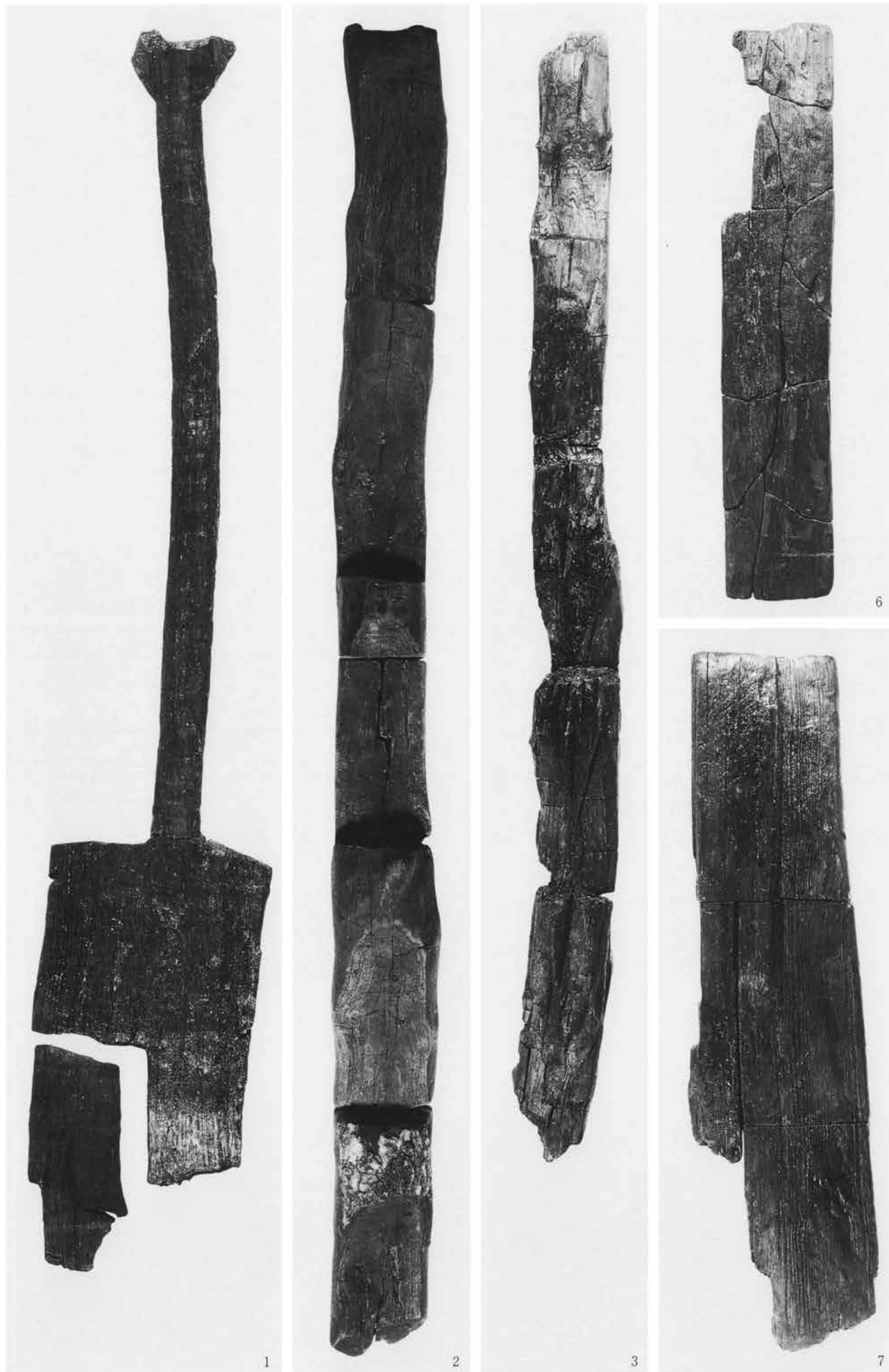


Ⅲ区 遺構外出土遺物 (2)

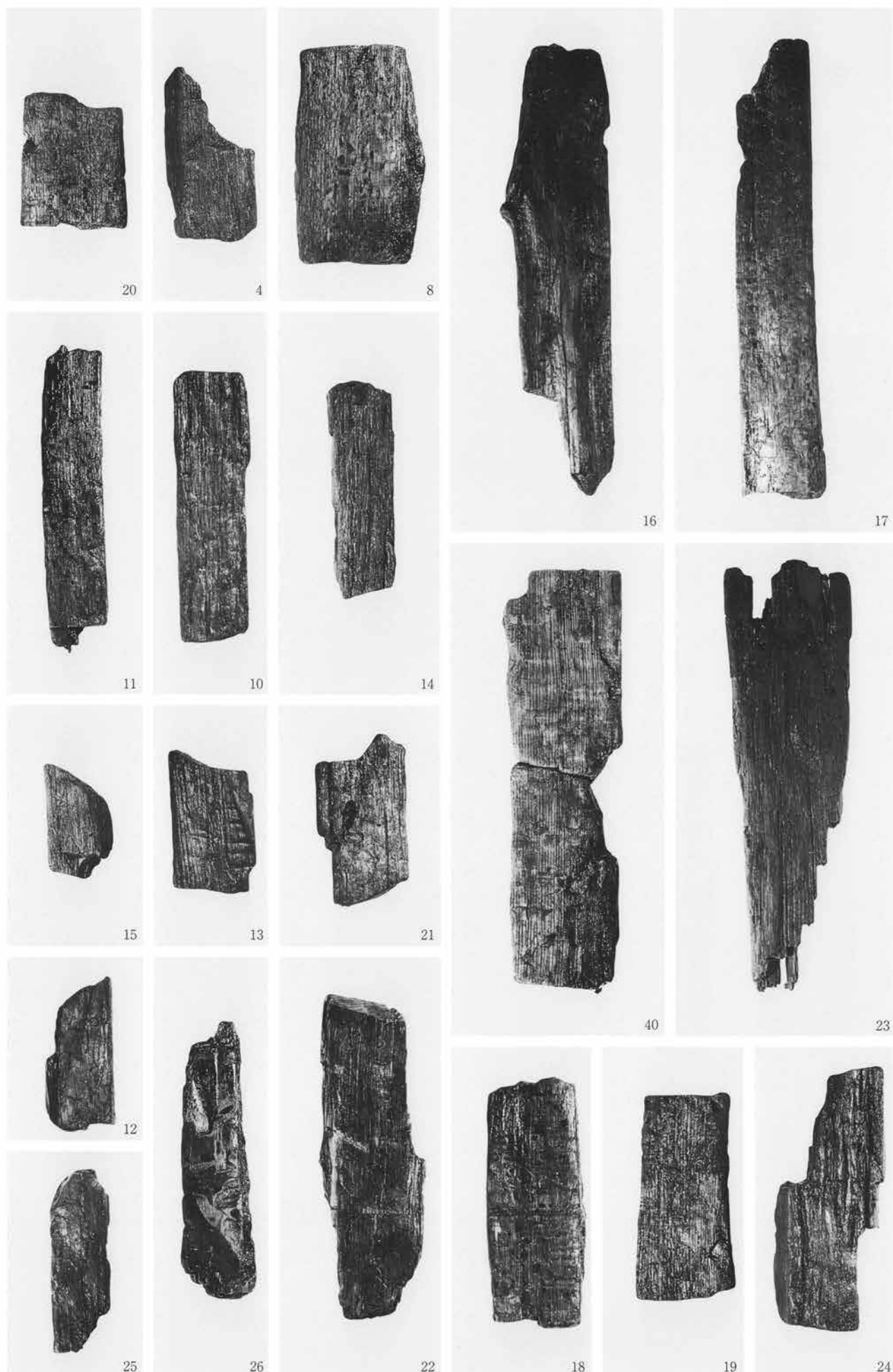


II区 1·2·6·14·18·22号住居跡出土石器





I区 木製品(1)

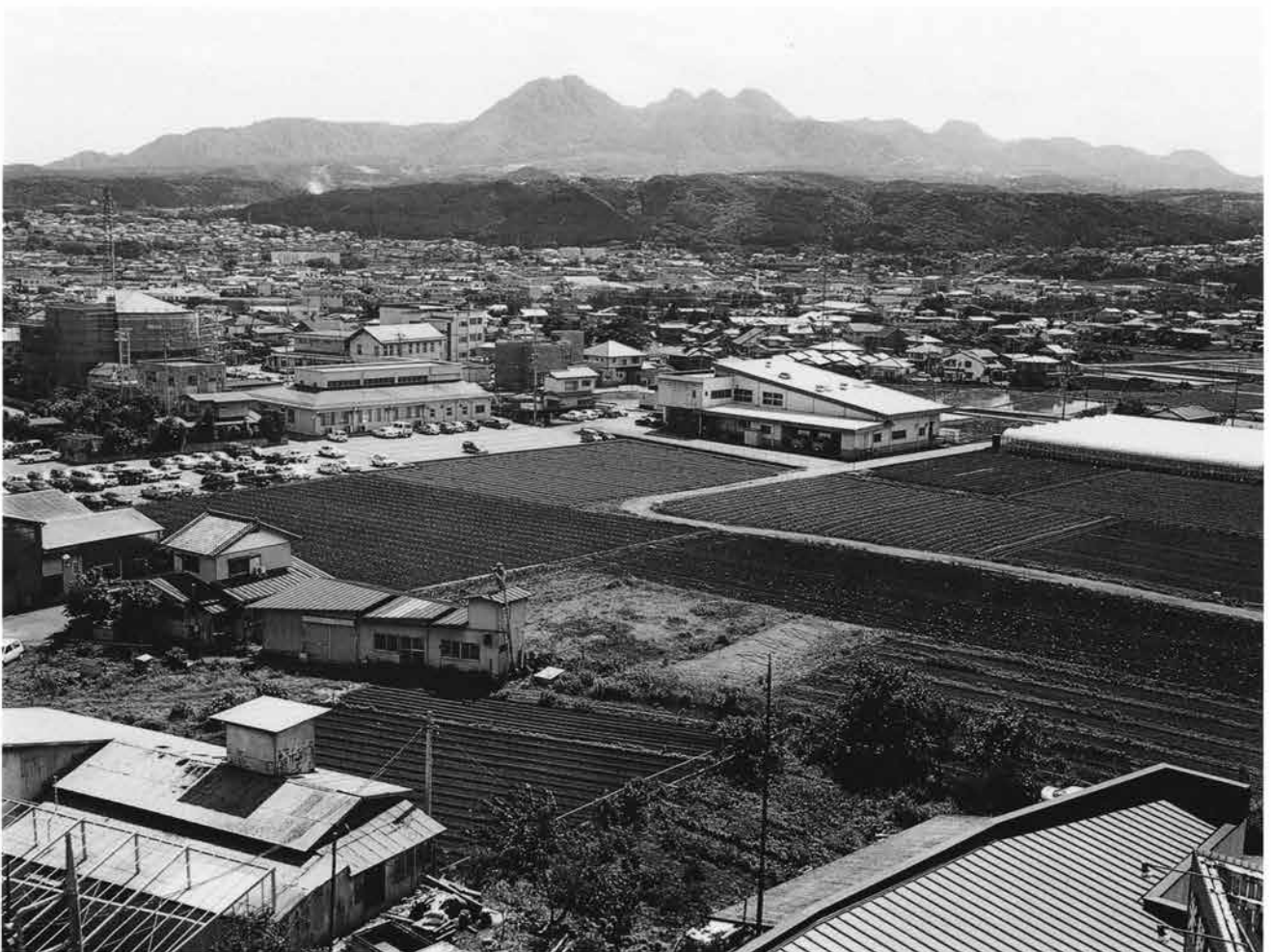


I区 木製品(2)



I区 木製品(3)

吹屋中原遺跡Ⅳ区 写真図版



調査区より榛名山を臨む



Ⅳ区 空撮



Ⅳ区 Hr-FP下面 遠景(南から)



Hr-FP下面 馬蹄痕



Hr-FP下面 馬蹄痕



Hr-FP下面 馬蹄痕



Hr-FP下面 馬蹄痕



Hr-FP下面 立木痕(検出状況)



Hr-FP下面 立木痕(半截)

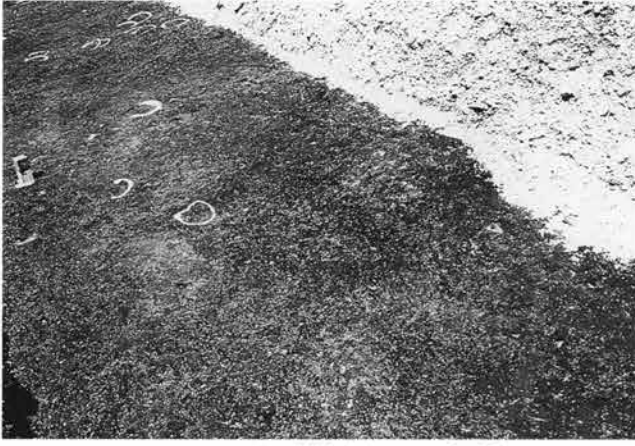


Hr-FP下面 立木痕(セクション)



Hr-FP下面 立木痕(埋設土除去)

付図版一 4



Hr-FP下面 植物痕(ススキ根株)



Hr-FP下面 植物痕



Hr-FP下~FA下セクション



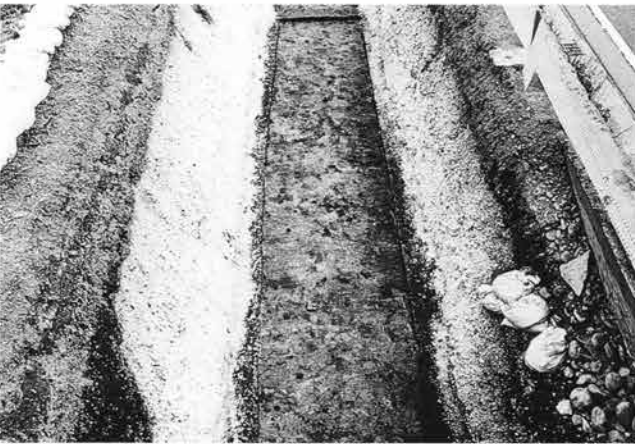
Hr-FP下~FA下セクション



Hr-FA上面 全景(北から)



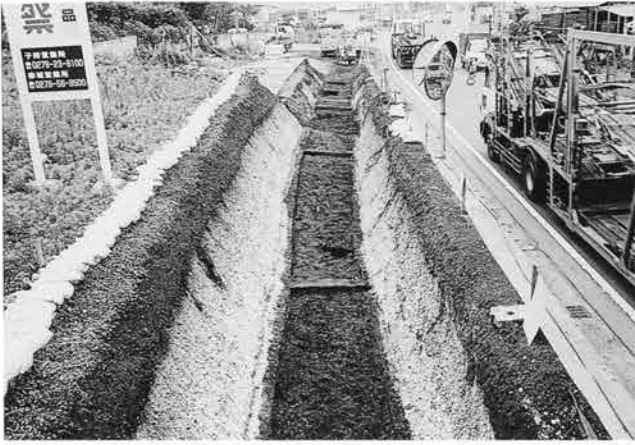
Hr-FA上面 南半



Hr-FA上面 北半



Hr-FA上面 焼土・炭化物



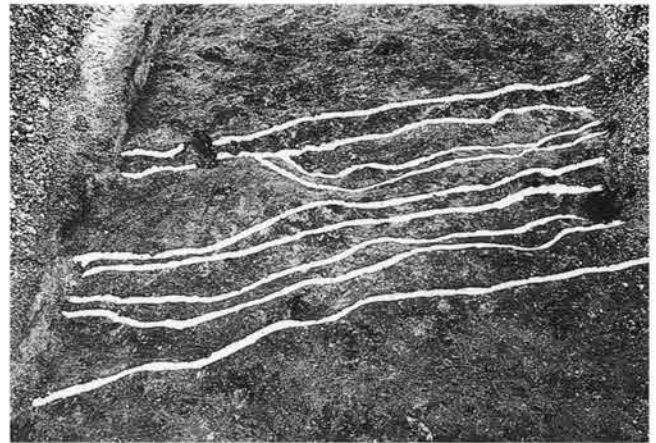
Hr-FA下面 全景



Hr-FA下面 南半



Hr-FA下面 北半



Hr-FA下面 溝状遺構



ローム上面 全景



ローム上面 風倒木

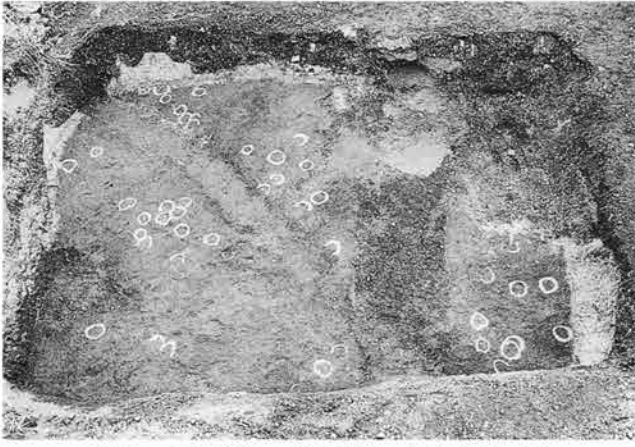


ローム上面 47号土坑セクション

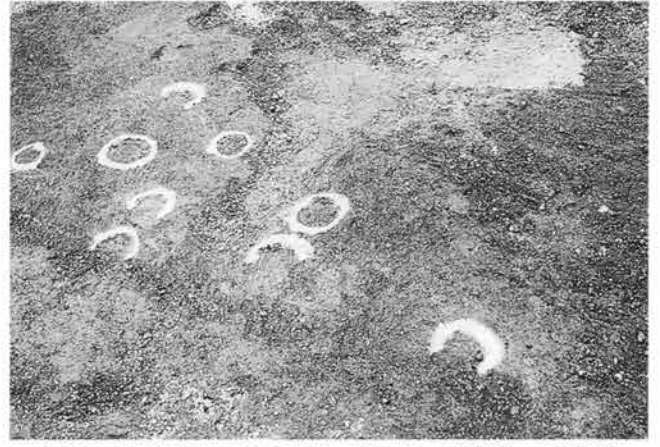


ローム上面 48号土坑セクション

付図版一 6



IV区 最南部Hr-FP下面 全景(南から)



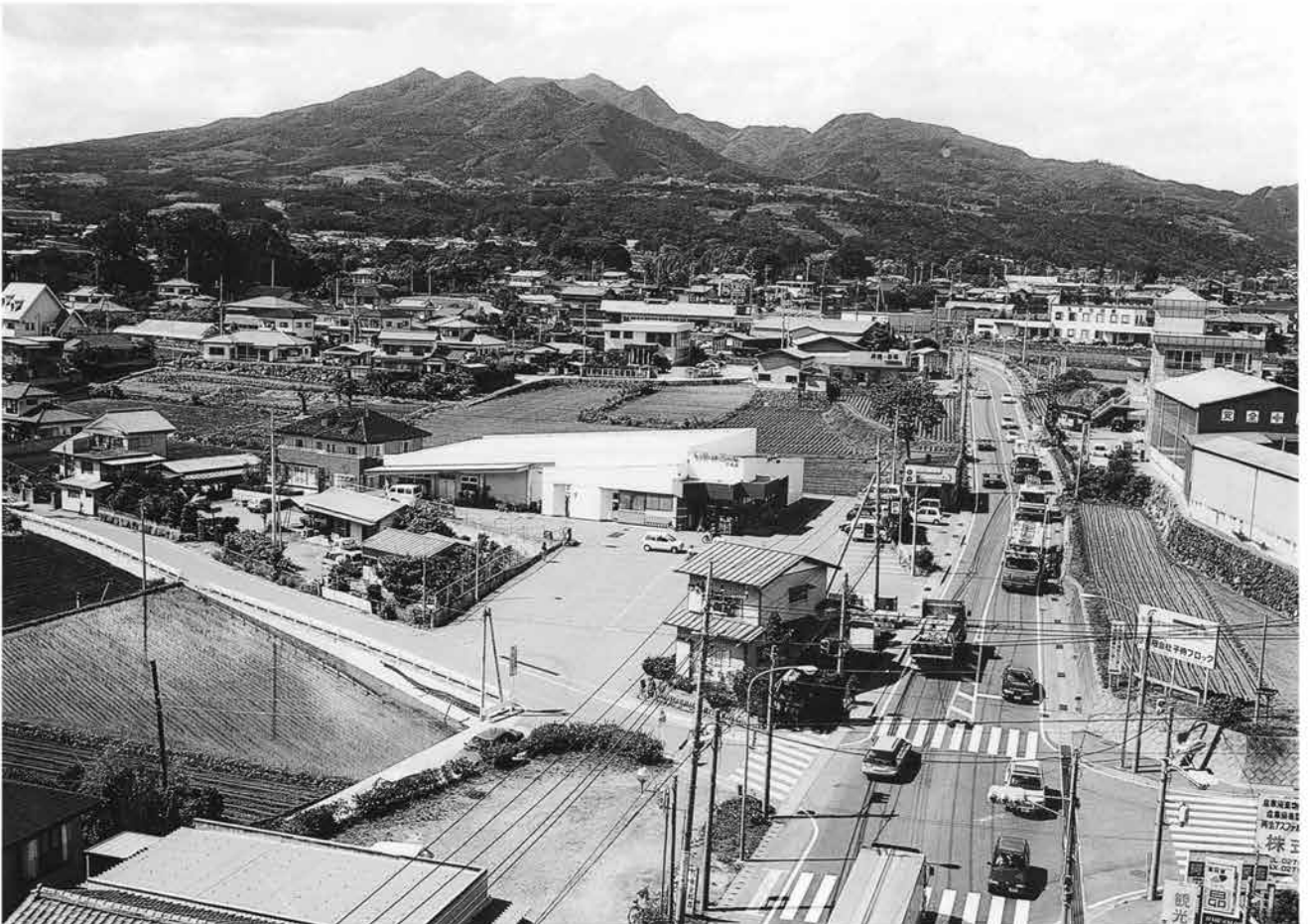
IV区 最南部Hr-FP下面 植物痕・炭化物・馬蹄痕



IV区 最南部Hr-FA上面 全景(南から)



IV区 最南部Hr-FA下面 全景(南から)



調査区より子持山を臨む



財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第364集

中郷恵久保遺跡

国道353号(鯉沢バイパス)補助公共道路改築(改良)
事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 第4集

平成18年2月10日 印刷

平成18年2月20日 刊行

編集・発行／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784-2

電話 (0279) 52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毎印刷工業株式会社